Extensive Reading 指導における
高等学校図書館での
英語多読用図書の所蔵と排架に関する研究

２０２３年３月

江竜　珠緒

Extensive Reading 指導における
高等学校図書館での
英語多読用図書の所蔵と排架に関する研究

筑波大学
図書館情報メディア研究科

２０２３年３月

江竜　珠緒

学位論文概要

Extensive Reading 指導における高等学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架に関する研究

近年の学校教育におけるグローバル人材育成の強化は英語科教育の変化をもたらした。英語科教諭には児童生徒の英語力向上を見据えた教育方法の転換が求められている。このような状況の中で注目されているのが，難易度の低い英語の図書を大量に読むことでインプット量を増加させ，それによって英語力を身につける Extensive Reading（以下，ER）といわれるものである。

ER 指導は多読とは異なり，高等学校や大学などの英語科授業内で実施されるものである。学習者が流暢に理解できる難易度の英語多読用図書を指導者が用意して ER を行う。海外での ER 指導では，主に非英語圏学習者のために編集された段階別読み物 Graded Readers（以下，GR）の使用が推奨されている。先行研究においては，学習者が流暢に理解できる英語多読用図書の難易度を明らかにするために，GR の語彙難易度や同一語彙の出現回数について調査されている。一方，日本では GR のほかに英語圏の児童生徒のために編集された段階別の読みもの Leveled Readers（以下，LR）や原書児童書なども使用している。しかし，ER 指導において必要となる流暢な理解力をもたらす英語多読用図書として，原書児童書が有用であるのかという検討は不足している。

ER 指導においては大量の図書を読むことが必要となる。学校内において大量の図書を所蔵する場所として学校図書館があるが，高等学校における ER 指導に対して，学校図書館のどのような取り組みが英語科教諭と高校生への支援となり得るのかということについての検討も不足している。そこで本研究では，高等学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架を中心とした，高校生の英語力を向上させるための ER 指導に対する支援方法について明らかにすることを目的とする。研究課題は次の 3 点である。

研究課題 1．従来の ER 指導において，英語科教諭は所蔵と排架を中心とした学校図書館の支援にどのような期待を持っているか。

研究課題 2．高等学校での ER 指導において高校生の語彙学習となり得る英語多読用図書の難易度，種類はどのようなものか。

研究課題 3．英語多読用図書の所蔵と排架を中心とした学校図書館の支援は，ER 指導における高校生の英語力向上促進支援となり得るか。

第 1 章では，研究背景と先行研究，研究目的，研究課題について述べている。中学生，高校生の英語力向上が強化される中，高校生に期待される英語力は高校 3 年次卒業段階で CEFR A2 から B1 レベル以上である。しかし，一方で，英語が苦手な高校生も 55%以上存在し，中学校と高等学校で使用する英語教科書の難易度差が課題とされている。この問題に対する解決策の 1 つとして期待されているものが，過度に負担のかからない難易度の英語の図書を読ませることで語彙力を増加させる ER 指導である。しかし，高校生の語彙学習に活用できる英語多読用図書の難易度や種類に関する検討は不足しており，高等学校での ER 指導において優先的に使用する英語多読用図書の種類や難易度を明らかにすることの必要性を指摘した。高等学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架を中心とした，高校生の英語力を向上させるための ER 指導に対する支援方法について検討するために必要な 3 つの課題について述べ，本研究の構成について示した。

第 2 章は，研究課題 1「従来の ER 指導において，英語科教諭は所蔵と排架を中心とした学校図書館の支援にどのような期待を持っているか」に対応する章である。文献調査により，海外研究者の指導原則，酒井邦秀の多読三原則，日本多読学会による新・多読三原則の比較を行った。学校教育の中である一定の効果が得られることを目的とする場合には，指導者が適切な難易度の図書を準備して「すべり読み」の危険性を低くすることが必要であることが示唆された。そのため，高校生の英語力向上のためには英語科教諭による ER 指導の実施が重要であることを指摘した。

ER 指導を実践している英語科教諭や研究者は，学校図書館の利点は多くの英語多読用図書を手に取りやすい形で収集・所蔵・管理，整備できる点であると指摘していた。これらは英語科教諭にとっての業務が減少するという観点からのみで，学校図書館への英語多読用図書の所蔵と排架が高校生の英語力向上支援となり得るのかという観点が不足していた。英語科教諭と学校図書館との協働が ER 指導への支援となり得るのかということについての検討が必要であることを指摘した。

第 3 章は，研究課題 2「高等学校での ER 指導において高校生の語彙学習となり得る英語多読用図書の難易度，種類はどのようなものか」に対応している。従来の先行研究では，中学 3 年次と高校 1 年次に使用する英語教科書の総語数や語彙，構文の難易度幅が広いため，高校 1 年次前半に英語学習に挫折する高校生が多いことが課題となってい

た。そのため，複数の研究者が英単語や英文のインプット量を増加させるための ER 指導の有用性を示唆している。しかし，ER 研究者の多くが GR を推奨しており，GR 以外の英語多読用図書が高校生の語彙学習に結びつくかということについて検討したものは少ない。そこで，コーパス分析を行い，GR と原書児童書のシリーズの語彙難易度および高頻出語の繰り返し出現の調査を行った。調査の結果，先行研究では，Headwords 数 400 語程度の英語多読用図書が中学校英語教科書と高等学校英語教科書の難易度差を埋めるものとして適切な難易度だと考えられていたが，中学校教科書基本語のカバー率という点では，Headwords 数 300 語程度の GR が中学校英語教科書と高等学校英語教科書の難易度差を埋めるためには適切であることが示された。難易度の低い原書児童書のシリーズは，GR よりも高頻出語や中学校英語教科書基本語のカバー率が高くなるものがあること，シリーズ内で難易度が近似した図書に出合えること，未知語学習にもなることから，GR と同様に高校生の語彙学習に資するものとして活用できることが示された。

第 4 章は，研究課題 3「英語多読用図書の所蔵と排架を中心とした学校図書館の支援は，ER 指導における高校生の英語力向上促進支援となり得るか」に対応している。英語科教諭と司書教諭とが学校図書館に英語多読用図書を排架して行った ER 指導の実践をもとに，高等学校図書館の英語多読用図書の所蔵と排架を中心とした支援がどのように ER 指導における英語科教諭や高校生の英語力向上支援となり得るのかについて検討した。高等学校図書館への英語多読用図書の所蔵と排架が高校生の自発的な読書への取り組みを促進させ得ることが示された。オリエンテーションの実施が英語多読用図書の選択支援になることが示された。Headwords 数 1,000 語以上の英語多読用図書を読まなくても，難易度が低く，理解可能な語彙で書かれた図書を多く読むことで，CEFR A2/B1 レベルを達成できる可能性が示された。高等学校図書館に Headwords 数 700 語以下の英語多読用図書を優先的に所蔵して難易度別に排架することが，高校生の英語力向上の支援となり得ることが示唆された。

第 5 章では各章の総括を行い，総合考察について述べている。第 2 章の結果から，英語多読用図書の所蔵と排架は英語科教諭の負担軽減になるだけではなく，高校生の自発的，継続的な学習支援になるが，従来の先行研究では日本の学校図書館への外国語の図書の所蔵と排架についての検討は少ないことが明らかになった。第 3 章ではコーパス分析によって，高校生にとって流暢な読みを可能にする難易度は Headwords 数 300 語程度で，GR と同時に原書児童書のシリーズも語彙学習に活用できることが示された。また第

4 章では，Headwords 数 700 語以下の英語多読用図書であっても，文科省が目標とする CEFR A2/B1 レベルを達成できることが示された。これらのことから，司書教諭や学校司書が高等学校図書館に英語多読用図書を所蔵し，そのときすべての難易度を均等に所蔵して排架するのではなく，高校生が英語に対する苦手意識をなくし意欲的に取り組むことができる難易度の Headwords700 語以下の GR や原書児童書のシリーズを優先的に所蔵して難易度別に排架することが，高校生の英語力向上支援となり得ることが示唆された。

第 4 章で示したように，司書教諭や学校司書が学校図書館蔵書管理システムに総語数や Headwords 数など，ER 指導に必要な書誌的事項の登録をしたり，英語多読用図書を難易度別にわかりやすく排架したりするなどの環境整備を行うこと，難易度と排架の関係を説明するためのオリエンテーションを実施すること，その内容を『図書館利用案内』に記載することなどが，高校生の英語多読用図書選択支援となり得るものである。従来の先行研究は ER 指導に関するほぼすべての業務を英語科教諭が担うことを想定していた。しかし，学校図書館蔵書管理システムへの登録やラベルの貼付，動線を意識した排架場所について考えることは英語科教諭にとっては専門外の業務となるため，司書教諭や学校司書の業務となる。

第 6 章では結論について述べている。設定した 3 つの研究課題から，従来の先行研究では学校図書館への英語多読用図書の所蔵と排架が高校生の英語力向上支援となり得るのかという観点が不足していることを指摘した。高等学校図書館にすべての難易度の英語多読用図書を均等に所蔵して排架するのではなく，Headwords 数 700 語以下の難易度の GR およびそれらと同程度の難易度の LR や原書児童書のシリーズを優先的に所蔵して難易度別に排架することが，英語科教諭の負担軽減になるだけではなく，高校生の自発的な読書への取り組みを促進させ，結果的に英語力向上の支援になり得ることが示唆された。高等学校図書館に所蔵する英語多読用図書の難易度の枠組みを示した。難易度の低い英語の図書を読むことによって得られる流暢な読みを重視する ER 指導においては，英語科研究室などはなく，学校図書館に英語多読用図書を所蔵して排架することに意義がある。高校生がそれぞれの学年や英語力に適した難易度の英語多読用図書を選択できるように排架を工夫したり，学校図書館蔵書管理システムでの検索を可能にしたりすることは，司書教諭や学校司書の役割となる。英語科教諭と学校図書館業務をよく知る司書教諭や学校司書が英語科教諭と協働し，それぞれの専門知識を共有して ER 指導に取り組むことが，高校生の英語力向上への支援となると考えられる。

Abstract

A Study on the Collection and Shelving of English Books in High School Libraries for Extensive Reading Programs

The recent advancements in global human resource development within educational institutions have altered in English language education in high schools. English teachers shift their methods with the aim of enhancing students' language propficiency. In light of this, Extensive Reading (ER) has garnered significant attention as a method, where learners read a lot of easy comprehensible English books in order to improve reading fluency and build vocabulary.

ER programs are different from Japanese "Tadoku," in that they are implemented in English language classes at high schools and universities. English teachers prepare reading materials at a level which enables students to understand and read with ease.

The use of graded readers (GR), that are specially created for learners of foreign languages, are recommended in the ER program. However, Japanese English teachers not only use GR, but also leveled readers, which are written for children in English speaking countries, and authentic children's books. Previous studies have investigated the difficulty of the English level and the repetition of vocabulary in GR, and there is a lack of research on the usefulness of authentic children's books to be used in the ER programs. Additionally, while school libraries have books available, there are few studies on how school libraries can support both English teachers and high school students.

Based on the above background, the purpose of this study is to reveal the support method for ER programs to improve high school students' English proficiency, focusing on the collection and shelving of English books in high school libraries. The research questions are as follows:

RQ1: What are the expectations and challenges faced by English teachers regarding collection and shelving of English Books in high school libraries in ER programs?

RQ2: What levels and types of English books are suitable materials for vocabulary acquisition for high school students in ER programs?

RQ3: Can the collection and shelving of English books in high school libraries help improve the English prpficiency of high school students through ER programs?

Chapter 1 of this dissertation presents the background, previous studies, the research objective, and research questions. The English language proficiency expected from senior high school students is at least CEFR A2 to B1 level at the third grade of high school. Unfortunately, over 55% of high school students assert that they are not good at English, owing to the disparity in difficulty between the English textbooks utilized in junior high and high school. One possible solution for this is the implementation of ER programs, which enhance vocabulary acquisition through the use of English books at a level that is not excessively demanding.

It emphasizes the need to discern the types and levels of English books that should be prioritized for utilization in ER programs in high schools. It highlights the research questions to further investigate the role that libraries and the ER programs have in supporting high school students. Chapter 1 presents the overview of this study.

Chapter 2 corresponds with RQ1, which is a literature review. Comparisons are made among the guiding principles of foreign researchers, Kunihide Sakai's principles of Tadoku, and the new principles of Tadoku advocated by Japan Extensive Reading Association. In order to attain a certain level of effect in educational institutions, it suggests English teachers to select English books at the appropriate level to mitigate the risk of "slip reading." Additionally, instructions from the English teacher are essential for improving the English proficiency of high school students. Previous studies had only noted that English teachers could alleviate the burden when English books were available in the school libraries. In regard to this issue, it investigates whether teacher librarians and school librarians can fully support ER programs.

Chapter 3 corresponds with RQ2, a corpus analysis was conducted on a series of GR and authentic children's books. Previous studies had indicated that English books less than 400 headwords were appropriate as a bridge between the junior high school English textbooks and the high school English textbooks. However, the results of this

study suggested that GR with 300 headwords or less covers the vocabulary of junior high school English textbooks and are suitable for first year high school students. Additionally, the analysis showed that although authentic children's book series covered a greater number of high frequency words than GR, they revealed a narrower range of difficulty as well. These findings suggest that student vocabulary learning will benefit from reading not only GR but also authentic children's book series.

Chapter 4 corresponds with RQ3, based on the implementation of ER programs in the high school library by English teachers and a teacher librarian. This study examined the method of the collection and shelving of English books in high school libraries help improve the English proficiency of high school students through ER programs. According to the study, the availability of appropriate English books was key to ensuring high school students' motivation in ER. High school students were able to attain CEFR A2 to B1 level while reading English books with comprehensible vocabulary, meaning there is little necessity to collect English books with more than 1,000 headwords. It suggests rather than equitably distributing texts of varying levels, priority should be given to GR in the sub 700 headwords range.

Chapter 5 summarizes the entire research. The collection and shelving of English books in school libraries for ER programs not only reduces the burden on English teachers but also supports the spontaneous and continuous learning of high school students. There have been few previous studies on the collection and shelving of foreign language books in Japanese school libraries. The results of chapter 3 and 4 show that it is crucial for teacher librarians and school librarians to prioritize the availability of reading materials, rather than the equitable distribution of texts at various levels. In other words, for English language acquisition, high volume of appropriate reading materials is more beneficial than low volume of various level materials. These GR in the sub 700 headwords range and authentic children's books can assist high school students in overcoming their anxiety towards the language and become more motivated to read in English. Previous studies assumed that English teachers were responsible for almost all tasks related to ER programs. However, registering books in the school library collection management system, attaching labels

and consideration on where to put them in the library should be the responsibility of teacher librarians or school librarians.

Chapter 6 presents the conclusion. The examination of the three research questions uncovered the lack of previous research on examining the effect of using English books in school libraries to support language acquisition for high school students. The three studies suggest that for effective ER programs, it is better to prioritize books at a specific level rather than offering students a wide range of varying levels. The studies showed a framework of difficulty levels for English books that helped high school students to learn vocabulary. This approach would facilitate the enhancement of high school students' English proficiency by prioritizing GR in the sub 700 headwords level, and authentic children's book series. The studies also revealed the approach of placing English books in the school libraries rather than in special rooms, such as the English department laboratories as it not only reduces the burden on English teachers but also supports the spontaneous and continuous learning of high school students. Going forward, English teachers, teacher librarians, and school librarians should continue to collaborate and share their expertise in English instruction and library skills for ER programs.

目次

第 1 章　研究の背景と目的 1
1.1　グローバル時代の高等学校における Extensive Reading 指導実施の意義 1
1.1.1　高校生に期待される英語力とその課題 1
1.1.2　Extensive Reading の定義 2
1.1.3　英語多読用図書の特徴と課題 4
1.1.4　高等学校での ER 指導に用いる英語多読用図書に関する研究の必要性 13
1.2　研究の目的と研究課題 16
1.3　研究課題 16
1.3.1　研究課題 1：従来の ER 指導において，英語科教諭は所蔵と排架を中心とした学校図書館の支援にどのような期待を持っているか 16
1.3.2　研究課題 2：高等学校での ER 指導において高校生の語彙学習となり得る英語多読用図書の難易度，種類はどのようなものか 17
1.3.3　研究課題 3：英語多読用図書の所蔵と排架を中心とした学校図書館の支援は，ER 指導における高校生の英語力向上促進支援となり得るか 19
1.4　論文の構成 20
【本章の引用文献・注】 22
第 2 章　Extensive Reading 指導において期待されている学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架 36
2.1　調査方法 36
2.2　調査の結果 37
2.2.1　海外における ER 指導 37
2.2.2　日本における ER 指導 42
2.3　考察 46
2.3.1　英語多読と ER の相違点 46
2.3.2　ER 指導における学校図書館の支援 49
2.4　本章のまとめ 51
【本章の引用文献・注】 52
第 3 章　高校生の語彙学習に資する英語多読用図書の難易度と種類 63
3.1　語彙の繰り返し調査 63

3.1.1　調査方法 63
3.1.2　調査の結果 65
3.2　中学校英語教科書基本語との比較調査 71
3.2.1　調査方法 71
3.2.3　調査の結果 72
3.3　考察 77
3.3.1　GR と原書児童書の難易度差 78
3.3.2　GR と原書児童書における語彙の繰り返しと語彙サイズの増加 79
3.3.3　原書児童書の語彙の特徴 81
3.3.4　高等学校での ER 指導において語彙学習に資する英語多読用図書の難易度 81
3.3.5　高等学校での ER 指導において語彙学習に資する英語多読用図書の種類 82
3.4　本章のまとめ 83
【本章の引用文献・注】 85
第 4 章　高等学校図書館における英語多読用図書の提供と支援 90
4.1　調査方法 90
4.1.1　調査対象校の概要 90
4.1.2　調査対象図書館の概要と英語多読用図書の所蔵と排架の経緯 92
4.1.3　調査手続き 93
4.2　調査の結果 93
4.2.1　学校図書館による取り組み 93
4.2.2　年度別の変化 98
4.3　考察 109
4.3.1　所蔵と排架を中心とした支援による高校生の自発的な読書への取り組みの促進 109
4.3.2　所蔵と排架を中心とした支援による高校生の英語力向上 110
4.3.3　所蔵と排架を中心とした支援による高校生の英語多読用図書の選択 112
4.4　本章のまとめ 113
【本章の引用文献・注】 114
第 5 章　総合考察 118
5.1　研究の総括 118

5.2　総合考察.....121
5.2.1　学校図書館に英語多読用図書を所蔵，排架する意義.....121
5.2.2　高等学校図書館に優先的に所蔵，排架する英語多読用図書の難易度と種類...123
5.2.3　司書教諭や学校司書による所蔵と排架を中心とした支援.....124
5.2.4　本研究の学術的意義.....125
5.2.5　本研究の限界と今後の課題.....126
【本章の引用文献・注】.....129
第 6 章　結論.....135
謝辞.....138
参考文献リスト.....140
日本語　書籍・雑誌論文.....140
英語　書籍・雑誌論文.....147
日本語　ウェブサイト.....150
英語　ウェブサイト.....153
研究業績一覧.....156
付録.....160

表目次

表 1-1　Oxford bookworms Library のレベル別 Headwords 数，平均総語数と使用文法，英検，Lexile 指数，CEFR レベル 7
表 1-2　JACET8000 語数別目安表 9
表 1-3　代表的な Leveled Readers のレベル別対象年齢表 10
表 2-1　デイとバンフォードの 10 原則（1998 年） 39
表 2-2　ネーションとウェアリングの 11 原則（2013 年） 40
表 2-3　デイとバンフォードの指導 10 原則（2002 年） 40
表 3-1　調査対象図書の平均総語数，平均 JACET8000 基本語数，平均異なり語数66
表 3-2　調査対象図書の JACET8000 基本語カバー率と標準偏差 66
表 3-3　Magic Tree House Series 基本語内における Pearson English Readers Level 1，Oxford Bookworms Library Stage 1，Nate the Great Series 基本語の出現数 70
表 3-4　『NEW CROWN』の語彙難易度分析結果 72
表 3-5　中学校英語教科書基本語の出現頻度 73
表 3-6　GR，原書児童書における中学校英語教科書基本語の平均出現回数 74
表 3-7　GR，原書児童書それぞれ 28 冊における中学校英語教科書基本語の合計出現回数 75
表 3-8　GR，原書児童書それぞれ 28 冊に 10 回以上出現した中学校英語教科書基本語と中学校英語教科書未出現基本語 77
表 4-1　高校 3 年次 TOEIC 平均取得点 91
表 4-2　明高中レベルと代表的な GR，LR のレベル 95
表 4-3　年度別の英語多読用図書所蔵冊数（明高中レベル別） 96
表 4-4　高校生の貸出者率 98
表 4-5　学年別貸出者率 99
表 4-6　学校図書館内英語科授業数 100
表 4-7　オリエンテーション実施以前の 1 年次 1 学期貸出 101
表 4-8　オリエンテーション実施以後の 1 年次 1 学期貸出 101
表 4-9　入学年度別高校 2 年次 6 月 TOEIC 取得点と貸出者数 103
表 4-10　入学年度別高校 3 年次 6 月 TOEIC 取得点と貸出者数 104

表 4-11　高校 2 年次 6 月の貸出総語数と TOEIC 取得点.....105
表 4-12　高校 3 年次 6 月の貸出総語数と TOEIC 取得点.....106
表 4-13　TOEIC 取得点別貸出図書の明高中レベル 107
表 4-14　TOEIC 取得点別貸出図書の種類 108

図目次

図 1-1　論文の構成 21
図 2-1　ナットールのよい読みの循環..... 37
図 2-2　多読と ER の差異..... 48
図 3-1　Pearson English Readers Level 1（PER 1）と Nate the Great Series
（NTG）の新出語の出現回数..... 67
図 3-2　Oxford Bookworms Library Stage1（OXB 1）と Magic Tree House Series
（MTH）の新出語の出現回数 68
図 3-3　Nate the Great Series に特徴的な語..... 70

第１章　研究の背景と目的

本章では，研究背景と先行研究に基づく研究目的と研究課題について述べる。また，論文全体の構成を示す。

1.1　グローバル時代の高等学校における Extensive Reading 指導実施の意義

1.1.1　高校生に期待される英語力とその課題

学校教育におけるグローバル教育は国際理解教育として第二次世界大戦後から始まり[1)2)]，その後，時代と共に多様化した。平和学習，人権学習，環境学習，帰国子女教育，在日外国人子女教育なども広義の国際理解教育に含まれる[3)]。グローバル人材という言葉が用いられるようになったのは 2010 年以降であり[4)]，2012 年の「グローバル人材育成戦略（グローバル人材育成推進会議　審議まとめ）」（以下，グローバル人材育成戦略）[5)] 以降，グローバル人材育成に関する指導が盛んに行われるようになってきた。特徴的なものとして，国際バカロレア（International Baccalaureate，以下 IB）教育推進[6)]，スーパーグローバルハイスクール（以下，SGH）事業[7)] などがある。

これらの立法府，行政府および IB，SGH 事業におけるグローバル人材の定義からは，1）高い英語力でのコミュニケーション力，2）教養，専門性，3）異文化理解の 3 点を持つ人材であることが導出される。2）と 3）は，問題解決能力，思考力，判断力などに深く関わっており，これらは「グローバル人材育成戦略」で述べられた要素と同義である。その上で，発見した課題を英語で他者に伝える力の育成が求められている。そのため，文部科学省は，第 3 期教育振興計画の中で，英語力については中学校卒業段階で CEFR（Common European Framework of Reference for Languages：Learning，teaching，assessment：外国語の学習，教授，評価のためのヨーロッパ共通参照枠）[8) 9)] A1 レベル相当以上，高等学校卒業段階で A2 レベル相当以上を達成した中高生を 50%以上にするという目標を掲げている[10)]。文部科学省の目標は高校生が卒業時に CEFR A2 の中でも B1 レベルに近いレベルを身につけられるような教育を行うことである。そのため，2017 年改訂の小学校および中学校学習指導要領，2018 年改訂の高等学校および特別支援学校学習指導要領においても，中学校，高等学校の英語科の習得目標語彙数は中学生で 1,600～1,800 語，高校生で 1,800～3,000 語となり，高校生では最大 1,200 語の増加となった[11)]。英語科教諭には児童生徒の英語力向上を見据えた教育方法の転換が求められている。

CEFR は 2001 年に欧州協議会が外国語の学習や教授，評価のために示した指標で，基礎段階の言語使用者（A1／A2），自立した言語使用者（B1／B2），熟練した言語使用者（C1／C2）の 6 段階となっている[12]。2018 年の CEFR 補遺版では，A1 よりもさらに基礎的な言語しか使用できない Pre-A1 段階が設けられた[13]。実用英語技能検定（以下，英検）[14] との対照では中学卒業レベルとされる準 2 級が A2，高等学校卒業レベルとされる 2 級が B1 である[15]。TOEIC®の運営を行っている国際ビジネスコミュニケーション協会によれば，CEFR A1 から A2 レベルは TOEIC Listening & Writing の合計スコアでは 225 点から 545 点，B1 レベルは 550 点から 780 点程度である[16]。高校生の卒業時の目標取得点は 545 点前後になると考えられる。

このように中学生, 高校生の英語力向上が重視されるようになってきた一方で, 中学校, 高等学校の英語教科書が使用している語彙や文法，一文の長さなどを分析した先行研究では，複数の研究者が中学 3 年次に使用する英語教科書と高校 1 年次に使用する英語教科書の難易度幅が広いことを指摘している[17] [18] [19]。ベネッセ教育総合研究所の「高 1 生の英語学習に関する調査〈2015-2019 継続調査〉」[20] では，全国 971 名の高校 1 年次生のうち，英語が「得意」か「苦手」であるかということについて，「とても苦手」「やや苦手」と回答した高校 1 年次生は 538 名（55.4%）であった。「苦手」と感じるようになった時期は，「中 1 の前半」が 18.2%，「高 1 の前半」が 17.3%となっていた。英語学習に関わることとして，「単語を覚えるのが難しい」に「とてもあてはまる」「まああてはまる」と答えた高校生は 71.8%，「苦手」と答えた 538 名中では 81.6%となっていた。中学校と高等学校で使用する英語教科書における単語数や単語の難易度の差異などが，英語嫌いの高校生を生む要因となっている可能性がある。この問題に対して近年注目されている指導法が，Extensive Reading（以下，ER）と言われるものである。高校生の英語嫌いをなくすために，中学校英語教科書と高等学校英語教科書の難易度差を埋める英語の図書を用いた指導をすることが検討されている。

1.1.2　Extensive Reading の定義

ERは，Skimming，Scanning，Intensive readingとともに，4つの読みのスタイルあるいは読み方の1つである[21]。第二言語習得研究においては英語力を身につける方法の1つとして，難易度が低く総語数の少ない英語の図書を速く大量に継続的に読むことを意味している。第二言語習得研究の中では，ERは指導者の指導下において実施されるものである。

個人が趣味や英語への興味関心から実施するものではないため，指導方法が重視される[22)23)]。

一方，日本においてERの訳語として用いられる「多読」は，授業内で実施されるものばかりではなく，個人で行う英語での読書を含む。従来の日本語で書かれた多読に関する先行研究では，学校教育において英語科教諭が実施するER授業の指導方法や効果についての研究は少ない。

ノートルダム清心女子大学教授のロブ・ウェアリング（Waring, Rob）[24)]と，関西大学（現在は桃山学院大学准教授）のスチュアート・マクリーン（McLean, Stuart）は，ERの定義にもばらつきがあることを指摘している[25)]。対象となる難易度や読書量，クラスで読むのか個人で読むのかなど，研究者間でのばらつきがあるだけではなく，同一著者による研究内でも混乱が生じることがある[26)]。ウェアリングとマクリーンは先行研究における断片的なERの定義を整理して，指導者の指導のもとに学習者が持続的かつ長期間にわたって大量の英語の図書を読むこと，それが意味に焦点をあてたインプット（meaning-focused input）であることをERとしている。意味に焦点をあてたインプットとは，辞書を引かなくても書かれていることの意味がわかる程度の難易度のインプットであるということである。学習者は負担を感じることなくすらすらと理解して読み進めることができるため，インプット量が増加する。

ウェアリングとマクリーンの定義は核となる要素と可変要素からなるが，ERの核となるのは，流暢かつ持続的な理解をもたらすテキスト，大量の英語の図書，長期・長時間の読書，会話レベルの難易度で書かれているために長さのある英語の図書である。一方，ERの可変要素には，クラス内での実施か課外での実施か，楽しいものなのか楽しくないものなのか，確認テストを実施するのかしないのか，非英語圏学習者向けに編集された学習用の英語の図書であるGraded Readers（以下，GR）を用いるのかその他の図書を用いるのかなどが挙げられている[27)]。

本研究では，高等学校の英語科教育の中で実施される難易度の低い英語の図書を読む活動への支援について検討する。そのため，ウェアリングとマクリーンの定義を踏襲し，社会人などが個人の趣味で行うものではなく，学校教育の中で，難易度の低い英語の図書を大量に読む活動をERとする。先行研究を引用する際に，多読あるいは英語多読という語が用いられていた場合にはそれに従う。英語多読およびER指導で使用する難易度の低い図書は「英語多読用図書」とする。ER指導用の英語の図書としてGRがあるが，実際のERに

おいては，ER用に編集されたものではない図書を使用することもある。本研究ではER指導用図書であるGR以外で英語多読に用いられている図書をER指導に用いることができるのかということについても検討するため，ER指導用図書ではなく，英語多読用図書という語を用いる。英語多読とER指導の差異については第2章で改めて述べる。

1.1.3　英語多読用図書の特徴と課題

1.1.3.1　Graded Readers

日本において個人で行う英語多読や学校教育の中で実施される ER 指導で用いられる難易度の低い英語多読用図書には，学習用に編集された図書と，その他の図書の大きく 2 種類がある。英語で書かれた図書がすべて用いられるわけではなく，同一語彙の出現回数の多い学習用の図書や，難易度の低い児童向けの図書が ER 指導のための英語多読用図書として使用される。

ER 指導において主に用いられているのは，非英語圏の英語学習用に編集された GR である。GR は既存のオリジナルテキストを難易度の低い単語や文法を用いて書き直したものや第二言語学習者用に新たに書かれたオリジナルテキストで，Graded のほか，simplified，abridged，adapted，pedagogical などとも称されるものである[28]。使用語彙や文法の難易度によって，出版社が段階別にレベルをつけている[29] [30]。

コーパス分析によって，GR が ER 指導における学習用図書としての優位性を持つことを検証した先行研究が複数ある。コーパスとは，図書や新聞，雑誌などに記載された言葉，あるいは話し言葉などを大量に収集して検索，分析できるようにしたデータベースのことである[31]。主要なコーパスにはアメリカ英語の書き言葉 100 万語を収集した Brown Corpus（Brown University Standard Corpus of Present-Day American English）[32] や現代イギリス英語の書き言葉，話し言葉を収集した British National Corpus[33] などがある。コーパス研究は，語彙密度，頻度分布，高頻度語の研究を行う語彙研究のほか，文法の用法を分析する文法研究，語法研究など多岐に渡っている[34]。

ER 指導に関する研究では，語彙学習の観点から ER 指導研究を行っているニュージーランドビクトリア大学ウェリントン校の名誉教授で応用言語学者のポール・ネーション（Nation, Paul）を中心に，学習者の読解力と語彙の関係，あるいは ER 指導で使用する英語多読用図書の語彙難易度についての検討が増えている[35] [36] [37] [38] [39] [40] [41] [42] [43] [44] [45]。ネーションが会話，物語，新聞，学術テキストそれぞれにおいて *A General Service*

List（以下，GSL）[46] と AWL（*A New Academic Word List*：GSL 以外で学術論文に用いられる高頻出の 570 語を抽出したリスト）[47] が何%を占めているかを調査した結果では，会話の 84.3%，物語の 82.3%，新聞の 75.6%，学術テキストの 73.5%が GSL の最初の 1,000 語リスト内の語を用いて書かれていたことが明らかになっている[48]。GSL はマイケル・フィリップ・ウエスト（West, Michael Philip）によって英語を母語としない学習者が最初に覚えるべき高頻出の 2,000 語が示されたもので，特に覚えるべき最初の 1,000 語と，次の 1,000 語とに分類されたものである。

既知語と理解度の関係では，ベイシア・ローファー（Laufer, Batia）は 95%[49]，マルセラ・フー（Hu, Marcella）とネーションは 98%[50] の既知語が含まれたテキストが学習者にとって完全に理解できる難易度であると示唆している。ジリアン・クラリッジ（Claridge, Gillian）はコーパス分析によって，エドガー・アラン・ポー（Poe, Edgar Allan）の *The Gold Bug*（『黄金虫』）のオリジナルテキストとロングマン社によってリライトされたテキストを比較した結果，オリジナルテキストでは GSL に含まれる語が 71.9%であったのに対して，リライトされた GR では 97.95%であったことを明らかにしている[51]。これらのことからも，GSL を多用した GR が推奨されている[52] [53] [54] [55]。

GR の各出版社は，各図書の表紙や裏表紙，出版社の Web サイト，ガイドブック等に CEFR レベルや Headwords 数などを明示している。学習者がそれらを頼りに自分の英語力にふさわしい英語多読用図書を選択することができる点も，ER 指導に GR が推奨される理由の 1 つである。

しかし，出版社が記載している Headwords 数が異なる形態の語をすべて数えているのか，give，gives，gave は give，look，looks，looked は look となるが，happy と unhappy は別のものとする数え方であるレーマ（Lemma）[56] なのか，過去形や三単現の s だけではなく，happy，happily，happiness，unhappy などの派生語もすべて happy にまとめて数えるワードファミリー（Word family）[57] であるのかは明らかではない。Headwords 数が示されてはいても，使用語彙の難易度については曖昧な点も残っている[58]。そのため，出版社の異なる GR のレーマやワードファミリーの数を明らかにして，GR が ER 指導に適切かということを検討するためにコーパス分析が行われることもある[59]。文法に関する研究が少ないのは，GR では出版社が各レベルで使用している文法項目を明示しているために，コーパスによって調査する必要がないからである。

なお，GR において出版社が使用している「Headwords」は「見出し語」と翻訳されることが多いが，人名や地名などの固有名詞を除外した場合もあり，辞書の見出しとして記載される語と同一ではない。そのため本研究では GR の難易度についての指標は，日本語訳の「見出し語」ではなく「Headwords」を使用する。

表 1-1 に代表的な GR の 1 つである Oxford Bookworms Library のレベル別 Headwords 数と総語数，英検の級，CEFR レベルが示された表[60] に，Oxford Bookworms Library Syllabus に掲載された使用文法項目[61]，Lexile 指数[62] を加えた難易度表を示した。Lexile 指数は，MetaMetrics 社による英検との対照表を参考にした[63]。

Oxford Bookworms Library のレベル表では，CEFR Pre-A1 に対応する英検の級はないため，下部が空欄となっている。同様に，英検の級から推定した Lexile 指数も下部が空欄となった。CEFR Pre-A1 の Reading Level は写真やイラスト付きのファーストフード店のメニューや，時間と場所だけが書かれた簡単なメモが理解できる程度である[64]。Oxford Bookworms Library Starter は，英検 5 級や Lexile 指数 330L には到達しない程度から，A1 レベル程度までの学習者を対象としていることになる[65]。

表 1-1　Oxford bookworms Library のレベル別 Headwords 数，平均総語数と使用文法，英検，Lexile 指数，CEFR レベル

レベル	Headwords数 平均総語数	使用文法項目	CEFR	英検	Lexile指数
Stage 6	Headwords数： 2,500 平均総語数： 30,000	不定詞、動名詞を含む受動態・法助動詞の意味（上級）・条件節、譲歩節	C1	1級	1,323L
Stage 5	Headwords数： 1,800 平均総語数： 23,000	未来進行形・未来完了形・受動態・条件節would have・完了不定詞・so/such…that節	B2	準1級	1,190L
Stage 4	Headwords数： 1,400 平均総語数： 16,000	過去完了進行形・受動態・条件節would・間接疑問・関係副詞where/when・目的、理由、比較を表す節・前置詞、慣用句の後の動名詞			
Stage 3	Headwords数： 1,000 平均総語数： 10,000	should,may・現在完了進行形・used to・過去完了形・使役・関係詞節・間接表現	B1	2級	1,013L
Stage 2	Headwords数： 700 平均総語数： 6,500	現在完了形・未来形will・(don't)have to,must not, could・形容詞比較変化・単純時制・過去進行形・付加疑問・ask/tell＋不定詞	A2	準2級	763L
Stage 1	Headwords数： 400 平均総語数： 5,200	単純過去形	A1	3－5級	550L 497L 333L
Starter	Headwords数： 250 平均総語数： 1,375	単純現在形・現在進行形・命令形・can/cannot,must・未来形・単純動名詞	Pre-A1		

注：Oxford Bookworms サイト[66] および syllabus[67]，
英検と Lexile 指数の対照表[68] より著者作成

Lexile 指数は単語数や単語の難易度，構文の複雑さなどから導き出された読解力や文章の難易度を 0L から 2,000L までの数値で示したものである[69]。英語を母語とする児童生徒，あるいは外国語として英語を学ぶ学習者が自分の Lexile 指数を把握することで，適切な図書が選択できると考えられている。テキストの種類によって，Lexile Code[70] が付けられることもある。例えば AD900L は，子どもが 1 人で読むには難しい（Adult Directed）図書で，Lexile 指数は 900L ということになる。なお，近年では，この Lexile Code のうち，テキストだけではなく難易度の双方に付けられるようになった BR（Beginning Reader）も Lexile 指数と同様のものとして使用されている。他の Lexile Code がテキストの種類のみに付されるのとは異なり，BR は 0L 以下の難易度の図書に付され，0L 以下の難易度を示している[71]。日本では英検の級と Lexile 指数との関係を示したものもある[72]。自分の取

得級から算出したスコアよりも 50L 下，100L 上までの範囲の図書が，読書をするためには適切な難易度であるとされている[73]。開発元である MetaMetrics 社のサイト[74] だけではなく，書籍の通販を行う Amazon.co.jp でも Lexile 指数による洋書検索が可能となっている[75]。

第二言語習得における語の数え方にはいくつかの方法がある[76]。総語数は「延べ語数（Tokens）」といわれ，出現した語をそのまま数えるものである。同じ語が 2 回以上出現する場合でも，その都度数える。一方，同じ単語が 2 回以上繰り返し出現する場合，それを 1 つの語として数えるものを「異なり語（Types）」という。GR の各出版社が示している Headwords 数が異なり語をすべて数えたものであるのか，独自の基準によって固有名詞等を抜かしたものなのかは明らかではない。

GR の課題として，出版社が付したレベルが不統一であることを課題とする研究者もいる。Oxford Bookworms Library Starter における Headwords 数は 250 語，Stage 1 の Headwords 数は 400 語[77] で，Pearson English Readers（旧 Penguin English Readers）Easystarts の Headwords 数は 200 語，Level 1 の Headwords 数は 300 語である[78]。このように同じ Level 1 でも出版社によって難易度が異なり，Starter（Easystarts）と Level 1 との難易度幅も異なっている。下位レベルの使用語彙リストにはそれほど差異がないという先行研究もあるが[79]，先行研究で使用している高頻出語リストは GSL であって日本の英語教科書等を用いた『大学英語教育学会基本語リスト（JACET8000）』[80] ではないため，日本人高校生にとって理解可能な出版社提示 Headwords 数がどの程度かということについて確認をする必要がある。

JACET8000 は大学英語教育学会によって作成された日本人英語学習者のための語彙表である。語彙難易度が 1,000 語単位，8 段階で示されている[81]。高等学校入学時には 1～1,000 語を習得していること，高等学校 1 年次から 3 年次にかけて，3,000 語から 4,000 語程度を習得することが基本的な目安になると考えられている。JACET8000 中の基本 1,000 語のカバー率が高ければ高等学校入学時においても理解が容易であると推察される。表 1-2 に語数別のレベル目安表を示した。

表 1-2　JACET8000 語数別目安表

基本語数	目安
1～1,000	中学校英語教科書
1,001～2,000	高校初級／英字新聞の75%カバー／英検準2級合格に必要
2,001～3000	高等学校英語教科書／大学入試センター試験
3,001～4,000	大学受験，大学一般教養初級
4,001～5,000	難関大学受験，大学一般教養
5,001～6,000	英語専門外の大学生やビジネスマン／英検準1級合格に必要
6,001～7,000	英語専攻の大学生やビジネスマン
7,001～8,000	日本人英語学習者の一般的な単語学習の最終到達目標

相澤一美ほか編（2005）.『JACET8000 英単語：「大学英語教育学会基本語リスト」に基づく』より著者作成[82)]

1.1.1 で述べた文部科学省が第 3 期教育振興計画で掲げた目標値と表 1-1 からは，高校生は Oxford Bookworms Library であれば Starter から Stage 2～3 程度が読めるようになることが求められている。しかし，どの程度の Headwords 数の図書をどれくらいの量読むことが CEFR A2 あるいは B1 レベル達成に結びつくのかということについて調査したものは少ない。

1.1.3.2　Leveled Readers

日本では GR とともに，英語圏の子どもたちが国語としての英語を学ぶための子ども向け GR を Leveled Readers（以下，LR）と称して，ER 指導のために用いることがある[83)]。中でも日本において多くの研究者や実践者が推奨している LR が Oxford Reading Tree（以下，ORT）である。英語多読を牽引してきた酒井邦秀[84)]，古川昭夫[85) 86) 87)]，高瀬敦子[88)]などが著書の中で ORT を取り上げている。英語多読や ER 指導の方法について記された図書や，英語多読用図書を紹介したガイドブック，取次等が作成する図書館の選書用に作られた販促冊子等において，ORT は欠かせないシリーズとなっている。

表 1-3 は LR の出版社が明示している難易度をまとめたものである。LR は Headwords 数や総語数，使用文法項目が明示されず，レベル分けは年齢や学年，あるいは文の構造の複雑さによって行われている。LR の課題として，GR よりも高頻出語の使用率が低いことや，児童用であるためについでに学ぶ語にあまり価値がないことなどを指摘したものがあ

る[89]。各社で独自に開発されたレベル別語彙リストが公表されておらず，書き換えの基準が明確に示されていないという指摘もある[90]。LR を読みにくいと感じる学習者も少なくない[91]。イラストが多いために物語の流れを理解することは容易であるが，イラストに依存して語彙学習にならない恐れもある。GR は Headwords 数別に難易度が示されるが，LR の各 Level（Stage／Step）と GR の Level（Stage）との関係はわかりづらい。

表 1-3　代表的な Leveled Readers のレベル別対象年齢表

Level	Pre Level 1 (My Frist)	Level (Step)1	Level (Step) 2	Level (Step) 3	Level (Step) 4	Level (Step) 5
I Can Read ! Books Harper Collins	Ideal for Sharing with emergent readers	Simple sentences for eager new readers	High-interest stories for developing readers	Complex plots for confident readers	The perfect bridge to chapter books	
Step into Reading Random House		Reading to Read Preschool-Kindergarten Big Type and Easy words・ Rhyme and Rhythm ・ Picture Clues	Reading with Help Preschool-Grade 1	Reading on Your Own Grades 1-3	Reading Paragraphs Grades 2-3	Ready for Chapters Grades 2-4

I Can Read![92]，Step Into Reading[93] の出版社提示レベルから著者作成

LR を対象としたコーパス研究では，加野まきみが GR と LR を中心とした児童書のコーパスを構築して，LR が GR よりも読みにくいとされることについて検討したものがある[94]。その結果，JACET8000 基本語だけでなく，その他の高頻出語リストとの比較においても，LR 内に基本的な 1,000 語とされるものの割合が少ないことや，高頻出語の使用頻度に大きな差異があることなどが，学習者に「難しい」と感じさせる要因であることを指摘している。加野の調査では同一難易度とされる GR や LR をそれぞれまとめて調査しており，出版社別の比較は行っていない。

井村誠は，ORT の語彙が JACET8000 基本語の 80%以上をカバーしていること，高等学校レベルの文法が用いられていること，テキストの 36%が口語文の定型表現であることから，ORT が大学生の英語授業における補助教材として有用であることを示唆している[95]。井村はコーパス分析の対象を ORT に限定しているため，LR を英語多読用図書とすることが可能かという点についての検討には不足がある。

1.1.3.3　原書児童書

ER 指導では，原書（Authentic）を用いることもある。原書は学習用に編集されたものではないため，Headwords 数や総語数，使用文法項目は明示されていない。そのため，すべての原書が ER 指導に用いられるわけではない。英語の第一言語話者は 5 歳までに 5,000 ワードファミリー程度の語彙を身につけるといわれている一方で[96]，日本の外国語学部の大学生の語彙サイズでさえ 2,000 語程度とされることがある[97]。原書は言語レベルが難しすぎるといった指摘もある[98] [99]。比較的難易度の低い英語の図書にも日本人学習者にとっては未知語が多いとの指摘もある[100]。そのため，複数の実践者が，英語多読や ER 指導においては成人向けの原書と，より簡単な原書児童書とを分けて，原書児童書を読むことを推奨している[101] [102]。本研究では，平均総語数 10,000 語以下で，イラストのそれほど多くない児童あるいは 10 代向けに書かれた原書を「原書児童書」として，一般原書や原書絵本とは分けて述べる。日本において英語多読や ER 指導に用いられている原書児童書には，Nate the Great Series[103]，Magic Tree House Series[104]，Rainbow Magic Series[105] などのシリーズ図書がある[106] [107]。

原書には GR のように平易化された教材では学べない語彙や文法項目，構文を学べるという利点がある[108] [109]。加えて，GR に十分な出版点数がなかった時代もあり，GR を推奨

している研究者であっても，英語多読用図書の不足を解消する手段の１つとして，原書児童書や新聞の使用を提案することがある[110]。

原書児童書には語彙習得においてGRと同程度の価値があるとする研究者もいる[111][112]。GR を推奨するネーションも，連続ものの物語では同じ語彙が繰り返される傾向にあるため，繰り返しに関する連続ものの物語の効果についてもっと研究がなされるべきであると指摘している[113]。この場合の連続ものの物語とは，同一作者によって書かれたシリーズ図書を意味していると推察される。また，語彙研究の観点からではないが，スティーブン・クラッシェン（Krashen，Stephen）も作家のスタイルや独自の語彙に慣れることができたり，動機づけを高めるものとして１人の作家の図書を複数読んだり，１つのトピックに関する図書を複数読んだりする Narrow Reading を推奨している[114]。ただし，クラッシェンの Narrow Reading で想定されているレベルは，ER 指導で用いる英語多読用図書よりも難易度の高いものである。

ER 指導に難易度の低い原書児童書を用いることに関しては，ドミニク・チータム（Cheetham, Dominic）が，低学年向けの原書児童書が GR と同等の価値を持つ可能性があるにもかかわらず，その役割についての研究が不足していることを指摘している[115]。スチュアート・ウェブ（Webb, Stuart）とジョン・マカリスター（Macalister, John）も，先行研究では他のテキストタイプと比較して原書児童書が有用かどうかという検証が行われていないことを指摘している[116]。これまで原書児童書の語彙の繰り返しについて客観的に分析したものは少なく[117]，日本の ER 指導で英語科教諭が使用している原書児童書，特にシリーズとなっている図書を個別に分析したものはない。従来の先行研究において，GR，LR，原書児童書を比較検討したものが少ない要因として，先行研究における ER 指導が GR を中心としたものであることが考えられる。しかし，藤井数馬は日本における英語多読の広がりは，GR よりもより平易な LR や児童書を組み合わせたことで敷居が低くなったことにも一因があるとし，その上で，ER 指導においては，GR と LR と児童書をどのように組み合わせて読ませるのかということが問題になるため，指導者にとっては学習者 1 人 1 人の英語力に適切な難易度の図書を，YL や Lexile 指数などを用いて検討することが必要であると指摘している[118]。

1.1.4　高等学校での ER 指導に用いる英語多読用図書に関する研究の必要性

ER 指導研究の多くは小学生あるいは大学生や社会人以上を対象としたもので，高校生を対象とした研究や実践の報告は少ない。平成元年（1989）改訂版の高等学校学習指導要領は「多読」という言葉を使用し，英語教育におけるインプット量を重視している[119]。しかし，日本では学校教育に一定の拘束力を有する学習指導要領に従わなければならないため，ER 授業を必修科目または選択科目として設置することがそれほど容易ではない。一部の単位制総合学科を持つ高等学校や進学型専門高校では，「多読」を必修あるいは選択科目としているが[120] [121] [122]，これは単位制であるために科目設置に融通が利きやすかったり，ビジネスコミュニケーションの専門高校として英語力を重視しているために，他の高等学校と比較して英語単位数を多く設定できたりするためである。しかし，普通科高等学校ではこのような措置をとれないため，授業の一部あるいは授業外課題に ER 指導を組み入れることになる。

実践にまでは至らないまでも，高等学校において語彙学習を目的とした ER 指導の必要性が示唆されるのは，言語習得の初期には特に語彙習得が重要であると考えられているからである[123] [124]。語彙と読解力に関係があることが指摘されている[125]。

1.1.1 で述べたように単語を覚えるのが難しいと答える高校生が多く，そのことが英語に苦手意識を持つ原因の 1 つであると考えられることから，中学校英語教科書と高等学校英語教科書の語彙難易度を Lexile 指数によって検討した研究が複数ある。

及川賢は Lexile 指数と，中学校と高等学校英語教科書の一文あたりの平均単語数や一単語あたりの平均文字数を調査し，教科書の Lexile 指数に中高間でのギャップがあることを指摘している[126]。及川は高等学校英語教科書で 1 課あたりの総語数が増加するという量的変化があることへの対処方法として，高等学校入学直後の ER 指導が効果的なのではないかと示唆している[127]。このときに及川が想定しているのは，学習者と同等かそれよりも下の難易度の図書である。

根岸雅史も，中学 3 年次と高校 1 年次教科書の差異を Lexile 指数で約 200L から 300L と述べ，難易度幅が広いことを指摘している[128]。根岸は，高等学校英語教科書は高校生が自力で読んだ場合には 30%の理解しか得られないことを指摘して，高等学校では「生徒に読めるようにさせたいテキスト」を読ませているために，教諭も高校生も苦労しているが，一方で「生徒が読めるテキストを読んでいくことで最終的に目標に到達する」という考えがあることを指摘している[129]。難易度の低いテキストであっても未知語が含まれているの

で語彙学習になり，理解できるものであるために大量のインプットが可能になるというERの有用性を示唆している。

大田悦子は根岸の研究結果を再確認するため，中学校英語教科書6種類と高校1年次で使用する『コミュニケーション英語　Ⅰ』8種類の英文の難易度を，Lexile指数を用いて比較している[130]。その結果，根岸が述べていたように中学3年次と高校1年次の英語教科書における難易度幅が広いこと，その理由として，「一文の長さ」「文構造の複雑さ」のほかに「1回の授業で扱われる新出語彙の数」「1レッスンの長さ」があることを指摘している。その上で，「教える」ための教科書ではなく，理解可能なインプット[131]のために教師の関与なく理解できるレベルの教科書を選択したり，中学から高校への橋渡しを円滑に進めるために，高校1年次生にとって過度な負担がかからないレベルの教材を提供したりする必要性を示唆している[132]。

Lexile指数によるものではないが，中学校教科書に出現した語彙の特徴から学習者への語彙指導を検討したものとして，村岡亮子が検定教科書の出現語彙を比較し，特にその中の1社についての出現頻度を調査したものがある[133]。その結果，中学で学習する語が少なすぎること，使用教科書によるばらつきが大きいことを指摘している。また，『SUNSHINE ENGLISH 1-3』に出現した語の68.4%が4回以下の反復しかないことから，教科書だけを使用した語彙学習に疑問を投げかけている。指導者が適切な時期に適切な量の適切なレベルの語彙を十分に与えることが，中学生の語彙学習にとって重要であることを示唆している[134]。これはER指導にもつながるものである。高校生の英語力向上について検討するためには，高等学校でのER指導で用いるために高等学校図書館に所蔵する英語多読用図書の語彙難易度や種類を明らかにすることが必要である。

なお，日本において英語多読用図書の難易度として用いられることの多い「読みやすさレベル：Yomiyasusa Level（以下，YL）」とLexile指数の相関について調査を行った藤井は，根岸の先行研究から中学校英語教科書の難易度をYL0.5～1.5程度，高等学校英語教科書をYL2.0～3.3程度と換算し，その上で，中学校と高等学校のギャップを埋めるためのYL1.5～2.0（Headwords数400語相当）程度のインプットを与えるものとして，中学校，高等学校の教育にER指導を取り入れる意義を見出せるのではないかと示唆している[135]。中学校英語教科書で使用されている語彙と英語多読用図書の語彙とを比較して検討し，中学校英語教科書と高等学校英語教科書の難易度差を埋める英語多読用図書として先行研

究で示唆された難易度が適切であるかということを明らかにすることには意義があると考えられる。

YL は SSS 英語多読研究会が英語多読用図書の難易度を数値として示したもので，0.0～10.0 までの数値で「日本人英語学習者にとっての読みやすさ」を評価したものである[136]。実際に英語多読用図書を読んだ学習者が語彙，文法，一文の長さ，全体の長さ（総語数），挿絵のうまさや配置，文と文とのつながりのよさ，字の大きさや行間，人名・地名のわかりやすさ，書かれている内容への読者の親近感，内容に関する読者の背景知識の有無などを総合的に判断して投稿し，それを SSS 英語多読研究会が集約して示している。英語の図書の難易度を示す指標は Lexile 指数をはじめ複数あるが，YL は日本においてはもっとも入手しやすい指標の 1 つである。ER の国際的な団体である The Extensive Reading Foundation は，特に日本人にとっては，Headwords 数以外での難易度を示す指標として YL を用いることができることを紹介している[137]。藤井は，YL の特性として，導入期に用いられる英語多読用図書について細かく設定されていること，Lexile 指数ではとらえがたい，日本人にとっての読みやすさを示している点に特徴があることを指摘している[138]。版を重ねているガイドブック『英語多読完全ブックガイド』[139] に掲載されているほか，Web サイト上において，YL を検索できるシステムもある[140]。YL は日本で多く読まれている英語多読用図書に特化した指標であるため，Lexile 指数が扱っていない GR や LR についての難易度を示している点にも特徴がある。YL は投稿者の主観に左右される面もあるため，同じ図書でも版によって YL 値が異なることがあるなど，多少の揺れが生じることもあるが，藤井の研究では，低いレベルにおいては YL と Lexile 指数に一定の相関があることが示されている[141]。

ER 指導では大量の英語多読用図書を使用するため，実施においてはその難易度と種類の他に，所蔵と排架場所についての検討も必要となる。学校図書館は学校図書館法（1953 年 8 月 8 日法律第 185 号）[142] で設置および運営について規定された施設である。同法第 2 条は学校図書館を「図書，視覚聴覚教育の資料その他学校教育に必要な資料（以下「図書館資料」という。）を収集し，整理し，及び保存し，これを児童又は生徒及び教員の利用に供することによつて，学校の教育課程の展開に寄与するとともに，児童又は生徒の健全な教養を育成することを目的として設けられる学校の設備」としている。高等学校での ER 指導の実施では，学校図書館が必要な資料を所蔵して排架する場所の 1 つになると考えられる。しかしこれまで，ER 指導における学校図書館の所蔵と排架に関する研究はほとん

どない。高等学校図書館に優先的に所蔵する英語多読用図書の難易度や種類や，どのように排架することが高校生の英語多読用図書の選択支援になるのかということについての検討が不足している。高等学校図書館における高校生の英語力向上を支援する英語多読用図書の所蔵と排架を検討するためには，高校生の語彙学習に資する英語多読用図書の基準となり得る難易度の枠組みや種類について検討する必要がある。このことについては第 2 章で改めて検討する。

1.2　研究の目的と研究課題

以上の背景を踏まえて，本研究では，高等学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架を中心とした，高校生の英語力を向上させるための ER 指導に対する支援方法について明らかにすることを目的とする。

研究課題は次の 3 点である。

研究課題 1．従来の ER 指導において，英語科教諭は所蔵と排架を中心とした学校図書館の支援にどのような期待を持っているか。

研究課題 2．高等学校での ER 指導において高校生の語彙学習となり得る英語多読用図書の難易度，種類はどのようなものか。

研究課題 3. 英語多読用図書の所蔵と排架を中心とした学校図書館の支援は，ER 指導における高校生の英語力向上促進支援となり得るか。

課題 1 は，先行研究を整理して，英語科教諭が学校図書館の英語多読用図書の所蔵と排架を中心とした学校図書館の支援に期待している点と不足している観点を明らかにするためのものである。課題 2 は指導や支援の基盤となる ER 指導用の英語多読用図書についての知見を得るためのものである。課題 3 は事例研究によって，ER 指導において高等学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架を中心とした支援が英語科教諭や高校生の支援となり得るのかということについて検討するためのものである。

1.3　研究課題

1.3.1　研究課題 1：従来の ER 指導において，英語科教諭は所蔵と排架を中心とした学校図書館の支援にどのような期待を持っているか

研究課題 1 について，文献調査を行う。

1.1.2 で述べたように，ER は持続的かつ長期間にわたって，難易度の低い英語多読用図書を大量に読むことである。初学者の場合には 1 日に 1 冊以上を読むことが必要とされることもある。高等学校で ER 指導を実施する英語科教諭には大量の英語多読用図書を準備することが求められている。藤井は ER 指導を実施する前段階を「ゼロ段階」と定義して，初期段階の環境整備に関する研究は，ER 指導を考えている指導者等に対する実践的な意義があるだけでなく，「長期的・継続的な多読指導にも寄与するという点においてもこの段階の研究の意義は大きい」と指摘している[143]。しかし，従来の先行研究は第二言語習得研究者もしくは英語科教諭のものが多く，資料を所蔵してそれを教諭や生徒に供するという学校図書館による支援について検討されたものは少ない。従来英語科教諭が学校図書館の英語多読用図書の所蔵と排架に期待している点を明らかにした上で，ER 指導において司書教諭，学校司書が関わることで，より英語科教諭や高校生の英語学習に資することができる支援は何かということについて検討する必要がある。

そこで第 2 章では，ER 指導について書かれた先行研究および学校図書館による ER 指導支援について書かれた文献を整理して，従来の先行研究において英語科教諭が学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架について期待している点と，不足している観点について検討する。

1.3.2　研究課題 2 : 高等学校での ER 指導において高校生の語彙学習となり得る英語多読用図書の難易度，種類はどのようなものか

研究課題 2 について，コーパス分析を用いた英語多読用図書の語彙難易度および高頻出語の繰り返し出現の調査を行う。

従来の先行研究における英語多読用図書の選書は，教員自身が学習者とともに難易度の低い図書を読んで決定するというような，指導者の読書経験に依存したものになっていた[144] [145] [146] [147] [148]。学習者に人気の図書を集めたブックガイド[149] [150] [151] [152] は複数あるが，その多くは個人の学習者を対象としたもので，ER 指導用に特化したものではない。

本研究はコーパス分析による客観的な語彙難易度をもとに，高等学校での ER 指導において語彙学習として活用することのできる英語多読用図書について検討する。

第 3 章では，はじめに日本の ER 指導に用いられることがある GR と原書児童書について，JACET8000 基本語使用率と難易度幅，語彙の定着が期待される語との繰り返しの出

合いがどれだけあるかを明らかにする。次に，中学校英語教科書のコーパスを作成して，GR と原書児童書における中学校英語教科書語彙の出現回数について調査する。

本研究の調査において GSL ではなく JACET8000 を用いたのは，日本で英語を学ぶ高校生にとって読みやすい英語多読用図書かどうかという判断を行うには，日本人学習者のための語彙リストである JACET8000 のほうが適切であると考えたからである。また，新 JACET8000[153] ではなく JACET8000 を用いたのは, JACET8000 には分析ツールがあり，複数の先行研究がこれを用いているからである。なお，大学英語教育学会基本語改訂特別委員会は，JACET8000 と新 JACET8000 とでは 7,053 語が共通していることを明らかにしている[154]。新 JACET8000 の特徴は，新たに加えられた数詞，助数詞，月日，曜日等の名詞が上位を占めることである[155]。

調査においては PDF 化した本文をパナソニックソリューションテクノロジーの読取革命 Ver.15 でテキスト化したものを使用した。「英文語彙難易度解析プログラム（Word Level Checker：WLC）」[156] を使用して，語彙リストを抽出した。目視による誤認識の有無確認も行っている。WLC は任意の英文テキストに出現する語彙の難易度を，各単語の Word Level（WL）の頻度とその分布という形で測定し，その結果を一覧表とグラフで提示するものである。語彙の抽出や語彙頻度を測定するためのツールには，WLC のほかに AntWordProfiler[157] などがあるが，語彙リストの抽出が Excel で可能なこと，GSL ではなく JACET8000 の WL が示されることから，WLC を選択した。

WLC ではテキスト中のすべての語が自動的にレーマ化され，JACET8000 の 1,000 語ごとにタグ付けされて分類されるものである。レーマ化とは，gives，gave，looks，looked など，過去形や三単現の s などを give，look に統一する方法である。WLC では JACET の基本 8,000 語以外の語は Unknown 語になる。Unknown 語には人名，地名，曜日，数詞などが含まれる。これらは学習によって身につけるべき語という意味合いが弱いため，レベルタグがつけられていない。

一般的なコーパスを中学校や高等学校で用いた場合には含まれる用語や用例が難しすぎるという問題が生じる危険性がある[158]。WLC では特定の中学校英語教科書に出現した語や，その中学校英語教科書で使用された語が英語多読用図書の中にどれだけ出現するのかということを具体的に明らかにすることはできない。現実の中学生は指定された教科書を 3 年間使用して高等学校に進学するため，特定の教科書の基本語コーパスを作成して語彙

難易度把握調査をしなければ，実態から乖離すると考えられる。そこで次に，中学校英語教科書コーパスを作成して，GR や原書児童書の語彙難易度について検討する。

1.1.4 で述べたように，先行研究において藤井は中学校英語教科書と高等学校英語教科書の難易度差を埋めるものとして，YL1.5～2.0（Headwords 数 400 語相当）の英語多読用図書の有用性を示唆している[159]。GR，原書児童書のシリーズと中学校英語教科書の語彙分析調査から，Headwords 数 400 語という指標が適切であるかどうかという検討を行う。これらの調査によって，高等学校での ER 指導において活用することのできる語彙学習に資する英語多読用図書についての知見を提供することができると考えられる。

先行研究においては，下位レベルの複数図書と上位レベルの複数図書の語彙を比較したり[160]，学習者の語彙レベルから，GR や原書など種類の異なる図書を 1 冊ずつ，3 冊のみの調査を行っていたり[161] [162]，大学独自レベル内の異なる作家や出版社による複数図書の平均総語数や異なり語数, 特徴的な語彙から, レベルや種類別の難易度を検討している[163]。しかし，実際の ER においては，学習者は 1 冊ずつの図書を手に取って読み進めていくことになる。先行研究では，学習者が実際にどのように語彙の繰り返しや新出語と出合うのかという視点に欠けている。そのため，本研究の調査では，複数図書内に出現した語彙の難易度や新出語数ではなく，ある種類，あるレベルの図書を 1 冊ずつ読み進めたときの難易度や新出語の出現についての分析を行う。これによって，より学習者の実態に近い難易度の把握ができることになるものと考えられる。

1.3.3　研究課題 3：英語多読用図書の所蔵と排架を中心とした学校図書館の支援は，ER 指導における高校生の英語力向上促進支援となり得るか

研究課題 3 について，私立明治大学付属明治高等学校中学校（以下，明高中）図書館で行われた ER 指導実践から，高等学校図書館の英語多読用図書の所蔵と排架を中心とした支援がどのように英語科教諭や高校生の支援となり得るのかについて検討する。英語多読用図書の排架と貸出者率や英語科授業回数との関係，高校生の英語多読用図書の読了総語数と TOEIC 取得点との関係について調査する。

1.1.4 で述べたように，複数の研究者が，中学校英語教科書と高等学校英語教科書の難易度差を埋めるために ER 指導を活用することの有用性を示唆している[164] [165] [166] [167] [168]。また，大学生や工業高等専門学校生を対象とした ER 指導の研究では，TOEIC 取得点との関係が検証されている[169] [170] [171] [172] [173] [174] [175] [176] [177] [178] [179] [180]。豊田工業高等

専門学校で電気・電子システム工学科の教授を務める西澤一は，自校の学生の英語多読用図書の読了総語数と TOEIC 取得点との結果から，200,000 語以上の読書量で自律的に ER を継続できるようになり[181]，300,000 語以上で英語運用能力を向上させられることを示している[182] [183]。しかし，従来の先行研究では，ER 指導と TOEIC 取得点向上の有意性を示したものはあるが，対象者数が限られていることが課題となっていた[184]。そこで，本調査では 1,268 名を対象として，英語多読用図書の難易度や種類と TOEIC 取得点との関係について調査する。

1.4　論文の構成

図 1-1 に本論文の構成を示す。第 1 章では，研究の背景として，学校教育において英語力が重視されるようになった背景と英語多読用図書の特徴について述べ，研究目的と研究課題，研究方法，論文の構成について述べた。第 2 章は「研究課題 1．従来の ER 指導において，英語科教諭は所蔵と排架を中心とした学校図書館の支援にどのような期待を持っているか」に対応する章であり，国内外の ER 指導の先行研究を整理し，従来の先行研究において英語科教諭が学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架のどのような点について期待しているのかについて検討する。第 3 章は，「研究課題 2．高等学校での ER 指導において高校生の語彙学習となり得る英語多読用図書の難易度，種類はどのようなものか」に対応する章であり，GR と原書児童書のシリーズのコーパス分析から，それぞれの図書に含まれる語彙難易度と語彙の出現頻度，既知語との繰り返しの出合いの効果を比較する。そこから得られた結果から，高等学校での ER 指導において語彙学習に資する英語多読用図書の難易度と種類について検討する。第 4 章は，「研究課題 3．英語多読用図書の所蔵と排架を中心とした学校図書館の支援は，ER 指導における高校生の英語力向上促進支援となり得るか」に対応する章であり，高等学校で行われた ER 指導の実践から，高等学校図書館の英語多読用図書の所蔵と排架を中心とした支援がどのように英語科教諭や高校生の支援となり得るのかについて検討する。

第 5 章で，これまでの結果から，高等学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架を中心とした，高校生の英語力を向上させるための ER 指導に対する支援方法について明らかにする。第 6 章で結論を述べる。

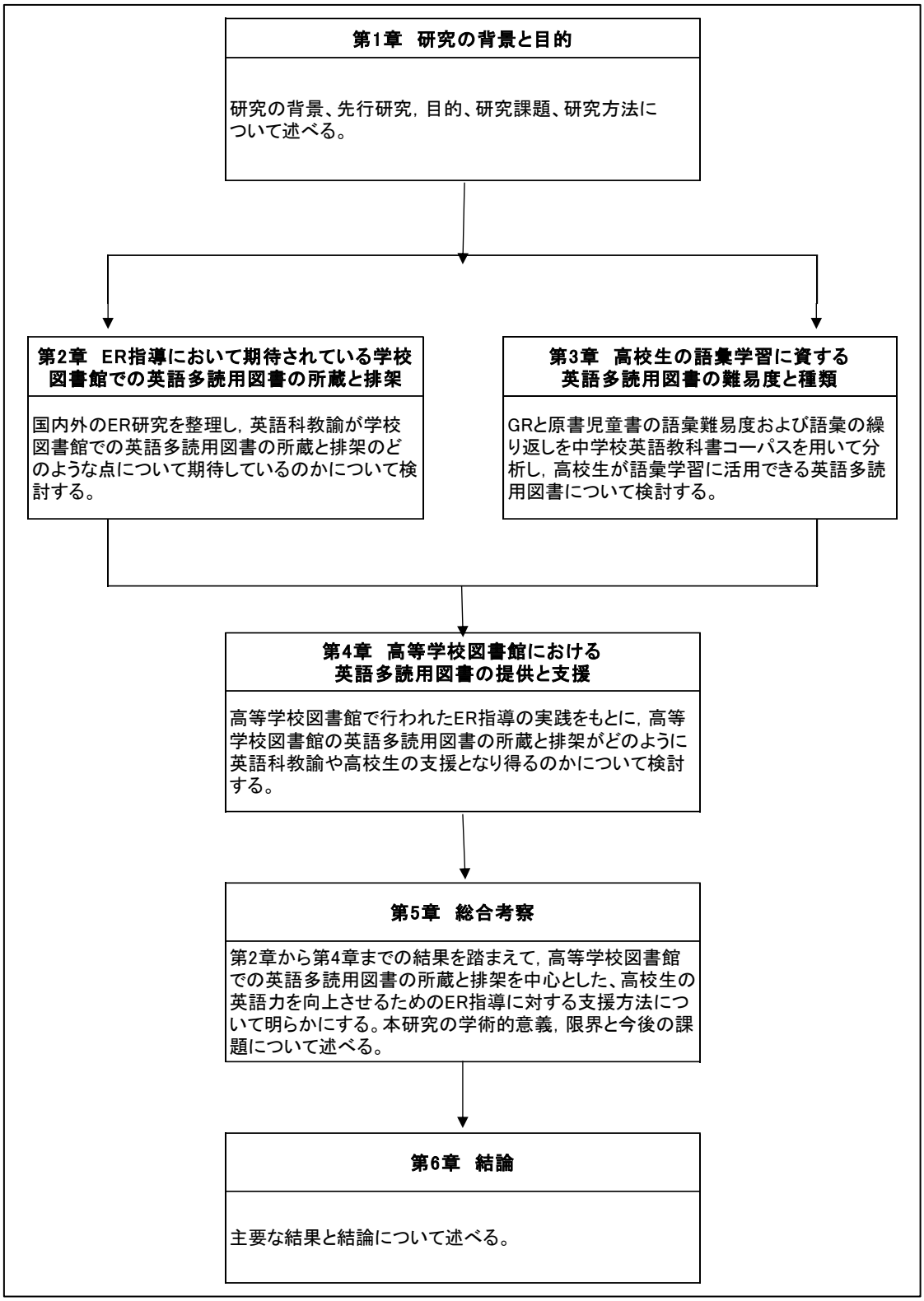
第1章　研究の背景と目的
研究の背景、先行研究，目的、研究課題、研究方法について述べる。
第2章　ER指導において期待されている学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架
国内外のER研究を整理し，英語科教諭が学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架のどのような点について期待しているのかについて検討する。
第3章　高校生の語彙学習に資する英語多読用図書の難易度と種類
GRと原書児童書の語彙難易度および語彙の繰り返しを中学校英語教科書コーパスを用いて分析し，高校生が語彙学習に活用できる英語多読用図書について検討する。
第4章　高等学校図書館における英語多読用図書の提供と支援
高等学校図書館で行われたER指導の実践をもとに，高等学校図書館の英語多読用図書の所蔵と排架がどのように英語科教諭や高校生の支援となり得るのかについて検討する。
第5章　総合考察
第2章から第4章までの結果を踏まえて，高等学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架を中心とした、高校生の英語力を向上させるためのER指導に対する支援方法について明らかにする。本研究の学術的意義，限界と今後の課題について述べる。
第6章　結論
主要な結果と結論について述べる。

図 1-1　論文の構成

【本章の引用文献・注】

---

1) 永井滋郎. 戦後国際理解教育の軌跡. 社会科研究. 1992, no.40, p.3.

2) 小林亮. ユネスコスクール：地球市民教育の理念と実践. 明石書店, 2014, p.28.

3) 永井滋郎. 戦後国際理解教育の軌跡. 社会科研究. 1992, no.40, p.8.

4) 大西好宣. グローバル人材とは何か：政府等による定義と新聞報道にみる功罪. 千葉大学人文公共学研究論集. 2018, no.36, p.169.

5) 内閣官房. “グローバル人材育成戦略：グローバル人材育成推進会議 審議まとめ. 2012年（平成24年） 6月4日.”. 首相官邸ホームページ. https://www.kantei.go.jp/jp/singi/global/1206011matome.pdf, （参照2023-01-14）.

6) グローバル人材育成推進会議. “グローバル人材育成推進会議 中間まとめ：2011年（平成23年） 6月22日”. 文部科学省. https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/46/siryo/__icsFiles/afieldfile/2011/08/09/1309212_07_1.pdf, （参照2023-01-14）.

7) 筑波大学附属学校教育局. “スーパーグローバルハイスクール”. https://sgh. b-wwl.jp/, （参照2023-01-14）.

8) Council of Europe. “Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment”. 2001, *Council of Europe*. https://rm.coe.int/common-european-framework-of-reference-for-languages-learning-teaching/16809ea0d4. （accessed 2023-01-14）.

9) 文部科学省. “各資格検定試験とCEFRとの対照表”. 文部科学省. 2018, http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/30/03/__icsFiles/afieldfile/2019/01/15/1402610_1.pdf, （参照2023-01-14）.

10) 文部科学省. “第3期教育振興計画（平成30年6月15日 閣議決定）”. https://www.mext.go.jp/content/1406127_002.pdf, （参照2023-01-14）.

11) 文部科学省. “平成29・30年改訂 学習指導要領, 解説等”. 学習指導要領「生きる力」. 2019, http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm, （参照2023-01-14）.

12) Council of Europe. “Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment”. 2001, *Council of Europe*. https://rm.coe.int/common-european-framework-of-reference-for-languages-learning-teaching/16809ea0d4. （accessed 2023-01-14）.

[13] Council of Europe. “Common European Framework of Reference for Languages：Learning, Teaching, Assessment：Companion Volume with New Descriptors”. 2018, 235p, https://rm.coe.int/cefr-companion-volume-with-new-descriptors-2018/1680787989, （accessed 2023-01-14）.

[14] 日本英語検定協会. “各級の目安”. 英検. https://www.eiken.or.jp/eiken/exam/about/, （参照2023-01-14）.

[15] 文部科学省. “各資格検定試験とCEFRとの対照表”. 文部科学省. 2018, http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/30/03/__icsFiles/afieldfile/2019/01/15/1402610_1.pdf, （参照2023-01-14）.

[16] 国際ビジネスコミュニケーション協会. “ TOEIC® Program 各テストスコアとCEFR との対照表”. https://www.iibc-global.org/toeic/official_data/toeic_cefr.html, （参照 2023-01-14）.

[17] 及川賢. 検定教科書（外国語科（英語））を通してみた中高間のギャップ. 埼玉大学紀要教育学部. 2007, vol.56, no.2, p.73-80.

[18] 根岸雅史. Lexile Measureによる中高大英語教科書のテキスト難易度の研究. ARCLE REVIEW. 2015, vol.9, p.11-12.

[19] 大田悦子. Lexile Measure を用いた中高英語教科書の難易度比較. 白山英米文学. 2016, no.41, p.13.

[20] ベネッセ教育総合研究所. “高1生の英語学習に関する調査 〈2015-2019継続調査〉”. https://berd.benesse.jp/global/research/detail1.php?id=5467, （参照2023-01-14）.

[21] Day, Richard. R.；Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.6.

[22] Day, Richard. R.；Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, xv,222p.

[23] Nation, I.S.P.；Waring, Rob. *Teaching Extensive Reading in Another Language.* Routledge. 2020, xii,200p.

[24] Nation, Paul；Waring, Rob. “Extensive Reading and Graded Readers”. *Reading Oceans*, 2013. http://www.readingoceans.jp/ComData/files/Paul%20Nation%20%20Rob%20Waring's%20ER%20Booklet_eng.pdf, 23p., （accessed 2023-01-14）.

[25]) Waring, Rob ; McLean, Stuart. Exploration of the Core and Variable Dimensions of Extensive Reading Research and Pedagogy. *Reading in a Foreign Language*. 2015, vol.25, no.1, p.160.

[26]) Waring, Rob ; McLean, Stuart. Exploration of the Core and Variable Dimensions of Extensive Reading Research and Pedagogy. *Reading in a Foreign Language*. 2015, vol.25, no.1, p.161.

[27]) Waring, Rob ; McLean, Stuart. Exploration of the Core and Variable Dimensions of Extensive Reading Research and Pedagogy. *Reading in a Foreign Language*. 2015, vol.25, no.1, p.165.

[28]) Day, Richard. R. ; Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.53-62.

[29]) Oxford University Press. Oxford Bookworms Library：グレイディッド・リーダーを選ぶ前に. https://www.oupjapan.co.jp/sites/default/files/contents/gradedreaders/media/dominoes-bookworms_syllabus. pdf, （参照2023-01-14）.

[30]) Pearson. “Pearson Graded Readers”. Pearson. https://www.pearson.co.jp/catalog/pearsons-graded-readers. php?lang=ja, （参照 2021-12-23）.

[31]) 石川慎一郎. ベーシックコーパス言語学. ひつじ書房, 2012, p.13.

[32]) Brown Corpusは1964年にアメリカブラウン大学のFrancis, W. Nelsonと Kučera, Henryによって構築された英語における初の本格的なコーパスで,その語彙リストはFrancis, W. Nelson ; Henry Kucera. *Computational Analysis of Present-Day American English. Brown University Press*. 1967, xxv,424p.や下記サイトなどから閲覧可能となっている。

Sketch Engine. *Brown Corpus : Corpus of American English*. https://www.sketchengine.eu/brown-corpus/, （accessed 2023-01-14）.

[33]) University of Oxford. *British National Corpus*. http://www.natcorp.ox.ac.uk/, （accessed 2023-01-14）.

[34]) 石川慎一郎, 長谷部陽一郎, 住吉誠. コーパス研究の展望. 開拓社. 2020, p.40-43.

[35]) Wodinsky, Marilyn ; Nation, Paul. Learning from Graded Readers. *Reading in a Foreign Language*. 1988, vol.5, no.1, p.155-161.

[36]) Laufer, Batia. “What percentage of text lexis is essential for comprehension?”. Special

language：From humans thinking to thinking machines. Lauren, Christer；Marianne, Nordman, ed. Multilingual Matters, 1989, p.316-323.

[37] Hirsh, David；Nation, Paul. What Vocabulary Size is Needed to Read Unsimplified Texts for Pleasure? *Reading in a Foreign Language*. 1992, vol.8, no.2, p.689-696.

[38] Nation, Paul；Wang Ming-tzu, Karen. Graded Readers and Vocabulary. *Reading in a Foreign Language*. 1999, vol.2, no.2, p.355-380.

[39] Hu, Marcella, ；Nation, I.S.P. Unknown Vocabulary density and reading comprehension. *Reading in a Foreign Language*. 2000, vol.13, no.1, p.403-430.

[40] Claridge, Gillian. Simplification in graded readers：Measuring the authenticity of graded text. *Reading in a Foreign Language*. 2005, vol.17, no.2, p.144-158.

[41] Wan-a-rom, Udorn. Comparing the vocabulary of different graded-reading schemes. *Reading in a Foreign Language*. 2008, vol.20, no1, p.43-69.

[42] Webb, Stuart；Macalister, John. Is Text Written for Children Useful for L2 Extensive Reading?. *tesol Quarterly*. 2013, vol.47, no.2, p.300-322.

[43] Prtljaga, Jelena；Palinkašević, Radmila；Brkić, Jovana. Choosing The Adequate Level of Graded Readers：Preliminary Study. *Research in Pedagogy*. 2015, p.1-16.

[44] 加野まきみ. 多読学習用リーダー・コーパス構築と分析 ： 学習者が感じる「難しさ」の解明へ向けて. 京都産業大学論集. 人文科学系列. 2016, vol.49, p.183-200.

[45] 井村誠. ORTのコーパス分析 ： コンテンツ分析から見たL1児童用英語絵本の有効性. 日本多読学会紀要. 2020, vol.13, p.3-23.

[46] West, Michael. *A General Service List of English Words：with Semantic Frequencies and A Supplementary Word-List for the Writing of Popular Science and Technology*. Longmans, 1953, xiii,588p.

[47] Coxhead, Averil. A New Academic Word List. *tesol Quarterly*. 2000, vol.34, no.2, p.232-253.

[48] Nation, I.S.P. *Learning Vocabulary in Another Language*. Cambridge, 2001, p.17.

[49] Laufer, Batia. “What percentage of text lexis is essential for comprehension?”. Special language：From humans thinking to thinking machines. Lauren, Christer；Marianne, Nordman, ed. Multilingual Matters, 1989, p.316-323.

[50] Hu, Marcella, ；Nation, I.S.P. Unknown Vocabulary density and reading comprehension. *Reading in a Foreign Language*. 2000, vol.13, no.1, p.422.

[51] Claridge, Gillian. Simplification in graded readers：Measuring the authenticity of

graded text. *Reading in a Foreign Language*. 2005, vol.17, no.2, p.151.

[52]) Hirsh, David ; Nation, Paul. What Vocabulary Size is Needed to Read Unsimplified Texts for Pleasure? *Reading in a Foreign Language*. 1992, vol.8, no.2, p.689-696.

[53]) Wodinsky, Marilyn ; Nation, Paul. Learning from Graded Readers. *Reading in a Foreign Language*. 1988, vol.5, no.1, p.155-161.

[54]) Nation, Paul ; Wang Ming-tzu, Karen. Graded Readers and Vocabulary. *Reading in a Foreign Language*. 1999, vol.2, no.2, p.355-380.

[55]) Webb, Stuart ; Macalister, John. Is Text Written for Children Useful for L2 Extensive Reading?. *tesol Quarterly*. 2013, vol.47, no.2, p.316.

[56]) Nation, I.S.P. *Learning Vocabulary in Another Language*. Cambridge, 2001, p.6-8.

[57]) Nation, I.S.P. *Learning Vocabulary in Another Language*. Cambridge, 2001, p.6-8.

[58]) Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Education Books, 1982, p.178.

[59]) Prtljaga, Jelena ; Palinkašević, Radmila ; Brkić, Jovana. Choosing The Adequate Level of Graded Readers : Preliminary Study. *Research in Pedagogy*. 2015, p. 5-6.

[60]) Oxford University Press. “Oxford Bookworms Library” . *Oxford University Press*. https://www.oupjapan.co.jp/ja/gradedreaders/bookworms.shtml, （参照2023-01-14）.

[61]) Oxford University Press. “Oxford Bookworms Library：グレイディッド・リーダーを選ぶ前に”. https://www.oupjapan.co.jp/sites/default/files/contents/gradedreaders/media/dominoes-bookworms_syllabus.pdf, （参照2023-01-14）.

[62]) Lexile. “Lexile Framework for Reading”. https://lexile.com/, （accessed 2023-01-14）.

[63]) MetaMetrix. “Lexile® Measurement of Tests : EIKEN & Test of English for Academic Purposes”. http://metametrics.s3.amazonaws.com/public/dynamic/international/pdfs/Eiken_Text_Measurement_Report_Digital.pdf, （accessed 2023-01-14）.

[64]) Common European Framework of Reference for Languages : Learning, Teaching, Assessment. *Companion Volume with New Descriptors*. 2018, p.61-66, https://rm.coe.int/cefr-companion-volume-with-new-descriptors-2018/1680787989, （accessed 2023-01-14）.

[65] この件については 2022 年 6 月に Oxford University Press へメールで問い合わせ, Starter は Pre-A1 程度はできても英検 5 級には到達できないレベルから Pre-A1/A1 レベルであるという回答を得ている。

[66] Oxford University Press. “Oxford Bookworms Library”. *Oxford University Press*. https://www.oupjapan.co.jp/ja/gradedreaders/bookworms.shtml, （参照2023-01-14）.

[67] Oxford University Press. “Oxford Bookworms Library：グレイディッド・リーダーを選ぶ前に”. https://www.oupjapan.co.jp/sites/default/files/contents/gradedreaders/media/dominoes-bookworms_syllabus.pdf, （参照2023-01-14）.

[68] MetaMetrix. “Lexile® Measurement of Tests：EIKEN & Test of English for Academic Purposes”. http://metametrics.s3.amazonaws.com/public/dynamic/international/pdfs/Eiken_Text_Measurement_Report_Digital.pdf, （accessed 2023-01-14）.

[69] Lexile. Lexile Framework for Reading. https://lexile.com/, （参照2023-01-14）.

[70] MetaMetrix. “About Lexile Codes”. https://lexile.com/parents-students/find-books-at-the-right-level/about-lexile-text-codes/, （accessed 2023-01-14）.

[71] MetaMetrix. “Find Books for Beginning Readers.” https://lexile.com/educators/find-books-at-the-right-level/find-books-beginning-readers/, （accessed 2023-01-14）.

[72] MetaMetrix. “Lexile® Measurement of Tests：EIKEN & Test of English for Academic Purposes”. http://metametrics.s3.amazonaws.com/public/dynamic/international/pdfs/Eiken_Text_Measurement_Report_Digital.pdf, （accessed 2023-01-14）.

[73] Lexile. “About Lexile Measures for Reading”. Lexile Framework for Reading. https://lexile.com/parents-students/understanding-your-lexile-measure/lexile-measures-reading/, （accessed 2023-01-14）.

[74] MetaMetrics. “Lexile Find a Book”. *Lexile Framework For Reading*. https://hub.lexile.com/find-a-book/search, （参照2023-01-14）.

[75] Amazon. “英語 難易度別リーディングガイド”. amazon.co.jp. https://www.amazon.co.jp//b?ie=UTF8&node=2480862051, （参照2023-01-14）.

[76] Nation, I.S.P. *Learning Vocabulary in Another Language*. Cambridge, 2001, p.6-8. 翻訳は,ネーション, I.S.P. 英語教師のためのボキャブラリーラーニング. 吉田晴世, 三根浩訳. 松柏社, 2008, p.6-9.による

77) Oxford University Press. “Oxford Bookworms Library”. *Oxford University Press*. https://www.oupjapan.co.jp/ja/gradedreaders/bookworms.shtml, （参照2023-01-14）.

78) Pearson. “Pearson Graded Readers”. r. https://www.pearson.co.jp/catalog/pearsons-graded-readers.php?lang=ja, （参照2023-01-14）.

79) Wan-a-rom, Udorn. Comparing the vocabulary of different graded-reading schemes. *Reading in a Foreign Language*. 2008, vol.20, no1, p48.

80) 大学英語教育学会基本語改訂委員会編. 大学英語教育学会基本語リストJACET8000 : List of 8000 Basic Words. 大学英語教育学会, 2003,131p.

81) 相澤一美, 石川慎一郎, 村田年ほか編. JACET8000 英単語 ： 「大学英語教育学会基本語リスト」に基づく. 桐原書店, 2005, 503p.

82) 相澤一美, 石川慎一郎, 村田年ほか編. JACET8000英単語 ： 「大学英語教育学会基本語リスト」に基づく. 桐原書店, 2005, p.5-8.

83) 高瀬敦子. 英語多読・多聴指導マニュアル. 大修館書店, 2010, p.132.

84) 酒井邦秀. 快読100万語! ペーパーバックへの道 : 辞書なし, とばし読み英語講座. 筑摩書房, 2002, p.26-44.

85) 古川昭夫, 宮下いづみ. イギリスの小学校教科書で楽しく英語を学ぶ (実用外国語) . 小学館, 2007, 224p.

86) 古川昭夫, 宮下いづみ. 続・イギリスの小学校教科書で楽しく英語を学ぶ〔社会・理科編〕 ： これで多読・多聴をすれば, 使える英語が身につく! . 小学館, 2008, 221p.

87) 古川昭夫, 宮下いづみ. 親子で英語絵本リーディング ： イギリスの小学校教科書で始める. 小学館, 2011, 175p.

88) 高瀬敦子. 英語多読多聴指導マニュアル. 大修館書店, 2010, p.133.

89) Webb, Stuart ; Macalister, John. Is Text Written for Children Useful for L2 Extensive Reading?. *tesol Quarterly*. 2013, vol.47, no.2, p.316.

90) 加野まきみ. 多読学習用リーダー・コーパス構築と分析 ： 学習者が感じる「難しさ」の解明へ向けて. 京都産業大学論集. 人文科学系列. 2016, vol.49, p.186.

91) 加野まきみ. 多読学習用リーダー・コーパス構築と分析 ： 学習者が感じる「難しさ」の解明へ向けて. 京都産業大学論集. 人文科学系列. 2016, vol.49, p.186.

92) Harper Collins Children’s Books. “I Can Read ! Levels”. *I Can Read!*. https://www.icanread.com/characters/tys-travels/, （accessed 2023-01-14）.

93) Penguin Random House. “Teachers: Explore Steps”. *Step Into Reading*. http://www.stepintoreading.com/teachers, （accessed 2023-01-14）.

[94] 加野まきみ. 多読学習用リーダー・コーパス構築と分析 ： 学習者が感じる「難しさ」の解明へ向けて. 京都産業大学論集. 人文科学系列. 2016, vol.49, p.183-200.

[95] 井村誠. ORTのコーパス分析 ： コンテンツ分析から見たL1児童用英語絵本の有効性. 日本多読学会紀要. 2020, vol.13, p.22.

[96] Nation, I.S.P. *Learning Vocabulary in Another Language*. Cambridge, 2001, p.97.

[97] 与那覇信恵, 阿佐宏一郎. 英語カリキュラムに連動した語彙教材開発のための基礎調査：Reading 教科書の語彙分析. 文京学院大学外国語学部文京学院短期大学紀要. 2012, no.11, p.72 69-82.

[98] Day, Richard. R.；Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.53-55.

[99] Nation, Paul；Waring, Rob. “Extensive Reading and Graded Readers”. *Reading Oceans*, 2013. http://www.readingoceans.jp/ComData/files/Paul%20Nation%20%20Rob%20Waring's%20ER%20Booklet_eng.pdf, 23p., （accessed 2023-01-14）.

[100] 野呂忠司. “第5章 多読速読指導”. 英語リーディング指導ハンドブック. 門田修平, 野呂忠司, 氏木道人編著編. 大修館, 2010, p.189.

[101] 酒井邦秀監修, 古川昭夫, 河手真理子. 今日から読みます英語100万語! ：いっぱい読めばしっかり身につく. 日本実業出版, 2003, p.136.

[102] 古川昭夫監修, 上田敦子著. 英語多読入門 ： やさしい本からどんどん読もう！. 2011, p.42-43.

[103] Sharmat, Marjorie Weinman. *Nate The Great*. Yearling, 1977, 80p.,（Nate the Great, 1）.

[104] Osborne, Mary Pope. *Dinosaurs Before Dark*. Random House Books for Young Readers, 1992, 80p., （Magic Tree House, 1）.

[105] Meadows, Daisy. *Ruby the Red Fairy*. Scholastic, 2003, 80p,（The Rainbow Fairies Book 1）.

[106] 古川昭夫, 神田みなみ, 小松和恵, 畑中貴美, 西澤一. 英語多読完全ブックガイド ： めざせ1000万語!. コスモピア, 2005, 462p.

[107] 高瀬敦子. 英語多読多聴指導マニュアル. 大修館書店, 2010, p.151-158.

[108] Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Education Books, 1982, p.32.

[109] Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. New Edition.

Macmillan, 1996, p.177-178.

[110] Day, Richard. R. ; Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.96-106.

[111] Elley, Warwick. B. ; Mangubhai, Francis. The Impact of a Book Flood in Fiji Primary Schools. *New Zealand Council for Educational Research/Institute of Education,* University of South Pacific, 1981, 28p.

[112] Elley, Warwick. B. The Potential of Book Floods for Raising Literacy Levels. *International Review of Education*. 2000, vol.46, Issue 3-4, p.251.

[113] Nation, I.S.P. *Learning Vocabulary in Another Language*. Cambridge, 2001, p.73.

[114] Krashen, Stephen. The Case for Narrow Reading. *Language Magazine*. 2004, vol.3, no.5, p.17-19. http://www.sdkrashen.com/content/articles/2004_case_for_narrow_reading_lang_mag.pdf, （参照2023-01-14）.

[115] Cheetham, Dominic. Extensive Reading of Children's Literature in First, Second, and Foreign Language Vocabulary Acquisition. *CLELE journal*. 2005, vol.3, Issue 2, p.13.

[116] Webb, Stuart ; Macalister, John. Is Text Written for Children Useful for L2 Extensive Reading?. *tesol Quarterly*. 2013, vol.47, no.2, p.302.

[117] Webb, Stuart ; Macalister, John. Is Text Written for Children Useful for L2 Extensive Reading?. *tesol Quarterly*. 2013, vol.47, no.2, p.302.

[118] 藤井数馬. 英語多読導入期に用いる多読図書における YL 指数と Lexile 指数の相関調査 ： 両指数の教育・学習上の特性の整理とともに. Eiken bulletin =「英検」研究助成報告. 2017, vol.29, p.152.

[119] 文部科学省. “旧学習指導要領（平成元年度改訂）”. 文部科学省. 2009 年以前, http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/old-cs/index.htm, （参照 2023-01-14）.

[120] 米澤久美子. 学校図書館で英語多読を. 東京都の学校図書館. 2014, no.50, p.28-37.

[121] 三輪涼子. 私たちの「森」をつくろう ： 連載, たのしく多読（実践編）. 学校図書館. 2016, no.786, p.67.

[122] 三上洋介. Pre-reading でのトップダウンアプローチと Post-reading の統語処理活動を取り入れた高校生の多読授業実践. Eiken bulletin =「英検」研究助成報告. 2020, vol.32, p.147-148.

[123] Wilkins, D. A. *Linguistics in Language Teaching*. Cambridge, 1972, p.111-112.

[124] Folse, Keith S. Myths about Teaching and Learning Second Language Vocabulary：What Recent Research Says. *TESL Reporter*. vol.37, no.2, 2004, p.2-3.

[125] Grabe, William. “13 Vocabulary and reading comprehension”. *Reading in a Second Language: Moving form Theory to Practice*. Cambridge Applied Linguistics, 2009, p.265-285.

[126] 及川賢. 検定教科書（外国語科（英語））を通してみた中高間のギャップ. 埼玉大学紀要教育学部. 2007, vol.56, no.2, p.79.

[127] 及川賢. 検定教科書（外国語科（英語））を通してみた中高間のギャップ. 埼玉大学紀要教育学部. 2007, vol.56, no.2, p.79.

[128] 根岸雅史. Lexile Measureによる中高大英語教科書のテキスト難易度の研究. ARCLE REVIEW. 2015, vol.9, p.11-12.

[129] 根岸雅史. Lexile Measureによる中高大英語教科書のテキスト難易度の研究. ARCLE REVIEW. 2015, vol.9, p.13-15.

[130] 大田悦子. Lexile Measureを用いた中高英語教科書の難易度比較. 白山英米文学. 2016, no.41, p.1-20.

[131] Krashen, Stephen. *The Input Hypothesis：Issues and Implication*. Longman, 1985, p.1-4.

[132] 大田悦子. Lexile Measureを用いた中高英語教科書の難易度比較. 白山英米文学. 2016, no.41, p.18-19.

[133] 村岡亮子. 中学校検定教科書で学習される語彙, 学習されない語彙：延べ語数, 異なり語数, 語彙レンジの視点から. STEP BULLETIN. 2010, 第22回 研究助成,p.182-203.

[134] 村岡亮子. 中学校検定教科書で学習される語彙, 学習されない語彙：延べ語数, 異なり語数, 語彙レンジの視点から. STEP BULLETIN. 2010, 第22回 研究助成, p.188.

[135] 藤井数馬. 英語多読導入期に用いる多読図書における YL 指数と Lexile 指数の相関調査：両指数の教育・学習上の特性の整理とともに. Eiken bulletin =「英検」研究助成報告. 2017, vol.29, p.165.

[136] 古川昭夫監修, 上田敦子著. 英語多読入門：やさしい本からどんどん読もう！. 2011, p.43-44.

[137] The Extensive Reading Foundation. “Other Reading Scales”. *The Extensive Reading Foundation*. https://erfoundation.org/wordpress/graded-readers/other-reading-scales/, （accessed 2022-11-13）.

[138] 藤井数馬. 英語多読導入期に用いる多読図書におけるYL指数とLexile指数の相関調

査：両指数の教育・学習上の特性の整理とともに. Eiken bulletin =「英検」研究助成報告. 2017, vol.29, p.163−164.

139）古川昭夫, 神田みなみ, 小松和恵, 畑中貴美, 西澤一. 英語多読完全ブックガイド：めざせ1000万語!. コスモピア, 2005, p.449.

140）英語多読研究会 SSS. “SSS 書評検索システム”. 英語多読研究会 SSS. http://www.seg.co.jp/sss_review/jsp/frm_a_130.jsp,（参照 2023-01-14）.

141）藤井数馬. 英語多読導入期に用いる多読図書における YL 指数と Lexile 指数の相関調査：両指数の教育・学習上の特性の整理とともに. Eiken bulletin =「英検」研究助成報告. 2017, vol.29, p.151-166.

142）学校図書館法. 1953.8.8. 法律第 185 号制定.

143）藤井数馬. 多読と学校図書館への影響：多読指導の「ゼロ段階」として. 多読学会紀要. 2015, vol.8, p.4-5.

144）Day, Richard. R.；Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.5.

145）Nation,Paul；Waring, Rob. Extensive Reading and Graded Readers. *Reading Oceans*. 2013, http://www.readingoceans.jp/ComData/files/Paul%20Nation%20%20Rob%20Waring's%20ER%20Booklet_eng.pdf, 23p,（accessed 2023-01-14）.

146）Williams, Ray. Top ten' principles for teaching reading. *ELT Journal*. 1986, vol.40, Issue 1, p.42-45.

147）Day, Richard. R.；Bamford, Julian. Top Ten Principles for Teaching Extensive Reading. *Reading in a Foreign Language*. 2002, vol.14, no.2, p.136-141.

148）Prowse, Philip. Top ten principles for teaching extensive reading：A response. *Reading in a Foreign Language*. vol.14, no.2, 2002, p.142-145.

149）古川昭夫, 神田みなみ, 小松和恵, 畑中貴美, 西澤一. 英語多読完全ブックガイド：めざせ1000万語!. コスモピア, 2005, 462p.

150）酒井邦秀, 佐藤まりあ. ミステリではじめる英語100万語：人気児童書から本格派ペーパーバックまで!. コスモピア, 2006, 217p.

151）高瀬敦子. 英語多読多聴指導マニュアル. 大修館書店, 2010, x,237p.

152）江竜珠緒, 村松教子. 学校図書館員と英語科教諭のための英語多読実践ガイド：導入のためのブックガイド付. 少年写真新聞社, 2018, 127p.

153）大学英語教育学会基本語改訂特別委員会編著. 大学英語教育学会基本語リスト新

JACET8000：The New JACET List of 8000 Basic Words. 桐原書店, 2016, 160p.

[154]）大学英語教育学会基本語改訂特別委員会編著. 大学英語教育学会基本語リスト新JACET8000：The New JACET List of 8000 Basic Words. 桐原書店, 2016, p.58.

[155]）大学英語教育学会基本語改訂特別委員会編著. 大学英語教育学会基本語リスト新JACET8000：The NewJACET List of 8000 Basic Words. 桐原書店, 2016, p.58.

[156]）染谷泰正. “英文語彙難易度解析プログラム（Word Level Checker：WLC）”. 青山学院大学. http://someya-net.com/wlc/index_J.html, 2006, （参照2023-01-14）.

[157]）Laurence Anthony. “AntWordProfiler”. *Laurence Anthony's web site*. http://www.laurenceanthony.net/software/antwordprofiler/, （accessed 2023-01-14）.

[158]）石川慎一郎, 長谷部陽一郎, 住吉誠. コーパス研究の展望. 開拓社. 2020, p.201.

[159]）藤井数馬. 英語多読導入期に用いる多読図書における YL 指数と Lexile 指数の相関調査：両指数の教育・学習上の特性の整理とともに. Eiken bulletin =「英検」研究助成報告. 2017, vol.29, p.165.

[160]）Nation, Paul；Wang Ming-tzu, Karen. Graded Readers and Vocabulary. *Reading in a Foreign Language*. 1999, vol.2, no.2, p.355-380.

[161]）Hirsh, David；Nation, Paul. What Vocabulary Size is Needed to Read Unsimplified Texts for Pleasure? *Reading in a Foreign Language*. 1992, vol.8, no.2, p.689-696.

[162]）Wodinsky, Marilyn；Nation, Paul. Learning from Graded Readers. *Reading in a Foreign Language*. 1988, vol.5, no.1, p.155-161.

[163]）加野まきみ. 多読学習用リーダー・コーパス構築と分析：学習者が感じる「難しさ」の解明へ向けて. 京都産業大学論集. 人文科学系列. 2016, vol.49, p.183-200.

[164]）及川賢. 検定教科書（外国語科（英語））を通してみた中高間のギャップ. 埼玉大学紀要教育学部. 2007, vol.56, no.2, p.79.

[165]）根岸雅史. Lexile Measureによる中高大英語教科書のテキスト難易度の研究. ARCLE REVIEW. 2015, vol.9, p.13-15.

[166]）大田悦子. Lexile Measureを用いた中高英語教科書の難易度比較. 白山英米文学. 2016, no.41, p.18-19.

[167]）村岡亮子. 中学校検定教科書で学習される語彙, 学習されない語彙：延べ語数, 異なり語数, 語彙レンジの視点から. STEP BULLETIN. 2010, 第22回 研究助成, p.188.

[168]）藤井数馬. 英語多読導入期に用いる多読図書における YL 指数と Lexile 指数の相関調査：両指数の教育・学習上の特性の整理とともに. Eiken bulletin =「英検」研究助成報告. 2017, vol.29, p.165.

169）西澤一，吉岡貴芳，伊藤和晃．英文多読による工学系学生の英語運用能力改善．電気学会論文誌. A，基礎・材料・共通部門誌. 2006, vol.126, no.7, p.556-562.

170）西澤一，吉岡貴芳，伊藤和晃．苦手意識を自信に変える，英語多読授業の効果．論文集「高専教育」. 2007, no.30, http://jera-tadoku.jp/papers/nishizawa-2007-03.pdf,（参照 2023-01-14）.

171）西澤一，吉岡貴芳，伊藤和晃. 3 年間の継続授業で明らかになった英語多読授業の効果と成功要因．工学教育. 2008, vol.56, no.1, p.72-76.

172）西澤一，吉岡貴芳，伊藤和晃．工学系学生の苦手意識を克服し自律学習へ導く英語多読授業．工学教育. 2010, vol.58, no.3, p.12-17.

173）岩中貴裕．英語学習における多読の役割：授業内読書が受講生の英語力と授業評価に与える影響．四国英語教育学会紀要. 2011, vol.31, p.59-68.

174）新川智清．多読・多聴を導入した沖縄高専の英語教育：1 期生から 7 期生まで．独立行政法人国立高等専門学校機構沖縄工業高等専門学校紀要 = Research reports of Okinawa National College of Technology / 沖縄工業高等専門学校編. 2012, no.6, p.27-37.

175）西澤一，吉岡貴芳，伊藤和晃．国際交流活動と英語多読による工学系学生の英語運用能力改善．工学教育. 2013, vol.61, no.1, p.147-152.

176）藤井数馬．詫間キャンパスにおける 1 年間の定期的な授業内英語多読が学生に与えた影響について．論文集「高専教育」：kosen kyoiku. 2013, no.36. p.199-204.

177）柳田正豪．沖縄キリスト教短期大学英語科における多読と TOEIC Bridge テストの相関．沖縄キリスト教短期大学紀要 = Journal of Okinawa Christian Junior College / 沖縄キリスト教短期大学編. 2017, no.45. p.47-54.

178）Rutson, Griffiths ; Rutson-Griffiths, Yukari. The Relationship between Extensive Reading and TOEIC Score Gains. *広島文教女子大学高等教育研究*. 2018, no.4, p.41-50.

179）Cheetham, Catherine, Elliott, Melody, Tagashira, Miki. Determining an Attainable Threshold : The Effects of Extensive Reading and Timed-Reading Activities on Student Mock TOEIC Results. *東海大学紀要*. 2018, vol.38, p.51-63.

180）柊元弘文．第二言語習得における多読の意義及び多読指導実践とその効果検証．研究論集. 2019, vol.110, p.213-231.

181）西澤一，吉岡貴芳，伊藤和晃．英文多読による工学系学生の英語運用能力改善．電気学会論文誌. A，基礎・材料・共通部門誌. 2006, vol.126, no.7, p.559.

[182]）西澤一，吉岡貴芳，伊藤和晃．苦手意識を自信に変える，英語多読授業の効果．論文集「高専教育」．2007, no.30, http://jera-tadoku.jp/papers/nishizawa-2007-03.pdf,（参照2023-01-14）．

[183]）西澤一，吉岡貴芳，伊藤和晃．工学系学生の苦手意識を克服し自律学習へ導く英語多読授業．工学教育. 2010, vol.58, no.3, p.12-17.

[184]）柊元弘文．第二言語習得における多読の意義及び多読指導実践とその効果検証．研究論集. 2019, vol.110, p.229.

第 2 章　Extensive Reading 指導において期待されている学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架

本章では，ER 指導に関する先行研究および学校図書館の ER 支援について書かれた文献を整理して，従来の先行研究において英語科教諭が学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架にどのような期待を持っているのかということについて検討する。

2.1　調査方法

調査対象とする文献の選択は，次のように行った。ER 指導の原則については，初期の中心的な研究者であるクリスティン・ナットール（Nuttall, Christine）[1)] , ER 指導の理論研究をまとめたハワイ大学教授のリチャード・R. デイ（Day, Richard. R.）と元文教大学情報学部広報学科の准教授であるジュリアン・バンフォード（Bamford, Julian）[2)]，語彙学習の観点から ER 指導研究を行っているポール・ネーション（Nation, Paul）とロブ・ウェアリング（Waring, Rob）[3)] による指導原則を取り上げた。また，日本の ER 指導については，英語多読および ER 指導を推進してきた酒井邦秀[4)] の多読三原則と日本多読学会による新・多読三原則[5)] を取り上げた。

学校図書館での ER 指導の支援に関する先行研究については，上記の研究者による図書や雑誌記事のほか，その他の研究者や指導者による ER 指導について書かれた雑誌記事を収集した。日本語の雑誌記事は大学，工業高等専門学校，高等学校，中学校等で行われた実践報告や理論研究を合計すると 387 点であった（2016 年 9 月末時点）。その中で図書館もしくは学校図書館について書かれた記事は合計で 64 点，うち中学校，高等学校図書館での ER 指導への支援について書かれたものは 30 点，その中で司書教諭，学校司書によって書かれたものは 10 点である。

はじめに ER の指導原則の比較を行い，次に，学校図書館において行われている ER 指導について，英語科教諭，学校図書館のそれぞれの立場から書かれたものを分類して整理した。

なお，海外文献中で特に小学校，中学校，高等学校，大学等の区別がない場合には，student（s）の訳語として「生徒」，あるいは learner（s）の訳語として「学習者」を用いる。個別に中学生，高校生が示されている場合には，区別して「中学生」「高校生」として述べる。指導者については，中学校，高等学校の場合には「英語科教諭」，中学校，高等学校，大学が不明な場合には「教員」，社会人等を含む場合には「指導者」の語を用いる。

2.2　調査の結果

2.2.1　海外における ER 指導

2.2.1.1　ER 指導の歴史と海外指導者による ER の指導方法

現在の ER 指導につながる戦略的な読書指導は 1930 年代の Directed Reading Activity（もしくは Approach）[6] など古くからあるが，第二言語習得に読書を用いるという手法は，主に 1980 年代以降に盛んになってきたものである。

ER という言葉そのものは, 日本の英語教育に影響を与えたハロルド・パーマー（Palmer, Harold E.）が最初に用いたもの[7] と指摘されているが[8] [9]，ER という言葉を用いて第二言語学習者を対象とした英語での読書指導について詳細に述べ，第二言語教育の教師および ER 指導研究者に強い影響を与えた 1 人はナットールである。ナットールは海外での英語科教諭の経験を持ち，アフリカ，アジア，ヨーロッパ，中東の第二言語教育の教師に対するアドバイスなどを行ってきた人物で，Cambridge Assessment English（ケンブリッジ大学英語検定機構），International English Language Testing System（IELTS）の業務執行取締役などを長く務めている。ナットールは読書指導においては精読と ER の双方が必要であるが，精読は教室内での指導が中心となり，ER は教室外で読むことが中心となると述べ，ER 指導における学習者の自主的な活動の重要性を指摘している[10]。ナットールは「よい読みの循環」も示した[11]。たくさん読むことでよりよく理解できるようになり，理解できるので楽しく読めるようになり，楽しいので速く読めることからたくさん読めるようになり，さらによく理解できるようになるというこの循環は，ER 指導研究において引用されることが多く，ER 指導実践の基盤であるともいえる。

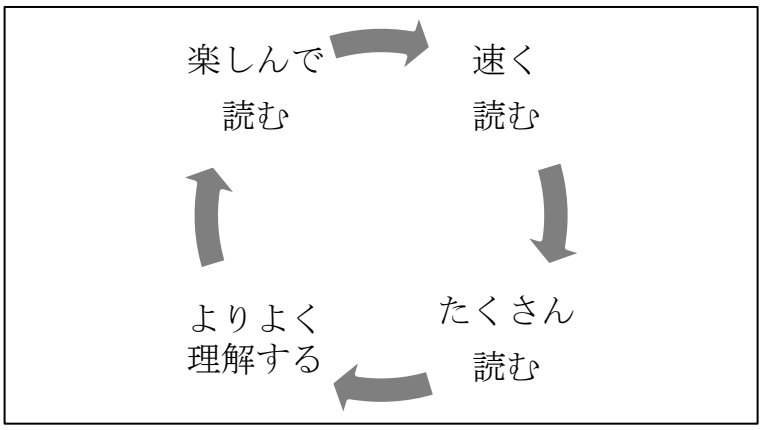

図 2-1　ナットールのよい読みの循環

Teaching Reading Skills In a Foreign Language より著者作成[12]

1990 年代にはデイとバンフォードが ER という語を用いて理論的研究をまとめている[13]。デイとバンフォードは「i-1（i minus 1）」という表現で，学習者が現在の自分の英語力よりも難易度が低い図書を選択して読むことで，より学習が促進されることを示唆している。これは 1.1.2 で述べた意味に焦点をあてたインプットにつながっているものである[14]。英語で書かれた図書というだけではなく，読んでそのまま意味がわかるインプットのために学習者向けに編集された図書を読む重要性を指摘し，ナットール同様に，多く読むためには教室での短時間の実施ではなく，借りて帰った図書を家で読むというように，教室外でも継続実施されることが望ましいものであると述べている[15]。ER 指導に使用するための英語多読用図書として，Oxford Bookworms Library を紹介している。

デイとバンフォードの「i-1」は，南カリフォルニア大学の名誉教授であり，1970 年代から 1980 年代にかけて第二言語習得における 5 つの仮説を打ち出したクラッシェンのインプット仮説「i＋1」に対する改良理論として述べられたものである。インプット仮説は，5 つの仮説中の 1 つである習得学習仮説（The acquisition-learning distinction）と関連するものである。クラッシェンは，成人であっても学習者が現在のレベルよりも少し上のレベル「i+1」[16] のものを子どものようにただ多く読むことで言語を「習得」することが可能であることを示唆している[17]。5 つの仮説の中にはほかに，不安や自信のなさが言語の習得を低下させ，強い動機と自信が言語習得を成功に導くとする情意フィルター仮説（The Affective Filter hypothesis）などもある[18]。クラッシェンは学校内や課題の中でページの中にわからない単語が数語程度の図書を読む Sustained Silent Reading（以下，SSR）をすることが，結果的に自発的に読書に取り組む Free Voluntary Reading（以下，FVR）につながり，FVR でインプットが増えれば読解力や文法力，語彙力が発達すると説明している[19]。明示的な文法指導やアウトプットの必要性を否定しているインプット仮説には批判もあるが[20]，大量のインプットが重要であることへの批判はない。

ER 指導にあたっては，留意すべき点などをまとめた原則がいくつか存在する。表 2-1 は，1998 年にデイとバンフォードが自身の著書の中であげた ER のための 10 原則である[21]。

表 2-1　デイとバンフォードの 10 原則（1998 年）

1	教室の内外を問わずできるだけ多く読む。
2	いろいろな本を用意する。
3	好きなものを読む。途中で変えてもよい。
4	読む目的は楽しむこと，知識や情報を得ること。
5	読むことに意味があるため，課題は不要。
6	自分に合ったレベルのものを読み，辞書はなるべく引かない。
7	好きなときに好きな場所で，ひとりで読む。
8	速く読む。
9	教員は支援者。手順とゴールを示し，生徒が最大限に効果を得られるように導く。
10	教員は読者としての手本となる。

この 10 原則では，生徒として ER を実施する方法（原則 1，3，4，6，7，8）と，教員が ER を指導するための方法（原則 2，5，9，10）の双方が示されている。なお，デイとバンフォードはこれらの要素はいくつかの問題点を提起するとして，これまで先行研究にはあまり取り上げられなかった課題として，「extensive とはどれくらいの量を意味するのか」「第二言語のさまざまな能力段階の学習者にどのテキストが適しているのか」「低いレベルの学習者への平易化されたテキストは原書より劣るのか」などがあることを指摘している[22)]。

表 2-2 は，2013 年にネーションとウェアリングがあげた ER のための 11 原則である[23)]。「1，読むための教材は学習者のレベルに合ったものである，2，学習者は大量に読む，3，学習者は何を読むかある程度選ぶことができる」という ER 指導にとっての基本的な重要事項を 3 つあげた後，デイとバンフォードの 10 原則を重要度順に並べなおし，さらに 1 原則を付け加えたものとなっている。

表 2-2　ネーションとウェアリングの 11 原則（2013 年）

1	読むための教材は平易なものである。
2	できるだけ多く読む。
3	ひとりで静かに読む。
4	読むことに意味がある。
5	ERIには，意味に焦点をあてたインプット要素と，流暢さの要素がある。
6	速く読む。
7	いろいろな本を用意する。
8	好きなものを読む。
9	読む目的は楽しむこと，知識や情報を得ること。
10	教員は正しく方向付け，指導する。
11	教員は読者としての手本となる。

デイとバンフォードが述べていた自分のレベルに合った図書であるということに，語彙習得のための意味に焦点をあてたインプット要素と流暢な理解力という要素を加えて，難易度の低い図書を読むことの重要性を強調している。

表 2-3 は，デイとバンフォードがレイ・ウィリアムズ（Williams，Ray）が 1986 年にあげた指導 10 原則[24]を基に作成した「*Top Ten Principles for Teaching Extensive Reading*」という指導 10 原則である[25]。

表 2-3　デイとバンフォードの指導 10 原則（2002 年）

1	読むための教材は平易なものである。
2	幅広いトピックを扱ったさまざまな読みものを揃える。
3	学習者は読みたいものを選んで読む。
4	学習者はできるだけ多く読む。
5	読む目的は，楽しむこと，知識や情報を得ること。
6	読むことそのものを褒める。
7	読むスピードは速め。
8	ひとりで静かに読む。
9	教員は方向付けと指導をする。
10	教員は読者としての手本となる。

Cambridge English Readers のシリーズ編集者でもあるフィリップ・プラウズ（Prowse, Philip）は，この原則とクラッシェンやネーションらの著作から生み出された自身の 10 原則について簡単な比較を行った上で，概ね同意している[26]。プラウズはすべてが重要であるため順番は関係ないとしながらも，特に最初の 5 つは後半の 5 つよりも重要であると述べている。学習者自身が図書を選ぶことや，難易度の低い図書というよりもページを次々にめくりたくなる図書を揃えることを前半にあげている。

デイとバンフォードによれば，指導原則の中にある「読者としての手本になる」[27] [28] [29] は，教員がリーディング・コミュニティの一員となり，読者であることとはどういうものなのかを示すことである[30]。教員自身も ER に取り組むことを推奨している。

2.2.1.2　海外の ER 指導における学校図書館活用

ナットールは，ER 指導において学校図書館を活用する利点は，生徒が毎日アクセスできる場所であると指摘している[31]。著書の中で，具体的な選書基準や予算の獲得方法，分類，排架場所，展示方法，紛失等の対応までを詳細に示している。ナットールは英語多読用図書を主題分類した場合と難易度別分類した場合の双方の利点と課題を示した上で，限定された難易度の図書しかなければ主題分類でもよいが，難易度幅が広く冊数が多ければ，学習者が適切な難易度の図書と出合うための支援になるのは難易度別分類であると述べている[32]。各出版社が異なる難易度を提示していることから，使用語彙数による独自の難易度別分類を色分けで行うことなどを推奨している。

デイとバンフォードによれば，学校図書館における英語多読用図書の所蔵と排架の主な利点は，保守と貸出が学校図書館の責任になるという点である。学校図書館内において英語多読用図書を主題別に分類すると探しづらいため，他の図書とは別の場所を設けて，独自の難易度別に排架することを勧めるなど，ナットールと同様の方法を提案している[33]。一方で，学校図書館に排架することの問題点として，教師が思うよりも生徒は学校図書館に行かないこと，個人で図書館に行くために生徒同士が互いに図書を勧めあう機会が減少すること，教師にとっては，生徒が図書を眺めたり選択したりという姿を観察する貴重な側面を失うことをあげている[34]。

ネーションとウェアリングも，ER 指導では学習者がさまざまな語彙難易度で幅広い種類の図書を読む必要があることから，学校図書館に英語多読用図書を排架することを推奨している。従来の先行研究と同様に，出版社提示難易度が異なることへの解決法として，

6 から 8 段階のレベルに分けて色分けしたシールを貼ることなどを提案している[35]。また，Language Literature Award の受賞作品や，ホラー作品，旅の本などをまとめて展示するなど，学習者が英語多読用図書を手に取りやすくするための魅力的な展示の重要性も指摘している。

また，先行研究では複数の研究者が，生徒が母語でどのような図書を好んで借りているのかを学校図書館員に対して相談する必要性を指摘している[36] [37] [38]。

2.2.2　日本における ER 指導

2.2.2.1　英語多読の歴史と多読三原則

英語科教育の中で用いられる日本語の「多読」は，Extensive Reading の訳語としてだけではなく，精読，速読，多読という読みの分類の 1 つとして使用されることがある[39] [40]。この場合の多読とは読む量を重視した読み方のことであるが，使用するテキストの難易度についてはそれほど重視されないことがある。ページ数が多く難易度の高い英語の図書を数冊読むことや，通年ではなく短期間の実施であっても多読とされることがある[41] [42] [43] [44] [45]。

1.1.4 で述べたように，平成元年（1989）改訂版の高等学校学習指導要領は「多読」という言葉を使用している[46]。しかし，学習指導要領に記載された多読のための使用教材は「現代の標準的な英語によるもの」で，形式は「説明文，対話文，物語，劇，詩，手紙」，難易度は「生徒の心身の発達段階及びその興味や関心」に則したものである。学習指導要領の「多読」は精読用のテキストでインプット量を増やすことも含まれている。理解できる程度の難易度の低い英語多読用図書を大量にかつ流暢に読むことによって，暗示的に語彙や文法をはじめとした総合的な英語力を身につけるという ER の意味では使用されていない。

1993 年に刊行された酒井の『どうして英語が使えない？：「学校英語」につける薬』では，1 冊の図書を読み通すのではなく，読み続けることが苦痛になった図書は次々に変えながら，難易度の低い英語多読用図書を大量に読み続ける方法を紹介している[47]。難易度の低い英語多読用図書を読むことを重視している点で，テキスト難易度を問わず量を読むことだけを重視したそれまでの多読とは異なっている。

続けて刊行された2002年6月の『快読100万語！：めざせペーパーバックへの道』[48]は，「100万語」という強い印象を与える数字が出されたこと，初心者向けの英語多読用

図書をシリーズ名で具体的に推薦したこと，「辞書を引かない」「わからないところは飛ばす」「話がわからなくなったらすぐやめて次の本に移る」という多読三原則の提示があったことで，英語学習者と英語教育関係者に大きな影響を与えた[49]。従来の量を読むことだけを重視した多読との差異を明確にするため，多読三原則に則って難易度の低い英語多読用図書を読む活動を「100万語多読」とすることもある[50]。しかし，100万語多読では楽しんで読むことができれば3割の理解でもよいとされることもあり[51]，ERが核とする流暢かつ持続的な理解をもたらすテキスト難易度[52] とは差異がある。酒井は難易度の低い図書を読む重要性を指摘する一方で，「多読三原則で『英語学習』から解放され」ることを重視しているため，学習の要素よりも楽しく読むことに重点を置いている[53]。

酒井の多読三原則は主に学習者が個人の趣味や生涯学習の一環として英語多読に取り組むためのもので，学校教育の中で英語科教諭の指導のもとで行われるER指導のためのものではないが，指導原則として，「教えない」「押しつけない」「テストしない」という「多読授業三原則」がある[54]。能動的な指導方法ではなく，教員としてしてはならないこと示した点に特徴がある。教員の役割は，本の購入，手配，分類をして授業に備えること，生徒の読書状況を把握して，1人1人を観察してアドバイスすること，テストはせずに読書の楽しみを損なわないこととされている。

酒井の著作をきっかけとして2001年に創設されたSSS英語学習法研究会（酒井退会後の2008年に英語多読研究会と改称）[55] は，酒井の著書に感銘を受けた古川，神田みなみ，佐藤まりあらが，100万語多読を普及させようと発足させたものである。なお，数学科出身の古川は自らが経営する学習塾で数学を教えていたが，酒井との出会いをきっかけに，自らの学習塾内に英語多読を取り入れた授業科目を設定している[56]。2013年には，英語多読研究会から創設された日本多読学会が，多読三原則の見直しを話し合った結果として，①英語は英語のまま理解する，②7～9割の理解度で読む，③つまらなければあとまわしという新・多読三原則を提唱した[57]。多読三原則から新・多読三原則への改定のきっかけは，主に第二原則の「わからないところは飛ばす」という文言を問題視したためである。改定に関わった日本多読学会の会員が，多読三原則だけでは，実際には理解できていないのにもかかわらず目が字面だけを追って楽しんでいるつもりになってしまう「すべり読み」を招く危険性があることを指摘している[58]。「教室における『新・多読三原則』」と記されることもある[59]。

2.2.2.2　日本の ER 指導における学校図書館活用

2.2.2.2.1　学校図書館への英語多読用図書の所蔵と排架

塩見昇は学校図書館を「日常不断の資料提供によって教育課程の展開を支え，児童生徒の教養をはぐくむという基礎的な役割をふまえて，それが学習・研究を発展させる場であり，さらには教授＝学習過程をつくりだす拠点」であると定義している[60]。また，堀川照代は，学校図書館は「情報・資料」「施設・設備」「学校図書館担当者」「利用者」の 4 要素から構成されると述べている[61]。小田光弘は，学校図書館のテクニカルサービスではあらゆる業務が「教育活動」の論理に支えられており，教育活動に貢献するという目的に沿って組み立てられている。加えて，パブリックサービスについても他館種とは様相を大きく異にするものになっていることを指摘している。学習指導，読書指導といった積極的，能動的な教育活動を意図した資料提供がなされる点が，学校図書館の特徴である[62]。

しかし，現在，外国語の図書の提供を行っている学校図書館は多くない。文部科学省の「学校図書館の現状に関する調査」[63] には百科事典，図鑑，新聞などの配備についての質問項目はあるが外国語の図書に関する質問項目はない。また，全国学校図書館協議会が 2000 年に制定し，2021 年に改定した『学校図書館メディア基準』には，電子メディアについての記載が増加されたが，外国語図書についての記載はない[64]。学校図書館に外国語の図書，特に英語力向上を目的とした英語多読用図書を所蔵して排架することは，英語科教諭への支援というだけではなく，児童生徒の英語に対する主体的・意欲的な学習活動を支えるものになると考えられるが，従来の学校図書館研究において英語多読用図書の所蔵と排架について検討したものは少ない。

2.2.2.2.2　英語科教諭による ER 指導の先行研究および実践報告

日本において，学校内で大量の英語多読用図書を読む活動を「多読」とし，その実践を明確に紹介したのは，2005 年の酒井と神田による『教室で読む英語 100 万語』[65] である。複数の実践報告が収録されており，学校図書館の協力が ER 指導を成功に導く大きな要素の 1 つであると述べられている[66]。

同書において実践報告を執筆した高瀬は，ER 指導における学校図書館活用の利点として「本の選択・変更が自在にできる」ことや，「図書管理における教師の負担が軽減する」ことなどをあげている[67]。高瀬は，英語科教諭が教室に英語多読用図書を運ぶ形態で実施される ER 指導では「本の種類・数量が限られてしまう」ことが課題となることや，

教室に図書を運ばなければならないために教諭の負担が大きいことを指摘している[68]。教室に運んだ英語多読用図書の中から生徒が借りる形態の場合，英語科教諭が図書の貸出，返却，紛失の管理をしなければならず，そのことも負担になるからである[69]。

八木慶太郎による東京都，大阪府の全日制課程を有する高等学校の英語科主任を対象とした調査でも，自由回答中，ER 指導と学校図書館の関係について，「導入の際には図書館の協力が不可欠である」「本の管理などでは司書教諭と協力すればよかった」などといった回答が報告されている[70]。また，2014 年 8 月の『多聴多読マガジン』では，大学，高専のほか，複数の小学校，中学校，高等学校での ER 指導が特集され，複数の英語科教諭が，ER 指導の成功のためには学校図書館が重要であると発言している[71] [72] [73]。

単位制総合学科を持つチャレンジスクールである東京都立稔ヶ丘高等学校[74]の英語科教諭兼司書教諭の木場敬子は，高瀬と同様に，教室に運ぶ形態での ER 指導では図書の数量が限られてしまうことを指摘している[75]。また，教室では落ち着かない高校生も，学校図書館の中では自然に図書と向き合うようになるため，学校図書館内で行う ER は教室よりも数倍の効果があると指摘している[76] [77]。木場は高校生を対象に実施したアンケートの結果として，図書館の持つ静かで明るい雰囲気が，通常の英語授業とは異なる ER の気軽さに結びついていたことや，高校生が ER を学校図書館で行うことを自然に受け入れていることを紹介している[78] [79]。

三輪涼子は総合学科を持つ東京都立の高等学校において，学校図書館と連携したことで公共図書館から ER 指導に使用できる絵本の団体貸出ができたことを紹介している[80]。また，その後，総合学科を持つ高等学校から，英語とビジネスを両軸とした専門高校である東京都立千早高等学校に異動となったときのことを，「本がたくさんあるにも関わらず，本が不足していると感じることがあった」と記し，さまざまなジャンルやニーズに偏りなく選書するということを心がけている司書ではなく，素人の英語科教諭による選書では，教材として集めるだけであったために失敗してしまった例を紹介している[81]。「本があって専任者がいていつも開かれている」学校図書館という「場」の雰囲気が，ER という読書活動のモチベーションになっているとも記している[82]。

2.2.2.2.3　学校図書館，司書教諭や学校司書による ER 指導への支援に関する先行研究および実践報告

司書教諭や学校司書による ER 指導への支援に関する実践報告は，2012 年の『学校図書

館』5 月号の特集「外国語活動と学校図書館」[83] が最初のものである。これ以降，学校図書館でどのように英語科教諭の ER 指導が実践されたかということや，ER 指導への支援をどのように行ったかという実践が複数報告されている[84] [85] [86] [87] [88]

中でも，学校司書の米澤久美子は東京都立大田桜台高等学校での英語科教諭の ER 指導および ER 指導への支援について詳細に報告している[89]。東京都立大田桜台高等学校は英語とビジネスを学ぶことを中心としたビジネスコミュニケーション科を持つ全日制の進学型専門高校である。英語力強化のために，3 年間の英語の必修単位数は最低 20 単位と一般の普通科高校よりも多い[90]。その中で，各年次の英語授業の半数が「多読・多聴授業」となっている[91]。

米澤は酒井と西澤による『図書館多読への招待』[92] の中で「学校図書館の多読環境づくり」と「多読と学校司書の役割」という 2 つの節を執筆し，学校図書館の役割は授業支援と資料提供であるとして，具体的な職務として，収集，整理，貸出・レファレンス，展示などを挙げている[93]。教員，学校司書の双方が英語多読への理解を持ち，支援体制を確立することや，英語科教諭との連携の重要性を示唆している[94]。

大田桜台高等学校においても，英語多読用図書の目録作成は英語科教諭が行っているため，「書名や著者名など」によって資料検索ができることのみが示されている[95]。また，難易度の低い英語多読用図書を大量に用意すること，シドニイ・シェルダンの著作などある程度の長さを持ったシリーズも用意することなどを提案しているが，具体的にどのような難易度の英語多読用図書が高校生にとってなぜ適切であるかという指摘はない[96]。

2.3　考察

本章では，ER 指導に関する先行研究および学校図書館の ER 支援について書かれた文献を整理した。

2.3.1　英語多読と ER の相違点

2.2.1.1 で述べたように，ネーションとウェアリングによる重要度順[97] では，表 2-1 で示した 1998 年のデイとバンフォードの原則 6 にあたる「自分に合ったレベルのものを読む」[98] が基本的な重要事項「読むための教材は学習者のレベルに合ったものである」に含まれ，表 2-2 で示したように，さらに重ねて「読むための教材は平易なものである」という原則 1 になっている。また，デイとバンフォードの原則 2「いろいろな本を用意す

る」，原則 3「好きなものを読む」[99] が後半にある。ネーションとウェアリングは原則 5 に「ER には，意味に焦点をあてたインプット要素と，流暢さの要素がある」を加えている。これは，語彙習得の観点から，ER の目的は語彙の習得と流暢に読むことの 2 種類であるとしたネーションの説[100] を踏まえたものである。1.1.2 で述べたように，流暢な理解のために難易度の低い英語多読用図書を読むことが ER であると考えられている[101]。学習者のレベルに合った難易度であることをもっとも重視している。表 2-3 で示したように，デイとバンフォードも 2002 年の指導原則では，「読むための教材は平易なものである」を原則 1 にあげている[102]。ER 指導において，難易度の低い図書を読むことは最重要事項である。

海外研究者による指導原則に共通しているのは，簡単なものを，できるだけ多く，学習者自身が選んで読むことの優先順位を高く設定していることである[103] [104] [105] [106] [107]。加えて，優先順位は低いものの，教員のすべきこととして方向づけと指導，手本となることが指導原則の中に明記されている。

2.2.2.1 で述べたように，1990 年代以前の英語科教育における日本語の「多読」指導では，大量の英文を読むのであれば難易度の高い英語のテキストをゆっくりと読む活動も「多読」としているのか，難易度の低い英語多読用図書を読むことだけを「多読」としているのかの判別が難しい。100 万語多読を提唱した酒井は，楽しんで読むことができれば 3 割の理解でもよいと述べることもある[108]。1.1.3.1 で述べたように，意味に焦点をあてたインプットではローファーが 95%[109]，フーとネーションが 98%[110] の既知語が含まれたテキストが学習者にとって完全に理解できる難易度となることを示唆している。同じように難易度の低い英語多読用図書を読むという行動であっても，酒井の推進する 100 万語多読と，デイやバンフォード，あるいはネーションとウェアリングが定義する ER とでは，使用する英語多読用図書の語彙難易度に差異がある。

ER 指導と多読とでは，1.1.2 で述べた指導の有無という違いだけではなく，難易度の厳密性という点で異なることが明らかになった。図 2-2 は，多読と ER の差異について図で示したものである。

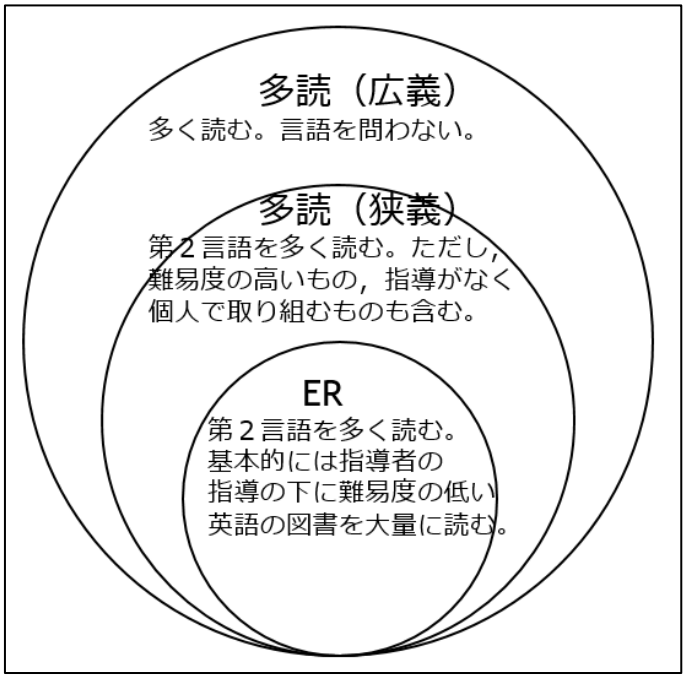

図 2-2　多読と ER の差異

2.2.2.1 で述べたように，新・多読三原則は，「教室における『新・多読三原則』」と記されているように[111]，学校や塾などの教室で行われる多読を意識したものである。第 1 原則の「英語は英語のまま理解する」が流暢に理解することを意味し，第 2 原則の「7～9 割の理解度で読む」が意味に焦点をあてたインプットのための難易度を示したものであるとするのであれば，新・多読三原則はネーションらの ER 指導原則に近い。

新・多読三原則改定時に述べられていたように，多読三原則に則って実施される多読では，実際には理解できていないのにもかかわらず，目が字面だけを追って楽しんでいるつもりになってしまう「すべり読み」の危険性が高い[112]。1.1.4 で述べたように，中学校英語教科書と高等学校英語教科書の難易度差が指摘され，複数の研究者が，その難易度差を埋めるためには英語科教諭の指導の下に高校 1 年次生が理解できる難易度の英語多読用図書を読むことが有用ではないかと示唆している[113] [114] [115] [116] [117]。これらが期待しているものは，高校生が個人で行う 100 万語多読ではなく，英語科教諭が中学校英語教科書と高等学校英語教科書の難易度差を埋める適切な難易度の英語多読用図書を用いる ER 指導である。高校生の ER 指導にとって適切な難易度や読書量について検討する必要がある。

2.3.2　ER 指導における学校図書館の支援

ER 指導であっても 100 万語多読や FVR であっても，インプットを増加させるためには学習者が自発的に読書に取り組むことが重要であるという点で共通している。しかし，教室内だけではなく自宅でも読書をするという課外活動を重視した場合[118) 119)]，個人での取り組みは金銭的な負担が大きいことが課題となる[120)]。英語圏で第二言語として英語を学ぶ ESL（English as a Second Language）環境においては周囲の公共図書館が英語の図書を所蔵して排架している。しかし，日本のように非英語圏で外国語として英語を学ぶ EFL（English as a Foreign Language）環境においては，公共図書館において難易度の低い学習用の英語多読用図書を入手することは容易ではない。

そのため，指導者にとっては，学習者にとって理解できる適切な難易度で興味関心を引く英語多読用図書を準備することが，ER 指導実施の前提となる。しかし，2.2.1.2 および 2.2.2.2.2 で述べたように，英語科教諭が英語多読用図書の貸出，返却，紛失の管理をすることは負担となる[121)]。そのため，ER の指導者からは，図書を手に取りやすい形で収集・所蔵・管理，整備している学校図書館の活用が負担軽減となることが指摘されている[122) 123) 124) 125) 126) 127) 128)]。生徒が毎日アクセスできる場であることも，英語多読用図書を学校図書館に所蔵して排架する利点の 1 つと考えられている[129)]。

従来の先行研究は，英語科教諭が ER 指導に関するほぼすべての業務を担うことを想定している。英語科教諭と司書教諭あるいは学校司書が協力して ER 指導を実施した事例においても，学校図書館を利用する利点は主に場としての雰囲気を活かして静かに読むことや集中して読むことに対してであり[130) 131) 132)]，英語多読用図書の所蔵と排架に，置き場所として以外の利点があるのかということに関する検討が不足していた。高等学校図書館に英語多読用図書を排架することで得られる専門的知識を持つ司書教諭や学校司書による ER 指導への支援について検討したものは少ない。

「場」としての学校図書館以外に，英語科教諭が司書教諭や学校司書の支援として期待しているものには選書支援がある。2.2.1.2 で述べたように，海外の事例では，ER 指導者が，図書館員に生徒が母語でどのような図書を好んで借りているのかを相談する必要性を指摘していた[133) 134) 135)]。日本においても，2.2.2.2.2 で述べたように，英語多読用図書が多く準備されていてもジャンルやニーズに偏りがあれば不足感を生じさせることがあるために，司書教諭や学校司書の支援を必要としていた[136)]。しかし，日本の事例では難易度の低

い図書を活用することについては述べられているが，それが中学生や高校生にとって流暢な理解をもたらす難易度であるのかという検討が不足している。学校司書との連携事例では公共図書館から学校図書館への英語の絵本の団体貸出事例もあるが[137]，英語の絵本が英語多読用図書として適切であるかという検討はなされていない。高等学校図書館における高校生の英語力向上を支援する英語多読用図書の所蔵と排架を検討するためには，高校生の語彙学習に資する英語多読用図書の基準となり得る難易度の枠組みや種類について検討する必要がある。

2.2.2.2.3 で述べたように，日本の先行事例では，学校司書の米澤が「ゼロ段階」[138] に相当する環境整備について言及している[139]。学校図書館を単に英語多読用図書を置く場所であるとするだけではなく，生徒の支援をする場所であり，静かに読書ができる場とした点，生徒同士，教員と生徒とのコミュニケーションが可能となる場を作ることを学校図書館の役割とした点で，英語科教諭の視点とは異なっている。しかし実際の目録作成は英語科教諭が行っているため[140]，司書教諭や学校司書だからこそできる支援が，環境整備以外にあるのかということまでは考えられていない。

2.2.1.2 で述べたように，英語多読用図書は，主題別分類ではなく難易度別分類を行い，母語で書かれた図書とは別の場所に排架することが求められている[141] [142] [143]。ER 指導においてどの難易度の図書を読むかということが重要であるのであれば，書誌的事項の中にレベルや Headwords 数を追加したり，優先的に読む必要のある難易度の図書をわかりやすい場所に排架したりすることが学校図書館としての支援となる。しかし，そのことについて検討された先行研究や実践報告は見られない。使用図書の難易度に留意しなければならない ER 指導を支援するためには，単に機械での貸出・返却という簡便さだけでなく，その難易度を OPAC で検索できるようにすることも，司書教諭や学校司書の業務になると考えられる。加えて，分類とラベル，排架場所の関係や，OPAC の利用方法についての説明も学校図書館利用指導としてのオリエンテーションに含まれる内容である。ER 指導に関連するオリエンテーションを司書教諭や学校司書が実施することが高校生に対する読書支援や学習支援になるかということについての検討も不足している。

司書教諭や学校司書が従来母語で行ってきた業務を ER 指導の支援に応用できる可能性がある。ER 指導のように図書を用いて実施される指導や授業においては，図書や図書館に関する専門的な知識を持つ司書教諭や学校司書が英語科教諭を支援する方法について検討する必要がある。

2.4　本章のまとめ

本章では，ERの指導原則，酒井の100万語多読のための多読三原則，日本多読学会による新・多読三原則における指導方法の比較を行った。従来の先行研究で用いられている日本語の「多読」には，酒井の多読三原則に則った多読実践と，語彙学習に資する意味に焦点をあてた英語多読用図書であるかということを意識して行われたER実践とが混在していた。使用する図書の語彙難易度に対する厳密さという点で，多読三原則に則った多読とERとは異なるものであった。流暢な理解度をもたらす英語多読用図書の難易度を示した点において，新・多読三原則による多読はERと同義であることが明らかになった。

1.3.1 で述べたように，先行研究においては，藤井が ER 指導を実施する前段階である「ゼロ段階」の研究の意義を指摘していた[144]。他にも，ER 指導を実践している複数の英語科教諭や研究者が，図書を手に取りやすい形で収集・所蔵・管理，整備している学校図書館の活用が，ER 指導上の負担軽減となることを指摘していた[145] [146] [147] [148] [149] [150] [151]。しかし，これらは英語科教諭にとって教室に英語多読用図書を運ぶ負担が軽減したり[152] [153]，貸出作業や紛失管理の業務が減少したりするという観点からのみであった[154]。

学校図書館の「場」としての活用以外で，英語科教諭が司書教諭や学校司書の支援として期待しているものに選書支援があった。これらも主に英語科教諭の負担軽減という観点からで，学校図書館への英語多読用図書の所蔵と排架が，高校生の英語力向上になるのかということや，自発的な読書への取り組みの支援になるのかという観点が不足していた。英語科教諭と学校図書館との協働が英語科教諭への ER 指導への支援となり得るのかということについての検討が必要であることを指摘した。

【本章の引用文献・注】

---

[1]) Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Education Books, 1982, xi,235p.

[2]) Day, Richard. R. ; Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, xv,222p.

[3]) Nation, Paul ; Waring, Rob. “Extensive Reading and Graded Readers” . *Reading Oceans*, 2013.
http://www.readingoceans.jp/ComData/files/Paul%20Nation%20%20Rob%20Waring's%20ER%20Booklet_eng.pdf, 23p., （accessed 2023-01-14）.

[4]) 酒井邦秀. 快読 100 万語! ペーパーバックへの道：辞書なし，とばし読み英語講座. 筑摩書房, 2002, 309p.

[5]) “座談会「新・多読三原則」をめぐって” . 多聴多読マガジン. 2013, vol.8, no.2, p.40-48.

[6]) Gunderson, Lee ; D’Silva, Reginald Arthur ; Odo, Dennis Murphy. *ESL （ELL） literacy instruction：A guidebook to theory and practice.* Third edition. Routledge, 2014, p.7.

[7]) Palmer, Harold E. *The Principles of Language-Study*. Harrap. 1921, 185p.

[8]) Kelly, Louis. *25 Centuries of Langage Teaching*. Newbury House, 1969, p.131.

[9]) Grabe, William. “15 Extensive Reading”. Reading in a Second Language: Moving form Theory to Practice. Cambridge Applied Linguis-tics, 2009, p.312.

[10]) Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Education Books, 1982, p.23-24.

[11]) Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Education Books, 1982, p.168.

[12]) Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Education Books, 1982, p.168.

[13]) Day, Richard. R. ; Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, xv,222p.

[14]) Waring, Rob ; McLean, Stuart. Exploration of the Core and Variable Dimensions of Extensive Reading Research and Pedagogy. *Reading in a Foreigh Language*. 2015, vol.25, no.1, p.161.

[15]) Day, Richard. R. ; Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p. 90-91

[16]) Krashen, Stephen. *The Input hypothesis：Issues and Implication*. Longman, 1985, p.80.

[17]) Krashen, Stephen. Principles and Practice in Second Language Acquisition. *Elsevier*, 1982, http://www.sdkrashen.com/content/books/principles_and_practice.pdf, （accessed 2023-01-14）.

[18]) Krashen, Stephen. *The Input hypothesis：Issues and Implication*. Longman, 1985, viii, 120p

[19]) Krashen, Stephen. The Power of Reading : Insights from the Research. Libraries Unlimited, 1993, 1-13p.

[20]) Swain, Merrill. "Communicative Competence：Some Roles of Comprehensible Input and Comprehensible Output in Its Development". *Input in Second Language Acquisition*. Gass, Susan M.; Madden, Carolyn G., eds. Heinle&Heinle, 1985, p.248-249.

[21]) Day, Richard R. ; Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.7-8.

[22]) Day, Richard R. ; Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.8-9.

[23]) Nation, Paul ; Waring,Rob. "Extensive Reading and Graded Readers," *Reading Oceans*, 2013. http://www.readingoceans.jp/ComData/files/Paul%20Nation%20%20Rob%20Waring's%20ER%20Booklet_eng.pdf, p.4, （accessed 2023-01-14）.

[24]) Williams, Ray. Top ten' principles for teaching reading. *ELT Journal*. 1986, vol.40, Issue 1, p.42-45.

Williams, Rayの10原則は， 1. 楽しくない本は最小限に。2. 読むことが第一。3. 語学力向上は，読む力を身につけるうちの1つ。4. 本との対話を教室内の言語活動として実施する。5. 教員は静かにする。6. 課題は出来るだけ実践的なものにする。7. リーディングコースに参加したり，リーディング用教材を読んだりするだけでは，学習者は熟達した読者にはならない。8. 読者は読みものに意味を与える。9. 読書の力の向上には，読むだけではなく聴くことも大切。10. 本を用いることが読み方を教えることと同じである必要はない。である。

[25]） Day, Richard. R. ; Bamford, Julian. Top Ten Principles for Teaching Extensive Reading. *Reading in a Foreign Language*. 2002, vol.14, no.2, p.136-141.

[26]） Prowse, Philip. Top ten principles for teaching extensive reading：A response. *Reading in a Foreign Language*. vol.14, no.2, 2002, p.142-145.

Prowseの10原則は, 1.選択の自由。2.容易さ。3.読みたくなるような本。4.読解力を問わない。5.ひとりで静かに読む。6.辞書は引かない。7.さまざまなジャンルのものを並べる。8.聴き読みをする。9.テストしない。10.教員も一緒に読む。である。

[27]） Day, Richard R. ; Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.7-8.

[28]） Nation, Paul ; Waring,Rob. “Extensive Reading and Graded Readers,” *Reading Oceans*, 2013. http://www.readingoceans.jp/ComData/files/Paul%20Nation%20%20Rob%20Waring's%20ER%20Booklet_eng.pdf, p.4, （accessed 2023-01-14）.

[29]） Day, Richard. R. ; Bamford, Julian. Top Ten Principles for Teaching Extensive Reading. *Reading in a Foreign Language*. 2002, vol.14, no.2, p.136-141.

[30]） Day, Richard. R. ; Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.8.

[31]） Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Education Books, 1982, p.171-182.

[32]） Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Education Books, 1982, p.177.

[33]） Day, Richard. R. ; Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.112-113.

[34]） Day, Richard. R. ; Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.113.

[35]） Nation, I.S.P. ; Waring, Rob. *Teaching Extensive Reading in Another Language.* Routledge. 2020, p.54.

[36]） Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Education Books, 1982, p.29.

[37]） Williams, Ray. Top ten' principles for teaching reading. ELT Journal. 1986, vol.40, Issue 1, p.42.

[38]） Day, Richard. R. ; Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language*

Classroom. Cambridge University Press, 1998, p.109-111.

[39]）安藤昭一．“速読の方法”．読む英語．波多野完治ほか編，研究社, 1979, p.105-131.

[40]）“第3章リーディングの教授と学習Ⅰ．リーディング教材論”．英語のリーディング．垣田直巳監修，松村幹男編．大修館書店, 1984, p.71-183.

[41]）加藤剛，高橋恵亮，倉田有邦，小幡正躬．多読指導のための一つの試み．名古屋大学教育学部附属中高等学校紀要. 1969, no.14, p.134-138.

[42]）畠山均．速読多読授業における副教材の種類について：フィクション教材とノンフィクション教材の理解度を中心として．純心英米文化研究. 1986, no.3, p.79-91.

[43]）酒井邦秀．英語の多読授業：実施例に見る問題点と可能性．電気通信大学学報（人文社会編）. 1983, vol.33, no.2, p.395-407.

[44]）鈴木寿一．“読書の楽しさを経験させるためのリーディング指導”．新しい読みの指導: 目的を持ったリーディング．渡辺時夫編著編．三省堂, 1996, p.116-123,（英語教育叢書, 9）.

[45]）リーディングマラソンについては，金谷憲と薬袋洋子らによる一連の報告がある。

・金谷憲，木村哲夫，薬袋洋子．高校における多読プログラム：その効果と可能性.関東甲信越英語教育学会研究紀要. 1991, no.5, p.19-28.

・金谷憲，長田雅子，木村哲夫，薬袋洋子．英語多読の長期的効果：中学生と高校生プログラムの比較．関東甲信越英語教育学会研究紀要. 1995, no.9, p.21-27．など。

[46]）文部科学省．“旧学習指導要領（平成元年度改訂）”．文部科学省. 2009 年以前, http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/old-cs/index.htm,（参照 2023-01-14）.

[47]）酒井邦秀．どうして英語が使えない？：「学校英語」につける薬．筑摩書房, 1993, 242p.

[48]）酒井邦秀．快読100万語! ペーパーバックへの道：辞書なし，とばし読み英語講座．筑摩書房, 2002, 309p.

[49]）酒井邦秀．さよなら英文法!：多読が育てる英語力．筑摩書房, 2008, p.246.

[50]）酒井邦秀，太田洋，柴田武史．座談会“めざせ100万語”とは!?：多読は授業で実践できるか．英語教育. 2004, vol.52, no.12, p.8.

[51]）酒井邦秀，神田みなみ編著．教室で読む英語100万語：多読授業のすすめ．大修館書店, 2005, p.17.

[52]）Waring, Rob；McLean, Stuart. Exploration of the Core and Variable Dimensions of Extensive Reading Research and Pedagogy. *Reading in a Foreigh Language*. 2015, vol.25, no.1, p.165.

[53]）酒井邦秀．“多読から Tadoku へ”．NPO 多言語多読, https://tadoku.org/english/adventure-of-tadoku/,（参照 2023-01-14）．

[54]）酒井邦秀, 神田みなみ編著．教室で読む英語 100 万語 ： 多読授業のすすめ．大修館書店, 2005, p.40-44.

[55]）SSSは2002年の『快読100万語！ ペーパーバックへの道』では“酒井（Sakai）, SEG（Scientific Education Group）および訳読なしで多数の外国語を学んだというトロイを発掘したあのSchliemannの頭文字に由来している”（p.41）とし述べているが, 2003年の『今日から読みます英語100万語！』では“Shikkari Shiteyo Sakai-sensei”（p.11）とし, 2005年の『英語多読完全ブックガイド ： めざせ！ 1000万語』では“Start with Simple Stories”（p.3）となっている。

[56]）古川昭夫．英語多読法 ： やさしい本で始めれば使える英語は必ず身につく．小学館, 2010, p.3-12p.

[57]）“多聴多読の学習法”．多聴多読マガジン. 2013, vol.8, no.2, p.6-7.

[58]）“座談会「新・多読三原則」をめぐって”．多聴多読マガジン. 2013, vol.8, no.2, p.40-48.

[59]）“座談会「新・多読三原則」をめぐって”．多聴多読マガジン. 2013, vol.8, no.2, p.40.

[60]）塩見昇．教育としての学校図書館 ： 学ぶことの喜びと読む自由の保障のために．青木書店, 1983, p.65-67.

[61]）堀川照代．学校図書館を活用した教育／学習の意義．明治大学図書館情報学研究会紀要. 2012, no.3, p.8-9.

[62]）小田光弘．“学校図書館におけるテクニカルサービスモデルの構築”．学校図書館メディアセンター論の構築にむけて ： 学校図書館の理論と実践．日本図書館情報学会研究委員会編．勉誠出版, 2005, p.48-49,（図書館情報学のフロンティア, 5）．

[63]）文部科学省児童生徒課．“令和2年度「学校図書館の現状に関する調査」結果について”. 2021, https://www.mext.go.jp/content/20210727-mxt_chisui01-000016869_02.pdf,（参照 2023-01-14）．

[64]）全国学校図書館協議会．“学校図書館メディア基準”．全国学校図書館協議会. https://www.j-sla.or.jp/pdfs/20210401mediakijun.pdf,（参照2023-01-14）．

[65]）酒井邦秀, 神田みなみ編著．教室で読む英語100万語 ： 多読授業のすすめ．大修館書店, 2005, 227p.

[66]）高瀬敦子．“ある私立高校での多読授業への挑戦”．酒井邦秀, 神田みなみ編著．教室

で読む英語100万語 ： 多読授業のすすめ. 大修館書店, 2005, p.82-89.

[67]) 高瀬敦子. 英語多読多聴指導マニュアル. 大修館書店, 2010, p.103-104.

[68]) 高瀬敦子. 英語多読多聴指導マニュアル. 大修館書店, 2010, p.111.

[69]) 高瀬敦子. 英語多読多聴指導マニュアル. 大修館書店, 2010, p.111-112.

[70]) 八木慶太郎, 土屋武久, 小西正恵, 戸田光昭. 高等学校の外国語教育における学校図書館の活用. Language Education & Technology. 2006, no.43, p.161-176.

[71]) 開かれた校風に, アクティビティとしての多読の授業が根付く ： 渋谷教育学園渋谷中学高等学校. 多聴多読マガジン. 2014, vol.8, no.7, p.29.

[72]) 多読多聴成功の秘訣は図書館とシャドーイング ： 明星中学高等学校. 多聴多読マガジン. 2014, vol.8, no.7, p.38-41.

[73]) Fluency First： 多聴・多読から多話・多書への確実な流れをつくる ： 福岡女学院中学校・高等学校. 多聴多読マガジン.2014, vol.8, no.7, p.36.

[74]) “東京都立稔ヶ丘高等学校”. https://www.metro.ed.jp/minorigaoka-he/, （参照 2022-07-26）.

[75]) 木場敬子. 図書館多読のススメ : 英語を一生の友だちに : 連載, たのしく多読（実践編）. 学校図書館. 2016, no.790, p.61.

[76]) 木場敬子. “東京都立稔ヶ丘高校における図書館多読”. 図書館多読への招待. 酒井邦秀, 西澤一編著. 日本図書館協会, 2014, p.136-148.

[77]) 木場敬子. 図書館多読のススメ : 英語を一生の友だちに : 連載, たのしく多読（実践編）. 学校図書館. 2016, no.790, p.60-61.

[78]) 木場敬子. “東京都立稔ヶ丘高校における図書館多読”. 図書館多読への招待. 酒井邦秀, 西澤一編著. 日本図書館協会, 2014, p.136-148.

[79]) 木場敬子. 図書館多読のススメ : 英語を一生の友だちに : 連載, たのしく多読（実践編）. 学校図書館. 2016, no.790, p.61.

[80]) 三輪涼子. 私たちの「森」をつくろう② ： 連載, たのしく多読（実践編）. 学校図書館. 2016, no.787, p.72.

[81]) 三輪涼子. 私たちの「森」をつくろう③ ： 連載, たのしく多読（実践編）. 学校図書館. 2016, no.788, p.86.

[82]) 三輪涼子. 私たちの「森」をつくろう③ ： 連載, たのしく多読（実践編）. 学校図書館. 2016, no.788, p.86.

[83]) “特集Ⅰ　外国語活動と学校図書館”. 学校図書館. 2012, no.739, p.13-35.

[84]) 米澤久美子. 特集Ⅰ, 外国語活動と学校図書館 ： 英語多読と学校図書館. 学校図書館.

2012, no.739, p.31.

[85]) 星佐都子. 特集Ⅰ, 外国語活動と学校図書館 ： 英語教育に対応した資料収集. 学校図書館. 2012, no.739, p.34-35.

[86]) 江竜珠緒, 野村愛子. “10 教科と連携した活動”. 鍛えよう! 読むチカラ ： 学校図書館で育てる25の方法. 桑田てるみ監修, 「読むチカラ」プロジェクト編著. 明治書院, 2012, p.58-59.

[87]) 江竜珠緒, 村松教子. 明治高等学校における英語多読 ： 生徒の洋書選択についての考察. 明高研叢. 2012, no.11, p.75-95.

[88]) 米澤久美子. 学校図書館で英語多読を. 東京都の学校図書館. 2014, no.50, p.28-37.

[89]) 米澤久美子. 学校図書館で英語多読を. 東京都の学校図書館. 2014, no.50, p.28-37.

[90]) 三上洋介. Pre-reading でのトップダウンアプローチと Post-reading の統語処理活動を取り入れた高校生の多読授業実践. Eiken bulletin =「英検」研究助成報告. 2020, vol.32, p.145.

[91]) 三上洋介. Pre-reading でのトップダウンアプローチと Post-reading の統語処理活動を取り入れた高校生の多読授業実践. Eiken bulletin =「英検」研究助成報告. 2020, vol.32, p.147-148.

[92]) 酒井邦秀, 西澤一編著. 図書館多読への招待. 日本図書館協会, 2014, ix,186p., （図書館実践シリーズ25）.

[93]) 米澤久美子. “3.3 多読と学校司書の役割”. 図書館多読への招待. 酒井邦秀, 西澤一編著. 日本図書館協会, 2014, p.62.

[94]) 米澤久美子. “3.3 多読と学校司書の役割”. 図書館多読への招待. 酒井邦秀, 西澤一編著. 日本図書館協会, 2014, p.62.

[95]) 米澤久美子. “3.2 学校図書館の環境づくり”. 酒井邦秀, 西澤一編著. 図書館多読への招待. 日本図書館協会, 2014, p.53.

[96]) 米澤久美子. “3.2 学校図書館の環境づくり”. 酒井邦秀, 西澤一編著. 図書館多読への招待. 日本図書館協会, 2014, p.61-62.

[97]) Nation, Paul ; Waring,Rob. “Extensive Reading and Graded Readers,” *Reading Oceans*, 2013. http://www.readingoceans.jp/ComData/files/Paul%20Nation%20%20Rob%20Waring's%20ER%20Booklet_eng.pdf, p.4, （accessed 2023-01-14）.

[98]) Day, Richard R. ; Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.7-8.

[99]) Day, Richard R. ; Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.7-8.

[100]) Nation, I.S.P. *Learning Vocabulary in Another Language*. Cambridge, 2001, p.149.

[101]) Waring, Rob ; McLean, Stuart. Exploration of the Core and Variable Dimensions of Extensive Reading Research and Pedagogy. *Reading in a Foreigh Language*. 2015, vol.25, no.1, p.164-165.

[102]) Day, Richard. R. ; Bamford, Julian. Top Ten Principles for Teaching Extensive Reading. *Reading in a Foreign Language*. 2002, vol.14, no.2, p.136-141.

[103]) Williams, Ray. Top ten' principles for teaching reading. *ELT Journal*. 1986, vol.40, Issue 1, p.42-45.

[104]) Day, Richard R. ; Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.7-8.

[105]) Nation, Paul ; Waring, Rob. Extensive Reading and Graded Readers, *Reading Oceans*, 2013. http://www.readingoceans.jp/ComData/files/Paul%20Nation%20%20Rob%20Waring's %20ER%20Booklet_eng.pdf, p.4, （accessed 2023-01-14）.

[106]) Day, Richard. R. ; Bamford, Julian. Top Ten Principles for Teaching Extensive Reading. *Reading in a Foreign Language*. 2002, vol.14, no.2, p.136-141.

[107]) Prowse, Philip. Top ten principles for teaching extensive reading：A response. *Reading in a Foreign Language*. vol.14, no.2, 2002, p.142-145.

[108]) 酒井邦秀, 神田みなみ編著. 教室で読む英語100万語 ： 多読授業のすすめ. 大修館書店, 2005, p.17.

[109]) Laufer, Batia. “What percentage of text lexis is essential for comprehension?”. *Special language：From humans thinking to thinking machines*. Lauren, Christer ; Marianne, Nordman, ed. Multilingual Matters, 1989, p.316-323.

[110]) Hu, Marcella, ; Nation, I.S.P. Unknown Vocabulary density and reading comprehension. *Reading in a Foreign Language*. 2000, vol.13, no.1, p.422.

[111]) “座談会「新・多読三原則」をめぐって”. 多聴多読マガジン. 2013, vol.8, no.2, p.40.

[112]) “座談会「新・多読三原則」をめぐって”. 多聴多読マガジン. 2013, vol.8, no.2, p.40-48.

[113]) 及川賢. 検定教科書（外国語科（英語））を通してみた中高間のギャップ. 埼玉大学紀

要教育学部. 2007, vol.56, no.2, p.79.

[114] 根岸雅史. Lexile Measureによる中高大英語教科書のテキスト難易度の研究. ARCLE REVIEW. 2015, vol.9, p.13-15.

[115] 大田悦子. Lexile Measureを用いた中高英語教科書の難易度比較. 白山英米文学. 2016, no.41, p.18-19.

[116] 村岡亮子. 中学校検定教科書で学習される語彙, 学習されない語彙 : 延べ語数, 異なり語数, 語彙レンジの視点から. STEP BULLETIN. 2010, 第22回 研究助成, p.188.

[117] 藤井数馬. 英語多読導入期に用いる多読図書における YL 指数と Lexile 指数の相関調査 : 両指数の教育・学習上の特性の整理とともに. Eiken bulletin =「英検」研究助成報告. 2017, vol.29, p.165.

[118] Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Education Books, 1982, p.23-24.

[119] Day, Richard. R. ; Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p. 90-91

[120] 酒井邦秀. “1.7　費用の壁”. 図書館多読への招待. 酒井邦秀, 西澤一編. 日本図書館協会, 2014, p.10-11, （図書館実践シリーズ, 25）.

[121] 高瀬敦子. 英語多読多聴指導マニュアル. 大修館書店, 2010, p.111-112.

[122] Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Ecucation Books, 1982, p.174-180.

[123] Day, Richard. R. ; Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.113.

[124] Waring, Rob ; Takahashi, Sachiko. The Oxford University Press Guide to the ‘Why’ and ‘How’ of Using Graded Readers. *Oxford University Press Japan*. 2000, http://www.robwaring.org/er/articles/Guide_to_Graded_Readers_e.pdf, （accessed 2023-01-14）.

[125] 高瀬敦子. 英語多読多聴指導マニュアル. 大修館書店, 2010, p.103-107.

[126] Yamamoto, Akio. Is a One-Year Extensive Reading Class Enough?. *言語 文化 社会*. 2011, no.9, p.145.

[127] 酒井邦秀, 西澤一編著. 図書館多読への招待. 日本図書館協会, 2014, ix,186p., （図書館実践シリーズ25）.

[128] 米澤久美子. 学校図書館で英語多読を. 東京都の学校図書館. 2014, no.50, p.28-37.

[129] Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Education Books, 1982, p.171-182.

[130] 木場敬子. “東京都立稔ヶ丘高校における図書館多読”. 図書館多読への招待. 酒井邦秀, 西澤一編著. 日本図書館協会, 2014, p.136-148.

[131] 木場敬子. 図書館多読のススメ:英語を一生の友だちに:連載, たのしく多読(実践編). 学校図書館. 2016, no.790, p.61.

[132] 三輪涼子. 私たちの「森」をつくろう③：連載, たのしく多読（実践編）. 学校図書館. 2016, no.788, p.86.

[133] Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Education Books, 1982, p.29.

[134] Williams, Ray. Top ten' principles for teaching reading. *ELT Journal*. 1986, vol.40, Issue 1, p.42.

[135] Day, Richard. R.；Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.109-111.

[136] 三輪涼子. 私たちの「森」をつくろう③：連載, たのしく多読（実践編）. 学校図書館. 2016, no.788, p.86.

[137] 三輪涼子. 私たちの「森」をつくろう②：連載, たのしく多読（実践編）. 学校図書館. 2016, no.787, p.72.

[138] 藤井数馬. 多読と学校図書館への影響：多読指導の「ゼロ段階」として. 多読学会紀要. 2015, vol.8, p.3-15.

[139] 米澤久美子. “3.3 多読と学校司書の役割”. 図書館多読への招待. 酒井邦秀, 西澤一編著. 日本図書館協会, 2014, p.62.

[140] 米澤久美子. “3.2 学校図書館の環境づくり”. 酒井邦秀, 西澤一編著. 図書館多読への招待. 日本図書館協会, 2014, p.53.

[141] Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Education Books, 1982, p.177.

[142] Day, Richard. R.；Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.113.

[143] Day, Richard. R.；Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.112-113.

[144] 藤井数馬. 多読と学校図書館への影響：多読指導の「ゼロ段階」として. 多読学会紀要. 2015, vol.8, p.4-5.

[145] Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Ecucation Books, 1982, p.174-180.

[146] Day, Richard. R. ; Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.113.

[147] Waring, Rob ; Takahashi, Sachiko. The Oxford University Press Guide to the 'Why' and 'How' of Using Graded Readers. *Oxford University Press Japan*. 2000, http://www.robwaring.org/er/articles/Guide_to_Graded_Readers_e.pdf, （accessed 2023-01-14）.

[148] 高瀬敦子. 英語多読多聴指導マニュアル. 大修館書店, 2010, p.103-107.

[149] Yamamoto, Akio. Is a One-Year Extensive Reading Class Enough?. *言語 文化 社会*. 2011, no.9, p.145.

[150] 酒井邦秀, 西澤一編著. 図書館多読への招待. 日本図書館協会, 2014, ix,186p., （図書館実践シリーズ25）.

[151] 米澤久美子. 学校図書館で英語多読を. 東京都の学校図書館. 2014, no.50, p.28-37.

[152] 高瀬敦子. 英語多読多聴指導マニュアル. 大修館書店, 2010, p.111.

[153] 木場敬子. 図書館多読のススメ : 英語を一生の友だちに : 連載, たのしく多読（実践編）. 学校図書館. 2016, no.790, p.61.

[154] 高瀬敦子. 英語多読多聴指導マニュアル. 大修館書店, 2010, p.111-112.

第 3 章　高校生の語彙学習に資する英語多読用図書の難易度と種類

1.1.4 で述べたように，中学校英語教科書と高等学校英語教科書の難易度差が指摘され，複数の研究者がその難易度差を埋めるために有用なものとして，ER 指導の実施を示唆している[1) 2) 3) 4) 5)]。そこで本章では，日本の高等学校で英語多読および ER 指導に用いられている GR と原書児童書のシリーズで用いられている語彙の特徴を調査して，高校生の語彙学習に資する英語多読用図書の難易度と種類について検討する。

1.1.3.3 で述べたように，GR に関する研究は複数あるが，原書児童書に関する研究は海外においても少ない。2.2.1.1 で述べたように，第二言語習得研究は比較的歴史の浅い研究分野であり，ER のような難易度の低い英語のインプットを重視する[6) 7) 8)] 指導方法の研究が盛んになったのは 1980 年代以降である。そのため，学習用ではない原書児童書よりも，学習用に編集された GR の有用性を証明することが優先されてきたことが理由にあると推察される。しかし，GR は古典のリライトや成人を対象にして作られたものが多く，中学生や高校生を対象とした作品は少ない。語彙や文法の難易度が下げられていることによって，新しい語との出合いや，複雑な構文との出合いが失われるという課題もある。そのため，読み手をひきつける魅力的な物語で，かつ自然な英語が学べるものとして，難易度の低い原書児童書が推奨されることがある[9) 10) 11)]。高等学校で実施される ER 指導においても高校生の語彙学習に資するものとして原書児童書を活用できるのかということについて検討することには意義があると考えられる。

はじめに日本の高等学校で ER 指導に用いられている GR と原書児童書について，JACET8000 基本語使用率と難易度幅，語彙の定着が期待される語との繰り返しの出合いがどれだけあるかを明らかにする。次に，中学校英語教科書基本語のコーパスを作成して，それらの GR と原書児童書における中学校英語教科書基本語の出現回数について調査する。

3.1　語彙の繰り返し調査

3.1.1　調査方法

3.1.1.1.　調査対象図書

GR として選択したのは，Pearson English Readers Level 1 と Oxford Bookworms Stage 1 である。Pearson English Readers と Oxford Bookworms Library は ER 指導における代表的な GR で，Pearson English Readers Level 1 は Headwords 数 300 語，CEFR では A1 レベル[12)]，Pearson English Readers のカタログでは，26 冊が刊行されている[13)]。

Pearson English Readers はそれまで Penguin English Readers であったものと同じものであるため，それらを含めると Level 1 の出版点数は多い[14]。

Oxford Bookworms Library Stage 1 は Headwords 数 400 語，CEFR では A1／A2 レベルで，公式サイトによる平均総語数は 5,200 語である[15]。Oxford University Press のカタログでは，Stage 1 は全 50 冊が刊行されている[16]。

原書児童書として選択したのはマジョリー・ウェインマン・シャーマット（Sharmat, Marjorie Weinman）による Nate the Great Series とメアリー・ポープ・オズボーン（Osborne, Mary Pope）による Magic Tree House Series の 2 シリーズである。シリーズ内すべてを同一作者が書いている。1.1.3.3 で述べたように，この 2 シリーズは日本の英語多読および ER 指導において用いられることの多い原書児童書である。LR よりもイラストが少なく，主にテキストから内容を理解することになるという点でも，GR と相似したものである。

Nate the Great Series は現在 29 冊が刊行されており，Magic Tree House Series は 1 巻から 28 巻までの Magic Tree House Series と，29 巻以降の Magic Tree House Series Merlin Missions，Magic Tree House Fact Trackers などがある。高瀬は Magic Tree House Series について「アメリカの子どもたちに大人気の本で，日本の多読学習者にも人気」の冒険もののシリーズで，夏休みや冬休みに全 28 巻を読破する高校生や大学生が毎年数名いることを紹介している[17]。また，『英語多読完全ブックガイド』では「超特選」に分類されており，「自然科学や歴史などに関連した難しい単語も出て」くるが，「イラストが多く使用されており，わかりやすい説明がある」ために読み進めることができると紹介されている[18]。

Nate the Great Series の Lexile 指数は 260-570L，平均 484L で[19]，Magic Tree House Series の Lexile 指数は 380-590L, 平均 519L[20] である。Oxford Bookworms Library Stage 1 は，YL と Lexile 指数の相関を調査した藤井の研究によれば，Lexile 指数は 455.8L である[21]。Pearson English Readers Level 1 の Lexile 指数は明らかではない。

日本英語検定協会の目安では中学卒業レベルは英検 3 級[22]，Lexile 指数に換算すると 530-570L であるが[23]，文部科学省の調査によれば英検 3 級以上に到達した公立中学生の割合は 44.0%[24] であるため，英検 4 級取得程度の中学 3 年次生徒も多いことが推察される。英検 4 級の Lexile 指数は 460L-520L である[25]。そこで，高校 1 年次生の入学時の英語力を 460L から 570L 程度と仮定すると，これら 4 シリーズは，Lexile 指数によって読

者にとって適切な難易度と考えられている 50L 下，100L 上[26] の範囲の GR と原書児童書に相当するものと考えられる。

GR と Nate the Great Series は，Magic Tree House Series の第 1 シリーズ 28 巻と同数の 28 冊を選択した。Nate the Great Series は 1 巻から 28 巻目まで，GR は学習用に編集されているシリーズであるためランダムに 28 冊を選択した。

語彙の調査においては，総語数を揃えて行われることがある[27]。しかし，現実に読み進める際には，総語数が同程度になるところまでを読んで，それ以降を読まないということは考えられない。そこで，学校図書館で同程度の総語数の GR と原書児童書のシリーズを同数読了した場合に，JACET8000 基本語の使用率や繰り返しの出合いにどれだけの差異があるかという調査を行った。

3.1.1.2　調査手続き

1.3.2 で述べたように，調査においては「英文語彙難易度解析プログラム（Word Level Checker：WLC）」[28] を使用して，語彙リストを抽出した。使用した基本語リストは JACET8000 である。Glossary や Extra Activity は調査対象とせず，物語本文のテキストのみを分析対象とした。

3.1.2　調査の結果

3.1.2.1　調査対象図書の平均総語数と平均 JACET8000 基本語数

表 3-1 に示したとおり，GR である Pearson English Readers Level 1 の 1 冊ずつの総語数は 1,571 語から 4,538 語，平均総語数は 2,518 語で，Oxford Bookworms Library Stage 1 の 1 冊ずつの総語数は 4,737 語から 7,465 語，平均総語数は 5,722 語であった。また，原書児童書シリーズである Nate the Great Series の 1 冊ずつの総語数は 1,527 語から 4,641 語，平均総語数は 2,258 語で，Magic Tree House Series の 1 冊ずつの総語数は 4,900 語から 6,601 語，平均総語数は 5,698 語であった。

表 3-1　調査対象図書の平均総語数，平均 JACET8000 基本語数，平均異なり語数

タイトル / 総語数等	Graded Readers		原書児童書のシリーズ	
	Pearson English Readers 1	Oxford Bookworms Library 1	Nate the Great	Magic Tree House
平均総語数	2,518語	5,722語	2,258語	5,698語
平均基本語数	230語	401語	335語	718語
平均異なり語数	290語	484語	386語	846語

3.1.2.2　調査対象図書の JACET8000 基本語カバー率

表 3-2 は Pearson English Readers Level 1 と Oxford Bookworms Library Stage 1, Nate the Great Series，Magic Tree House Series において JACET8000 基本語がテキスト内にどれだけ出現しているのかというカバー率と，シリーズ内における 1 冊ずつの難易度の差異を標準偏差として示したものである。

表 3-2　調査対象図書の JACET8000 基本語カバー率と標準偏差

JACET8000 語数	Graded Readers				原書児童書のシリーズ			
	Pearson English Readers 1		Oxford Bookworms Library 1		Nate the Great		Magic Tree House	
	カバー率	標準偏差	カバー率	標準偏差	カバー率	標準偏差	カバー率	標準偏差
1000	69.2	5.6	68.1	4.2	66.3	3.7	52.2	2.2
2000	75.3	6.1	77.1	3.8	77.0	3.3	66.6	2.2
3000	77.3	5.9	80.2	3.7	81.4	2.7	74.2	2.0
4000	77.9	6.0	80.7	3.7	82.2	2.6	75.7	2.1
5000	78.3	6.0	81.7	3.7	83.9	2.3	78.8	2.0
6000	78.7	5.9	82.1	3.6	85.2	2.2	81.5	1.9
7000	79.0	5.9	82.7	3.6	86.1	2.2	83.2	1.7
8000	79.2	5.9	83.0	3.5	86.9	2.0	84.9	1.6
リスト外	20.8	0.0	17.0	0.0	13.1	0.0	15.1	0.0

Pearson English Readers Level 1 と Nate the Great Series では，JACET8000 基本 1,000 語（中学校英語教科書）レベルでは Nate the Great Series のカバー率のほうが低いが，JACET8000 基本 2,000 語（高校初級）以降では，Nate the Great Series のカバー率のほうが大きいことが示された。また，各レベルのカバー率の標準偏差も Nate the Great Series のほうが小さかった。Nate the Great Series，Pearson English Readers Level 1 ともに 90%以上のカバー率になることはなかった。Pearson English Readers level 1 はリスト外の語（固有名詞，数詞など）の語の割合が高く，Nate the Great Series の 1.6 倍程度あることが示された。

Oxford Bookworms Library Stage 1 と Magic Tree House Series では，Magic Tree House Series の JACET8000 基本語カバー率が低く，JACET8000 基本 1,000 語レベルでは 52.2%のカバー率しかないことが示された。各レベルの標準偏差では，Magic Tree House Series のほうが小さかった。Magic Tree House Series, Oxford Bookworms Library Stage 1 ともに 90%以上のカバー率になることはなかった。

3.1.2.3　調査対象図書における新出語の出現数

図 3-1 は Pearson English Readers Level 1 と Nate the Great Series との新出語数の出現推移を示したものである（詳細は付録 1 参照）。GR に関しては，高校生が総語数の少ないものから読み進めることを想定して，総語数順に並べ替えて調査を行った。また，Nate the Great Series に関しては，1 巻から順に読み進めることを想定して調査を行った。

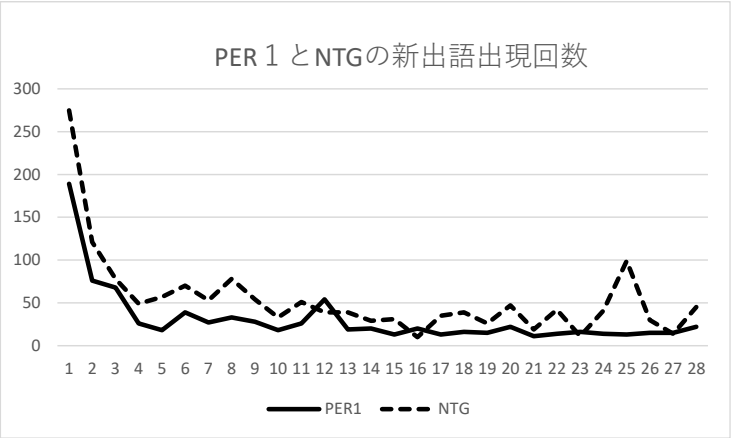

図 3-1　Pearson English Readers Level 1（PER 1）と Nate the Great Series（NTG）の新出語の出現回数

Pearson English Readers Level 1 の 1 冊目の JACET8000 基本語数は 189 語，2 冊目は 76 語，3 冊目は 68 語で，4 冊目以降は 25 冊中 24 冊が 50 語以下，うち 16 冊が 20 語以下の出現となっていた。28 冊に出現した総 JACET8000 基本語数は 861 語，出現回数の中央値は 13 回であった。Nate the Great Series1 巻の JACET8000 基本語数は 275 語で，2 巻目以降はそれ以前の巻に出現した語を除外したものを新出語とすると，2 巻目は 121 語，3 巻目は 78 語で，4 巻目以降は 25 冊中 18 冊が 50 語以下の出現となっていた。全 28 冊に出現した総 JACET8000 基本語数は 1,533 語，出現回数の中央値は 5 回であった。

図 3-2 は，Oxford Bookworms Library Stage 1 と Magic Tree House Series との新出語数の出現推移を示したものである。GR に関しては，高校生が総語数の少ないものから読み進めることを想定して，総語数順に並べ替えて調査を行った。また，Magic Tree House Series に関しては，1 巻から順に読み進めることを想定して調査を行った。

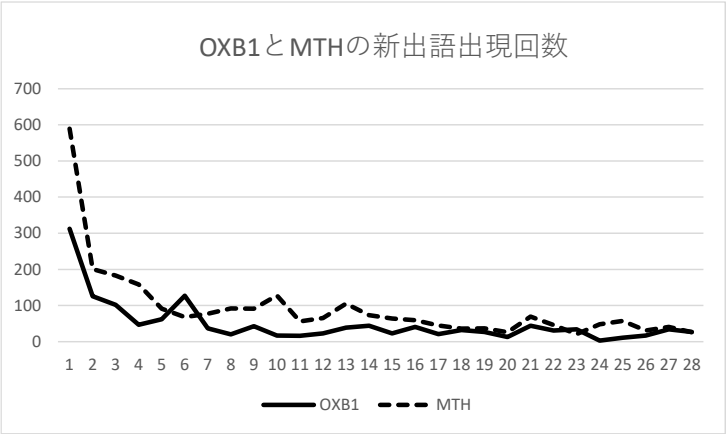

図 3-2　Oxford Bookworms Library Stage1（OXB 1）と Magic Tree House Series（MTH）の新出語の出現回数

Oxford Bookworms Library Stage 1 の 1 冊目の JACET8000 基本語数は 312 語，2 冊目は 126 語，3 冊目は 102 語で，4 冊目以降は 25 冊中 23 冊が 50 語以下の出現となっていた。20 語以下の出現の図書が 6 冊あった。28 冊に出現した総 JACET8000 基本語数は 1,357 語，出現回数の中央値は 13 回であった。Magic Tree House Series 1 巻目の JACET8000 基本語数は 589 語，2 巻目は 201 語で，4 巻目でも 158 語と 150 語以上の新出語のあることが示された。5 巻目以降は 24 冊中 10 冊が 50 語以下の出現となっていた。全 28 冊に出現した総 JACET8000 基本語数は 2,651 語，出現回数の中央値は 6 回であった。

3.1.2.4 Magic Tree House Series と GR，Nate the Great Series との語彙の重複

3.1.2.3 で述べたように，Magic Tree House Series 1 巻の JACET8000 基本語数は 589 語で，Pearson English Readers Level 1 の 189 語，Oxford Bookworms Library Stage 1 の 312 語，Nate the Great Series の 275 語の 1.9 倍から 3.1 倍であった。しかし，JACET8000 基本 1,000 語のカバー率が高い Pearson English Readers Level 1 や Nate the Great Series を読んだときに習得した JACET8000 基本語が Magic Tree House Series に登場しているのであれば，Magic Tree House Series を読み進めることが比較的容易になることが推察される。

表 3-3 は Pearson English Readers Level 1，Oxford Bookworms Library Stage 1，Nate the Great Series のそれぞれの JACET8000 基本語が Magic Tree House Series 1 巻（JACET8000 基本語数 589 語）にどれだけ出現していたかを示したものである。

Magic Tree House Series 1 巻の中に出現した Pearson English Readers Level 1 内の JACET8000 基本語は 303 語（51.4%），Oxford Bookworms Library Stage 1 内の基本語は 435 語（73.9%），Nate the Great Series 内の JACET8000 基本語は 500 語（84.9%）であった。Nate the Great Series 内の JACET8000 基本語がもっとも多く出現していることが示された。

表 3-3　Magic Tree House Series 基本語内における Pearson English Readers Level 1, Oxford Bookworms Library Stage 1，Nate the Great Series 基本語の出現数

出現の有無	Pearson English Readers 1		Oxford Bookworms Library 1		Nate the Great	
	語数	割合	語数	割合	語数	割合
有	303	51.4	435	73.9	500	84.9
無	286	48.6	154	26.1	89	15.1

図 3-3 は，Pearson English Readers Level 1，Oxford Bookworms Library Stage 1 にはないが，Nate the Great Series には 10 回以上出現していた Magic Tree House Series 1 巻の JACET8000 基本語である。かっこ内には Nate the Great Series での出現回数を示した。

原書児童書であるからこそ使用されたと思われる（pet，crawl，shrug，yell，tiny）などの語のほか, 文法を統制した GR だからこそ使用されなかった（should, might, toward, almost，instead）などの語が Nate the Great Series に特徴的な語として示された。

should（50），rush（48），bite（36），pet（34），might（29），shiny（23），base（21），toward（20），crawl（19），plain（17），stuff（17），notice（16），trip（16），dry（15），information（14），pack（14），porch（14），almost（13），peer（13），shrug（13），yell（13），lead（12），search（12），straight（11），grass（10），instead（10），tiny（10）

図 3-3　Nate the Great Series に特徴的な語

3.2　中学校英語教科書基本語との比較調査

3.2.1　調査方法

3.2.1.1　調査手続き

本節では，中学校英語教科書コーパスを用いて，GR，原書児童書に含まれる語彙難易度と，中学校英語教科書基本語の出現頻度を分析する。3.1 では JACET8000 基本語のカバー率の調査を行ったが，本節では実際の中学校教科書基本語コーパスから，高校 1 年次生がどの程度中学校英語教科書既習語と出合うのかを調査する。GR や原書児童書などの英語多読用図書が，中学校英語教科書に出現した語を多用しているのであれば，高校 1 年次初期に知らない語と出合うことが少ないために流暢に読めると考えられる。また，中学校英語教科書未出現語であっても 10 回以上の繰り返しの出合いによって学習することができるのであれば[29]，中学 3 年次と高校 1 年次での使用教科書の難易度差を埋めるために活用できるものと考えられるため, 中学校英語教科書未出現語の頻度について分析を行った。

3.2.1.2　中学校英語教科書基本語リスト作成のために使用した中学校英語教科書

中学校英語教科書基本語リストを作成するために選択したのは，公立校が採択している検定教科書の 1 つ『NEW CROWN ENGLISH SERIES』(以下，NEW CROWN）の 1[30]，2[31]，3[32] である。

『NEW CROWN』は東京都教育委員会が公開している「平成 28～31（2016～2019）年度使用教科書採択地区別の採択結果（公立中学校）」[33] では，40.7%の地区が採択した検定教科書である。また，同結果の令和 3～6（2021～2024）年度では 35.2%の地区で採択されている[34]。年次ごとに 1 冊ずつ使用するもののため，中学卒業時には 1 から 3 までを修了したことになる。

東京都による「令和 3～6 年度使用教科書調査研究資料（中学校）」では，検定教科書 6 社の取り扱い Headwords 数は教育出版の 1,715 語から光村図書の 2,295 語までの開きがあるが，三省堂書店（NEW CROWN）は平均 2,010.2 語に近似した 2,145 語であることが示されている[35]。使用語彙数は検定教科書の中でも平均的なものであると考えられる。大田が検定教科書 6 種類を分析した結果でも,『Columbus（光村図書)』の中学 2 年，3 年用の Lexile 指数が他よりもかなり低く出ているが, それ以外の 5 冊は同程度であると述べられている[36]。そこで本研究では，先行研究で用いられることが多いこと[37] [38] [39]，6 社の検定教科書中の平均的な語彙数であることから,『NEW CROWN 1，2，3』を選択した。

なお，大田による検定教科書 6 種類の中学 3 年次教科書の平均 Lexile 指数は 485L，中央値は 500L，『NEW CROWN 3』の Lexile 指数は 470L である[40]。これ以降，中学校英語教科書の 1，2，3 は省略して述べる。

3.2.3　調査の結果

3.2.3.1　中学校英語教科書コーパスの作成

表 3-4 は中学校英語教科書の WLC による語彙難易度分析結果である。中学校英語教科書の総語数は 7,589 語，総異なり語数は 1,095 語，リスト外となる Unknown 語の 280 語を除外した JACET8000 基本語数は 815 語であった。そこで，この 815 語を中学校英語教科書基本語としたコーパスを作成して，Excel を用いて GR，原書児童書における中学校英語教科書基本語の出現回数についての調査を行った。

中学校英語教科書の総異なり語数 1,095 語中，JACET8000 基本 1,000 語（中学校英語教科書レベル）の語は 574 語（52.4%）で，JACET8000 基本 2,000 語（高校初級レベル）以上の語が 521 語（47.6%）であった。中学校英語教科書基本語 815 語中では JACET8000 基本 1,000 語の割合は 70.4%となり，中学校英語教科書に高校初級以上の語が 29.6%含まれていることが示された。

表 3-4　『NEW CROWN』の語彙難易度分析結果

	Title	New CROWN 1,2,3	
WL Tag	Word Level	異なり語数	%
1	1,000	574	52.4
2	2,000	136	12.4
3	3,000	56	5.1
4	4,000	6	0.6
5	5,000	14	1.3
6	6,000	11	1.0
7	7,000	7	0.6
8	8,000	11	1.0
?	Unknown	280	25.6
総異なり語数	総異なり語数／総語数（%）	1,095	100.0
総基本語数	総基本語数／総異なり語数	815	74.4
総語数		7,589	

表 3-5 は中学校英語教科書基本語の出現頻度（繰り返し回数）について調査したものである。815 語の中で 1 回のみ出現した語は 286 語（35.1%）で，10 回以上出現した語は 125 語（15.3%）であった。

表 3-5　中学校英語教科書基本語の出現頻度

『NEW CROWN』1，2，3		
教科書の中で1回のみ出現した基本語数／総基本語数	286	35.1%
教科書の中で10回以上出現した基本語数／合計基本語数	125	15.3%
教科書中に出現した総基本語数	815	100.0%

3.2.3.2　中学校英語教科書基本語の出現

3.2.3.2.1　1 冊ずつの中に出現した中学校英語教科書基本語

3.2.3.1 で作成した中学校英語教科書コーパスを用いて，GR と原書児童書のシリーズに出現する中学校英語教科書基本語についての調査を行った。

表 3-6 は，GR，原書児童書の 1 冊ずつに出現した JACET8000 基本語と中学校英語教科書基本語の平均語数，平均総語数について調査したものである。未出現語数について併記した。JACET8000 基本語数中の中学校英語教科書基本語数の数値が大きければ既習語が多く，高校 1 年次生にとって読みやすい図書であると考えることができる。

表 3-6　GR，原書児童書における中学校英語教科書基本語の平均出現回数

テキストタイプ	Graded Readers				原書児童書			
シリーズ名	Pearson English Readers 1		Oxford Bookworms Library 1		Nate the Great Series		Magic Tree House Series	
平均教科書基本語数／平均JACET基本語数中の割合	195	84.8%	311	77.6%	235	70.1%	389	54.2%
教科書基本語以外のJACET8000基本語数／平均JACET基本語数中の割合	35	15.2%	90	22.4%	100	29.8%	329	45.8%
1冊ずつの平均JACET8000基本語数	230	100.0%	401	100.0%	335	100.0%	718	100.0%
1冊ずつの平均総語数	2,518		5,722		2,258		5,698	

Pearson English Readers Level 1 の 1 冊ずつの平均 JACET8000 基本語 230 語のうち，出現した中学校英語教科書基本語の平均は 195 語（84.8%）であった。中学校英語教科書基本語以外の JACET8000 基本語数は平均 35 語で，JACET8000 平均基本語中の 15.2%であった。Oxford Bookworms Library Stage 1 の 1 冊ずつの平均 JACET8000 基本語 401 語のうち，出現した教科基本語の平均は 311 語（77.6%）であった。中学校英語教科書基本語以外の JACET8000 基本語数は平均 90 語で，平均 JACET8000 基本語数中の 22.4%であった。

Nate the Great Series の 1 冊ずつの平均 JACET8000 基本語 335 語のうち，出現した中学校英語教科書基本語の平均は 235 語（70.1%）であった。中学校英語教科書基本語以外の JACET8000 基本語数は平均 100 語で，平均 JACET8000 基本語数中の 29.8%であった。Magic Tree House Series の 1 冊ずつの平均 JACET8000 基本語数 718 語のうち，出現した中学校英語教科書基本語数の平均は 389 語（54.2%）であった。中学校英語教科書基本語以外の JACET8000 基本語数は平均 329 語で，平均 JACET8000 基本語数中の 45.8%であった。

3.2.3.2.2　28 冊全体に出現した中学校英語教科書基本語

表 3-7 は，GR，原書児童書ぞれぞれの 28 冊全体に出現した JACET8000 基本語数と中学校英語教科書基本語数，シリーズ全体の総語数について調査したものである。未出現語数について併記した。

表 3-7　GR，原書児童書それぞれ 28 冊における中学校英語教科書基本語の合計出現回数

テキストタイプ	Graded Readers				原書児童書			
シリーズ名	Pearson English Readers 1		Oxford Bookworms Library 1		Nate the Great Series		Magic Tree House Series	
出現教科書基本語数と総教科書基本語数（815語）における割合	466	57.2%	609	74.7%	600	73.6%	718	88.1%
教科書基本語以外のJACET8000基本語数／JACET8000基本語数中の割合	401	46.3%	748	55.1%	933	60.9%	1,933	72.9%
シリーズ全体のJACET8000総基本語数	867		1,357		1,533		2,651	
シリーズ全体の総語数	70,517		160,203		63,222		159,541	

Pearson English Readers Level 1 の 28 冊に出現した合計中学校英語教科書基本語数は 466 語で，中学校英語教科書基本語 815 語中の 57.2%が出現していた。中学校英語教科書基本語以外の JACET8000 基本語数は 401 語で，JACET8000 基本語の総数 867 語中の 46.3%であった。Oxford Bookworms Library Stage 1 の 28 冊に出現した中学校英語教科書基本語数は 609 語で，中学校英語教科書基本語 815 語中の 74.7%が出現していた。中学校英語教科書基本語以外の JACET8000 基本語数は 748 語で，JACET8000 基本語の総数 1,357 語中の 55.1%であった。

Nate the Great Series 28 冊に出現した中学校英語教科書基本語数は 600 語で，中学校英語教科書基本語 815 語中の 73.6%が出現していた。中学校英語教科書基本語以外の JACET8000 基本語数は 933 語で，基本語の総数 1,533 語中の 60.9%であった。Magic Tree House Series 28 冊に出現した中学校英語教科書基本語数は 718 語で，中学校英語教科書基本語 815 語中の 88.1%が出現していた。中学校英語教科書基本語以外の JACET8000 基本語数は 1,933 語で JACET8000 基本語の総数 2,651 語中の 72.9%であった。

3.2.3.2.3　出現回数の多い教科書基本語および教科書未出現基本語

表 3-8 は，GR と原書児童書それぞれの 28 冊全体の中で，中学校英語教科書出現語との合計が 10 回以上になった中学校英語教科書基本語の数と，中学校英語教科書基本語以外の JACET8000 基本語の中で，10 回以上の繰り返しがある語の数と，その割合について示したものである。これは，表 3-5 で示したように，中学校英語教科書だけの学習では 10 回以上繰り返される語は 125 語（15.3%）であるが，GR や原書児童書を読むことで中学校英語教科書との合計が 10 回以上になれば，語彙学習として活用できることになると考えられることから調査したものである。教科書に出現しなかった語であっても，10 回以上出現することで習得が可能になるとすれば，語彙幅を増加させることも可能になる。

表 3-8　GR，原書児童書それぞれ 28 冊に 10 回以上出現した中学校英語教科書基本語と中学校英語教科書未出現基本語

テキストタイプ	Graded Readers				原書児童書			
シリーズ名	Pearson English Readers 1		Oxford Bookworms Library 1		Nate the Great Series		Magic Tree House Series	
教科書基本語（815語）中，合計10回以上出現した教科書基本語数とその割合	294	36.1%	511	62.7%	261	43.5%	571	70.1%
未出現基本語中，10回以上繰り返された語の数とその割合	237/401	59.1%	289/748	38.6%	433/933	46.4%	570/1933	29.5%

Pearson English Readers Level 1 との合計出現回数が 10 回以上になった中学校英語教科書基本語は 294 語（36.1%）であった。また，中学校英語教科書未出言語 401 語中，237 語（59.1%）が 10 回以上繰り返されていた。Oxford Bookworms Library Stage 1 との合計出現回数が 10 回以上になった中学校英語教科書基本語は 511 語（62.7%）であった。また，中学校英語教科書未出現語 748 語中，289 語（38.6%）が 10 回以上繰り返されていた。

Nate the Great Series との合計出現回数が 10 回以上になった中学校英語教科書基本語は 261 語（43.5%）であった。また，中学校英語教科書未出現語 933 語中，433 語（46.4%）が 10 回以上繰り返されていた。Magic Tree House Series との合計出現回数が 10 回以上になった中学校英語教科書基本語は 571 語（70.1%）であった。また，中学校英語教科書未出現語 1,933 語中，570 語（29.5%）が 10 回以上繰り返されていた。

3.3　考察

本章では，日本の高等学校で英語多読および ER 指導に用いられている GR と原書児童書のシリーズで用いられている語彙の特徴を調査して，高校生の語彙学習に資する英語多読用図書の難易度と種類について明らかにすることを目的として調査を行った。はじめに 3.1 において，日本の高等学校で ER 指導に用いられている GR と原書児童書について，JACET8000 基本語使用率と難易度幅，語彙の定着が期待される繰り返しの語との出合いがどれだけあるかを明らかにした。次に 3.2 において，中学校英語教科書のコーパスから，GR と原書児童書における中学校英語教科書基本語の出現回数について調査した。

本節では，3.1.2 で述べた JACET8000 基本語使用率の結果と，3.2.3 で述べた中学校英語教科書基本語使用率の結果から，GR と原書児童書のシリーズの難易度差や基本語の出現回数，高校生が語彙学習に活用したときの語彙サイズの増加等について検討する。それらの結果から高等学校での ER 指導において語彙学習に資する英語多読用図書の難易度と種類について検討する。

3.3.1　GR と原書児童書の難易度差

原書児童書のシリーズと GR では，平均 JACET8000 基本語数を Headwords 数とすると，3.1.2.1 の表 3-1 で示したように Nate the Great Series（平均 JACET8000 基本語数 335 語）は Pearson English Readers Level 1（Headwords 数 300 語）と同程度，Magic Tree House Series（平均 JACET8000 基本語数 718 語）は Oxford Bookworms Library Stage 1（Headwords 数 400 語）ではなく，Oxford Bookworms Library Stage 2（Headwords 数 700 語）に相当する難易度になるということが示された。3.1.1.1 で述べたように，この 4 種類は高校 1 年次生の入学時の英語力を 460L から 570L 程度として，Lexile 指数によって読者にとって難易度と考えられている 50L 下，100L 上[41] の範囲のものである。しかし，難易度には差異があることが示された。総語数が同程度の GR と原書児童書とでは，出版社提示レベルで 1 段階以上の差異が生じる可能性があることが示された。

3.1.2.2 の表 3-2 で示した JACET8000 基本語のカバー率と 3.2.3.2.1 の表 3-6 で示した中学校英語教科書基本語のカバー率の比較からは，Pearson English Readers Level 1，Oxford Bookworms Library Stage 1，Nate the Great Series においては，JACET8000 基本 1,000 語のカバー率よりも，中学校英語教科書基本語のカバー率のほうが高いことが示された。これは, 3.2.3.1 の表 3-4 で示したように, 中学校英語教科書の段階で, JACET8000 の 2,000 語以上の語が出現したからである。Pearson English Readers Level 1 は中学校英語教科書基本語が多用されており, 84.8%の既習語で読むことができることが示された。Oxford Bookworms Library Stage 1，Nate the Great Series，も 70.0%以上のカバー率であるため，Pearson English Readers Level 1 ほどではないが，中学校英語教科書既習語で十分に理解して読める難易度であった。

3.1.2.2 の表 3-2 で示したように，Nate the Great Series の標準偏差は Pearson English Readers Level 1 よりも小さいため，高校生が継続して Nate the Great Series を読むこと

は，難易度差のある図書の選択を避けることになると考えられる。Pearson English Readers Level 1 は標準偏差が大きいため，Pearson English Readers Level 1 内のある 1 冊のレベルが適切であると感じられたとしても，他の 1 冊のレベルが高校生にとって難易度の高い図書となってしまう危険がある。Oxford Bookworms Library Stage 1 と Magic Tree House Series においても，Magic Tree House Series の標準偏差のほうが小さかった。原書児童書のシリーズは同一作者が執筆したために，異なる作者が語彙や文法を統制して書いている GR よりも使用語彙が限定されていることが示された。

これまでの先行研究においては，学習者が難しすぎる図書を選択する危険性が少なく，高頻出語の使用率が高いことから，ER 指導において原書児童書ではなく GR を用いることが推奨されてきた。1.1.3.3 で述べたように，原書児童書を ER 指導に用いることの有用性は示唆されているものの，原書児童書や連続ものの物語における語彙の繰り返しについて客観的に分析したものは少なく[42) 43) 44)]，日本の英語多読および ER 指導で使用している原書児童書，特にシリーズとなっている図書を個別に分析したものはない。本調査によって，同一著者による原書児童書のシリーズでは，GR よりも JACET8000 基本語や中学校英語教科書基本語のカバー率が高くなるものがあること，同一シリーズ内の図書を選択することで，GR よりも難易度が近似した図書と出合えることを明らかにした。難易度の低い原書児童書のシリーズが高校生の語彙学習に資する英語多読用図書として活用できることを明らかにしたことには意義があると考えられる。

Pearson English Readers Level 1 の標準偏差が大きいことには，3.1.2.2 の表 3-2 で示したようにリスト外の語が多いことにも理由がある。調査対象図書の中から人名や地名などの固有名詞を多く使用している伝記を除外して，物語のみを原書児童書のシリーズと比較する調査を実施する必要がある。

3.3.2　GR と原書児童書における語彙の繰り返しと語彙サイズの増加

1.3.2 で述べたように，先行研究においては下位レベルの複数図書と上位レベルの複数図書の語彙を比較したり[45)]，学習者の語彙レベルから，GR や原書など種類の異なる図書を 1 冊ずつ，3 冊のみの調査を行っていたり[46) 47)]，大学独自レベル内の異なる作家や出版社による複数図書の平均総語数や異なり語数，特徴的な語彙から，レベルや種類別の難易度を検討していた[48)]。しかし，本調査では実際の ER のように 1 冊ずつ読み進めたときの語との出合いや新出語の減少について調査した。3.1.2.3 の図 3-1, 図 3-2 で示したように，

原書児童書も同一シリーズを読むことで，GR 同様に 4 冊目あるいは 5 冊目で未知語との出合いが減少することが示された。

GR は 28 冊に出現する JACET8000 基本語数が少なく，出現回数の中央値が 13 回となっており，原書児童書のシリーズの倍以上あった。同じ語彙との繰り返しの出合いを重視するのであれば，GR が適切であることが確認された。一方でこのことは，総語数の多い図書を読んだり，冊数を重ねたりしても新しい語との出合いが少ないということを意味している。3.2.3.2.2 の表 3-7 で示したように，Pearson English Readers Level 1 は 28 冊全体で中学校英語教科書基本語の 57.2%（466 語）しか出現していなかった。中学校英語教科書基本語の中でも限定された語のみが繰り返し出現していた。一方 Oxford Bookworms Library Stage 1 は 28 冊全体では中学校英語教科書基本語の 718 語（88.1%）が出現しており，Nate the Great Series も 28 冊では中学校英語教科書基本語の 600 語（73.6%）が出現していた。

3.2.3.2.3 の表 3-8 で示したように，Pearson English Readers Level 1 の 28 冊全体の中学校英語教科書未出現語 401 語中，237 語（59.1%）が 10 回以上繰り返されていた。10 回以上で語彙が定着するのであれば，高校 1 年次生徒が Pearson English Readers Level 1 を 28 冊読んだ場合には，中学校英語教科書で既習した 815 語にこの 237 語を加えると 1,052 語になる。同様に中学校英語教科書基本語に 10 回以上繰り返されていた未知語を加えると，Oxford Bookworms Library Stage 1 では 1,104 語，Nate the Great Series では 1,248 語になる。

Pearson English Readers Level 1 と Oxford Bookworms Library Stage 1 では，Oxford Bookworms Library Stage 1 の総語数は Pearson English Readers Level 1 の 2 倍程度あるが，得られる未習得語彙の差異は 52 語で，語彙サイズの増加率はそれほど変わらないことが示された。Nate the Great Series は習得可能性のある中学校英語教科書未出現語が Pearson English Readers Level 1 より 196 語多く，Oxford Bookworms Library Stage 1 より 144 語多かった。Nate the Great Series は，Oxford Bookworms Library Stage 1 の 2 分の 1 以下の総語数の図書を読むことで，中学校英語教科書基本語との繰り返しと，未知語の習得ができることになることが示された。

3.3.3　原書児童書の語彙の特徴

3.2.3.2.1 の表 3-6 で示したように，Magic Tree House Series における中学校英語教科書基本語カバー率は低かったが，3.2.3.2.3 の表 3-8 で示したように，中学校英語教科書基本語のうち Magic Tree House Series との合計が 10 回以上になった語は 571 語あり，他の 3 シリーズよりももっとも多かった。中学校英語教科書既習語が少ないことから，Magic Tree House Series は高校 1 年次生にとっては負担の多い図書であることは事実であるが，同シリーズは，中学校英語教科書基本語と繰り返し出合うことができる図書でもある。

3.1.2.4 で述べたように，Magic Tree House Series 1 巻目の JACET8000 基本語数は 589 語で，GR や難易度の低い原書児童書のシリーズである Nate the Great Series の JACET8000 基本語数の 1.9 倍から 3.1 倍となっていた。しかし，JACET 基本 1,000 語のカバー率が高い Pearson English Readers Level 1 や Nate the Great Series を読んだときに習得した語が Magic Tree House Series 1 に出現しているのであれば，Magic Tree House Series 1 を読み進めることが比較的容易になることが推察される。3.1.3.4 の表 3-3 で示したように，Nate the Great Series 28 巻を読了していれば，Magic Tree House Series 1 巻で出合う新出語は 89 語まで減少させることができる。これは，原書児童書には GR には見られない特徴的な語が出現するからである。原書児童書のシリーズ同士のほうが，同程度の総語数の GR より共通して登場する語彙が多いことが示された。これらのことから，高等学校での ER 指導に Nate the Great Series を準備することは，高校生の中学校英語教科書基本語との繰り返しの出合いを可能とすることに加えて，より難易度の高い原書児童書を読むための幅広い語彙の習得を可能にすることになると考えられる。

3.3.4　高等学校での ER 指導において語彙学習に資する英語多読用図書の難易度

1.1.4 で述べたように，藤井は中学校と高等学校のギャップを埋めるためには YL1.5～2.0（Headwords 数 400 語相当）程度の難易度のインプットの重要性を示唆していた[49]。Headwords 数 400 語の GR は，Oxford Bookworms Library Stage 1 である。3.3.1 で述べたように，中学校英語教科書基本語を多用している点において，Oxford Bookworms Library Stage 1 と Pearson English Readers Level 1 には共通点がある。しかし，3.1.2.1 の表 3-1 で示したように，Oxford Bookworms Library Stage 1 の 1 冊ずつの平均総語数は Pearson English Readers Level 1 の約 2 倍となっている。1.1.4 で述べたように，高校生が英語に苦手意識を持つ原因の 1 つとして，高等学校英語教科書において 1 課あたりの

総語数が増加するという量的変化があることが指摘されている[50]。中学校で学んだ語彙の復習をしつつ，高校 1 年次生にとって過度な負担がかからない[51] 教材としては，Oxford Bookworms Library Stage 1 よりも，Pearson English Readers Level 1（Headwords 数 300 語）のほうが適切であると考えられる。藤井の想定よりも低いレベルの図書を英語多読用図書として準備することが必要である。

1.1.1 で述べたように，文部科学省が第 3 期教育振興計画で掲げた目標では，中学卒業段階で CEFR A1 レベル（Headwords 数 300 語），高等学校卒業段階で CEFR A2 レベル（Headwords 数 400 語）程度を達成する中高生を全体の 50%にすると述べられている[52]。高校卒業までに CEFR A2 レベル（Headwords 数 400 語）から B1 レベル（Headwords 数 700 語）に到達することが目標にされている。中学校卒業段階の目標が CERR A1 であるということは，目標値に達していないまま卒業した高校 1 年次生は，A1（Headwords 数 300 語）語以下の GR，Oxford Bookworms Library であれば Starter（Headwords 数 250 語），Pearson English Readers であれば Easystarts（200 語）のほうが流暢な理解をもたらす英語多読用図書になる。そのため，高等学校での ER 指導において語彙学習に資する英語多読用図書の難易度は Pearson English Readers Level 1（Headwords 数 300 語）程度から Oxford Bookworms Library Level 2（Headwords 数 700 語）程度になり，Headwords 数 700 語以上よりも，300 語以下の難易度の英語多読用図書の優先度が高くなると考えられる。

3.3.5　高等学校での ER 指導において語彙学習に資する英語多読用図書の種類

GR である Pearson English Readers Level 1 と Oxford Bookworms Library Stage 1 では，中学校英語教科書基本語の出現回数が多いだけではなく，10 回以上繰り返された中学校英語教科書未出現語も多かった。GR は第二言語学習者を対象とした図書であるため，これらのシリーズを ER 指導に用いることで，中学 3 年次と高校 1 年次に使用する中学校英語教科書難易度の差異を解消し，中学校教科書未出現語の定着が可能となることが示唆された。特に Pearson English Readers Level 1 は中学校英語教科書既習語を多用していた。高校 1 年次生にとっての過度な負担がかからないレベルの教材[53] として，中学校英語教科書の語彙を復習することになる。一方で，3.3.2 で述べたように，Pearson English Readers Level 1 や Oxford Bookworms Library Stage 1 は使用語彙を限定しているために，中学校英語教科書基本語の復習はできるが，未知語学習によって語彙サイズを増加さ

せることは難しい。

Nate the Great Series のような低年齢層を対象とした原書児童書のシリーズは，JACET8000 基本語のカバー率や中学校英語教科書基本語のカバー率から，高校 1 年次生であれば苦痛を感じることなく読めるレベルの図書であることが示された。難易度幅が狭いため，自分の学習レベルと合致し，なおかつ興味関心のある原書児童書のシリーズと出合うことができれば，シリーズを継続して読むことで難易度の相似した図書を選択することができる。また，総語数は Pearson English Readers Level 1 と同程度であるが，中学校英語教科書基本語以外の語も多く出現していた。流暢な読みをしつつ，未知語学習にも使用できる図書であることが示された。

同一作者のシリーズを集中的に読むことで語彙や構文を身につけられるということは，1.1.3.3 で述べた作家独特の文体や使用語彙に慣れることができるとしたクラッシェンの Narrow Reading[54] に通じるものである。ある作家やトピックを読み進める Narrow Reading を難易度の低い原書児童書のシリーズで行うことで，語彙学習としての効果が得られることが確認できた。シリーズを 1 巻目から順に読むことによって，中学校英語教科書基本語だけではなく未知語も習得できるため，GR とは異なる形ではあるが，語彙学習に利用できることが示された。

3.4　本章のまとめ

1.1.4 で述べたように，先行研究においては中学 3 年次と高校 1 年次に使用する中学校英語教科書の総語数や語彙，構文の難易度幅が広いため[55] [56] [57]，高校 1 年次前半に英語学習に挫折する高校生が多いことが課題となっていた[58]。中学校英語教科書と高等学校英語教科書の難易度差への対処方法として，ER 指導の有用性が示唆されていた[59]。1.1.3.3 で述べたように，日本にける英語多読および ER 指導の広がりは，GR よりもより平易な LR や児童書を組み合わせたことで敷居が低くなったことにも一因があるとされている[60]。高等学校での ER 指導においても，GR だけではなく，LR や原書児童書が用いられていると推察される。しかし，1.1.3.3 で述べたように，ER 研究者の多くが GR を推奨しており[61] [62] [63]，原書児童書についての研究は少ない。原書児童書が高校生の語彙学習に資する英語多読用図書になるかということについては明らかにされてこなかった。

本章では，日本の高等学校で英語多読あるいはER指導に用いられているGRと原書児童書のシリーズで用いられている語彙の特徴を調査して，高校生の語彙学習に資する英語多読用図書について検討した。

調査の結果，総語数が同程度のGRと原書児童書とでは，出版社提示レベルで1段階以上の差異が生じる可能性のあることが示された。中学校英語教科書基本語コーパスの結果からは，中学校英語教科書ではJACET8000基本2,000語以上の語も使用しているため，JACET基本1,000語のカバー率よりも中学校英語教科書基本語カバー率のほうが高くなることが示された。

先行研究では，Headwords数400語程度の英語多読用図書が中学校英語教科書と高等学校英語教科書の難易度差を埋めるものとして適切な難易度だと考えられていた。本研究の調査によって，中学校教科書基本語のカバー率および総語数という点で，Headwords数300語程度かそれ以下のGRが中学校英語教科書と高等学校英語教科書の難易度差を埋めるためには適切であることが明らかになった。高校生の語彙学習に資する英語多読用図書の基準となり得る難易度の枠組みとして，先行研究で示されたものよりもさらに低いレベルであるHeadwords数300語程度から，高校卒業までの目標であるCEFR B1程度の難易度であるHeadwords数700語程度のGRおよび原書児童書のシリーズがあることが示唆された。

原書児童書のシリーズはシリーズ内の1冊ずつの難易度の差異を示す標準偏差が小さいことが示された。難易度の低い原書児童書のシリーズはシリーズ内で難易度が近似した図書に出合えるため，自分の英語力とはかけ離れた図書を選択する危険性が少ない。高校生の語彙学習に資する英語多読用図書として活用できることが明らかになった。

同じ語彙との繰り返しの出合いのためにはGRを活用することが望ましいが，限定された語彙を繰り返しているために語彙サイズの拡大は難しい。難易度の低い原書児童書のシリーズは，中学校英語教科書基本語との繰り返しの出合いによる復習と同時に，未知語学習にも活用できる。GRとは異なる形ではあるが，語彙学習に利用できることが示された。

【本章の引用文献・注】

---

[1]）及川賢. 検定教科書（外国語科（英語））を通してみた中高間のギャップ. 埼玉大学紀要教育学部. 2007, vol.56, no.2, p.79.

[2]）根岸雅史. Lexile Measureによる中高大英語教科書のテキスト難易度の研究. ARCLE REVIEW. 2015, vol.9, p.13-15.

[3]）大田悦子. Lexile Measureを用いた中高英語教科書の難易度比較. 白山英米文学. 2016, no.41, p.18-19.

[4]）村岡亮子. 中学校検定教科書で学習される語彙, 学習されない語彙：延べ語数, 異なり語数, 語彙レンジの視点から. STEP BULLETIN. 2010, 第22回 研究助成, p.188.

[5]）藤井数馬. 英語多読導入期に用いる多読図書における YL 指数と Lexile 指数の相関調査：両指数の教育・学習上の特性の整理とともに. Eiken bulletin =「英検」研究助成報告. 2017, vol.29, p.165.

[6]）Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Education Books, 1982, xi,235p.

[7]）Krashen, Stephen. *The Input hypothesis：Issues and Implication*. Longman, 1985, viii, 120p.

[8]）Day, Richard. R.；Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, xv,222p.

[9]）Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Education Books, 1982, p.32.

[10]）酒井邦秀監修, 古川昭夫, 河手真理子. 今日から読みます英語100万語!：いっぱい読めばしっかり身につく. 日本実業出版, 2003, p.136.

[11]）古川昭夫監修, 上田敦子著. 英語多読入門：やさしい本からどんどん読もう!. 2011, p.42-43.

[12]）Pearson. “Grading of Language”. https://www.pearson.com/content/dam/one-dot-com/one-dot-com/apac/japan/educator/PEGR_Grading-of-language.pdf,（参照2023-01-14）.

[13]）Pearson. “Pearson English Readers Level 1: Detailed information （word count, blurbs, language type, etc）”. *Pearson*. https://www.pearson.com/content/dam/one-dot-com/one-dot-com/apac/japan/catalog/Pearson%20English%20Readers%20level%201%20（jap）.pdf,（参照2023-01-14）.

[14]) amazon. “Penguin Readers Level 1 ” . *amazon.co.jp*. https://www.amazon.co.jp/penguin-readers-level-1/s?k=penguin+readers+level+1, （参照2023-01-14）.

[15]）Oxford University Press. “Oxford Bookworms Library” . *Oxford University Press*. https://www.oupjapan.co.jp/ja/gradedreaders/bookworms.shtml, （参照2023-01-14）.

[16]）Oxford University Press. “Oxford Graded Readers 2021：日本語版カタログ” . https://view.pagetiger.com/jp-readers-catalogue-2021, p.33-42, （参照2023-01-14）.

[17]）高瀬敦子. 英語多読多聴指導マニュアル. 大修館書店, 2010, p.155.

[18]）古川昭夫, 神田みなみ, 小松和恵, 畑中貴美, 西澤一. 英語多読完全ブックガイド：めざせ1000万語!. コスモピア, 2005, p.188.

[19]) WebData Technology Corporation. “Nate the Great ” . *Kids Book Series*, https://www.kidsbookseries.com/nate-the-great/, （accessed 2023-01-14）.

[20]) WebData Technology Corporation. “Magic Tree House”. *Kids Book Series*. https://www.kidsbookseries.com/magic-tree-house/, （accessed 2023-01-14）.

[21]）藤井数馬. 英語多読導入期に用いる多読図書におけるYL指数とLexile指数の相関調査：両指数の教育・学習上の特性の整理とともに. Eiken bulletin＝「英検」研究助成報告. 2017, vol.29, p.151-166.

[22]）日本英語検定協会. “各級の目安” . 英検. https://www.eiken.or.jp/eiken/exam/about/, （参照2023-01-14）.

[23]）MetaMetrix. “Lexile® Measurement of Tests：EIKEN & Test of English for Academic Purposes”. http://metametrics.s3.amazonaws.com/public/dynamic/international/pdfs/Eiken_Text_Measurement_Report_Digital.pdf, （accessed 2023-01-14）.

[24]) 文部科学省. “令和元年度公立中学校における英語教育実施状況調査” . https://www.mext.go.jp/content/20200715-mxt_kyoiku01-000008761_5.pdf,（参照2023-01-14）.

[25]）MetaMetrix. “Lexile® Measurement of Tests：EIKEN & Test of English for Academic Purposes”. http://metametrics.s3.amazonaws.com/public/dynamic/international/pdfs/Eiken_Text_Measurement_Report_Digital.pdf, （accessed 2023-01-14）.

[26]) Lexile. “About Lexile Measures for Reading”. Lexile Framework for Reading. https://lexile.com/parents-students/understanding-your-lexile-measure/lexile-

measures-reading/, （accessed 2023-01-14）.

[27] Webb, Stuart；Macalister, John. Is Text Written for Children Useful for L2 Extensive Reading?. *tesol Quarterly*. 2013, vol.47, no.2, p.300-322.

[28] 染谷泰正. “英文語彙難易度解析プログラム（Word Level Checker：WLC）”. 青山学院大学. http://someya-net.com/wlc/index_J.html, 2006, （参照2023-01-14）.

[29] Wodinsky, Marilyn；Nation, Paul. Learning from Graded Readers. *Reading in a Foreign Language*. 1988, vol.5, no.1, p.158.

[30] 三省堂ほか編. NEW CROWN 1 [平成28年度採用]：ENGLISH SERIES. New Edition. 三省堂, 2015, 159p.

[31] 三省堂ほか編. NEW CROWN 2 [平成 28 年度採用]：ENGLISH SERIES. New Edition. 三省堂, 2015, 159p.

[32] 三省堂ほか編. NEW CROWN 3 [平成 28 年度採用]：ENGLISH SERIES. New Edition. 三省堂, 2015, 159p.

[33] 東京都教育委員会. “平成28~31年度使用教科書採択地区別の採択結果（公立中学校）”. https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/textbook/adoption_policy_other/adoption_result/results_2016_02_public.html, （参照2023-01-14）.

[34] 東京都教育委員会. “令和3~6年度使用教科書採択地区別の採択結果（公立中学校）”. https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/textbook/adoption_policy_other/adoption_result/results_2021_public.html, （参照2023-01-14）.

[35] 東京都教育委員会. “令和3～6年度使用教科書調査研究資料（中学校）：英語”. 東京都教育委員会. https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/textbook/adoption_policy_other/survey_research_materials/files/research_2021_js/16-r.pdf, （参照2023-01-14）.

[36] 大田悦子. Lexile Measureを用いた中高英語教科書の難易度比較. 白山英米文学. 2016, no.41, p.13, p.11.

[37] 大槻きょう子, 高瀬敦子. 多読用図書教材が英語習得に及ぼす影響：L1 児童用英語絵本と中学英語教科書との違い. 英語教育研究（SELT）, 2012, no.35, http://jera-tadoku.jp/papers/2012-talase-kansai_eigokyoiku-20120222.pdf, （参照2023-01-14）.

[38] 大槻きょう子, 高瀬敦子. 多読用教材としてのL1児童用英語絵本の人気の秘密：文科省英語教科書と比較して. 日本多読学会紀要. 2014, vol.7, p.10-26.

[39] 根岸雅史. Lexile Measureによる中高大英語教科書のテキスト難易度の研究. ARCLE REVIEW. 2015, vol.9, p.11-12.

[40] 大田悦子. Lexile Measureを用いた中高英語教科書の難易度比較.白山英米文学. 2016, no.41, p.12.

[41] Lexile. “About Lexile Measures for Reading”. *Lexile Framework for Reading*. https://lexile.com/parents-students/understanding-your-lexile-measure/lexile-measures-reading/, （accessed 2023-01-14）.

[42] Nation, I.S.P. *Learning Vocabulary in Another Language*. Cambridge, 2001, p.73.

[43] Cheetham, Dominic. Extensive Reading of Children’s Literature in First, Second, and Foreign Language Vocabulary Acquisition. *CLELE journal*. 2005, vol.3, Issue 2, p.13.

[44] Webb, Stuart；Macalister, John. Is Text Written for Children Useful for L2 Extensive Reading?. *tesol Quarterly*. 2013, vol.47, no.2, p.302.

[45] Nation, Paul；Wang Ming-tzu, Karen. Graded Readers and Vocabulary. *Reading in a Foreign Language*. 1999, vol.2, no.2, p.355-380.

[46] Hirsh, David；Nation, Paul. What Vocabulary Size is Needed to Read Unsimplified Texts for Pleasure? *Reading in a Foreign Language*. 1992, vol.8, no.2, p.689-696.

[47] Wodinsky, Marilyn；Nation, Paul. Learning from Graded Readers. *Reading in a Foreign Language*. 1988, vol.5, no.1, p.155-161.

[48] 加野まきみ. 多読学習用リーダー・コーパス構築と分析 ： 学習者が感じる「難しさ」の解明へ向けて. 京都産業大学論集. 人文科学系列. 2016, vol.49, p.183-200.

[49] 藤井数馬. 英語多読導入期に用いる多読図書における YL 指数と Lexile 指数の相関調査 ： 両指数の教育・学習上の特性の整理とともに. Eiken bulletin =「英検」研究助成報告. 2017, vol.29, p.165.

[50] 及川賢. 検定教科書（外国語科（英語））を通してみた中高間のギャップ. 埼玉大学紀要教育学部. 2007, vol.56, no.2, p.79.

[51] 大田悦子. Lexile Measureを用いた中高英語教科書の難易度比較. 白山英米文学. 2016, no.41, p.18-19.

[52] 文部科学省. “第3期教育振興計画（平成30年6月15日　閣議決定）”. https://www.mext.go.jp/content/1406127_002.pdf, p.61, （参照2023-01-14）.

[53] 大田悦子. Lexile Measure を用いた中高英語教科書の難易度比較. 白山英米文学. 2016, no.41, p.18-19.

[54] Krashen, Stephen. The Case for Narrow Reading. *Language Magazine*. 2004, vol.3, no.5, p.17-19.

http://www.sdkrashen.com/content/articles/2004_case_for_narrow_reading_lang_mag.pdf, （accessed 2023-01-14）.

[55] 及川賢. 検定教科書（外国語科（英語））を通してみた中高間のギャップ. 埼玉大学紀要教育学部. 2007, vol.56, no.2, p.73-80.

[56] 根岸雅史. Lexile Measureによる中高大英語教科書のテキスト難易度の研究. ARCLE REVIEW. 2015, vol.9, p.11-12.

[57] 大田悦子. Lexile Measure を用いた中高英語教科書の難易度比較. 白山英米文学. 2016, no.41, p.13.

[58] ベネッセ教育総合研究所.“高1生の英語学習に関する調査 〈2015-2019継続調査〉”. https://berd.benesse.jp/global/research/detail1.php?id=5467, （参照2023-01-14）.

[59] 及川賢. 検定教科書（外国語科（英語））を通してみた中高間のギャップ. 埼玉大学紀要教育学部. 2007, vol.56, no.2, p.79.

[60] 藤井数馬. 英語多読導入期に用いる多読図書における YL 指数と Lexile 指数の相関調査：両指数の教育・学習上の特性の整理とともに. Eiken bulletin =「英検」研究助成報告. 2017, vol.29, p.152.

[61] Day, Richard. R.；Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.63-64.

[62] Nation, Paul；Waring, Rob. “Extensive Reading and Graded Readers”. *Reading Oceans*, 2013. http://www.readingoceans.jp/ComData/files/Paul%20Nation%20%20Rob%20Waring's%20ER%20Booklet_eng.pdf, p4, （accessed 2023-01-14）.

[63] Webb, Stuart；Macalister, John. Is Text Written for Children Useful for L2 Extensive Reading?. *tesol Quarterly*. 2013, vol.47, no.2, p.300-322.

第 4 章　高等学校図書館における英語多読用図書の提供と支援

2.3.2 で述べたように，先行研究では ER 指導を実践している英語科教諭や研究者が，学校図書館の活用が ER 指導上の負担軽減となることを指摘していた[1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8)]。英語科教諭は，生徒が毎日アクセスできる場所であること[9)]，教室に英語多読用図書を運ぶ形態で実施される ER 指導では図書の種類や数量が限られてしまうこと[10) 11)] などから，学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架を期待していた。

しかし従来の先行研究では，学校図書館への英語多読用図書の所蔵と排架に，置き場所として以外の利点があるのかということについての検討が不足していた。

そこで本章では明治大学付属明治高等学校中学校（以下，明高中）図書館において行った実践の結果をもとに[12)]，高等学校図書館の英語多読用図書の所蔵と排架を中心とした支援がどのように ER 指導における英語科教諭や高校生の英語力向上支援となり得るのかについて検討する。

なお，明高中図書館は中学生，高校生共有の施設であるため，以下，特に高校生に限定されない場合には「生徒」という用語を用いる。中学生，高校生に限定される場合には，それぞれ個別に記す。

4.1　調査方法

4.1.1　調査対象校の概要

調査方法は事例研究である。調査対象とした明高中は，中学生約 500 人，高校生約 800 人，計約 1,300 人が在籍する共学校である。他の国公私立大学への進学希望者を除いて，90%以上の高校生が内部推薦制度によって明治大学に進学するため，予備校や進学塾，補習塾に通う高校生は少ない。そのために明治大学進学後の付属出身高校生と一般受験生との学力，特に英語力における格差が指摘されることもあった。そこで，2012 年度に次年度入学生（2013 年度入学，2015 年度卒業）から，高校 3 年次の 2 学期時点で実用英語技能検定（以下，英検）2 級合格，および TOEIC® Listening and Reading Test（以下，TOEIC）450 点以上の取得が必須となった。なお，中学校から高等学校への内部進学基準にも，中学 3 年次の 2 学期時点で，英検準 2 級 1 次合格が必要とされることも決定した。高等学校 1 年次から 3 年次までの英語総単位数は 24 単位で，文部科学省が定めた標準単位数 17 単位[13)] よりも 7 単位多い[14)]。また，英検および TOEIC が校内で年間複数回実施され，それをほぼ全員が受験する。

表 4-1 は，2009 年度から 2020 年度の PTA 会報から，高校 3 年次生の TOEIC 平均取得点と英検 2 級以上の合格者率を抜粋したものである[15]。

表 4-1　高校 3 年次 TOEIC 平均取得点

年度	2009年度 *(n=229)*	2010年度 *(n=282)*	2011年度 *(n=255)*	2012年度 *(n=264)*	2013年度 *(n=256)*	2014年度 *(n=259)*	2015年度 *(n=282)*	2016年度 *(n=238)*	2017年度 *(n=274)*	2018年度 *(n=288)*	2019年度 *(n=258)*	2020年度 *(n=259)*
TOEIC 取得点	415	461	460	469	480	512	550	569	568	579	576	534
英検2級以上 合格者率			58.4	64.0	62.7	79.4	97.5	97.9	99.3	100.0	100.0	96.1

明治大学付属明治高等学校・中学校 PTA 会報より筆者作成[16]

4.1.2　調査対象図書館の概要と英語多読用図書の所蔵と排架の経緯

調査対象とした明高中図書館は約 500 平方メートルの館内に日本語の図書約 62,000 冊，英語の図書（英語多読用図書以外を含む）約 6,800 冊を所蔵しているほか，雑誌約 50 タイトル，新聞 10 紙を購読している。図書，雑誌はほぼすべて学校図書館蔵書管理システムによって管理し，生徒証による貸出を行っている。

ER 指導そのものは 2006 年度から開始していたが，当初，英語多読用図書は英語科研究室に所蔵され，それを英語科教諭がブックトラックで教室に運び，授業時間内に何冊かの図書を読ませたり，貸出記録用のノートに記入したりしていた。明高中図書館には，2002 年度から GR を中心に約 400 冊が排架され，英訳された漫画も十数冊あったが，LR および原書児童書の排架はなく，英語科教諭がこれらの図書を利用することはなかった。

2008 年度には英語研究室に所蔵された英語多読用図書は 2,500 冊以上となっていた。蔵書の増加に伴って，紛失や延滞などの問題が発生していた。そこで，2009 年度から，英語科研究室内に保管していた英語多読用図書のうち，約 1,600 冊を学校図書館に移管した。移管と同時に学校図書館蔵書管理システムに書誌的事項を登録し，機械での貸出・返却を可能とした。英語多読用図書は学校図書館予算での購入ではなく，英語科予算で購入したもののため，日本語の図書とは別の資料区分とした。これは，通常の日本語の図書とは異なり，生徒の貸出状況や延滞状況等を英語科教諭と共有するためでもある。貸出状況把握の場合は書名についての共有ではなく，冊数，レベルと総語数についての情報，延滞状況の場合には冊数のみの情報を共有している。

なお，一部の高等学校の専門学科や総合学科が ER 授業を必修あるいは選択科目としている状況とは異なり[17) 18) 19)]，科目としての ER 授業は設置されていない。高校 1 年次から 3 年次まで，同一担当教諭が ER 指導を行うことが多い。英語表現あるいはコミュニケーション英語などで実施されるが，ER 指導がどの科目内で実施されるかは統一されていない。これは英語科内の判断によるものであるため，理由は明らかではない。1 学期に 1 度，あるいは 2 か月に 1 度程度，英語科授業内に ER のための時間をとることはあるが，多くは授業外課題として英語多読用図書を読ませている。

4.1.3　調査手続き

本章では，2009 年度からの学校図書館の ER 指導支援について検討する。調査においては，はじめに ER 指導のための学校図書館の取り組みについて述べる。次に，貸出者率，学校図書館内授業数，高校生の TOEIC 取得点等の結果から，英語多読用図書の所蔵と排架が英語科教諭や高校生への支援となり得るのかということについての検討を行う。貸出者率はブレインテック社の情報館を用いて，入学年度別に調査を行った。貸出者率とは図書館登録者に対して実際に貸出を行った人数がどれだけいたかという割合を示したものである。学校図書館の場合，登録者は学年，クラスの所属人数となる。年度末統計においては，1 冊も借りていないゼロ冊者数を把握するために用いるデータとなる。先行研究において ER 指導が実施されたことによって「図書館が活性化した」と述べられた場合は，貸出冊数の増加を指している[20) 21)]。しかし，貸出冊数の調査では 1 人の生徒が 300 冊借りていても，30 人の生徒が 10 冊ずつ借りていても同じ結果となる。学校図書館の利用状況の把握には，貸出冊数の増加よりも，在籍者のうち何人の生徒が学校図書館を利用したかという貸出者率の把握のほうが適切であると考えられる。また，登録者別の貸出データを Excel にエクスポートして，貸出総語数，レベル，種類の検討を行った。

4.2　調査の結果

4.2.1　学校図書館による取り組み

4.2.1.1　英語多読用図書の所蔵と排架

学校図書館内に英語多読用図書を排架したのは 2009 年度からである。2.2.1.2 で述べたように，先行研究では複数の研究者が，英語科教諭が図書館員に対して，生徒が母語でどのような図書を好んで借りているのかを相談する必要性を指摘していた[22) 23) 24) 25)]。明高中の場合にも，英語多読用図書の選書に際しては，英語科教諭が司書教諭に中学生，高校生が好んで読んでいる日本語の図書についての確認を行い，生徒が好むであろうと推測されるジャンルを多く揃えた。加えて，2011 年度末には英語科教諭と司書教諭とが合同で質問紙調査を実施して，生徒が好む英語多読用図書のジャンルとこれまで読んできた日本語の図書との関係を調査した。その結果，生徒に人気のある英語多読用図書は，日本語で読んだことのあるミステリやファンタジー，映画化やドラマ化などである程度物語の筋を知っている図書であることが明らかになった[26)]。日本語の図書と同様のジャンルが好まれる傾向にあった。そこでさらに，司書教諭と英語科教諭とが共同で，日本語に翻訳されてい

たり，高校生がある程度物語の筋を知っていたりするミステリやファンタジー，伝記等の英語多読用図書を意識的に選書して購入した。

排架においては事前準備として，英語科教諭と司書教諭と合同で，Headwords 数と総語数から総合的に判断した難易度別分類である明高中レベルを設定した。これは 2.2.1.2 で述べたように，英語多読用図書は学校図書館が通常行っている主題分類とは別に，難易度別に分類して排架することが重視されるからである[27) 28)]。先行研究にもあったように，難易度を色別で分類し，加えて，総語数を色付きテープ（テプラテープ）で英語多読用図書上部に貼付した。これは難易度別排架を行うためだけでなく，生徒が図書を選ぶときに一目で総語数を参考にできるようにするためのものである。先行研究で英語科教諭が期待していたように，英語多読用図書は学校図書館内で日本語の図書とは異なる場所に別置した。

2.3.2 で述べたように，従来の ER 指導実践では，学校図書館利用の主な利点は場の雰囲気が良いことや，大量の図書の所蔵場所であることとされていた。貸出・返却をする際にも，学校図書館蔵書管理システムでの貸出・返却という簡便さが利点として考えられていた。明高中図書館では，英語多読用図書を学校図書館蔵書管理システムに登録する際に，英語科教諭と司書教諭が分担して，書名，著者名などの基本的な書誌的事項だけではなく，レベル，総語数，GR・LR・原書児童書などの種類，フィクションかノンフィクションかなどのジャンルを入力した。これは，生徒が英語多読用図書を検索する際に，書名や著者名に加えて総語数や種類でも検索できるようにするためである。また，英語科教諭や司書教諭が，どのような難易度，種類の英語多読用図書が多く借りられているかを把握することも可能となった。

表 4-2 は明高中レベルと，各レベルに含まれる代表的な GR，LR，原書児童書について示したものである。想定した対象学年，GR の Headwords 数について示した（第 3 章で取り扱ったもの以外の代表的な GR，LR の JACET8000 基本語数については付録 2 を参照）。

表 4-2　明高中レベルと代表的な GR, LR のレベル

明高中レベル	GR/LR	出版社　・　レベル	Headwords数
Level 0 (Starter) (中2～高1)	GR	Pearson English Readers Easystarts	200
		Macmillan Readers Starter	200
		Foundation Reading Library Level 1-7	75-350
		Oxford Bookworms Starter	250
	LR	Step Into Reading Level 1, 2	(55-100)
		Oxford Reading Tree Stage 1 ～Stage 8	(20-230)
		I Can Read! Level 1	(160)
Level 1 (中3, 高1～)	GR	Cambridge English Readers Starter (S) / Beginner(1)	250-400
		Pearson English Readers Level 1, 2	300-600
		Macmillan Readers Beginner (2)	600
		Oxford Bookworms Stage 1, 2	400-700
	LR	Oxford Reading Tree Stage 9～	(300)
		I Can Read! Level 2, 3	(220-280)
		Step Into Reading Level 3	(250)
	原書児童書	Nate the Great Series	(240-460)
		Magic Tree House Series	(590-970)
Level 2 (高2～)	GR	Oxford Bookworms Stage 3	1,000
		Pearson English Readers Level 3	
		Cambridge English Readers Elementary(2), Lower-intermediate(3)	
		Macmillan Readers Elementary (3), Pre-Intermediate(4)	
	原書児童書	Cam Jansen Series	
		Zack Files Series	
		A to Z Mysteries Series	
Level 3	GR	Oxford Bookworms Stage 4, 5	1,400-1,800
		Pearson English Readers Level 4	
		Cambridge English Readers Intermediate(4), Upper- intermediate(5)	
		Macmillan Readers Intermediate(5)	
Level 4	GR	Oxford Bookworms Stage 6	2,500
		Pearson English Readers Level 5, 6	

4.2.1.2　英語多読用図書の年度別所蔵冊数

表 4-3 は，2009 年度の ER 指導開始時から，2019 年度末までの所蔵冊数を明高中レベル別に示したものである。

表 4-3　年度別の英語多読用図書所蔵冊数（明高中レベル別）

年度	2009年度多読開始		2009年度末		2010年度末		2011年度末		2012年度末		2013年度末	
明高中レベル	冊数	割合	冊数	割合	冊数	割合	冊数	割合	冊数	割合	冊数	割合
0(Starter) Headwords数200語以下程度	596	46.4%	1,090	44.3%	1,369	32.2%	1,450	30.7%	1,542	30.4%	1,542	30.4%
1 Headwords数250～700語程度	389	30.3%	673	27.3%	1,127	26.5%	1,299	27.5%	1,403	27.7%	1,403	27.7%
2 Headwords数1,000語程度	123	9.6%	287	11.7%	737	17.4%	874	18.5%	966	19.0%	966	19.0%
3 Headwords数1,400～1,800語程度	99	7.7%	182	7.4%	525	12.4%	586	12.4%	627	12.4%	627	12.4%
4 Headwords数2,500語程度	77	6.0%	231	9.4%	489	11.5%	512	10.8%	536	10.6%	536	10.6%
合計	1,284	100.0%	2,463	100.0%	4,247	100.0%	4,721	100.0%	5,074	100.0%	5,074	100.0%
レベル１/1人	0.5		0.8		1.4		1.6		1.8		1.8	
レベル0，1/1人	1.2		2.2		3.1		3.4		3.7		3.7	

年度	2014年度末		2015年度末		2016年度末		2017年度末		2018年度末		2019年度末	
明高中レベル	冊数	割合	冊数	割合	冊数	割合	冊数	割合	冊数	割合	冊数	割合
0(Starter) Headwords数200語以下程度	1,627	29.9%	1,785	31.3%	1,833	31.1%	1,911	30.6%	1,911	30.6%	2,208	32.4%
1 Headwords数250～700語程度	1,612	29.6%	1,677	29.4%	1,721	29.2%	1,897	30.4%	1,897	30.4%	2,103	30.9%
2 Headwords数1,000語程度	985	18.1%	1,008	17.7%	1,029	17.5%	1,069	17.1%	1,079	17.3%	1,109	16.3%
3 Headwords数1,400～1,800語程度	658	12.1%	670	11.7%	700	11.9%	744	11.9%	744	11.9%	766	11.2%
4 Headwords数2,500語程度	559	10.3%	570	10.0%	608	10.3%	617	9.9%	617	9.9%	625	9.2%
合計	5,441	100.0%	5,710	100.0%	5,891	100.0%	6,238	100.0%	6,248	100.0%	6,811	100.0%
レベル１/1人	2.0		2.1		2.2		2.4		2.4		2.6	
レベル0，1/1人	4.0		4.3		4.4		4.8		4.8		5.4	

高校生の人数は毎年約 800 人である。ER 指導開始時点の所蔵冊数は 1,284 冊（1 人あたり約 1.6 冊）であったが，2019 年度末には 6,811 冊（1 人あたり約 8.51 冊）となった。3.3.4 で述べたように，高校生の語彙学習に適した英語多読用図書の難易度を高校 1 年次で Headwords 数 300 語程度，高校 3 年間で優先的に読了する難易度を Headwords 数 400 語，卒業時の目標である CEFR A2／B1 レベルの Headwords 数を 700 語とすると，明高中レベルはレベル 0 が Headwords 数 200 語以下，レベル 1 が Headwords 数 250 語から 700 語であるため，主にレベル 1 が適切な難易度となる。

明高中レベル 1 は，開始時点では 1 人あたり 0.5 冊で，2014 年度末に 2.0 冊となり，2019 年度末で 2.6 冊となっていた。

明高中レベル 0 とレベル 1 の合計冊数は，2009 年度開始時点では 1 人あたり 1.2 冊で，2019 年度末時点では 5.4 冊となっていた。

4.2.1.3　オリエンテーションおよび学校図書館内の環境整備の実施

2012 年度からは英語科授業内において司書教諭による図書館利用指導のためのオリエンテーションを実施した。日本語の図書と同時に英語多読用図書についての説明を行った。2.2.1 で述べたように，先行研究の指導原則の中では，英語科教諭が手順を示し，方向づけることが示されている[29) 30) 31)]。しかし，2.3.2 で述べたように，難易度分類とラベル，排架場所の関係，OPAC の利用方法についての説明は，司書教諭や学校司書が行う日本語の図書に関する学校図書館利用指導としてのオリエンテーションと近似した内容である。そこで，2012 年度から高校 1 年次を対象に，司書教諭が読書や学習のために日本語の図書を探す方法に加えて，日本語の図書，英語多読用図書それぞれの排架場所，貸出冊数や期限，OPAC での検索方法やラベルと排架場所の関係，予約方法などを伝えるオリエンテーションを行った。英語多読用図書の選択方法として，難易度の低い英語多読用図書を読む重要性を伝えると同時に，明高中レベルや出版社が提示している Headwords 数の確認方法，難易度の低い英語多読用図書の排架場所についての説明を行った。

また，2017 年度からは，英語多読用図書の選択方法を容易にするために館内サインを作成して英語多読用図書の排架場所近くに展示し，さらに高校 1 年次のオリエンテーションで配布する『図書館利用案内』を改訂して，ER の取り組み方と英語多読用図書の難易度表を代表的な作品とともに掲載した[32)]。OPAC のトップページに，前年度に貸出が多かった図書のブックリストを，日本語の図書，英語多読用図書それぞれ掲載した。

4.2.2　年度別の変化

4.2.2.1　英語多読用図書の貸出者率

表 4-4 は，2008 年度から 2019 年度の学校図書館の高校生の英語多読用図書と日本語の図書の貸出者率を示したものである。比較のために ER 指導開始前年度の 2008 年度からの貸出者率を示した。2008 年度には 76.5%であった貸出者率が，2009 年度には 86.6%，2011 年度末には 92.3%となった。

2014 年度から全体，英語多読用図書，日本語図書と分けて出したのは，学校図書館蔵書管理システムの仕様が変わったからである。英語多読用図書と日本語の図書の双方を借りる高校生もいるが，英語多読用図書のみを借りる高校生，日本語の図書のみを借りる高校生がいることが示された。

英語科教諭の ER 指導実施状況に偏りがあるため，英語多読用図書の貸出者率が高い年度と，低い年度がある。高校 3 学年中，1 学年のみが主に実施していたり，2 学年が実施したりするためで，3 学年全体が同時に実施することは少ないからである。同様に，国語科や社会科の指導状況にも偏りがあるために，和書の貸出者率も上下している。

表 4-4　高校生の貸出者率

年度	和洋合計 貸出者率	英語多読 貸出者率	和書 貸出者率	在籍者数
2008	76.5%			739
2009	86.6%			777
2010	92.6%			815
2011	92.3%			790
2012	92.6%			791
2013	98.8%			804
2014	89.4%	85.9%	63.7	788
2015	83.7%	63.6%	72.4	805
2016	92.6%	68.9%	86.3	808
2017	84.4%	93.9%	82.5	826
2018	74.5%	64.4%	73.2	812
2019	75.0%	56.9%	70.7	780

表 4-5 は，2014 年度入学生から 2019 年度の高校生の英語多読用図書の貸出者率について，学年別に示したものである。2014 年度入学生は高校 1 年次には 78.0%が英語多読用図書を借りており，2015 年度の高校 2 年次には 50.6%，2016 年度の高校 3 年次には 38.0%と，年次が上がるにつれて貸出者率が減少していることが示された。同様に，2017 年度入学生も年次が上がるにつれて貸出者率が減少していた。

同一担当教諭が 3 年間指導していても，2015 年度入学生のように年次が上がるにつれて貸出者率が増加する学年と，2014 年度，2017 年度入学生のように減少する学年とがあった。2016 年度入学生は高校 1 年次，3 年次が同一教諭で，高校 2 年次は他の教諭であったが，貸出者率はつねに 98%以上となっていた。2016 年度入学生は高校在学中の 3 年間，欠席の多い高校生以外全員が英語多読用図書を借りていた。2018 年度入学生は高校 1 年次から貸出者率が低かった。

表 4-5　学年別貸出者率

年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
高1	78.0%	40.1%	98.3%	99.2%	10.6%	100.0%
高2	82.3%	50.6%	70.3%	99.7%	80.4%	3.1%
高3	97.3%	98.4%	38.2%	82.8%	99.3%	67.3%
高校全体	85.9%	63.6%	68.9%	93.9%	64.4%	56.9%
在籍者数	788	805	808	826	812	780

4.2.2.2　学校図書館内授業数

表 4-6 は，高校生が学校図書館内で実施した授業を年度ごとに示したものである。各年次の英語科授業数，英語科授業数の合計，他教科も含めた学校図書館内での授業全体の時間数を示した。2010 年度には 10 時限であった英語科授業が，2012 年度には 57 時限となり，それ以降は毎年度 50 時限以上実施されるようになった。高校生を対象に実施された学校図書館内授業の 50%以上が英語科の授業であった年度が 2014 年度，2015 年度，2016 年度，2018 年度の 4 回あった。2013 年度以降の高校 1 年次の授業数には 4 月に実施される高校 1 年次 7 クラス分のオリエンテーション時間も含まれている。2012 年度は，英語科授業内での図書館オリエンテーションは実施されたが，学校図書館内ではなく教室で実施したために，高校 1 年次の学校図書館内授業時間数は 0 時間となっている。

2011 年度の高校 1 年次の英語科授業は 25 時限あり，うち 14 時限が 6 月第 1 週までに実施されていた。すべて ER 指導であり，週ごとに授業外で読む必要読了語数が指定されていた。2015 年度の高校 1 年次の英語科授業は 2011 年度同様に 25 時限が実施され，6 月第 2 週までには 14 時限の学校図書館内授業が実施されたが，うち 7 時限は図書館利用指導のためのオリエンテーション，他 7 時限はイングリッシュプレゼンテーションコンテストの準備で，オリエンテーション以外の ER 指導は行われていなかった。授業外課題としての必要読了語数は指定されていなかった。2018 年度高校 1 年次は図書館オリエンテーション以外の英語科授業が図書館内で実施されることはなかった。高校 2 年次，3 年次においても，学校図書館内で授業を実施する年度とそうではない年度とがあった。2018 年度高校 3 年次のように，コミュニケーション英語の授業がほぼすべて図書館内で実施されることもあった。

表 4-6　学校図書館内英語科授業数

年度	2010年度		2011年度		2012年度		2013年度		2014年度	
高1	4	1.7%	25	11.1%	0	0.0%	17	8.5%	48	34.5%
高2	0	0.0%	0	0.0%	43	18.4%	63	31.7%	0	0.0%
高3	6	2.5%	21	9.3%	14	6.0%	9	4.5%	43	30.9%
英語科授業数合計	10	4.2%	46	20.4%	57	24.4%	89	44.7%	91	65.5%
高校授業数合計	236	100.0%	225	100.0%	234	100.0%	199	100.0%	139	100.0%

年度	2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度	
高1	25	13.0%	42	31.8%	26	16.0%	7	2.5%	47	37.6%
高2	53	27.5%	0	0.0%	34	20.9%	0	0.0%	5	4.0%
高3	40	20.7%	31	23.5%	19	11.7%	203	73.6%	7	5.6%
英語科授業数合計	118	61.1%	73	55.3%	79	48.5%	210	76.1%	59	47.2%
高校授業数合計	193	100.0%	132	100.0%	163	100.0%	276	100.0%	125	100.0%

4.2.2.3　オリエンテーション実施前後の英語多読用図書貸出レベル

表 4-7 は，オリエンテーション実施以前，表 4-8 はオリエンテーション実施以後の高校 1 年次 1 学期の貸出結果を示したものである。なお，2017 年度からは，4.2.1.3 で述べたように，英語多読用図書の選択支援となる館内サインを提示し，『図書館利用案内』にも ER への取り組み方法や英語多読用図書の難易度，代表的な図書についての記載をしたため，実施以後の中でも分けて記載した。夏休み貸出は長期休み課題としての貸出になると考えられるため，夏休み貸出開始前の 6 月 30 日までを 1 学期の貸出とした。

表 4-7　オリエンテーション実施以前の 1 年次 1 学期貸出

明高中レベル	図書館オリエンテーション実施前							
	2009年度 (n=264)		2010年度 (n=275)		2011年度 (n=263)		小計 (n=802)	
	貸出冊数	割合（%）	貸出冊数	割合（%）	貸出冊数	割合（%）	貸出冊数	割合（%）
0(Starter) Headwords数200語程度以下	6	50.0	13	34.2	284	24.6	303	25.1
1 Headwords数250～700語程度	5	41.7	17	44.7	666	57.6	688	57.0
2 Headwords数1,000語程度	0	0.0	5	13.2	127	11.0	132	10.9
3 Headwords数1,400～1,800語程度	0	0.0	2	5.3	53	4.6	55	4.6
4 Headwords数2,500語程度	1	8.3	1	2.6	26	2.2	28	2.3
合計貸出冊数	12	100.0	38	100.0	1,156	100.0	1,206	100.0

表 4-8　オリエンテーション実施以後の 1 年次 1 学期貸出

明高中レベル	図書館オリエンテーション実施以後																合計 (N=2,704)	
											（図書館利用案内でER実施方法，英語多読用図書のレベルを説明）				小計 (n=1,902)			
	2012年度 (n=269)		2013年度 (n=284)		2014年度 (n=246)		2015年度 (n=282)		2016年度 (n=292)		2017年度 (n=263)		2018年度 (n=266)					
	貸出冊数	割合（%）	貸出冊数	割合（%）	貸出冊数	割合（%）	貸出冊数	割合（%）	貸出冊数	割合（%）	貸出冊数	割合（%）	貸出冊数	割合（%）	貸出冊数	割合（%）	貸出冊数	割合（%）
0(Starter) Headwords数200語程度以下	149	19.6	227	27.5	145	17.7	13	9.5	175	11.6	1,267	68.7	25	47.2	2,001	33.6	2,304	32.2
1 Headwords数250～700語程度	534	70.2	527	63.8	642	78.2	46	33.6	1,238	81.9	545	29.6	16	30.2	3,548	59.6	4,236	59.2
2 Headwords数1,000語程度	57	7.5	43	5.2	28	3.4	68	49.6	67	4.4	22	1.2	8	15.1	293	4.9	425	5.9
3 Headwords数1,400～1,800語程度	12	1.6	16	1.9	4	0.5	9	6.6	24	1.6	7	0.4	2	3.8	74	1.2	129	1.8
4 Headwords数2,500語程度	9	1.2	13	1.6	2	0.2	1	0.7	7	0.5	2	0.1	2	3.8	36	0.6	64	0.9
合計貸出冊数	761	100.0	826	100.0	821	100.0	137	100.0	1,511	100.0	1,843	100.0	53	100.0	5,952	100.0	7,158	100.0

オリエンテーション実施前である 2009 年度，2010 年度では 1 学期の貸出が 40 冊以下となっていた。2011 年度は司書教諭によるオリエンテーションはなかったが，4.2.2.2 で述べたように英語科教諭による ER 指導が実施されていたため，貸出冊数は多かった。2015 年度と 2018 年度は同じ英語科教諭が高校 1 年次生を担当しており，授業外に英語多読用図書を読むような課題が出されていなかったため，他の年度と比較すると貸出冊数が少なかった。2016 年度まではオリエンテーション実施以前，以後ともに明高中レベル 1（Headwords 数 250 語から 700 語）が多く借りられていた。館内サインを提示し，『図書館利用案内』に英語多読用図書の難易度や代表的な作品等を記載するようになった 2017 年度，2018 年度では明高中レベル 0（Headwords 数 200 語程度以下）が多く借りられていた。

レベル 1 以外の貸出では，オリエンテーション実施以後にはレベル 2（Headwords 数 1,000 語程度）以上の貸出が減少していた。総語数が多い図書や難易度の高い図書ではなく，難易度の低い図書を選択する傾向にあった。

4.2.2.4　高校生の TOEIC 取得点

4.2.2.4.1　入学年度別の高校生の TOEIC 取得点

1.3.3 で述べたように，先行研究において西澤は 200,000 語以上の読書量で自律的に ER を継続できるようになり[33]，300,000 語以上で英語運用能力を向上させられることを示唆していた[34] [35]。他にも，ER と TOEIC 取得点の関係を検討し，ER 指導の有用性を示唆した研究は複数ある[36] [37] [38] [39] [40] [41] [42] [43] [44] [45] [46] [47]。しかし，従来の先行研究では，ER 指導と TOEIC 取得点向上の有意性は示されているが，対象者数が限られていることが課題となっていた[48]。

そこで，2014 年度から 2018 年度に入学した高校生の高校 2 年次 6 月と高校 3 年次生の 6 月受験段階の英語多読用図書の貸出総語数，レベルと TOEIC 取得点についての調査を行った（筑波大学図書館情報メディア系研究倫理審査通知番号第 20-119 号）。4.2.1.1 で述べたように，書誌的事項の中に登録している英語多読用図書の総語数，レベル，種類などのデータと，高校 2 年次，3 年次 6 月の TOEIC 取得点結果を用いて検討した。

高校 2 年次 6 月は校内受験の 1 回目で，ほぼすべての高校生にとって初めての TOEIC 受験となる。高校 1 年次には TOEIC に関する授業はないため，高校 2 年次 6 月の校内受験は，4 月から約 2 か月のみの準備での受験となる。高校 2 年次には TOEIC 演習という

授業が設定されている。高校 3 年次 6 月の TOEIC 校内受験は校内でのみ受験していた高校生にとっては 4 回目の試験である。

何らかの理由でどちらか片方，あるいは双方を受験していない高校生は除外した。そのため 2014 年度入学生は高校 2 年次 243 名，高校 3 年次 238 名の在籍者中 233 名，2015 年度入学生は高校 2 年次 279 名，高校 3 年次 274 名中 261 名，2016 年度入学生は高校 2 年次 289 名，高校 3 年次 288 名中 277 名，2017 年度入学生は高校 2 年次 260 名，高校 3 年次 257 名中 251 名，2018 年度入学生は高校 2 年次 260 名，高校 3 年次 258 名中 246 名，合計 1,268 名を調査対象とした。

表 4-9 は，2014 年度から 2018 年度入学生の高校 2 年次 6 月の TOEIC 取得点結果と貸出者数を示したものである。1.1.1 で述べたように，文部科学省の目標では，高等学校においては高校生が卒業時に CEFR A2（TOEIC 225 点から 545 点）から B1 レベル（TOEIC 550 点から 780 点）を身につけるための教育を行うことが求められている[49]。そこで，550 点を中央値として，445 点以下，450 点から 545 点，550 点から 645 点，650 点以上に分けて調査した。

表 4-9　入学年度別高校 2 年次 6 月 TOEIC 取得点と貸出者数

入学年度および高校2年次在籍者数	2014年度 (n=243)		2015年度 (n=279)		2016年度 (n=289)		2017年度 (n=260)		2018年度 (n=260)		高校2年次生合計 (N=1,331)	
650点以上	10	4.3%	9	3.4%	16	5.8%	14	5.6%	10	4.1%	59	4.7%
550−645点	26	11.2%	30	11.5%	45	16.2%	34	13.5%	22	8.9%	157	12.4%
450−545点	67	28.8%	83	31.8%	69	24.9%	96	38.2%	69	28.0%	384	30.3%
445点以下	130	55.8%	139	53.3%	147	53.1%	107	42.6%	145	58.9%	668	52.7%
受験者合計	233	100.0%	261	100.0%	277	100.0%	251	100.0%	246	100.0%	1,268	100.0%
貸出者合計	181		183		274		251		26		915	

1,268 名中，TOEIC 取得点 445 点以下は 668 名（52.7%），450 から 545 点は 384 名（30.3%），550 から 645 点は 157 名（12.4%），650 点以上は 59 名（4.7%）となっていた。入学年度別に高校 1 年次から高校 2 年次 5 月末までに英語多読用図書を借りた貸出者の人数も併記した。英語科教諭の指導によって，学校図書館から英語多読用図書を借りない学年もある。そのため，2018 年度入学生は 246 人中 26 名の貸出しかなかった。

表 4-10 は，2014 年度から 2017 年度入学生の高校 3 年次 6 月および 2018 年度入学生の高校 3 年次 9 月の TOEIC 取得点結果と貸出者数を示したものである。2018 年度入学生は 2019 年度 3 月から 2020 年度 6 月まで，新型コロナウィルス感染対策のための休校期間があったため，高校 3 年次 1 回目の TOEIC 受験が 9 月となった。

1,268 名中，TOEIC 取得点 445 点以下は 345 名（27.2%），450 から 545 点は 453 名（35.7%），550 から 645 点は 269 名（21.2%），650 点以上は 201 名（15.9%）となっていた。高校 2 年次と比較すると，550 点以上を取得した高校生は 216 名（17.0%）から 470 名（37.1%）に増加していた。入学年度別に高校 1 年次から高校 3 年次 5 月末（2018 年度入学生は 8 月末）までに英語多読用図書を借りた貸出者の人数は，高校 2 年次と比較するとすべての学年で増加していた。2018 年度入学生は 246 人中 30 名の貸出しかなかった。

表 4-10　入学年度別高校 3 年次 6 月 TOEIC 取得点と貸出者数

入学年度および高校3年次在籍者数	2014年度入学生 *(n=238)*		2015年度入学生 *(n=274)*		2016年度入学生 *(n=288)*		2017年度入学生 *(n=257)*		2018年度入学生 *(n=258)*		高校3年次生合計 *(N=1,315)*	
650点以上	31	13.3%	36	13.8%	56	20.2%	37	14.7%	41	16.7%	201	15.9%
550−645点	53	22.7%	51	19.5%	66	23.8%	64	25.5%	35	14.2%	269	21.2%
450−545点	92	39.5%	98	37.5%	104	37.5%	92	36.7%	67	27.2%	453	35.7%
445点以下	57	24.5%	76	29.1%	51	18.4%	58	23.1%	103	41.9%	345	27.2%
受験者合計	233	100.0%	261	100.0%	277	100.0%	251	100.0%	246	100.0%	1,268	100.0%
貸出者合計	194		226		277		251		30		978	

4.2.2.4.2　TOEIC 取得点と貸出総語数の関係

表 4-11 は，2014 年度から 2018 年度入学生の高校 1 年次 4 月から高校 2 年次 5 月末まで貸出総語数と 6 月に受験した TOEIC の取得点について示したものである。

貸出総語数 199,999 語以下は 445 点以下の高校 2 年次生の割合がもっとも多かった。貸出総語数 9,999 語以下では，542 名中 329 名（60.7%），貸出総語数 10,000～49,999 語では 375 名中 197 名（52.5%），貸出総語数 50,000～99,999 語では 281 名中 119 名（42.3%），貸出総語数 100,000～199,999 語では 55 名中 23 名（41.8%）が TOEIC 取得点 445 点以下であった。貸出総語数 200,000 語以上では，15 名中 12 名（80%）が 450 から 645 点を取得していた。表 4-9 で示したように，受験者数 1,268 名中の貸出者数は 915 名である。そのため，9,999 語以下 542 名中 353 名は貸出がなかったために 0 語の高校生であった。

表 4-11　高校 2 年次 6 月の貸出総語数と TOEIC 取得点

	9,999語以下		10,000～49,999語		50,000～99,999語		100,000～199,999語		200,000語以上		全体	
650点以上	15	2.8%	15	4.0%	21	7.5%	5	9.1%	3	20.0%	59	4.7%
550-645点	46	8.5%	43	11.5%	54	19.2%	8	14.5%	6	40.0%	157	12.4%
450-545点	152	28.0%	120	32.0%	87	31.0%	19	34.5%	6	40.0%	384	30.3%
445点以下	329	60.7%	197	52.5%	119	42.3%	23	41.8%	0	0.0%	668	52.7%
合計	542	100.0%	375	100.0%	281	100.0%	55	100.0%	15	100.0%	1,268	100.0%

表 4-12 は，2014 年度入学生から 2017 年度入学生の高校 1 年次 4 月から高校 3 年次 5 月末までの貸出総語数と 6 月に受験した TOEIC の取得点について示したものである。先述したように 2018 年度入学生は新型コロナウィルスによる休校期間があったため，高校 1 年次 4 月から高校 3 年次 8 月末までの貸出総語数と 9 月に受験した TOEIC 取得点について示した。

貸出総語数 9,999 語以下では，446 名中もっとも多かったのは 445 点以下の 179 名（40.1%）で，貸出総語数 10,000～49,999 語では，227 名中もっとも多かったのは 450 から 545 点の 94 名（41.4%）であった。貸出総語数 50,000～99,999 語では，252 名中もっとも多かったのは 450 から 545 点の 106 名（42.1%）で，貸出総語数 100,000～199,999 語では，271 名中もっとも多かったのは 450 から 545 点 87 名（32.1%）であった。貸出総語数 200,000 語以上では，72 名中もっとも多かったのは 650 点以上の 32 名（44.4%）であった。貸出総語数が多くなるにつれて，445 点以下の人数が減少し，550 点以上の人数が増加していた。200,000 語以上の 72 名では，450 点以下は 10%以下の 7 名（9.7%）となり，550 点以上が 52 名（72.2%）となっていた。表 4-10 で示したように，受験者数 1,268 名中の貸出者数は 978 名である。そのため，9,999 語以下 446 名中 290 名は貸出がなかったために 0 語の高校生であった。

表 4-12　高校 3 年次 6 月の貸出総語数と TOEIC 取得点

	9,999語以下		10,000～49,999語		50,000～99,999語		100,000～199,999語		200,000語以上		全体	
650点以上	51	11.4%	29	12.8%	31	12.3%	51	18.8%	32	44.4%	194	15.3%
550-645点	63	14.1%	48	21.1%	61	24.2%	78	28.8%	20	27.8%	270	21.3%
450-545点	153	34.3%	94	41.4%	106	42.1%	87	32.1%	13	18.1%	453	35.7%
445点以下	179	40.1%	56	24.7%	54	21.4%	55	20.3%	7	9.7%	351	27.7%
合計	446	100.0%	227	100.0%	252	100.0%	271	100.0%	72	100.0%	1,268	100.0%

4.2.2.4.3　TOEIC 取得点と貸出図書の難易度との関係

表 4-13 は，2014 年度から 2018 年度入学生の高校 1 年次から 3 年次 5 月末までの貸出図書の明高中レベルを高校 3 年次 6 月の TOEIC 取得点別に示したものである。

TOEIC 受験者 1,268 人中，高校 1 年次から高校 3 年次 5 月末あるいは高校 3 年次 8 月末までに貸出のあった 978 名の貸出総冊数は 8,870 冊であった。高校生は TOEIC 取得点に関わらず，明高中レベル 1（Headwords 数 250 語から 700 語）をもっとも多く借りていた。

TOEIC545 点以下の高校生 587 名の貸出では，総貸出冊数 4,012 冊のうち，3,427 冊（85.4%）が Headwords 数 700 語以下の図書で，Headwords 数 1,000 語以上の図書の貸出は 585 冊（14.6%）であった。

TOEIC 取得点が 550 点から 645 点の高校生 223 名の貸出では，総貸出冊数 2,789 冊のうち，2,203 冊（79.0%）が Headwords 数 700 語以下の図書で，Headwords 数 1,000 語以上の図書の貸出は 586 冊（21.0%）であった。TOEIC650 点以上の高校生 168 名の貸出では，総貸出数 2,069 冊のうち，1,473 冊（71.2%）が Headwords 数 700 語以下の図書で，Headwords 数 1,000 語以上の貸出は 596 冊（28.8%）であった。

表 4-13　TOEIC 取得点別貸出図書の明高中レベル

TOEIC取得点	445点以下		450-545点		550-645点		650点以上		全体	
	CEFR A1 A2		CEFR A2～		CEFR B1～					
人数(貸出あり総数)	219/351		368/453		223/270		168/194		978/1,268	
レベル（Headwords数）	冊数	比率	冊数	比率	冊数	比率	冊数	比率	冊数	比率
0　Starter（250語以下）	409	26.6%	591	23.9%	501	18.0%	240	11.6%	1,741	19.6%
1（250～700語）	901	58.5%	1,526	61.7%	1,702	61.0%	1,233	59.6%	5,362	60.5%
2（1,000語）	175	11.4%	268	10.8%	391	14.0%	366	17.7%	1,200	13.5%
3（1,400～1,800語）	45	2.9%	77	3.1%	133	4.8%	150	7.2%	405	4.6%
4（2,500語）	9	0.6%	11	0.4%	62	2.2%	80	3.9%	162	1.8%
合計	1,539	100.0%	2,473	100.0%	2,789	100.0%	2,069	100.0%	8,870	100.0%

4.2.2.4.4　TOEIC 取得点と貸出図書の種類との関係

表 4-14 は，2014 年度から 2018 年度入学生の高校 1 年次から 3 年次 5 月末までに貸出のあった英語多読用図書の種類を，高校 3 年次 6 月の TOEIC 取得点別に示したものである。

TOEIC545 点以下の高校生 587 名の貸出では，総貸出冊数 4,012 冊のうち，GR は 1,068 冊（26.6%），LR は 1,161 冊（28.9%）で，原書あるいは原書児童書の貸出は 1,581 冊（39.4%）であった。TOEIC 取得点が 550 点から 645 点の高校生 223 名の貸出では，総貸出冊数 2,789 冊のうち，GR は 771 冊（27.6%），LR が 732 冊（26.2%）で，原書あるいは原書児童書の貸出は 1,148 冊（41.2%）であった。TOEIC650 点以上の高校生 168 名の貸出では，総貸出数 2,069 冊のうち，GR が 599 冊（29.0%），LR が 382 冊（18.5%），原書あるいは原書児童書が 1,026 冊（49.6%）であった。高校生は TOEIC 取得点に関わらず，原書あるいは原書児童書を多く借りていた。絵本や漫画の貸出は少なかった。

表 4-14　TOEIC 取得点別貸出図書の種類

TOEIC取得点	445点以下		450-545点		550-645点		650点以上		全体	
	CEFR A1/ A2		CEFR A2～		CEFR B1～					
人数	219/351		368/453		223/270		168/194		978/1,268	
種類／冊数	冊数	比率	冊数	比率	冊数	比率	冊数	比率	冊数	比率
GR	418	27.2%	650	26.3%	771	27.6%	599	29.0%	2,438	27.5%
LR	478	31.1%	683	27.6%	732	26.2%	382	18.5%	2,275	25.6%
絵本	58	3.8%	106	4.3%	99	3.5%	44	2.1%	307	3.5%
漫画	6	0.4%	32	1.3%	39	1.4%	18	0.9%	95	1.1%
原書／原書児童書等	579	37.6%	1,002	40.5%	1,148	41.2%	1,026	49.6%	3,755	42.3%
合計	1,539	100.0%	2,473	100.0%	2,789	100.0%	2,069	100.0%	8,870	100.0%

4.3　考察

明高中図書館において行った実践の結果をもとに，高等学校図書館の英語多読用図書の所蔵と排架を中心とした支援がどのように ER 指導における英語科教諭や高校生の英語力向上支援となり得るのかについて検討する。

4.3.1　所蔵と排架を中心とした支援による高校生の自発的な読書への取り組みの促進

本研究では，在籍者のうち何人の生徒が学校図書館を利用したかという貸出者率を抽出した。4.2.2.1 の表 4-5 に示したように，高校 1 年次の貸出者率がもっとも高く，年次が上がるにつれて低くなる傾向にあった。高校 1 年次から高校 3 年次まで高い貸出者率を保持した学年は，英語科教諭が頻繁に課題を提示したり，それを確認したりすることが貸出者率に反映しているからであると推察される。2016 年に実施した 3 学年合計 810 名中 754 名の高校生を対象とした質問紙調査では 506 名（67.1%）の高校生が，課題があると学校図書館に足が運びやすいと答えていた[50)]。2016 年度，2017 年度入学生のように，ER 指導として読書課題が多く出される年次の高校生は，欠席の多い高校生以外の全員が学校図書館を利用して英語多読用図書を借りていたことが推察された。大多数の高校生にとっては，課題があることが学校図書館から英語多読用図書を借りることに結びついていた。英語科教諭の指導が，読書への取り組みを促進させる要因となり得ることが示唆された。

2019 年度の貸出者率の低さは，新型コロナウィルス感染症のために春休み貸出ができなかったことが原因の 1 つにあると推測される。和書，英語多読用図書の双方ともに貸出者率が低かった。春休みの貸出の有無によって貸出者率が変化していたことから，長期休みの読書課題が貸出者率に影響を与え得る要因となることが推察された。

4.2.2.2 の表 4-6 で示したように，2011 年度以降，それまで学校図書館内では実施されることのなかった英語科授業が増加し，2015 年度以降では高校授業のみで 100 時間以上実施されるようになった。2013 年度以降は，学校図書館で実施された高校の全授業時間数中，40%以上が英語科の授業であった。複数の英語科教諭が，ER 指導のためだけではなく，スピーチやプレゼンテーションの準備，英語教科書に掲載された物語の背景について調べるための授業を学校図書館内で実施した。

授業での利用は，高校生にとっては学校図書館への来館回数を増加させ，図書館利用を習慣づけることにも結びつくものである。授業での来館をきっかけに，学校図書館を居場

所として実感したり，英語多読用図書以外の図書を借りるために利用するようになったりすることもある[51)]。

4.1.2 で述べたように，明治高等学校では科目としての ER 授業は設置されていない。学校図書館に英語多読用図書が排架されていても，積極的に ER 指導を行わない英語科教諭も存在する。そのため，4.2.2.1 で述べたように，高校生の貸出者率には入学年度によって差異が生じていた。表 4-5 で示したように，2018 年度入学生は全体の貸出者率が非常に低く，4.2.2.4.1 の表 4-10 で示したように，高校 1 年次から高校 3 年次 8 月末までに実際に英語多読用図書を借りた高校生は 30 名しかいなかった。これは，英語科教諭がオリエンテーション以降，ER のための読書課題を提示することがなかったためであると推察される。英語科教諭の指導の有無が高校生の取り組みを左右していた。しかし，30 名ではあっても自発的に ER に取り組む高校生がいたことからは，英語多読用図書が所蔵され，難易度別に排架されていたことが自発的に ER に取り組む生徒への支援となり得えていたことが推察される。

2.2.2.2.2 で述べたように，学校図書館での ER 指導では，英語科教諭の積極性が課題として指摘されることもある[52)]。英語科教諭が ER 指導にどのように取り組むかということが，高校生の自発的な読書への取り組みに与える影響は大きいが，英語科教諭の ER 指導への積極性を促進するためには，英語多読用図書の所蔵と排架だけでは不足していることが示された。これらについては，英語多読用図書の所蔵と排架に加えて，英語科内で指導方針を統一したり，情報共有したりするなどが必要になると考えられる。

4.3.2　所蔵と排架を中心とした支援による高校生の英語力向上

高校生の英語力向上には，英語科教諭の ER 指導の実施だけではなく，英語科の授業時間数増加など，複数の要因がある。明治高等学校の場合には，明治大学への進学基準に英検 2 級以上，TOEIC450 点以上という必要条件があることも，高校生のモチベーションに影響している。そのため，4.2.2.4.1 の表 4-9 と表 4-10 で示したように，どの入学年度生であっても，高校 2 年次と 3 年次との比較では TOEIC 取得点に伸長が見られた。

しかし，4.2.2.4.1 の表 4-10 で示したように，高校 1 年次から高校 3 年次まで貸出者率の低かった 2018 年度入学生は高校 3 年次 9 月段階で 445 点以下が 103 名（41.9%）いたが，4.2.2.1 の表 4-5 で示したように高校 1 年次から高校 3 年次までつねに 100%近い高校生が貸出を行っていた 2016 年度入学生と，高校 1 年次に 99.2%，2 年次に 80.4%で

あった 2017 年度入学生の 445 点以下の高校 3 年次生は 2016 年度入学生が 51 名（18.4%），2017 年度入学生が 58 名（23.1%）と，2018 年度入学生の約半数となっていた。また，550 点以上の生徒についても，2016 年度入学生は 122 名（44.0%），2017 年度入学生は 101 名（40.2%），2018 年度入学生は 76 名（30.9%）となっていた。貸出者率の高い学年は上位層が多く下位層が少ないが，貸出者率の低い学年は上位層が少なく下位層が多いことが示された。

4.2.2.4.2 の表 4-11 で示したように，貸出総語数と TOEIC 取得点の関係では，高校 2 年次 6 月段階では，貸出総語数 199,999 語以下では 445 点以下の割合がもっとも多かった。しかし，貸出総語数 200,000 語以上の高校生 15 名の中には 445 点以下は 1 名もおらず，450 点から 645 点が 12 名（80.0%）となっていた。4.2.2.4.1 で述べたように，高校 2 年次 6 月は TOEIC 校内受験の第 1 回目であり，高 2 から開始された TOEIC 演習も 2 か月程度しか受けていない。このような状況の中では，200,000 語以上を読了したかどうかという点が，TOEIC 取得点の結果の差異に結びついていた可能性がある。

4.2.2.4.2 の表 4-12 で示したように，高校 3 年次 6 月の TOEIC の結果では，9,999 語以下の高校生は 450 点以下が 179 名（40.1%）となっていたが，高校 1 年次 4 月から高校 3 年次 5 月末までの合計で貸出総語数 200,000 語以上の高校生では 650 点以上が 32 名（44.4%）ともっとも多かった。100,000～199,999 語の高校生も，450 点から 645 点が 165 名（60.9%）となっていた。高校 1 年次，2 年次の授業を修了し，TOEIC 演習の授業を受けた上で受験した場合，100,000 語である程度の成果が見られ，200,000 語で確実な違いが表れることが推察された。高校 2 年次と 3 年次の TOEIC 取得点の差異において 100,000 語以上のインプット量の増加が TOEIC 取得点に結びついていることから，貸出総語数と TOEIC 取得点に相関が見られた。学校図書館に英語多読用図書所蔵して難易度別に排架することが高校生の自発的な読書への取り組みを支援し，そのことが結果的に高校生の英語力向上支援となり得る可能性が示された。

4.2.2.4.3 の表 4-13 で示したように，TOEIC 取得点に関わらず，もっとも多く貸出されていたのはレベル 1（Headwords 数 250 語から 700 語）の英語多読用図書であった。Headwords 数 1,000 語以上の英語多読用図書を読まなくても，難易度が低く，理解可能な語彙で書かれた図書を多く読むことで，TOEIC550 点以上，CEFR A2／B1 レベルを達成できる可能性があることが示された。高等学校図書館に Headwords 数 700 語以下の

英語多読用図書を優先的に所蔵して，難易度別に排架することが，高校生の英語力向上の支援となり得ることが示唆された。

4.2.2.4.4 では，TOEIC 取得点と貸出図書の種類についての調査を行った。高校生が原書児童書を多く借りていたことが示された。今回は総貸出人数および総貸出冊数で調査を行ったため，1 人 1 人が GR，LR，原書あるいは原書児童書をどのような割合で読んでいたのかという調査は実施しなかった。そのため，TOEIC 取得点と貸出図書の種類の関係については明らかにできなかったが，高校生が原書児童書を好むのであれば，語彙学習に資するレベルの原書児童書のシリーズを所蔵して排架することも，高校生の英語力向上支援となり得ると考えられる。

4.3.3　所蔵と排架を中心とした支援による高校生の英語多読用図書の選択

学校図書館での英語多読用図書の排架については，2.2.1.2 で述べたように，先行研究においても複数の研究者が難易度別分類の必要性を指摘していた[53) 54) 55)]。明高中図書館でも，4.2.1.1 の表 4-2 で示したように，近似した Headwords 数の英語多読用図書を 5 段階の難易度に分類して排架した。これは，学習者が自分の英語力に適切な難易度の図書を選択しやすくするためである。学校図書館蔵書管理システムに書名，著者名などの基本事項だけではなく，レベル，総語数，GR・LR・原書児童書などの種類も登録してあるため，OPAC で検索して図書を選択することも可能になった。それらの図書がどこに排架され，どのように検索するのかということについて，司書教諭がオリエンテーションを実施した。

4.2.2.3 の表 4-8 で示したように，オリエンテーション実施以後には，明高中レベル 2（Headwords 数 1,000 語程度）以上の貸出が減少していた。また，館内サインを提示し，『図書館利用案内』に ER への取り組み方法についての記載を加えた 2017 年度以降は，明高中レベル 0 の貸出が増加していた。館内サインを用いて難易度をわかりやすく提示したり，『図書館利用案内』の中にオリエンテーションと同内容の記載を行って難易度をわかりやすく提示したりしたことが，口頭でのオリエンテーション実施のときよりも，英語多読用図書の難易度ラベルの意味と排架の関係を理解させられることになったと推察される。司書教諭や学校司書が書誌的事項の登録や環境整備を行い，オリエンテーションを実施すること，その内容を『図書館利用案内』に記載することが，高校生が英語多読用図書を選択するための支援になり得ると考えられる。

4.4　本章のまとめ

本章では学校図書館において司書教諭が英語科教諭とともに行った ER 指導実践の結果をもとに，ER 指導の実践をもとに，高等学校図書館の英語多読用図書の所蔵と排架を中心とした学校図書館の支援がどのように英語科教諭や高校生の支援となり得るのかについて検討した。

従来の先行研究では貸出冊数の増加を検討して，学校図書館の活性化や学校図書館利用の習慣化が生まれるのではないかと推察していた[56) 57)]。本章で行った貸出者率の調査からも，英語多読用図書の貸出者率が日本語の図書以上になっていたことから，学外では英語多読用図書と出合うことのできない高校生に英語多読用図書との出合いを提供することが確認された。先行研究には英語科教諭による学校図書館内授業が増加した事例はなかったが，ER 指導の実施を契機に英語科教諭による学校図書館内授業が増加していた。入学年度別に 1,268 名の高校生を対象とした調査からは，貸出者率の高い学年は TOEIC 取得点において上位層が多く下位層が少ないが，貸出者率の低い学年は上位層が少なく下位層が多いことが示された。英語科教諭による積極的な ER 指導がない場合でも，主体的に ER に取り組む高校生が存在した。学校図書館内に英語多読用図書を所蔵して難易度別に排架することが，ER 指導実施における英語科教諭の業務負担を軽減させるだけではなく，高校生の自発的な ER への取り組みを支援することになっていた。

オリエンテーションを実施することに加えて，館内サインの提示や『図書館利用案内』への ER についての記載が，高校生が英語多読用図書を選択するための支援となり得ることが示された。

【本章の引用文献・注】

[1]) Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Ecucation Books, 1982, p.174-180.

[2]) Day, Richard. R. ; Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.113.

[3]) Waring, Rob ; Takahashi, Sachiko. The Oxford University Press Guide to the 'Why' and 'How' of Using Graded Readers. *Oxford University Press Japan*. 2000, http://www.robwaring.org/er/articles/Guide_to_Graded_Readers_e.pdf, （accessed 2023-01-14）.

[4]) 高瀬敦子. 英語多読多聴指導マニュアル. 大修館書店, 2010, p.103-107.

[5]) Yamamoto, Akio. Is a One-Year Extensive Reading Class Enough?. *言語 文化 社会*. 2011, no.9, p.145.

[6]) 酒井邦秀, 西澤一編著. 図書館多読への招待. 日本図書館協会, 2014, ix,186p, （図書館実践シリーズ25）.

[7]) 米澤久美子. 学校図書館で英語多読を. 東京都の学校図書館. 2014, no.50, p.28-37.

[8]) NPO多言語多読監修, 西澤一, 米澤久美子, 粟野真紀子. 図書館多読のすすめかた. 日本図書館協会. 2019, x,198p.

[9]) Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Education Books, 1982, p.171-182.

[10]) 高瀬敦子. 英語多読多聴指導マニュアル. 大修館書店, 2010, p.111.

[11]) 木場敬子. 図書館多読のススメ : 英語を一生の友だちに : 連載, たのしく多読（実践編）. 学校図書館. 2016, no.790, p.61.

[12]) 江竜珠緒. 学校図書館における英語多読用図書の提供と支援の効果 ： アクション・リサーチによる分析を基に. 図書館情報メディア研究. 2019, vol.17, no.1, p.1-17. http://www.slis.tsukuba.ac.jp/grad/assets/files/pub-2/17-1.1.pdf.

[13]) 文部科学省. 高等学校学習指導要領（平成30年告示）. http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/09/26/1384661_6_1_2.pdf, （参照2023-01-14）.

[14]) 明治大学付属明治高等学校. 2019年度学年指導・学習指導年間計画表. 2019. 78p.

[15]) 明治大学付属明治高等学校・中学校 PTA. 明治大学付属明治高等学校・中学校 PTA 会報.

[16]）明治大学付属明治高等学校・中学校 PTA. 明治大学付属明治高等学校・中学校 PTA 会報.

[17]）米澤久美子. 学校図書館で英語多読を. 東京都の学校図書館. 2014, no.50, p.28-37.

[18]）三輪涼子. 私たちの「森」をつくろう：連載, たのしく多読（実践編）. 学校図書館. 2016, no.786, p.67.

[19]）三上洋介. Pre-reading でのトップダウンアプローチと Post-reading の統語処理活動を取り入れた高校生の多読授業実践. Eiken bulletin =「英検」研究助成報告. 2020, vol.32, p.147-148.

[20]）西澤一, 吉岡貴芳, 伊藤和晃. 英語多読を通した図書館の授業支援と地域貢献. 論文集「高専教育」. 2008, http://jera-tadoku.jp/papers/nishizawa-2008-03.pdf, （参照 2023-01-14）.

[21]）高瀬敦子. 英語多読多聴指導マニュアル. 大修館書店, 2010, p.106, p.114-115.

[22]）Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Education Books, 1982, p.29.

[23]）Williams, Ray. Top ten' principles for teaching reading. *ELT Journal*. 1986, vol.40, Issue 1, p.42.

[24]）Day, Richard. R.；Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.109-111.

[25]）三輪涼子. 私たちの「森」をつくろう③：連載, たのしく多読（実践編）. 学校図書館. 2016, no.788, p.86.

[26]）江竜珠緒, 村松教子. 明治高等学校における英語多読:生徒の洋書選択についての考察. 明高研叢. 2012, no.11, p.75-95.

[27]）Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Education Books, 1982, p.177.

[28]）Day, Richard. R.；Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.112-113.

[29]）Day, Richard R.；Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.7-8.

[30]）Nation, Paul；Waring,Rob. “Extensive Reading and Graded Readers,” *Reading Oceans*, 2013. http://www.readingoceans.jp/ComData/files/Paul%20Nation%20%20Rob%20Waring's%20ER%20Booklet_eng.pdf, p.4, （accessed 2023-01-14）.

[31]） Day, Richard. R.；Bamford, Julian. Top Ten Principles for Teaching Extensive Reading. *Reading in a Foreign Language*. 2002, vol.14, no.2, p.136-141.

[32]）江竜珠緒. 学校図書館における英語多読用図書の提供と支援の効果：アクション・リサーチによる分析を基に. 図書館情報メディア研究. 2019, vol.17, no.1, p.1-17. http://www.slis.tsukuba.ac.jp/grad/assets/files/pub-2/17-1.1.pdf.

[33]）西澤一, 吉岡貴芳, 伊藤和晃. 英文多読による工学系学生の英語運用能力改善. 電気学会論文誌. A, 基礎・材料・共通部門誌. 2006, vol.126, no.7, p.559.

[34]）西澤一, 吉岡貴芳, 伊藤和晃. 苦手意識を自信に変える, 英語多読授業の効果. 論文集「高専教育」. 2007, no.30, http://jera-tadoku.jp/papers/nishizawa-2007-03.pdf, （参照 2023-01-14）.

[35]）西澤一, 吉岡貴芳, 伊藤和晃. 工学系学生の苦手意識を克服し自律学習へ導く英語多読授業. 工学教育. 2010, vol.58, no.3, p.12-17.

[36]）西澤一, 吉岡貴芳, 伊藤和晃. 英文多読による工学系学生の英語運用能力改善. 電気学会論文誌. A, 基礎・材料・共通部門誌. 2006, vol.126, no.7, p.556-562.

[37]）西澤一, 吉岡貴芳, 伊藤和晃. 苦手意識を自信に変える, 英語多読授業の効果. 論文集「高専教育」. 2007, no.30, http://jera-tadoku.jp/papers/nishizawa-2007-03.pdf, （参照 2023-01-14）.

[38]）西澤一, 吉岡貴芳, 伊藤和晃. 3 年間の継続授業で明らかになった英語多読授業の効果と成功要因. 工学教育. 2008, vol.56, no.1, p.72-76.

[39]）西澤一, 吉岡貴芳, 伊藤和晃. 工学系学生の苦手意識を克服し自律学習へ導く英語多読授業. 工学教育. 2010, vol.58, no.3, p.12-17.

[40]）岩中貴裕. 英語学習における多読の役割：授業内読書が受講生の英語力と授業評価に与える影響. 四国英語教育学会紀要. 2011, vol.31, p.59-68.

[41]）新川智清. 多読・多聴を導入した沖縄高専の英語教育：1 期生から 7 期生まで. 独立行政法人国立高等専門学校機構沖縄工業高等専門学校紀要 = Research reports of Okinawa National College of Technology / 沖縄工業高等専門学校編. 2012, no.6, p.27-37.

[42]）西澤一, 吉岡貴芳, 伊藤和晃. 国際交流活動と英語多読による工学系学生の英語運用能力改善. 工学教育. 2013, vol.61, no.1, p.147-152.

[43]）藤井数馬. 詫間キャンパスにおける 1 年間の定期的な授業内英語多読が学生に与えた影響について. 論文集「高専教育」：kosen kyoiku. 2013, no.36. p.199-204.

[44]）柳田正豪. 沖縄キリスト教短期大学英語科における多読と TOEIC Bridge テストの相関. 沖縄キリスト教短期大学紀要 = Journal of Okinawa Christian Junior College / 沖縄キリスト教短期大学編. 2017, no.45. p.47-54.

[45]）Rutson, Griffiths ; Rutson-Griffiths, Yukari. The Relationship between Extensive Reading and TOEIC Score Gains. *広島文教女子大学高等教育研究*. 2018, no.4, p.41-50.

[46]）Cheetham, Catherine, Elliott, Melody, Tagashira, Miki. Determining an Attainable Threshold : The Effects of Extensive Reading and Timed-Reading Activities on Student Mock TOEIC Results. *東海大学紀要*. 2018, vol.38, p.51-63.

[47]）柊元弘文. 第二言語習得における多読の意義及び多読指導実践とその効果検証. 研究論集. 2019, vol.110, p.213-231.

[48]）柊元弘文. 第二言語習得における多読の意義及び多読指導実践とその効果検証. 研究論集. 2019, vol.110, p.229.

[49]）文部科学省. “第3期教育振興計画（平成30年6月15日　閣議決定）”. https://www.mext.go.jp/content/1406127_002.pdf, （参照2023-01-14）.

[50]）江竜珠緒. 学校図書館における英語多読用図書の提供と支援の効果：アクション・リサーチによる分析を基に. 図書館情報メディア研究. 2019, vol.17, no.1, p.10-11. http://www.slis.tsukuba.ac.jp/grad/assets/files/pub-2/17-1.1.pdf.

[51]）江竜珠緒. 学校図書館における英語多読用図書の提供と支援の効果：アクション・リサーチによる分析を基に. 図書館情報メディア研究. 2019, vol.17, no.1, p.13. http://www.slis.tsukuba.ac.jp/grad/assets/files/pub-2/17-1.1.pdf.

[52]）米澤久美子. 特集, 多言語に対応する学校図書館：多言語を支援する学校図書館. 学校図書館. 2017, no.801, p.14-15.

[53]）Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Education Books, 1982, p.177.

[54]）Day, Richard. R. ; Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.112-113.

[55]）Nation, I.S.P. ; Waring, Rob. *Teaching Extensive Reading in Another Language.* Routledge. 2020, p.54.

[56]）西澤一, 吉岡貴芳, 伊藤和晃. 英語多読を通した図書館の授業支援と地域貢献. 論文集「高専教育」. 2008, http://jera-tadoku.jp/papers/nishizawa-2008-03.pdf, （参照 2023-01-14）.

[57]）高瀬敦子. 英語多読多聴指導マニュアル. 大修館書店, 2010, p.106, p.114-115.

第 5 章　総合考察

本研究では，高等学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架を中心とした，高校生の英語力を向上させるための ER 指導に対する支援方法について明らかにすることを目的として，3 点の研究課題を設定して調査を行った。

本章でははじめに各章の総括を行い，そこで得られた結果と考察からの総合的な考察を行う。

5.1　研究の総括

第 1 章では，研究背景と先行研究，研究目的，研究課題について述べた。グローバル教育が進む中，高校生に期待される英語力は高校 3 年次卒業段階で CEFR A2 から B1 レベル以上である[1) 2)]。しかし，一方で，英語が苦手な高校生も 55%以上存在し[3)]，中学校と高等学校で使用する英語教科書の難易度差が課題となっている[4) 5) 6)]。この問題に対する解決策の 1 つとして，複数の研究者が ER 指導の有用性を示唆している[7) 8) 9) 10) 11)]。しかし，高校生の語彙学習に活用できる英語多読用図書に関する検討は不足している。高校生の ER 指導に使用する英語多読用図書の種類や難易度を明らかにすることの必要性を指摘した。高等学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架を中心とした，高校生の英語力を向上させるための ER 指導に対する支援方法について明らかにするために必要な 3 つの課題について述べ，本研究の構成について示した。

第 2 章では，研究課題 1「従来の ER 指導において，英語科教諭は所蔵と排架を中心とした学校図書館の支援にどのような期待を持っているか」を明らかにするために文献調査を行った。

はじめに海外研究者の ER のための指導原則，酒井の 100 万語多読のための多読三原則，日本多読学会による新・多読三原則における指導方法の比較を行った。従来の先行研究で用いられている日本語の「多読」では，酒井の多読三原則に則った多読実践と，語彙学習に資する意味に焦点をあてたテキストであるかということを意識して行われた ER とが混在している。多読は学校や塾で実施されるものと個人やサークルで実施されるものの双方を含むが，ER は英語科教諭などによる指導のもとに実施されることが前提となる。使用するテキストの難易度に対する厳密さという点で，多読三原則に則った 100 万語多読と ER とは異なるものであることを指摘した。流暢な理解を可能とするテキスト難易度を示した点において，新・多読三原則による多読は ER と相似していることを指摘した。

学校教育において実施される ER 指導において，どの程度の分量を読む必要があるのか，負担なく読むためにはどの程度の難易度の英語多読用図書が適切であるのか，語彙学習に資するための英語多読用図書はどのようなものなのかについて検討する必要があることを指摘した。

従来の先行研究は，ER 指導に関するほぼすべての業務を英語科教諭が担うことを想定しているため，学校図書館に英語多読用図書を所蔵する利点は図書の排架場所や雰囲気のよい場所という「場」としてのものにとどまることが多かった。英語科教諭が教室に英語多読用図書を運ぶ負担が軽減したり[12) 13)]，貸出作業や紛失管理の業務が減少したりするという点のみで[14)]，学校図書館への英語多読用図書の所蔵と排架が，高校生の自発的な読書への取り組みの支援になり得るのかということや，高校生の英語力向上支援となり得るのではないかということについての検討が不足していた。学校図書館で行われた事例では，学校図書館の専門的知識を持つ司書教諭や学校司書と連携することで，公共図書館からの団体貸出[15)] や選書についての支援が得られることがあげられていた[16)]。学校図書館への英語多読用図書の所蔵と排架や，英語科教諭と学校図書館との協働が ER 指導への支援となり得るのかということについての検討が必要であることを指摘した。

第 3 章では，研究課題 2「高等学校での ER 指導において高校生の語彙学習となり得る英語多読用図書の難易度，種類はどのようなものか」を明らかにするために，コーパス分析を行った。

先行研究では，中学 3 年次と高校 1 年次に使用する英語の教科書の総語数や語彙，構文の難易度幅が広いため[17) 18) 19)]，高校 1 年次前半に英語学習に挫折する高校生が多いことを課題としていた[20)]。そのため，複数の研究者が中学校英語教科書と高等学校英語教科書の難易度差を埋めるために ER 指導の有用性を示唆している[21) 22) 23) 24) 25)]。しかし，ER 研究者の多くが GR を推奨しており[26) 27) 28)]，GR 以外の英語多読用図書が高校生の語彙学習に結びつくかということについては明らかにされてこなかった。本研究において GR および原書児童書のシリーズについてのコーパス分析を行った結果，総語数が同程度の GR と原書児童書とでは，出版社提示レベルで 1 段階以上の差異が生じる可能性のあることが示された。一方で，同一作者が執筆している原書児童書のシリーズは 1 冊ずつの難易度の差異が小さく，異なる作者が語彙や文法を統制して書いている GR よりも使用語彙が限定されていることが明らかになった。難易度の低い原書児童書のシリーズは，GR よりも高頻出語のカバー率が高くなるものがあること，シリーズ内で難易度が近似し

た図書に出合えるため，高校生の語彙学習に資するものとして活用できることが示された。

また，中学校英語教科書コーパスを作成して，GR，原書児童書のシリーズの語彙難易度と，中学校英語教科書基本語の出現頻度についての調査を行った。難易度の低い原書児童書のシリーズは，中学校英語教科書基本語との繰り返しの出合いによる復習と同時に，GR よりも未知語が多く含まれているため，高校生の未知語学習に活用できることが示された。

先行研究では，Headwords 数 400 語程度の英語多読用図書が中学校英語教科書と高等学校英語教科書の難易度差を埋めるものとして適切な難易度であると考えられていた。本研究の調査によって，中学校教科書基本語のカバー率という点では，Headwords 数 300 語程度の GR が中学校英語教科書と高等学校英語教科書の難易度差を埋めるためには適切な難易度であることが示唆された。高等学校での ER 指導において語彙学習に資する英語多読用図書は，Headwords 数 300 語程度から，Headwords 数 700 語程度になることが推察された。

第 4 章では，研究課題 3「英語多読用図書の所蔵と排架を中心とした学校図書館の支援は，ER 指導における高校生の英語力向上促進支援となり得るか」を明らかにするために，英語科教諭と司書教諭とが協働した ER 指導実践をもとに，ER 指導において高等学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架が英語科教諭や高校生の支援となり得るのかということについて検討した。

従来の先行研究は貸出冊数の増加を検討することで，学校図書館の活性化や学校図書館利用の習慣化が生まれると述べていた[29) 30)]。本研究で行った貸出者率の調査からも，英語多読用図書の貸出者率が日本語の図書以上になっていたことから，高等学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架が，学外では英語多読用図書と出合うことのできない高校生に英語多読用図書との出合いを提供することが確認された。英語多読用図書の所蔵と排架は，高校生の自発的な読書への取り組みの支援となり得るものであった。

先行研究には，ER 指導の実施によって英語科教諭による学校図書館内授業が増加した事例はなかったが，明高中図書館では，英語多読用図書を所蔵して排架することで，学校図書館内で実施される英語科授業が増加していた。学校図書館内に英語多読用図書を所蔵して難易度別に排架することが，ER 指導実施における英語科教諭の業務負担を軽減させるだけではなく，英語科教諭による学校図書館内授業を増加させることで，高校生の ER

への取り組みを支援し得ることが示唆された。

先行研究において ER 指導と TOEIC 取得点との関係について検証した研究が複数ある[31) 32) 33) 34) 35) 36) 37) 38) 39) 40) 41) 42)]。しかし，先行研究では，ER 指導と TOEIC 取得点向上の有意性は示されているが，対象者数が限られていることが課題となっていた[43)]。本研究では入学年度別に計 1,268 名の高校生を対象とした調査を実施した。入学年度別の TOEIC 取得点の差異からは，貸出者率の高い学年は上位層が多く下位層が少ないが，貸出者率の低い学年は上位層が少なく下位層が多いことが示された。英語多読用図書の貸出総語数と TOEIC 取得点に相関が見られた。学校図書館に英語多読用図書を所蔵して難易度別に排架することが高校生の英語力向上に結びついていた可能性がある。また，貸出図書の難易度と TOEIC 取得点との関係からは，高校生にとって，文部科学省が目標として掲げた CEFR A2／B1 レベル達成[44)] のためには，Headwords 数 1,000 語以上の英語多読用図書を読まなくても，難易度が低く，理解可能な語彙で書かれた英語多読用図書を多く読むことで，TOEIC550 点以上，CEFR A2／B1 レベルを達成できる可能性があることが示された。

先行研究においても，複数の研究者が英語多読用図書を難易度別に分類する必要性を指摘していた[45) 46) 47)]。4.2.1.1 で述べたように，難易度別に排架するだけではなく，それらの難易度を学校図書館蔵書管理システムに登録することで，OPAC での検索も可能になった。4.2.2.3 の表 4-8 で示したように，オリエンテーション後に ER 指導を実施していた学年では，高校 1 年次生の 1 学期の図書選択にレベル 2（Headwords 数 1,000 語程度）以上の貸出が減少していた。また，館内サインを提示し，『図書館利用案内』に ER の取り組み方法についての記載を加えた 2017 年度以降は，明高中レベル 0（Headwords 数 200 語程度以下）の貸出が増加していた。書誌的事項を追加したり，館内サインを提示するなどの環境整備を行い，『図書館利用案内』にオリエンテーションと同様の内容を記載したりすることが，高校生の英語多読用図書の選択支援になり得ることが示された。

5.2　総合考察

5.2.1　学校図書館に英語多読用図書を所蔵，排架する意義

第 2 章で述べたように，ER 指導を実践する英語科教諭や研究者は，学校図書館に英語多読用図書を所蔵して排架することが英語科教諭の負担軽減になるという観点から，学校図書館の協力を期待していた[48) 49) 50)]。学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架が高

校生の自発的な読書への取り組みを支援し，語彙学習に資することになるのかという検討は行われてこなかった。

第 4 章では，高等学校図書館に英語多読用図書を所蔵，排架したことによる高校生の貸出者率の変化，英語科教諭による学校図書館内授業時間数の変化，貸出総語数と TOEIC 取得点の差異について調査を行った。4.3.2 で述べたように，ER は指導者のもとに行われるものである。実践事例の中で行った貸出総語数と TOEIC 取得点の調査結果において，英語多読用図書の貸出者率が高い学年は上位層が多く下位層が少ないが，貸出者率の低い学年は上位層が少なく下位層が多いことから，英語科教諭の指導の有無が ER 指導による高校生の英語力向上を左右する要因となり得ることが示された。しかし，英語科教諭の指導があまりないために学年全体の貸出者率が低い 2018 年度入学生であっても，学校図書館に英語多読用図書を所蔵，排架していたことで，30 名が自発的に ER に取り組んでいたことが示された。高校生の語彙学習に資する英語多読用図書を優先的に所蔵して難易度別に排架すること，司書教諭や学校司書が高校 1 年次生に対してオリエンテーションを実施することは，ER に取り組む高校生が難易度の高すぎる図書を選択する危険性を低くすると推察される。ラベルや展示などで排架場所を明示することも，英語多読用図書の選択支援となる。司書教諭や学校司書は英語多読用図書を選択しようとする高校生に対して，一斉授業を行う英語科教諭には不可能な個別の読書支援を行うこともできる。高等学校においては英語科教諭の指導と司書教諭や学校司書の支援の双方が総合的に高校生の語彙学習に資する ER 指導になるものと考えられる。

高等学校図書館に英語多読用図書を所蔵して難易度別に排架することは，英語科教諭の負担軽減だけではなく，高校生の自発的，継続的な学習の支援となり，それが結果的にはインプット量の増加，英語力向上へと結びつく要因となる。2.2.2.2.1 で述べたように，従来，学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架についてはほとんど検討されてこなかった。しかし，高校生の英語学習支援のためには，司書教諭や学校司書が学校図書館に日本語の図書と同様に英語の図書を所蔵して，それらを難易度別に排架することが重要である。

英語科教諭に対する ER 指導促進を支援するためには，学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架だけでは不足していることも示された。これらについては，英語多読用図書の排架に加えて，英語科教諭が英語科内で指導方針を統一したり，情報共有したりするな

どの別の要因が必要になることが示唆された。

5.2.2　高等学校図書館に優先的に所蔵，排架する英語多読用図書の難易度と種類

ER 指導では，難易度の低い英語多読用図書を準備することが重視される。難易度の低い図書が推奨される理由の 1 つは，2.2.1.1 で示したナットールの「よい読みの循環」にあったように，たくさん読むことでよりよく理解できるようになり，理解できるので楽しく読めるようになり，楽しいので速く読めることからたくさん読めるようになり，さらによく理解できるようになるからである[51)]。学習者にとっての既知語を多く含む難易度の低い英語多読用図書を読むことが，暗示的に語彙や文法との繰り返しの出合いを生み，流暢な読みを可能にする[52) 53) 54) 55)]。同様に日本においても，複数の指導者が難易度の低い図書を用意することを重視している[56) 57) 58)]。

しかし，第 2 章で述べたように，従来の先行研究では「第二言語のさまざまな能力段階の学習者にどのテキストが適しているのか」[59)] という検討が不足していた。高校生の語彙学習に資する英語多読用図書についての検討が必要である。

そこで，第 3 章において，中学校英語教科書基本語を習得した高校 1 年次生にとって，語彙学習となる英語多読用図書について検討した。その結果，Headwords 数 300 語程度の GR が高校 1 年次生にとって負担なく読める難易度であることが示された。また，同一著者による原書児童書のシリーズでは，GR よりも JACET8000 基本語や中学校英語教科書基本語のカバー率が高くなるものがあること，同一シリーズ内の図書を選択することで，GR よりも難易度が近似した図書と出合えることを明らかにした。難易度の低い原書児童書のシリーズが高校生の語彙学習に活用できることが示された。高等学校図書館に優先的に排架すべき英語多読用図書の難易度の枠組みが示唆された。

第 4 章の TOEIC 取得点とレベルの関係からは，4.2.2.4.3 の表 4-13 で示したように，高校生は TOEIC 取得点の高低に関わらず，レベル 1（Headwords 数 250 語から 700 語）を多く借りていた。高校生が中学校英語教科書の復習になる Headwords 数 300 語以下の図書から段階的に難易度を上げ，Headwords 数 700 語以下の図書を読むことで，CEFR A2／B1 レベル以上を達成できる可能性があることが示された。1.1.3.1 の表 1-1 で示したように，Oxford Bookworms Library において Headwords 数 700 語の図書は Stage 2 となり，平均総語数は 6,500 語，使用文法項目は現在完了形，未来形などで，Stage 3 に含まれる should，may，現在完了進行形などは使用されていない。それでも

CEFR B1 レベル以上に到達できるのは，高等学校での ER 指導は英語科の通常授業と並行して実施されているために文法項目は授業内で学んでいることが理由にある。また，LR や原書児童書には，3.1.2.4 の図 3-3 で示したように，文法を統制した GR だからこそ使用されなかった should，might，toward，almost，instead などが使用されている。GR だけではなく LR や原書児童書のシリーズを活用すれば，既習の文法項目との繰り返しの出合いを生むことも可能である。

高等学校で実施されるものは，英語の図書を楽しむ多読ではなく，英語力向上を目的とした ER 指導である。そのため，司書教諭や学校司書が高等学校図書館に英語多読用図書を所蔵するときには，すべての難易度を均等に所蔵して排架するのではなく，高校生が英語に対する苦手意識をなくし，意欲的に取り組むことができる難易度である Headwords700 語以下の GR と，語彙難易度がそれらの GR と同程度の LR や原書児童書シリーズを優先的に所蔵して難易度別に排架することが，高校生の英語力向上支援となり得ると考えられる。

5.2.3　司書教諭や学校司書による所蔵と排架を中心とした支援

文部科学省が高校生の高等学校卒業段階での目標とした A2 レベル[60] は 1.1.3.1 の表 1-1 で示した Oxford Bookworms Library では Stage 1 から Stage 2 程度で，平均総語数は 5,200 語から 6,500 語程度となる。高校生が 100,000～200,000 語を読了するためには，1 人あたり 19 冊から 38 冊が必要となる。総語数 5,000 語程度の英語多読用図書を読めるようになるまでに総語数 1,000 語以下の英語多読用図書を使用した場合には，必要冊数はさらに多くなる。2.2.2.2.2 で ER 指導を実施していた英語科教諭が述べていたように，これらを英語科教諭が教室に運ぶことは，負担が大きい[61] [62]。

第 2 章で述べたように，英語多読用図書の排架についての先行研究では，複数の研究者が，学習者が自分の英語力に適切な難易度の英語多読用図書を選択するために，英語多読用図書を難易度別に分類する必要性を指摘していた[63] [64] [65]。先行研究ではこれらの英語多読用図書を他の一般図書とは別の場所に難易度別に排架することが重要であるとしていただけであった[66]。書誌的事項の中にレベルや Headwords 数を追加することについて検討された先行研究や実践報告はなく，分類とラベル，排架場所の関係や，OPAC の利用方法などを ER 指導の中で説明することも考えられてはいなかった。しかし，少人数を対象とした選択授業やサークル活動とは異なり，高等学校の英語科授業内で実施される

ER 指導では，学年もしくは学校全員の高校生が対象となるため，高校生が自分自身で英語多読用図書の排架場所について知り，検索できるようになることが重要である。

4.2.1.1 で述べたように，高校生の英語多読用図書選択のためには，司書教諭や学校司書が学校図書館蔵書管理システムに総語数や Headwords 数など，ER 指導に必要な書誌的事項の登録をしたり，英語多読用図書を難易度別にわかりやすく排架したりするなどの環境整備を行うこと，難易度と排架場所の関係を説明するためのオリエンテーションを実施すること，その内容を『図書館利用案内』に記載することなどが ER 指導への支援となり得ることが示された。従来の先行研究は ER 指導に関するほぼすべての業務を英語科教諭が担うことを想定していた。しかし，学校図書館蔵書管理システムへの登録やラベルの貼付，動線を意識した排架場所について考えることは英語科教諭にとっては専門外の業務となるため，司書教諭や学校司書の業務となる。

高等学校図書館は高校生に対して個別に図書の選択支援を行うなど，一斉授業ではできない支援を実施することができる場でもある。加えて，高校生がいつごろどのような難易度の英語多読用図書を借りていたのかということの把握は，学校図書館蔵書管理システムの活用によって可能になることである。高等学校図書館に英語多読用図書を所蔵，排架して，さらに英語科教諭と学校図書館業務をよく知る司書教諭や学校司書がそれぞれの専門知識を共有して指導と支援を行うことが，総合的な ER 指導になり，高校生の英語力向上を可能にすると考えられる。

5.2.4　本研究の学術的意義

第二言語習得研究の観点からは，先行研究では同義語として使用されていた「多読」と「ER」とに差異があることを批判的に考察した上で，従来の研究では不足していた原書児童書のシリーズのコーパス分析を行って高校生の語彙学習に資する英語多読用図書の難易度についての基礎的な知見を示した。原書児童書のシリーズのシリーズ内の 1 冊ずつの難易度の標準偏差が GR よりも小さくなること，GR と同様に，学習者が 1 冊ずつ読み進めた場合には新出語が減少していくことを示した点に新規性がある。また，本研究の独自性として，これまでの第二言語習得研究において検討されることのなかった高等学校図書館での所蔵と排架に着目して研究を行った点がある。第二言語習得研究者や英語科教諭にとって，学校図書館での英語多読用図書の排架は「場」としての意味しか持たない。しかし，学校図書館に図書を所蔵して排架するということは，司書教諭や学校司書による支

援を受けられるということである。学校図書館蔵書管理システムに書誌的事項を登録するということで英語科教諭や高校生の英語多読用図書の OPAC 検索を可能にしたり，高校生が学校図書館内で英語多読用図書を選択する際に司書教諭や学校司書の個別の支援を受けられたりすることの観点が不足していることを示した。今後は第二言語習得研究における学校図書館を活用した ER 指導において，司書教諭や学校司書との協働を前提とした新たな教授法が検討されていくことが期待される。

図書館情報学の観点からは，従来の学校図書館において整備すべき蔵書の標準として示されている『学校図書館図書標準』[67] や『学校図書館メディア基準』[68] には記載されていない英語多読用図書について，中学校英語教科書と高等学校英語教科書の難易度差を埋める難易度や，文部科学省が高等学校卒業までに必要とする CEFR A2/B1 レベル以上を達成できる可能性のある難易度についての検討を行うことで，高等学校図書館に優先的に所蔵すべき英語多読用図書の難易度の枠組みについての基礎的な知見を示した点に本研究の新規性がある。本研究が示した英語多読用図書の難易度の枠組みは，高等学校図書館の所蔵と排架を中心とした支援を検討する上での基準となり得るものである。今後，図書館情報学研究の中で，コーパス分析を応用して，発展的に小学校，中学校で所蔵すべき英語多読用図書の難易度の枠組みや，所蔵すべき冊数などの検討がなされていくことが期待される。また，このときに必要となる英語多読用図書の書誌的事項は，難易度や総語数，Headwords 数を必要とするため，従来の洋書の目録作成の方法とは異なるものである。しかし現在，英語多読用図書についての体系的な目録作成方法は存在していないため，英語多読用図書を実施している各館が個別に作成し，和書のような目録統一と共有はなされてはいない。本研究で示したように，書誌的事項の登録は高校生の OPAC 検索を可能にするだけではなく，英語科教諭の指導にも活用できる可能性を持つものである。体系的な目録作成方法を確立する必要性を示した点において，本研究には実践的な意義だけではなく，学術的な意義があると考えられる。

5.2.5　本研究の限界と今後の課題

5.2.5.1　本研究の限界

2.1 で述べたように，第 2 章においては 2016 年 9 月末までの文献について調査を行った。2023 年現在も ER 指導研究は盛んに行われ，日本においても第二言語習得研究の研究者が，ER 指導が学習者の英作文や読解能力，モチベーションに与える影響についての

研究や実践報告を行っている[69) 70) 71) 72)]。

ER 指導と図書館に関する研究では，図書館内での ER を実践してきた実践者や研究者が，図書館への英語多読用図書の導入や，公共図書館でのサークル活動，英語科教諭と司書教諭や学校司書との協働の重要性を指摘している[73) 74) 75) 76)]。ネーションとウェアリングが著書の中で排架の方法について述べていたり[77)]，2022 年に開催された Extensive Reading Around the World[78)] 内でも Library Management が話題として取り上げられたりするなど，英語多読用図書の所蔵や排架方法についての期待や興味関心は高い。ただし，2023 年現在に至っても図書館研究者による ER 指導支援についての研究や実践報告は少ない状況にある。ER 指導における図書館での英語多読用図書の所蔵と排架についての調査を行うことは困難であった。今後，学習者への英語力向上に資する英語多読用図書の所蔵と排架について，より多くの図書館研究の観点からの検討がなされることが望まれる。

5.2.5.2　本研究の今後の課題

英語多読用図書についての研究では，1.1.3.1 で述べたコーパス分析による研究のほか，オンラインテキストを用いた ER 指導や，ER 指導用に作成されたアプリを用いた研究も増えつつある[79) 80) 81) 82)]。オンラインの手軽さが学生に好意的に受けとめられる一方で，図書の難易度選択を誤る学生の存在や，大学図書館に設置されている英語多読用図書の排架場所に足を運ぶ学生が減少するなどの課題を指摘する指導者もいる[83)]。本研究では，ER 指導におけるオンラインテキストの活用については取り上げていない。冊子体の英語多読用図書を学校図書館に所蔵，排架して行う ER 指導について，優先的に所蔵して排架する難易度等について明らかにすることはできたが，オンラインテキストを活用する利点と課題，司書教諭や学校司書が電子化された英語多読用図書についてどのように関わることができるのかということについて明らかにすることは，今後の課題である。

本研究では，コーパス分析によって高校生の語彙学習に資する英語多読用図書の難易度と種類について検討した。ER 指導において使用された英語多読用図書の貸出総語数や貸出図書の種類と TOEIC 取得点の関係について検討した。その結果，高等学校図書館に優先的に所蔵して排架する英語多読用図書の難易度は Headwords 数 300 語程度から 700 語程度，1 人あたり 200,000 語程度であることが示された。しかし，TOEIC 取得点と貸出図書の種類の関係については直接明らかにすることができなかった。第 4 章の結果か

らは，高校生が原書児童書を好んで読む傾向も示された。GR と LR や原書児童書とでは語彙難易度や総語数，使用文法項目が異なる。本研究ではマクロ的に調査を行ったが，高校生の貸出総語数と英語多読用図書の種類，難易度と TOEIC 取得点との関係を明らかにするためには，高校生の英語多読用図書の貸出時期と総語数，種類や，どのように段階的に難易度を上げていったということを，英語の成績が顕著に向上した生徒，しなかった生徒を抽出して調査を行うことも考えられる。今後検証を重ねていく。

また，本研究では高等学校図書館における ER 指導支援を中心とし，GR である Oxford Bookworms Library と Penguin English Readers，原書児童書のシリーズである Nate the Great Series と Magic Tree House Series のコーパス分析を JACET8000 および中学校英語教科書の 1 つである NEW CROWN を用いて実施した。本研究は高等学校図書館に限定しているが，大学図書館や中学校図書館のようにある一定の学力を有する大学生や中学生を対象として支援する場合には，本研究と同様に，学習者の現在の英語力から，英語多読用図書の難易度についての検討を行うことが考えられる。

2020 年度からは小学校外国語科が必修化された。児童生徒に求められる語彙の習得数，難易度がより高度なものに変化することが推察される。小学校英語教科書と中学校英語教科書に出現した語彙に関するコーパスを作成して，より多くの GR，原書児童書についての分析を行い，高等学校だけではなく，小学校，中学校，大学の図書館に優先的に所蔵して排架する英語多読用図書の難易度や種類についての検討を続けることが今後の課題となる。

【本章の引用文献・注】

[1]） 文部科学省．“第3期教育振興計画（平成30年6月15日　閣議決定）”．https://www.mext.go.jp/content/1406127_002.pdf,（参照2023-01-14）.

[2]） 文部科学省．“各資格検定試験とCEFRとの対照表”．文部科学省．2018, http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/30/03/__icsFiles/afieldfile/2019/01/15/1402610_1.pdf,（参照2023-01-14）.

[3]） ベネッセ教育総合研究所.“高1生の英語学習に関する調査 〈2015-2019継続調査〉”. https://berd.benesse.jp/global/research/detail1.php?id=5467,（参照2023-01-14）.

[4]） 及川賢. 検定教科書（外国語科（英語））を通してみた中高間のギャップ. 埼玉大学紀要教育学部. 2007, vol.56, no.2, p.73-80.

[5]） 根岸雅史. Lexile Measureによる中高大英語教科書のテキスト難易度の研究. ARCLE REVIEW. 2015, vol.9, p.11-12.

[6]） 大田悦子. Lexile Measure を用いた中高英語教科書の難易度比較. 白山英米文学. 2016, no.41, p.13.

[7]） 及川賢. 検定教科書（外国語科（英語））を通してみた中高間のギャップ. 埼玉大学紀要教育学部. 2007, vol.56, no.2, p.79.

[8]） 根岸雅史. Lexile Measureによる中高大英語教科書のテキスト難易度の研究. ARCLE REVIEW. 2015, vol.9, p.13-15.

[9]） 大田悦子. Lexile Measureを用いた中高英語教科書の難易度比較. 白山英米文学. 2016, no.41, p.18-19.

[10]） 村岡亮子. 中学校検定教科書で学習される語彙, 学習されない語彙：延べ語数, 異なり語数, 語彙レンジの視点から. STEP BULLETIN. 2010, 第22回 研究助成, p.188.

[11]） 藤井数馬. 英語多読導入期に用いる多読図書における YL 指数と Lexile 指数の相関調査：両指数の教育・学習上の特性の整理とともに. Eiken bulletin =「英検」研究助成報告. 2017, vol.29, p.165.

[12]） 高瀬敦子. 英語多読多聴指導マニュアル. 大修館書店, 2010, p.111.

[13]） 木場敬子. 図書館多読のススメ : 英語を一生の友だちに : 連載, たのしく多読（実践編）. 学校図書館. 2016, no.790, p.61.

[14]） 高瀬敦子. 英語多読多聴指導マニュアル. 大修館書店, 2010, p.111-112.

[15]） 三輪涼子. 私たちの「森」をつくろう②：連載, たのしく多読（実践編）. 学校図書館. 2016, no.787, p.72.

[16]） 三輪涼子. 私たちの「森」をつくろう③：連載, たのしく多読（実践編）. 学校図書館.

2016, no.788, p.86.

[17] 及川賢. 検定教科書（外国語科（英語））を通してみた中高間のギャップ. 埼玉大学紀要教育学部. 2007, vol.56, no.2, p.73-80.

[18] 根岸雅史. Lexile Measureによる中高大英語教科書のテキスト難易度の研究. ARCLE REVIEW. 2015, vol.9, p.11-12.

[19] 大田悦子. Lexile Measure を用いた中高英語教科書の難易度比較. 白山英米文学. 2016, no.41, p.13.

[20] ベネッセ教育総合研究所.“高1生の英語学習に関する調査 〈2015-2019継続調査〉”. https://berd.benesse.jp/global/research/detail1.php?id=5467, （参照2023-01-14）.

[21] 及川賢. 検定教科書（外国語科（英語））を通してみた中高間のギャップ. 埼玉大学紀要教育学部. 2007, vol.56, no.2, p.79.

[22] 根岸雅史. Lexile Measureによる中高大英語教科書のテキスト難易度の研究. ARCLE REVIEW. 2015, vol.9, p.13-15.

[23] 大田悦子. Lexile Measureを用いた中高英語教科書の難易度比較. 白山英米文学. 2016, no.41, p.18-19.

[24] 村岡亮子. 中学校検定教科書で学習される語彙, 学習されない語彙：延べ語数, 異なり語数, 語彙レンジの視点から. STEP BULLETIN. 2010, 第22回 研究助成, p.188.

[25] 藤井数馬. 英語多読導入期に用いる多読図書における YL 指数と Lexile 指数の相関調査：両指数の教育・学習上の特性の整理とともに. Eiken bulletin =「英検」研究助成報告. 2017, vol.29, p.165.

[26] Day, Richard. R.；Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.63-64.

[27] Nation, Paul；Waring, Rob. “Extensive Reading and Graded Readers”. *Reading Oceans*, 2013. http://www.readingoceans.jp/ComData/files/Paul%20Nation%20%20Rob%20Waring's%20ER%20Booklet_eng.pdf, p4, （accessed 2023-01-14）.

[28] Webb, Stuart；Macalister, John. Is Text Written for Children Useful for L2 Extensive Reading?. *tesol Quarterly*. 2013, vol.47, no.2, p.300-322.

[29] 西澤一, 吉岡貴芳, 伊藤和晃. 英語多読を通した図書館の授業支援と地域貢献. 論文集「高専教育」. 2008, http://jera-tadoku.jp/papers/nishizawa-2008-03.pdf, （参照 2023-01-14）.

[30] 高瀬敦子. 英語多読多聴指導マニュアル. 大修館書店, 2010, p.106, p.114-115.

[31]）西澤一，吉岡貴芳，伊藤和晃．英文多読による工学系学生の英語運用能力改善．電気学会論文誌. A，基礎・材料・共通部門誌. 2006, vol.126, no.7, p.556-562.

[32]）西澤一，吉岡貴芳，伊藤和晃．苦手意識を自信に変える，英語多読授業の効果．論文集「高専教育」. 2007, no.30, http://jera-tadoku.jp/papers/nishizawa-2007-03.pdf,（参照 2023-01-14）.

[33]）西澤一，吉岡貴芳，伊藤和晃. 3 年間の継続授業で明らかになった英語多読授業の効果と成功要因．工学教育. 2008, vol.56, no.1, p.72-76.

[34]）西澤一，吉岡貴芳，伊藤和晃．工学系学生の苦手意識を克服し自律学習へ導く英語多読授業．工学教育. 2010, vol.58, no.3, p.12-17.

[35]）岩中貴裕．英語学習における多読の役割：授業内読書が受講生の英語力と授業評価に与える影響．四国英語教育学会紀要. 2011, vol.31, p.59-68.

[36]）新川智清．多読・多聴を導入した沖縄高専の英語教育：1 期生から 7 期生まで．独立行政法人国立高等専門学校機構沖縄工業高等専門学校紀要 = Research reports of Okinawa National College of Technology / 沖縄工業高等専門学校編. 2012, no.6, p.27-37.

[37]）西澤一，吉岡貴芳，伊藤和晃．国際交流活動と英語多読による工学系学生の英語運用能力改善．工学教育. 2013, vol.61, no.1, p.147-152.

[38]）藤井数馬．詫間キャンパスにおける 1 年間の定期的な授業内英語多読が学生に与えた影響について．論文集「高専教育」：kosen kyoiku. 2013, no.36. p.199-204.

[39]）柳田正豪．沖縄キリスト教短期大学英語科における多読と TOEIC Bridge テストの相関．沖縄キリスト教短期大学紀要 = Journal of Okinawa Christian Junior College / 沖縄キリスト教短期大学編. 2017, no.45. p.47-54.

[40]）Rutson, Griffiths；Rutson-Griffiths, Yukari. The Relationship between Extensive Reading and TOEIC Score Gains. *広島文教女子大学高等教育研究*. 2018, no.4, p.41-50.

[41]）Cheetham, Catherine, Elliott, Melody, Tagashira, Miki. Determining an Attainable Threshold：The Effects of Extensive Reading and Timed-Reading Activities on Student Mock TOEIC Results. *東海大学紀要*. 2018, vol.38, p.51-63.

[42]）柊元弘文．第二言語習得における多読の意義及び多読指導実践とその効果検証．研究論集. 2019, vol.110, p.213-231.

[43]）柊元弘文．第二言語習得における多読の意義及び多読指導実践とその効果検証．研究論集. 2019, vol.110, p.229.

[44]）文部科学省．“第3期教育振興計画（平成30年6月15日　閣議決定）”.

https://www.mext.go.jp/content/1406127_002.pdf, （参照2023-01-14）.

[45]） Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Education Books, 1982, p.177.

[46]） Day, Richard. R. ; Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.112-113.

[47]） Nation, I.S.P. ; Waring, Rob. *Teaching Extensive Reading in Another Language.* Routledge. 2020, p.54.

[48]） 高瀬敦子. 英語多読多聴指導マニュアル. 大修館書店, 2010, p.111.

[49]) 木場敬子. 図書館多読のススメ : 英語を一生の友だちに : 連載, たのしく多読（実践編）. 学校図書館. 2016, no.790, p.61.

[50]） 高瀬敦子. 英語多読多聴指導マニュアル. 大修館書店, 2010, p.111-112.

[51]） Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Education Books, 1982, p.168.

[52]） Krashen, Stephen. *The Input hypothesis：Issues and Implication*. Longman, 1985, viii, 120p

[53]） Krashen, Stephen. *The Power of Reading：Insights from the Research*. Libraries Unlimited, 1993, 119p.

[54]） Day, Richard. R. ; Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, xv,222p.

[55]） Nation, I.S.P. *Learning Vocabulary in Another Language*. Cambridge, 2001, p.149.

[56]) 酒井邦秀, 神田みなみ編著. 教室で読む英語100万語 ： 多読授業のすすめ. 大修館書店, 2005, p.36.

[57]） 古川昭夫, 神田みなみ, 小松和恵, 畑中貴美, 西澤一. 英語多読完全ブックガイド ： めざせ1000万語!. コスモピア, 2005, p.14.

[58]） 高瀬敦子. 英語多読多聴指導マニュアル. 大修館書店, 2010, p.68.

[59]） Day, Richard R. ; Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.8-9.

[60]） 文部科学省. “第3期教育振興計画（平成30年6月15日　閣議決定）”. https://www.mext.go.jp/content/1406127_002.pdf, （参照2023-01-14）.

[61]） 高瀬敦子. 英語多読多聴指導マニュアル. 大修館書店, 2010, p.111.

[62]) 木場敬子. 図書館多読のススメ : 英語を一生の友だちに : 連載, たのしく多読（実践編）. 学校図書館. 2016, no.790, p.61.

63) Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Education Books, 1982, p.177.

64) Day, Richard. R. ; Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, p.112-113.

65) Nation, I.S.P. ; Waring, Rob. *Teaching Extensive Reading in Another Language.* Routledge. 2020, p.54.

66) 米澤久美子. “3.2 学校図書館の環境づくり”. 酒井邦秀, 西澤一編著. 図書館多読への招待. 日本図書館協会, 2014, p.53.

67) 文部科学省. “学校図書館図書標準”. https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/hourei/cont_001/016.htm, （参照 2023-02-24）.

68) 全国学校図書館協議会. “学校図書館メディア基準”. 全国学校図書館協議会. https://www.j-sla.or.jp/pdfs/20210401mediakijun.pdf, （参照 2023-01-14）.

69) 栗下典子, 伊東英. Book Talk による英語多読への意欲づけと 4 技能の総合的養成による読解力の向上 ： 公立中学校における実践例. 岐阜大学教育学部研究報告. 教育実践研究・教師教育研究. 2018, vol.20, p.149-158.

70) 渡邉政寿, 大場浩正. 教室内英語多読が日本人高校生の作文力に与える効果. 日本教科教育学会誌. 2018, vol.41, no.1, p.73-84.

71) 藤井数馬, 川畠嘉美. 英語多読が自由英作文に与える影響. 中部地区英語教育学会紀要. 2021, vol.50, p.17-24.

72) 渡邉政寿. 教室内英語多読が高校生の作文力に与える影響 ：GTEC の結果分析をもとに. 日本多読学会紀要. 2022, vol.15, p.25-44.

73) 米澤久美子. 特集, 多言語に対応する学校図書館 ： 多言語を支援する学校図書館. 学校図書館. 2017, no.801, p.14-15.

74) 鈴木徹. 特集, 多言語に対応する学校図書館 ： 英語多読から英語の「読書」へ. 学校図書館. 2017, no.801, p.17-19.

75) 藤田将人. 特集 ： 多言語に対応する学校図書館, 学校図書館と協働した英語教育. 学校図書館. 2017, no.801, p.25-27.

76) NPO 多言語多読監修, 西澤一, 米澤久美子, 粟野真紀子. 図書館多読のすすめかた. 日本図書館協会. 2019, x,198p.

77) Nation, I.S.P. ; Waring, Rob. *Teaching Extensive Reading in Another Language*. Routledge. 2020, p.61.

[78] Extensive Reading Foundation. “Extensive Reading Around the World Program”. *Extensive Reading Around the World*. https://erfoundation.org/eraw/program/, （accessed 2023-01-14）.

[79] 隅田朗彦. オンライン英語多読教材を使用した多読学習における読書行動の読解力および読解速度への影響. 日本大学文理学部人文科学研究所研究紀要. 2018, no.95, p.21-34.

[80] 須賀晴美. 電子書籍を利用した多読による英語読解力向上プログラムの効果. 帝京大学宇都宮キャンパス研究年報. 人文編. 2020, no.26, p.143-165.

[81] Bui, Tuan Ngoc ; Macalister, John. Online Extensive Reading in an EFL Context : Investigating Reading Fluency and perceptions. *Reading in a Foreign Language*. 2021, vol.33, no.1, p.1-29.

[82] Savitri, Wiwiet Eva ; Munir, Ahmad “The use of Xreading books & audios for extensive reading program”. *Innovation on Education and Social Science*. Maureen, Irena et.al. ed. Routledge, 2022, p.42-48.

[83] 吉田弘子. 大学におけるオンライン多読・多聴 ： 実践と課題. 日本多読学会紀要. 2022, vol.15, p.77-89.

第 6 章　結論

本研究では，高等学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架を中心とした，高校生の英語力を向上させるための ER 指導に対する支援方法について明らかにすることを目的として検討を行った。本章では 3 つの研究課題の結果をそれぞれ示した上で研究の結論を述べる。

「研究課題 1：従来の ER 指導において，英語科教諭は所蔵と排架を中心とした学校図書館の支援にどのような期待を持っているか」では，ER 指導に関する先行研究および学校図書館の ER 支援について書かれた文献を整理した。日本語の「多読」と ER とを批判的に考察することで，高等学校における ER 指導の必要性を示した。従来の先行研究において英語科教諭が学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架について期待している点と，不足している観点について検討した。英語科教諭や研究者は，多くの英語多読用図書を手に取りやすい形で収集・所蔵・管理，整備できる場所として，学校図書館の協力への期待を述べていた。これらは英語科教諭にとっての業務が減少するという観点からのみで，英語科教諭と学校図書館との協働が ER 指導への支援となり得るのかということについての検討が不足していた。学校図書館への英語多読用図書の所蔵と排架が高校生の英語力向上になるのかということや，自発的な読書への取り組みの支援になるのかという検討が必要であることを指摘した。

「研究課題 2：高等学校での ER 指導において高校生の語彙学習となり得る英語多読用図書の難易度，種類はどのようなものか」では，コーパス分析によって日本の高等学校での ER 指導に用いられている GR と原書児童書のシリーズに出現する語彙の特徴を調査して，高校生の語彙学習に資する英語多読用図書の難易度と種類について検討した。その結果, 高校 1 年次生が中学校英語教科書と高等学校英語教科書の難易度差を埋めるためには, 先行研究で考えられていた Headwords 数 400 語よりも, Headwords 数 300 語程度の GR と，同程度の難易度の原書児童書のシリーズが高校 1 年次生にとって負担なく読める英語多読用図書であることが示唆された。原書児童書のシリーズは 1 冊ずつの使用語彙の難易度の差異が小さく，同一シリーズ内の図書を選択することで GR よりも難易度が近似した図書と出合えることを明らかにした。高校生の語彙学習となる英語多読用図書として，原書児童書のシリーズの有用性を示した。高等学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架の基準となり得る難易度の枠組みを検討するための基礎的な知見を提供した。

「研究課題 3 : 英語多読用図書の所蔵と排架を中心とした学校図書館の支援は，ER 指導における高校生の英語力向上促進支援となり得るか」では，学校図書館で行われた ER 指導の実践をもとに，高等学校図書館の英語多読用図書の所蔵と排架がどのように英語科教諭や高校生の支援となり得るのかについて検討した。高等学校図書館への英語多読用図書の所蔵と排架が，ER 指導において高校生の自発的な読書への取り組みを促進させ得ることが示された。Headwords 数 1,000 語以上の英語多読用図書を読まなくても，難易度が低く，理解可能な語彙で書かれた図書を多く読むことで，高等学校卒業までに文部科学省の目標である CEFR A2/B1 レベルを達成できる可能性が示された。

高等学校図書館は，学校教育に必要な資料を収集し，整理するだけではなく，それらを適切に提供することによって，教諭や高校生を支援する場である。設定した 3 つの研究課題から，従来の先行研究では学校図書館への英語多読用図書の所蔵と排架が高校生の英語力向上支援となり得るのかという観点が不足していることを指摘した。高等学校図書館にすべての難易度の英語多読用図書を均等に所蔵して排架するのではなく，Headwords 数 700 語以下の難易度の GR およびそれらと同程度の難易度の LR や原書児童書のシリーズを優先的に所蔵して難易度別に排架することが，英語科教諭の負担軽減になるだけではなく，高校生の自発的な読書への取り組みを促進させ，結果的に英語力向上の支援になり得ることが示唆された。高等学校図書館に優先的に排架すべき英語多読用図書の難易度の枠組みとして，Headwords 数 300 語程度から 700 語以下であることを示した。難易度の低い英語の図書を読むことによって得られる流暢な読みを重視する ER 指導においては，指導者による指導が前提となるが，英語科教諭によって ER 指導に対する積極性に差異が生じることがある。高等学校図書館での英語多読用図書の所蔵と排架は，英語科教諭の積極性に関わらず，自発的に ER に取り組む高校生への支援となる。また，高等学校図書館は一斉授業を行う英語科教諭には不可能な司書教諭や学校司書の個別の支援が可能な場でもある。英語科教諭の指導と司書教諭や学校司書の支援の双方が総合的な ER 指導となることから，英語科研究室などではなく，学校図書館に英語多読用図書を排架することに意義がある。高校生がそれぞれの学年や英語力に適した難易度の英語多読用図書を選択できるように，高校生の語彙学習に資する難易度の英語多読用図書を優先的に所蔵して，それらをわかりやすく手に取れるように排架したり掲示をしたりする環境整備や，学校図書館蔵書管理システムでの検索を可能にするための目録作成を行うことは，司書教諭や学校司書の役割となる。英語科教諭と学校図書館業務をよく知る司書教諭や学校司書が協働し，そ

れぞれの専門知識を共有して ER 指導に取り組むことが，高校生の英語力向上への支援となると考えられる。

今後さらに検証すべき点はあるが，本研究によって，高等学校図書館に優先的に所蔵して排架すべき英語多読用図書の難易度や英語科教諭との協働の重要性が明らかになった。今後も図書館研究の立場から，選書や排架の方法，英語科教諭との協働など，ER 指導の支援についての検討が進んでいくことが望まれる。

謝辞

本研究を進めるにあたり，多くの方のご指導，ご助言，ご協力を賜りました。心から感謝申し上げます。

本稿をまとめるにあたり，筑波大学大学院図書館情報メディア研究科の先生方，主査，副査を引き受けて下さった先生方に感謝申し上げます。故平久江祐司教授，逸村裕教授，鈴木佳苗教授，溝上智恵子教授に貴重なご指導，ご助言をいただきました。

予備審査直前の主査変更およびその後の世話人を引き受けてくださった逸村教授には本当に感謝しています。いつも温かく励まして下さり，ありがとうございました。早く終わらせたいと言っていたのに，そこからさらに2年も引っ張ってしまいました。長らくご迷惑をおかけしたこと，本当に申し訳ございません。

また，鈴木佳苗教授には1回目の予備審査後に，学術的価値という点からのご指導をいただき，投稿論文に関する丁寧なご助言を賜りました。今後に役立ててまいりたいと存じます。お忙しい中，詳細にご指導いただけましたこと，深く感謝申し上げます。

溝上教授には，ご退職前に論文を仕上げることができず，非常に申し訳なく思っております。博士課程を始めたばかりのころ，先生の厳しいご指導にちゃんと従っておけばもっと早くに仕上げることができたのだと思います。今後の反省として生かしていきます。

故平久江教授には，病の中，長年にわたって丁寧なご指導をいただきました。先生の励ましがなければ，ここまで到達することは不可能でした。博論の草稿をお送りし，病室から電話とスカイプでご指導いただいたことは生涯忘れません。あのときお伺いしていればと悔やんでも悔やみきれませんが，草稿完成を喜んでいただけたことだけが救いです。

また，博士前期課程においてご指導いただいた薬袋秀樹筑波大学名誉教授にも感謝申し上げます。研究の基礎を教えていただいたことが，博士論文につながっています。学校図書館や読書に関する書籍をたくさん頂戴したことも，研究執筆の糧となりました。

本論文の審査をお引き受けいただきました筑波大学図書館情報メディア系 後藤嘉宏教授，吉田右子教授，東洋英和女学院大学人間科学部人間科学科 金沢みどり教授に感謝申し上げます。予備審査にて貴重なご助言をいただき，見落としていた新たな気付きを得ることができました。丁寧なご指摘ありがとうございました。本論文が完成したのは先生方のおかげです。心から感謝申し上げます。また，筑波大学図書館情報メディア系 綿抜豊昭教授にはお忙しい中，急遽，審査をお引き受けいただきました。感謝申し上げます。

本研究では，日本において英語多読を推進してきた酒井邦秀先生，古川昭夫先生，高瀬敦子先生，西澤一先生，米澤久美子さん，徳谷美喜子さん，Dr. Rob Waring などからお伺いした英語多読および ER の指導方法や支援方法，熱い情熱が糧となっています。博士論文に書ききれなかった部分が多くありますが，日本の ER を牽引してきた方々があってこそ，この研究が成り立っています。研究を進める上での重要な指針をいただきました。ご協力に感謝し，今後のご活躍をお祈りしております。

また，勤務校である明治大学付属明治高等学校中学校の英語科教諭，中学生，高校生たちにも感謝しています。1 学年分，280 名近い英語多読記録冊子に毎月のように目を通していらっしゃる英語科の先生方には本当に頭が下がります。また，それに応えるかのように ER に取り組む中学生，高校生の熱心さも研究の励みとなりました。10 年前には所蔵が 7,000 冊を超えたにも関わらず書架からすべての英語多読用図書が姿を消す日がくるとは思ってもいませんでした。

専任司書教諭として勤務してきた日々が，研究期間とほぼ重なることになってしまいました。当初の予定以上に長くかかった研究ですが，同僚である村松教子英語科教諭とともに ER 指導および学校図書館の支援について試行錯誤してきたことが，研究の推進力となっています。GR と LR の違いすらわからず，英語文献がまるで読めない段階から，ER 指導や英語多読用図書について，詳細にご教授いただきました。こんなに英語論文が読めるようになった自分にも驚いています。ともに論文を執筆したり著書を出版したりと，励ましあい，議論し，助け合うことのできる友人と職場で出会えた幸運に感謝しています。教子さん，本当にありがとう。

振り返ってみれば，中学 1 年生のときに父とともに毎日読んだ英語のショートストーリーズとの出合いがわたしの Extensive Reading の始まりでした。英語を学ぶことの楽しさに目覚めさせてくれた父，琢朗と，いつも温かく見守ってくれる母，榮子に心から感謝しています。

参考文献リスト

日本語　書籍・雑誌論文

【あ】

・相澤一美, 石川慎一郎, 村田年ほか編. JACET8000 英単語：「大学英語教育学会基本語リスト」に基づく. 桐原書店, 2005, 503p.

・新川智清. 多読・多聴を導入した沖縄高専の英語教育：1 期生から 7 期生まで. 独立行政法人国立高等専門学校機構沖縄工業高等専門学校紀要 = Research reports of Okinawa National College of Technology / 沖縄工業高等専門学校編. 2012, no.6, p.27-37.

・安藤昭一. “速読の方法”. 読む英語. 波多野完治ほか編, 研究社, 1979, p.105-131.

・石川慎一郎. ベーシックコーパス言語学. ひつじ書房, 2012, vii,275p.

・石川慎一郎, 長谷部陽一郎, 住吉誠. コーパス研究の展望. 開拓社. 2020, xii, 273p.

・井村誠. ORT のコーパス分析：コンテンツ分析から見た L1 児童用英語絵本の有効性. 日本多読学会紀要. 2020, vol.13, p.3-23.

・岩中貴裕. 英語学習における多読の役割：授業内読書が受講生の英語力と授業評価に与える影響. 四国英語教育学会紀要. 2011, vol.31, p.59-68.

・江竜珠緒, 野村愛子. “10 教科と連携した活動”. 鍛えよう! 読むチカラ：学校図書館で育てる 25 の方法. 桑田てるみ監修, 「読むチカラ」プロジェクト編著. 明治書院, 2012, p.58-59.

・江竜珠緒, 村松教子. 明治高等学校における英語多読：生徒の洋書選択についての考察. 明高研叢. 2012, no.11, p.75-95.

・江竜珠緒, 村松教子. 学校図書館員と英語科教諭のための英語多読実践ガイド：導入のためのブックガイド付. 少年写真新聞社, 2018, 127p.

・江竜珠緒. 学校図書館における英語多読用図書の提供と支援の効果：アクション・リサーチによる分析を基に. 図書館情報メディア研究. 2019, vol.17, no.1, p.1-17. http://www.slis.tsukuba.ac.jp/grad/assets/files/pub-2/17-1.1.pdf, （参照 2023-01-14）.

・及川賢. 検定教科書（外国語科（英語））を通してみた中高間のギャップ. 埼玉大学紀要教育学部. 2007, vol.56, no.2, p.73-80.

・大田悦子. Lexile Measure を用いた中高英語教科書の難易度比較. 白山英米文学. 2016, no.41, p.1-20.

・大槻きょう子, 高瀬敦子. 多読用図書教材が英語習得に及ぼす影響：L1 児童用英語絵本と中学英語教科書との違い. 英語教育研究（SELT）, 2012, no.35, http://jera-tadoku.jp/papers/2012-talase-kansai_eigokyoiku-20120222.pdf, （参照 2023-01-14）.

・大槻きょう子, 高瀬敦子. 多読用教材としての L1 児童用英語絵本の人気の秘密：文科省英語教科書と比較して. 日本多読学会紀要. 2014, vol.7, p.10-26.

・大西好宣. グローバル人材とは何か：政府等による定義と新聞報道にみる功罪. 千葉大学人文公共学研究論集. 2018, no.36, p.168-183.

・小田光弘. “学校図書館におけるテクニカルサービスモデルの構築”. 学校図書館メディアセンター論の構築にむけて：学校図書館の理論と実践. 日本図書館情報学会研究委員会編. 勉誠出版, 2005, p.45-57., （図書館情報学のフロンティア, 5）.

【か】

・垣田直巳監修, 松村幹男編. 英語のリーディング. 大修館書店, 1984, ix,207p.

・加藤剛, 高橋恵亮, 倉田有邦, 小幡正躬. 多読指導のための一つの試み. 名古屋大学教育学部附属中高等学校紀要. 1969, no.14, p.134-138.

・門田修平, 野呂忠司, 氏木道人編著. 英語リーディング指導ハンドブック. 大修館, 2010, ix,415p.

・金谷憲, 木村哲夫, 薬袋洋子. 高校における多読プログラム：その効果と可能性. 関東甲信越英語教育学会研究紀要. 1991, no.5, p.19-28.

・金谷憲, 長田雅子, 木村哲夫, 薬袋洋子. 英語多読の長期的効果：中学生と高校生プログラムの比較. 関東甲信越英語教育学会研究紀要. 1995, no.9, p.21-27.

・学校図書館法. 1953.8.8. 法律第 185 号制定.

・加野まきみ. 多読学習用リーダー・コーパス構築と分析：学習者が感じる「難しさ」の解明へ向けて. 京都産業大学論集. 人文科学系列. 2016, vol.49, p.183-200.

・柊元弘文. 第二言語習得における多読の意義及び多読指導実践とその効果検証. 研究論集. 2019, vol.110, p.213-231.

・栗下典子, 伊東英. Book Talk による英語多読への意欲づけと 4 技能の総合的養成による読解力の向上：公立中学校における実践例. 岐阜大学教育学部研究報告. 教育実践研究・教師教育研究. 2018, vol.20, p.149-158.

・桑田てるみ監修, 「読むチカラ」プロジェクト編著. 鍛えよう! 読むチカラ ： 学校図書館で育てる 25 の方法. 明治書院, 2012, 143p.
・木場敬子. “東京都立稔ヶ丘高校における図書館多読”. 図書館多読への招待. 酒井邦秀, 西澤一編著. 日本図書館協会, 2014, p.136-148.
・木場敬子. 図書館多読のススメ ： 英語を一生の友だちに ： 連載, たのしく多読（実践編）. 学校図書館. 2016, no.790, p.61.
・小林亮. ユネスコスクール ： 地球市民教育の理念と実践. 明石書店, 2014, 263p.

【さ】
・酒井邦秀. どうして英語が使えない?：「学校英語」につける薬. 筑摩書房, 1993, 242p.
・酒井邦秀. 快読 100 万語! ペーパーバックへの道 : 辞書なし, とばし読み英語講座. 筑摩書房, 2002, 309p.
・酒井邦秀, 佐藤まりあ. ミステリではじめる英語 100 万語 ： 人気児童書から本格派ペーパーバックまで! . コスモピア, 2006, 217p.
・酒井邦秀. さよなら英文法!：多読が育てる英語力. 筑摩書房, 2008, 316p.
・酒井邦秀. “1.7　費用の壁”. 図書館多読への招待. 酒井邦秀, 西澤一編. 日本図書館協会, 2014, p.10-11, （図書館実践シリーズ, 25）.
・酒井邦秀, 太田洋, 柴田武史. 座談会“めざせ 100 万語”とは!?：多読は授業で実践できるか. 英語教育. 2004, vol.52, no.12, p.8-16.
・酒井邦秀, 神田みなみ編著. 教室で読む英語 100 万語 ： 多読授業のすすめ. 大修館書店, 2005, 227p.
・酒井邦秀, 佐藤まりあ. ミステリではじめる英語 100 万語 ： 人気児童書から本格派ペーパーバックまで!. コスモピア, 2006, 217p.
・酒井邦秀, 西澤一編著. 図書館多読への招待. 日本図書館協会, 2014, ix,186p.
・酒井邦秀監修, 古川昭夫, 河手真理子. 今日から読みます英語 100 万語! ：いっぱい読めばしっかり身につく. 日本実業出版, 2003, 253p.
・“座談会「新・多読三原則」をめぐって”. 多聴多読マガジン. 2013, vol.8, no.2, p.40-48.
・三省堂ほか編. NEW CROWN 1 [平成 28 年度採用]：ENGLISH SERIES. New Edition. 三省堂, 2015, 159p.

・三省堂ほか編. NEW CROWN 2 [平成 28 年度採用] : ENGLISH SERIES. New Edition. 三省堂, 2015, 159p.
・三省堂ほか編. NEW CROWN 3 [平成 28 年度採用] : ENGLISH SERIES. New Edition. 三省堂, 2015, 159p.
・塩見昇. 教育としての学校図書館 ： 学ぶことの喜びと読む自由の保障のために. 青木書店, 1983, xi,243,iv,p.
・鈴木徹. 特集, 多言語に対応する学校図書館 ： 英語多読から英語の「読書」へ. 学校図書館. 2017, no.801, p.17-19.
・鈴木寿一. “読書の楽しさを経験させるためのリーディング指導”. 新しい読みの指導 ： 目的を持ったリーディング. 渡辺時夫編著編. 三省堂, 1996, p.116-123., （英語教育叢書, 9）.

【た】

・大学英語教育学会基本語改訂委員会編. 大学英語教育学会基本語リスト JACET8000 : List of 8000 Basic Words. 大学英語教育学会, 2003, 131p.
・大学英語教育学会基本語改訂特別委員会編著. 大学英語教育学会基本語リスト新 JACET8000 : The New JACET List of 8000 Basic Words. 桐原書店, 2016, 160p.
・高瀬敦子. ある私立高校での多読授業への挑戦. 教室で読む英語 100 万語 ： 多読授業のすすめ. 酒井邦秀, 神田みなみ編著. 大修館書店, 2005, p.82-89.
・高瀬敦子. 英語多読多聴指導マニュアル. 大修館書店, 2010, x,237p.
・“多聴多読の学習法”. 多聴多読マガジン. 2013, vol.8, no.2, p.6-7.

【な】

・永井滋郎. 戦後国際理解教育の軌跡. 社会科研究. 1992, no.40, p.3-12.
・西澤一, 吉岡貴芳, 伊藤和晃. 英文多読による工学系学生の英語運用能力改善. 電気学会論文誌. A, 基礎・材料・共通部門誌. 2006, vol.126, no.7, p.556-562.
・西澤一, 吉岡貴芳, 伊藤和晃. 苦手意識を自信に変える, 英語多読授業の効果. 論文集「高専教育」. 2007, no.30, http://jera-tadoku.jp/papers/nishizawa-2007-03.pdf, （参照 2023-01-14）.

・西澤一, 吉岡貴芳, 伊藤和晃. 英語多読を通した図書館の授業支援と地域貢献. 論文集「高専教育」. 2008, http://jera-tadoku.jp/papers/nishizawa-2008-03.pdf, （参照 2023-01-14）.
・西澤一, 吉岡貴芳, 伊藤和晃. 3 年間の継続授業で明らかになった英語多読授業の効果と成功要因. 工学教育. 2008, vol.56, no.1, p.72-76.
・西澤一, 吉岡貴芳, 伊藤和晃. 工学系学生の苦手意識を克服し自律学習へ導く英語多読授業. 工学教育. 2010, vol.58, no.3, p.12-17.
・西澤一, 吉岡貴芳, 伊藤和晃. 国際交流活動と英語多読による工学系学生の英語運用能力改善. 工学教育. 2013, vol.61, no.1, p.147-152.
・日本図書館情報学会研究委員会編. 学校図書館への研究アプローチ. 勉誠出版, 2017, 183p, （わかる! 図書館情報学シリーズ, 第 4 巻）.
・根岸雅史. Lexile Measure による中高大英語教科書のテキスト難易度の研究. ARCLE REVIEW. 2015, vol.9, p.6-16.
・ネーション, I.S.P. 英語教師のためのボキャブラリーラーニング. 吉田晴世, 三根浩訳. 松柏社, 2008, x,531p.
・野呂忠司. “第 5 章 多読速読指導”. 英語リーディング指導ハンドブック. 門田修平, 野呂忠司, 氏木道人編著編. 大修館, 2010, p.189.

【は】
・畠山均. 速読多読授業における副教材の種類について ： フィクション教材とノンフィクション教材の理解度を中心として. 純心英米文化研究. 1986, no.3, p.79-91.
・藤井数馬. 詫間キャンパスにおける 1 年間の定期的な授業内英語多読が学生に与えた影響について. 論文集「高専教育」 ：kosen kyoiku. 2013, no.36. p.199-204.
・藤井数馬. 多読と学校図書館への影響 ： 多読指導の「ゼロ段階」として. 多読学会紀要. 2015, vol.8, p.3-15.
・藤井数馬. 英語多読導入期に用いる多読図書における YL 指数と Lexile 指数の相関調査 ： 両指数の教育・学習上の特性の整理とともに. Eiken bulletin =「英検」研究助成報告. 2017, vol.29, p.151-166.
・藤井数馬, 川畠嘉美. 英語多読が自由英作文に与える影響. 中部地区英語教育学会紀要. 2021, vol.50, p.17-24.

・藤田将人. 特集 ： 多言語に対応する学校図書館, 学校図書館と協働した英語教育. 学校図書館. 2017, no.801, p.25-27.

・古川昭夫. 英語多読法 ： やさしい本で始めれば使える英語は必ず身につく. 小学館, 2010, 206p.

・古川昭夫監修, 上田敦子. 英語多読入門 ： やさしい本からどんどん読もう!. コスモピア, 2011, 234p.

・古川昭夫, 神田みなみ, 小松和恵, 畑中貴美, 西澤一. 英語多読完全ブックガイド ： めざせ 1000 万語!. コスモピア, 2005, 462p.

・古川昭夫, 宮下いづみ. イギリスの小学校教科書で楽しく英語を学ぶ（実用外国語）. 小学館, 2007, 224p.

・古川昭夫, 宮下いづみ. 続・イギリスの小学校教科書で楽しく英語を学ぶ〔社会・理科編〕 ： これで多読・多聴をすれば, 使える英語が身につく!. 小学館, 2008, 221p.

・古川昭夫, 宮下いづみ. 親子で英語絵本リーディング ： イギリスの小学校教科書で始める. 小学館, 2011, 175p.

・星佐都子. 特集Ｉ ： 外国語活動と学校図書館, 英語教育に対応した資料収集. 学校図書館. 2012, no.739, p.34-35.

・堀川照代. 学校図書館を活用した教育／学習の意義. 明治大学図書館情報学研究会紀要. 2012, no.3, p.2-11.

【ま】

・三上洋介. Pre-reading でのトップダウンアプローチと Post-reading の統語処理活動を取り入れた高校生の多読授業実践. Eiken bulletin =「英検」研究助成報告. 2020, vol.32, p.144-172.

・三輪涼子. 私たちの「森」をつくろう ： 連載, たのしく多読（実践編）. 学校図書館. 2016, no.786, p.67.

・三輪涼子. 私たちの「森」をつくろう② ： 連載, たのしく多読（実践編）. 学校図書館. 2016, no.787, p.72.

・三輪涼子. 私たちの「森」をつくろう③ ： 連載, たのしく多読（実践編）. 学校図書館. 2016, no.788, p.86.

・村岡亮子. 中学校検定教科書で学習される語彙, 学習されない語彙 ： 延べ語数, 異なり語数, 語彙レンジの視点から. STEP BULLETIN. 2010, 第 22 回 研究助成, p.182-203.
・明治大学付属明治高等学校. 2019 年度学年指導学習指導年間計画表. 2019. 78p.
・明治大学付属明治高等学校・中学校 PTA. 明治大学付属明治高等学校・中学校 PTA 会報.

【や】

・八木慶太郎, 土屋武久, 小西正恵, 戸田光昭. 高等学校の外国語教育における学校図書館の活用. Language Education & Technology. 2006, no.43, p.161-176.
・柳田正豪. 沖縄キリスト教短期大学英語科における多読と TOEIC Bridge テストの相関. 沖縄キリスト教短期大学紀要 = Journal of Okinawa Christian Junior College / 沖縄キリスト教短期大学編. 2017, no.45. p.47-54.
・吉田弘子. 大学におけるオンライン多読・多聴 ： 実践と課題. 日本多読学会紀要. 2022, vol.15, p.77-89.
・与那覇信恵, 阿佐宏一郎. 英語カリキュラムに連動した語彙教材開発のための基礎調査 : Reading 教科書の語彙分析. 文京学院大学外国語学部文京学院短期大学紀要. 2012, no.11, p.69-82.
・米澤久美子. 特集Ｉ ： 外国語活動と学校図書館, 英語多読と学校図書館. 学校図書館. 2012, no.739, p.31-33.
・米澤久美子. “3.2 学校図書館の環境づくり”. 酒井邦秀, 西澤一編著. 図書館多読への招待. 日本図書館協会, 2014, p.51-54.
・米澤久美子. “3.3 多読と学校司書の役割”. 図書館多読への招待. 酒井邦秀, 西澤一編著. 日本図書館協会, 2014, p.54-63.
・米澤久美子. 学校図書館で英語多読を. 東京都の学校図書館. 2014, no.50, p.28-37.
・米澤久美子. 特集, 多言語に対応する学校図書館 ： 多言語を支援する学校図書館. 学校図書館. 2017, no.801, p.14-15.

【わ】

・渡邉政寿, 大場浩正. 教室内英語多読が日本人高校生の作文力に与える効果. 日本教科教育学会誌. 2018, vol.41, no.1, p.73-84.

・渡邉政寿. 教室内英語多読が高校生の作文力に与える影響：GTEC の結果分析をもとに. 日本多読学会紀要. 2022, vol.15, p.25-44.

【A - Z】

・NPO 多言語多読監修, 西澤一, 米澤久美子, 粟野真紀子. 図書館多読のすすめかた. 日本図書館協会. 2019, x,198p.

英語　書籍・雑誌論文

・Bui, Tuan Ngoc ; Macalister, John. Online Extensive Reading in an EFL Context：Investigating Reading Fluency and perceptions. *Reading in a Foreign Language*. 2021, vol.33, no.1, p.1-29.

・Cheetham, Catherine, Elliott, Melody, Tagashira, Miki. Determining an Attainable Threshold：The Effects of Extensive Reading and Timed-Reading Activities on Student Mock TOEIC Results. *東海大学紀要*. 2018, vol.38, p.51-63.

・Cheetham, Dominic. Extensive Reading of Children's Literature in First, Second, and Foreign Language Vocabulary Acquisition. *CLELE journal*. 2005, vol.3, Issue 2, p.1-23.

・Claridge, Gillian. Simplification in graded readers：Measuring the authenticity of graded text. *Reading in a Foreign Language*. 2005, vol.17, no.2, p.144-158.

・Coxhead, Averil. A New Academic Word List. *tesol Quarterly*. 2000, vol.34, no.2, p.213-238.

・Day, Richard. R. ; Bamford, Julian. *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge University Press, 1998, xv,222p.

・Day, Richard. R. ; Bamford, Julian. Top Ten Principles for Teaching Extensive Reading. *Reading in a Foreign Language*. 2002, vol.14, no.2, p.136-141.

・Elley, Warwick. B. ; Mangubhai, Francis. The Impact of a Book Flood in Fiji Primary Schools. *New Zealand Council for Educational Research/Institute of Education,* University of South Pacific, 1981, 28p.

・Elley, Warwick. B. The Potential of Book Floods for Raising Literacy Levels. *International Review of Education*. 2000, vol.46, Issue 3-4, p.233-255.

・Folse, Keith S. Myths about Teaching and Learning Second Language Vocabulary：What Recent Research Says. *TESL Reporter*. vol.37, no.2, 2004, p.1-13.
・Francis, W. Nelson；Henry Kucera. *Computational Analysis of Present-Day American English*. Brown University Press, 1967, xxv,424p.
・Grabe, William. R*eading in a Second Language: Moving form Theory to Practice*. Cambridge Applied Linguistics, 2009, xv,467p.
・Gunderson, Lee；D'Silva, Reginald Arthur；Odo, Dennis Murphy. *ESL （ELL） literacy instruction：A guidebook to theory and practice.* Third edition. Routledge, 2014, xx,292p.
・Hirsh, David；Nation, Paul. What Vocabulary Size is Needed to Read Unsimplified Texts for Pleasure? *Reading in a Foreign Language*. 1992, vol.8, no.2, p.689-696.
・Hu, Marcella, ；Nation, I.S.P. Unknown Vocabulary density and reading comprehension. *Reading in a Foreign Language*. 2000, vol.13, no.1, p.403-430.
・Kelly, Louis. *25 Centuries of Language Teaching*. Newbury House, 1969, xi,474p.
・Krashen, Stephen. Principles and Practice in Second Language Acquisition. *Elsevier*, 1982, http://www.sdkrashen.com/content/books/principles_and_practice.pdf,（accessed 2023-01-14）.
・Krashen, Stephen. *The Input hypothesis：Issues and Implication*. Longman, 1985, viii, 20p.
・Krashen, Stephen. *The Power of Reading：Insights from the Research*. Libraries Unlimited, 1993, 119p.
・Krashen, Stephen. The Case for Narrow Reading. *Language Magazine*. 2004, vol.3, no.5, p.17-19. http://www.sdkrashen.com/content/articles/2004_case_for_narrow_reading_lang_mag.pdf,（accessed 2023-01-14）.
・Laufer, Batia. "What percentage of text lexis is essential for comprehension?". *Special language：From humans thinking to thinking machines*. Lauren, Christer；Marianne, Nordman, ed. Multilingual Matters, 1989, p.316-323.
・Meadows, Daisy. *Ruby the Red Fairy*. Scholastic, 2003, 80p,（The Rainbow Fairies Book 1）.

・Nation, I.S.P. *Learning Vocabulary in Another Language*. Cambridge, 2001, xiv,477p.

・Nation, Paul ; Wang Ming-tzu, Karen. Graded Readers and Vocabulary. *Reading in a Foreign Language*. 1999, vol.2, no.2, p.355-380.

・Nation, I.S.P. ; Waring, Rob. *Teaching Extensive Reading in Another Language.* Routledge. 2020, xii,200p.

・Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. Heinemann Education Books, 1982, xi,235p.

・Nuttall, Christine. *Teaching Reading Skills In a Foreign Language*. New Edition. Macmillan, 1996, vi,282p.

・Osborne, Mary Pope. *Dinosaurs Before Dark*. Random House Books for Young Readers, 1992, 80p., （Magic Tree House, 1）.

・Palmer, Harold E. *The Principles of Language-Study*. Harrap. 1921, 185p.

・Prowse, Philip. Top ten principles for teaching extensive reading：A response. *Reading in a Foreign Language*. vol.14, no.2, 2002, p.142-145.

・Prtljaga, Jelena ; Palinkašević, Radmila ; Brkić, Jovana. Choosing The Adequate Level of Graded Readers：Preliminary Study. *Research in Pedagogy*. 2015, p.1-16.

・Rutson, Griffiths ; Rutson-Griffiths, Yukari. The Relationship between Extensive Reading and TOEIC Score Gains. *広島文教女子大学高等教育研究*. 2018, no.4, p.41-50.

・Savitri, Wiwiet Eva ; Munir, Ahmad "The use of Xreading books & audios for extensive reading program". *Innovation on Education and Social Science*. Maureen, Irena et.al. ed. Routledge, 2022, p.42-48.

・Sharmat, Marjorie Weinman. *Nate The Great*. Yearling, 1977, 80p., （Nate the Great, 1）.

・Swain, Merrill. "Communicative Competence：Some Roles of Comprehensible Input and Comprehensible Output in Its Development". *Input in Second Language Acquisition*. Gass, Susan M.; Madden, Carolyn G., eds. Heinle&Heinle, 1985, p.235-253.

・The Extensive Reading Foundation. *"Guide to Extensive Reading"*, 2011. http://erfoundat-ion.org/ERF_Guide.pdf, （accessed 2023-01-14）.

・Wan-a-rom, Udorn. Comparing the vocabulary of different graded-reading schemes. *Reading in a Foreign Language*. 2008, vol.20, no1, p.43-69.

・Waring, Rob ; Takahashi, Sachiko. The Oxford University Press Guide to the 'Why' and 'How' of Using Graded Readers. *Oxford University Press* Japan. 2000, http://www.robwaring.org/er/articles/Guide_to_Graded_Readers_e.pdf, （accessed 2023-01-14）.

・Waring, Rob ; McLean, Stuart. Exploration of the Core and Variable Dimensions of Extensive Reading Research and Pedagogy. *Reading in a Foreign Language*. 2015, vol.25, no.1, p.160-167.

・Webb, Stuart ; Macalister, John. Is Text Written for Children Useful for L2 Extensive Reading?. *tesol Quarterly*. 2013, vol.47, no.2, p.300-322.

・West, Michael. *A General Service List of English Words：with Semantic Frequencies and A Supplementary Word-List for the Writing of Popular Science and Technology*. Longmans, 1953, xiii,588p.

・Wilkins, D. A. *Linguistics in Language Teaching*. Cambridge, 1972, viii, 243p.

・Williams, Ray. Top ten' principles for teaching reading. *ELT Journal*. 1986, vol.40, Issue 1, p.42-45.

・Wodinsky, Marilyn ; Nation, Paul. Learning from Graded Readers. *Reading in a Foreign Language*. 1988, vol.5, no.1, p.155-161.

・Yamamoto, Akio. Is a One-Year Extensive Reading Class Enough?. *言語 文化 社会*. 2011, no.9, p.143-152.

日本語　ウェブサイト

・グローバル人材育成推進会議. "グローバル人材育成推進会議 中間まとめ：2011 年（平成 23 年） 6 月 22 日". 文部科学省. https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/46/siryo/__icsFiles/afieldfile/2011/08/09/1309212_07_1.pdf, （参照 2023-01-14）.

・国際ビジネスコミュニケーション協会. "TOEIC® Program DATA & ANALYSIS 2019：2018 年度受験者数と平均スコア". https://www.iibc-global.org/library/default/toeic/official_data/pdf/DAA.pdf, （参照 2023-01-14）.

・酒井邦秀. "多読から Tadoku へ". NPO 多言語多読, https://tadoku.org/english/adventure-of-tadoku/, （参照 2022-09-23）.

・全国学校図書館協議会．“学校図書館メディア基準”．全国学校図書館協議会．https://www.j-sla.or.jp/pdfs/20210401mediakijun.pdf,（参照 2023-01-14）．
・染谷泰正. “英文語彙難易度解析プログラム（Word Level Checker：WLC）”. 青山学院大学. http://someya-net.com/wlc/index_J.html, 2006,（参照 2023-01-14）．
・筑波大学附属学校教育局．“スーパーグローバルハイスクール”．https://sgh.b-wwl.jp/,（参照 2023-01-14）．
・東京都教育委員会．“平成 28~31 年度使用教科書採択地区別の採択結果（公立中学校）”．https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/textbook/adoption_policy_other/adoption_result/results_2016_02_public.html,（参照 2023-01-14）．
・東京都教育委員会．“令和 3~6 年度使用教科書採択地区別の採択結果（公立中学校）”．https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/textbook/adoption_policy_other/adoption_result/results_2021_public.html,（参照 2023-01-14）．
・東京都教育委員会．“令和 3～6 年度使用教科書調査研究資料（中学校）：英語”．東京都教育委員会．https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/textbook/adoption_policy_other/survey_research_materials/files/research_2021_js/16-r.pdf,（参照 2023-01-14）．
・“東京都立稔ヶ丘高等学校”. https://www.metro.ed.jp/minorigaoka-he/,（参照 2022-07-26）．
・内閣官房．“グローバル人材育成戦略：グローバル人材育成推進会議 審議まとめ. 2012 年（平成 24 年）6 月 4 日．”．首相官邸ホームページ．https://www.kantei.go.jp/jp/singi/global/1206011matome.pdf,（参照 2023-01-14）．
・日本英語検定協会．“各級の目安”．英検. https://www.eiken.or.jp/eiken/exam/about/,（参照 2023-01-14）．
・ベネッセ教育総合研究所.“高 1 生の英語学習に関する調査 〈2015-2019 継続調査〉”．https://berd.benesse.jp/global/research/detail1.php?id=5467,（参照 2023-01-14）．
・文部科学省．“学校図書館図書標準”．https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/hourei/cont_001/016.htm,（参照 2023-02-24）．
・文部科学省．“旧学習指導要領（平成元年度改訂）”．文部科学省. 2009 年以前, http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/old-cs/index.htm,（参照 2023-01-14）．

・文部科学省. “各資格検定試験と CEFR との対照表”. 文部科学省. 2018, http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/30/03/__icsFiles/afieldfile/2019/01/15/1402610_1.pdf, （参照 2023-01-14）.

・文部科学省. “平成 29・30 年改訂 学習指導要領, 解説等”. 学習指導要領「生きる力」. 2019, http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm, （参照 2023-01-14）.

・文部科学省. “第 3 期教育振興計画（平成 30 年 6 月 15 日 閣議決定）”. https://www.mext.go.jp/content/1406127_002.pdf, （参照 2023-01-14）.

・文部科学省. 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）. http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/09/26/1384661_6_1_2.pdf, （参照 2023-01-14）.

・文部科学省. “令和元年度公立中学校における英語教育実施状況調査”. https://www.mext.go.jp/content/20200715-mxt_kyoiku01-000008761_5.pdf, （参照 2023-01-14）.

・文部科学省児童生徒課. “令和 2 年度「学校図書館の現状に関する調査」結果について”. 2021, https://www.mext.go.jp/content/20210727-mxt_chisui01-000016869_02.pdf,（参照 2023-01-14）.

・Amazon. “英語 難易度別リーディングガイド”. amazon.co.jp. https://www.amazon.co.jp//b?ie=UTF8&node=2480862051, （参照 2023-01-14）.

・Amazon. “Penguin Readers Level 1”. amazon.co.jp. https://www.amazon.co.jp/penguin-readers-level-1/s?k=penguin+readers+level+1, （参照 2023-01-14）.

・NPO 多言語多読. “沿革・組織”. NPO 多言語多読. https://tadoku.org/outline/history, （参照 2023-01-14）.

・Oxford University Press. “Oxford Bookworms Library”. Oxford University Press. https://www.oupjapan.co.jp/ja/gradedreaders/bookworms.shtml, （参照 2023-01-14）.

・Oxford University Press. “Oxford Bookworms Library：グレイディッド・リーダーを選ぶ前に”. https://www.oupjapan.co.jp/sites/default/files/contents/gradedreaders/media/dominoes-bookworms_syllabus.pdf, （参照 2023-01-14）.

・Oxford University Press. “Oxford Graded Readers 2021：日本語版カタログ”. https://view.pagetiger.com/jp-readers-catalogue-2021, p.33-42, （参照 2023-01-14）.
・ Pearson. “Pearson Graded Readers”. Pearson. https://www.pearson.co.jp/catalog/pearsons-graded-readers.php?lang=ja, （参照 2023-01-14）.
・Pearson. “Pearson English Readers Level 1: Detailed information（word count, blurbs, language type, etc）”. Pearson. https://www.pearson.com/content/dam/one-dot-com/one-dot-com/apac/japan/catalog/Pearson%20English%20Readers%20level%201%20(jap).pdf, （参照 2023-01-14）.
・SSS 英語多読研究会. “SSS 書評検索システム”. SSS 英語多読研究会. http://www.seg.co.jp/sss_review/jsp/frm_a_130.jsp, （参照 2023-01-14）.

英語　ウェブサイト

・Council of Europe. “Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment”. 2001, *Council of Europe*. https://rm.coe.int/common-european-framework-of-reference-for-languages-learning-teaching/16809ea0d4. （accessed 2023-01-14）.
・Council of Europe. “Common European Framework of Reference for Languages：Learning, Teaching, Assessment：Companion Volume with New Descriptors”. 2018, 235p, https://rm.coe.int/cefr-companion-volume-with-new-descriptors-2018/1680787989, （accessed 2023-01-14）.
・Extensive Reading Foundation. “Extensive Reading Around the World Program”. *Extensive Reading Around the World*. https://erfoundation.org/eraw/program/, (accessed 2023-01-14).
・ Harper Collins Children’s Books. “I Can Read ! Levels”. I Can Read!. https://www.icanread.com/characters/tys-travels/, （accessed 2023-01-14）.
・ Laurence Anthony. “AntWordProfiler”. *Laurence Anthony’s web site*. http://www.laurenceanthony.net/software/antwordprofiler/, （accessed 2023-01-14）.
・Lexile. “Lexile Framework for Reading”. https://lexile.com/, （accessed 2023-01-14）.

・Lexile. “About Lexile Measures for Reading”. *Lexile Framework for Reading*. https://lexile.com/parents-students/understanding-your-lexile-measure/lexile-measures-reading/, （accessed 2023-01-14）.
・MetaMetrix. “About Lexile Codes”. https://lexile.com/parents-students/find-books-at-the-right-level/about-lexile-text-codes/, （accessed 2023-01-14）.
・MetaMetrix. “Find Books for Beginning Readers.” https://lexile.com/educators/find-books-at-the-right-level/find-books-beginning-readers/, （accessed 2023-01-14）.
・MetaMetrix. “Lexile® Measurement of Tests：EIKEN & Test of English for Academic Purposes”. http://metametrics.s3.amazonaws.com/public/dynamic/international/pdfs/Eiken_Text_Measurement_Report_Digital.pdf, （accessed 2023-01-14）.
・Nation, Paul；Waring, Rob. “Extensive Reading and Graded Readers”. *Reading Oceans*, 2013. http://www.readingoceans.jp/ComData/files/Paul%20Nation%20%20Rob%20Waring's%20ER%20Booklet_eng.pdf, 23p. （accessed 2023-01-14）.
・Pearson. “Grading of Language”. https://www.pearson.com/content/dam/one-dot-com/one-dot-com/apac/japan/educator/PEGR_Grading-of-language.pdf, （参照 2023-01-14）.
・Penguin Random House. “Teachers: Explore Steps”. *Step Into Reading*. http://www.stepintoreading.com/teachers, （accessed 2023-01-14）.
・Sketch Engine. “Brown Corpus：Corpus of American English”. https://www.sketchengine.eu/brown-corpus/, （accessed 2023-01-14）.
・TE KETE IPURANGI. “School Journal”. Literacy online. https://instructionalseries.tki.org.nz/Instructional-Series/School-Journal, （accessed 2023-01-14）.
・The Extensive Reading Foundation. “Other Reading Scales”. *The Extensive Reading Foundation*. https://erfoundation.org/wordpress/graded-readers/other-reading-scales/, （accessed 2023-01-14）.
・University of Oxford. “British National Corpus”. http://www.natcorp.ox.ac.uk/, （参照 2023-01-14）.

・ WebData Technology Corporation. “Nate the Great”. *Kids Book Series*, https://www.kidsbookseries.com/nate-the-great/, （accessed 2023-01-14）.
・ WebData Technology Corporation. “Magic Tree House”. *Kids Book Series*. https://www.kidsbookseries.com/magic-tree-house/, （accessed 2023-01-14）.

研究業績一覧

核となる論文

〇江竜珠緒. 日本の中等教育における英語多読の広がりと実践：英語科教諭と司書教諭の連携に向けて. 日本図書館情報学会誌. 2018, vol.64, no.3, p.99-114.

〇江竜珠緒. 学校図書館における英語多読用図書の提供と支援の効果：アクション・リサーチによる分析を基に. 図書館情報メディア研究. 2019, vol.17, no.1, p.1-17. http://www.slis.tsukuba.ac.jp/grad/assets/files/pub-2/17-1.1.pdf.

核となる論文以外の研究業績の一覧

学術論文（査読有）

・江竜珠緒. 私立大学図書館における外部人材の活用：業務受託会社への質問紙調査から. 大学図書館研究. 2007, no.79, p.43-52.

・江竜珠緒. 英語多読用図書としての原書児童書の活用：使用語彙のコーパス分析. The Language Teacher. 2022, vol.46, no.6, p.17-22.

研究ノート（査読有）

・江竜珠緒. 英語教科書と英語多読用図書のコーパス分析：高等学校図書館に排架する語彙学習のための英語多読用図書. 学校図書館学研究. 2022, vol.24, p.37-51.

国際会議録

・Eryu, Tamao ; Muramatsu, Noriko. English *Extensive Reading in the School Library with the English Department*. 2016 IASL Tokyo, JAPAN（International Association of School Librarianship：IASL）, Tokyo, Japan, Aug., 2016. https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/18451/1/iasl_2016Aug_1.pdf, 14p.（抄録の査読有）

口頭発表

・江竜珠緒. 学習支援における学校図書館専門職員と教員との連携：役割・職務関係の分析を基に. 第 62 回日本図書館学会研究大会. 大阪, 日本. 2014.11.29.

・Eryu, Tamao ; Muramatsu, Noriko, . *English Extensive Reading in the School Library with the English Department*. IASL 2016. Tokyo, JAPAN （International Association of School Librarianship : IASL）. Tokyo, Japan. 2016.08.25.（抄録の査読有）

・Eryu, Tamao. *Collaborating Teacher Librarians with English Department Teachers*. 2016 IASL Tokyo, JAPAN（International Association of School Librarianship : IASL）. 2016.8.23, Tokyo, Japan, https://journals.library.ualberta.ca/slw/index.php/iasl/article/view/7217.（抄録の査読有）

・江竜珠緒. 日本における英語多読の理論的背景 ： 学校図書館における英語多読の支援とその課題. 2017 年度日本図書館情報学会春季研究集会. 東京, 日本, 2017.06.03.

・Muramatsu, Noriko ; Eryu, Tamao. *Extensive Reading in the School Library : Working Together*. JALT（The Japan Association for Language Teaching）2019. Ibaraki, Japan, 2019.11.17.（抄録の査読有）

・Muramatsu, Noriko ; Eryu, Tamao. *The Impact of Extensive Reading on the TOEIC Score among Japanese High School Students*. Extensive Reading Around the World 2022. Online. 2022.08.05.（抄録の査読有）

書籍

・江竜珠緒. “若い教師が経験不足を補うためにも必要なこと”. p.122-127, 別府昭郎. 学校教師になる. 学文社, 2005, 187p.

・江竜珠緒. コラム 6, 絵本読み聞かせ隊と絵本創り隊（新型ボランティア）: 絵本による支援活動. p.154, 藤森立男, 矢守克也. 復興と支援の災害心理学 : 大震災から「なに」を学ぶか. 福村出版, 2014, 307p.

・桑田てるみ監修,「読むチカラ」プロジェクト編著. 鍛えよう！読むチカラ : 学校図書館で育てる 25 の方法. 明治書院, 2012, 144p.

・桑田てるみ, 江竜珠緒, 押木和子, 勝亦あき子, 松田ユリ子. 学生のレポート・論文作成トレーニング : スキルを学ぶ 21 のワーク. 実教出版, 2015, 128p.

・江竜珠緒, 村松教子. 学校図書館員と英語科教諭のための英語多読実践ガイド ： 導入のためのブックガイド付. 少年写真新聞社, 2018, 128p.

紀要論文

・江竜珠緒. 学校図書館における情報サービス：明治高等学校中学校図書館の実践. 明治大学図書館情報学研究会紀要. 2010, no.1, p.31-36.

・江竜珠緒. 明治高等学校における卒業レポートの動向. 明高研叢. 2011, no.9, p.3-8.

・江竜珠緒, 村松教子. 明治高等学校中学校における英語多読 ： 生徒の洋書選択についての考察. 明高研叢. 2012, no.11, p.75-95.

・江竜珠緒. 明治大学付属明治高等学校中学校における読書活動：失敗から学ぶ〝指導〟の必要性. 明治大学図書館情報学研究会紀要. 2016, no.7, p.25-32.

・江竜珠緒. 英語多読支援における資料知識の重要性. 明高研叢. 2020, no.18, p.25-32.

その他の記事

・江竜珠緒. 司書教諭による図書館利用指導：課題学習＜探す＞の実践. 東京都の学校図書館, 2009, vol.45, p.22-31.

・江竜珠緒. Library Ticket のこころみ. 学校図書館. 2010, no.713, p.74-75.

・江竜珠緒. 学習を支援する学校図書館職員に求められる専門性とその養成. 現代の図書館. 2015, vol.53, no.1, p.19-24.

・江竜珠緒. 英語文献収集のための新聞記事データベース活用. 学術情報研究. 2015, no.246, p.58-59.

・江竜珠緒. 明治大学図書館情報学研究会シンポジウム, 学校図書館における読書活動への取り組み. 明治大学司書・司書教諭課程年報. 2016, no.16, p.2-28.

・江竜珠緒, 村松教子. 学校図書館と英語科との連携 ： 英検 2 級以上を目指す英語多読. 平成 28 年度学校図書館研究事業報告. 2017, p.3-36.

・江竜珠緒, 村松教子.英検 2 級以上を目指す英語多読 ： 学校図書館との連携. Education in the School Library, 2017, no.13, p.36-67.

・江竜珠緒. 学校図書館における英語多読の導入 ： 選書から排架まで. 学校図書館. 2017, no.801, p.21-23.

講演・パネルディスカッション等

・江竜珠緒. 図書館サービスをめぐる諸課題（学校図書館）. 明治大学司書・司書教諭課程 10 周年記念シンポジウム. 明治大学, 東京, 日本, 2009.6.20.（講演, パネルディスカッション）.

・江竜珠緒. 司書教諭による図書館利用指導. 東京都高等学校図書館研究協議会. 東京, 日本, 2009.07.28.（講演）

・江竜珠緒. 司書教諭による図書館利用指導. 新潟県高等学校教育研究会図書館部会. 新潟, 日本, 2012.08.17.（講演）

・江竜珠緒. 私立中学校高等学校における読書活動. 2015 年度 シンポジウム「学校図書館における読書活動への取り組み」. 明治大学, 東京, 日本, 2015.10.24.（講演）

・江竜珠緒, 村松教子. 学校図書館と英語科との連携：英検 2 級以上を目指す英語多読. 学校図書館研究会見学研修会. 東京, 日本, 2016.05.14.（講演）

・江竜珠緒, 村松教子. 英検 2 級以上を目指す英語多読：学校図書館との連携. 学校図書館教育研究会第 28 回研究会. 東京, 日本, 2016.10.30.（講演）

・江竜珠緒. 英語多読における学校図書館の役割. 第 4 回多読シンポジウム in 多摩. 東京, 日本, 2017.11.12. （講演, シンポジウム）.

・江竜珠緒. 図書館と学び 2, 英語多読と図書館. 未来の図書館研究所　第 5 回ワークショップ「図書館員の未来準備」. オンライン, 2021.10.15.（ワークショップ）.

・江竜珠緒. 図書館と学び 2, 英語多読と図書館. 未来の図書館研究所　第 6 回ワークショップ「図書館員の未来準備」. オンライン, 2022.10.28.（ワークショップ）.

付録

付録１　第３章　コーパス分析結果

Pearson English Readers Level 1　コーパス分析結果

No.		1		2		3		4		5		6		7	
Title		Mike's Lucky Day		Amazon Rally		Island For Sale		The Winner		The Battle of Newton Road		The Barcelona Game		The Missing Coins	
Author		Dunkling, Leslie		Amos, Eduardo		Collins, Anne		Johnson, Pete		Dankling, Leslie		Rabley, Stephens		Escott, John	
基本語数（WL1-8合計）	総語数	189	1,571	196	1,526	222	1,723	187	1,729	140	1,749	225	1,755	186	1,783
基本語中のJACETレベル1		168	88.89%	169	86.22%	198	89.19%	168	89.84%	124	88.57%	195	86.67%	163	87.63%
基本語中のJACETレベル1,2		183	96.83%	180	91.84%	213	95.95%	179	95.72%	135	96.43%	213	94.67%	175	94.09%
新出語／基本語中の割合		189		76	38.78%	68	30.63%	26	13.90%	18	12.86%	39	17.33%	27	14.52%

No.		8		9		10		11		12		13		14	
Title		Brown Eyes		Sadie's Big Day at the Office		Karen and The Artist		Pele		Jennifer Lopez		Surfer!		Run For Your Life	
Author		Stewart, Paul		Trappe, Tonya		Laird, Elizabeth		Smith, Rod		Smith, Rod		Harvey, Paul		Waller, Stephan	
基本語数（WL1-8合計）	総語数	250	1,821	173	1,824	215	1,824	213	1,964	243	1,993	220	2,015	252	2,034
基本語中のJACETレベル1		214	85.60%	153	88.44%	188	87.44%	196	92.02%	202	83.13%	195	88.64%	219	86.90%
基本語中のJACETレベル1,2		241	96.40%	162	93.64%	204	94.88%	207	97.18%	217	89.30%	210	95.45%	239	94.84%
新出語／基本語中の割合		33	13.20%	28	16.18%	18	8.37%	26	12.21%	54	22.22%	19	8.64%	20	7.94%

No.		15		16		17		18		19		20		21	
Title		Girl Meets Boy		Marcel and the Shakespeare Letters		David Beckham		Mother Teresa		Six Sketches		Speed Queens		Muhammad Ali	
Author		Strange, Derek		Rabley, Stephens		Smith, Bernard		Adrian-Vallance, D'arcy		Dankling, Leslie		Smith, Rod		Smith, Bernard	
基本語数（WL1-8合計）	総語数	230	2,056	236	2,104	235	2,121	223	2,142	195	2,172	233	2,491	241	2,528
基本語中のJACETレベル1		199	86.52%	203	86.02%	204	86.81%	203	91.03%	160	82.05%	208	89.27%	216	89.63%
基本語中のJACETレベル1,2		217	94.35%	226	95.76%	223	94.89%	215	96.41%	181	92.82%	224	96.14%	229	95.02%
新出語／基本語中の割合		13	5.65%	20	8.47%	13	5.53%	16	7.17%	15	7.69%	22	9.44%	11	4.56%

No.		22		23		24		25		26		27		28	
Title		Wliilam Tell		The Crown		The Adventures of Tom Sawyer		The House of the Seven Gables		Little Women		The Gift of the Magi and Other Stories		Twenty Thousand Leagues Under th	
Author		Taylor, Nancy		James, M.R.		Kehl, Jacqueline		Mendenhall, Michael		Albers, M.		Taylor, Nancy		Beddall, Fiona	
基本語数（WL1-8合計）	総語数	254	3,643	266	3,985	246	4,171	283	4,290	287	4,482	310	4,483	283	4,538
基本語中のJACETレベル1		220	86.61%	237	89.10%	213	86.59%	249	87.99%	249	86.76%	264	85.16%	243	85.87%
基本語中のJACETレベル1,2		242	95.28%	255	95.86%	234	95.12%	269	95.05%	274	95.47%	299	96.45%	266	93.99%
新出語／基本語中の割合		14	5.51%	16	6.02%	14	5.69%	13	4.59%	15	5.23%	15	4.84%	22	7.77%

Oxford Bookworms Library　コーパス分析結果

No.		1		2		3		4		5		6		7	
Title		The Monkey's Paw		Christmas in Prague		Hachiko Japan's Most Faithful Dog		Remember Miranda		Goodbye, Mr Hollywood		The Meaning of Gifts : Stories from Turkey		The Boy-King Tutankhamun	
Author		Mowat, Diane		Hannam, Joyce		Irving, Nicole		Akinyemi, Rowena		Escott, John		Bassett, Jennifer		Lauder, Scott ;McGregor, Walter	
基本語数（WL1-8合計）	総語数	312	4,739	387	4,737	375	4,844	356	5,233	403	5,262	511	5,314	369	5,322
基本語中のJACETレベル1		266	85.26%	324	83.72%	308	82.13%	308	86.52%	335	83.13%	396	77.50%	314	85.09%
基本語中のJACETレベル1,2		290	92.95%	364	94.06%	348	92.80%	340	95.51%	380	94.29%	465	91.00%	347	94.04%
新出語／基本語中の割合		312		126	32.56%	102	27.20%	47	13.20%	62	15.38%	127	24.85%	37	10.03%

No.		8		9		10		11		12		13		14	
Title		Pocahontas		The Elephant Man		Under the Moon		The President's Murderer		The Wizard of Oz		The Coldest Place on Earth		Sister Love and Other Crime	
Author		Vicary, Tim		Vicary, Tim		Akinyemi, Rowena		Bassett, Jennifer		Border, Rosemary		Vicary, Tim		Escott, John	
基本語数（WL1-8合計）	総語数	357	5,382	393	5,376	366	5,410	378	5,437	363	5,549	384	5,600	454	5,653
基本語中のJACETレベル1		313	87.68%	320	81.42%	310	84.70%	309	81.75%	304	83.75%	317	82.55%	356	78.41%
基本語中のJACETレベル1,2		340	95.24%	368	93.64%	348	95.08%	354	93.65%	334	92.01%	358	93.23%	409	90.09%
新出語／基本語中の割合		20	5.60%	43	10.94%	17	4.64%	16	4.23%	23	6.34%	39	10.16%	44	9.69%

No.		15		16		17		18		19		20		21	
Title		Nobody Listens		The Withered Arm		The Lottery Winner		Sherlock Holmes and the Duke's Son		Mutiny on the Bounty		A Little Princess		The Omega Files	
Author		Wakefield, Rowena		Bassett, Jennifer		Border, Rosemary		Bassett, Jennifer		Vicary, Tim		Bassett, Jennifer		Bassett, Jennifer	
基本語数（WL1-8合計）	総語数	323	5,650	454	5,770	384	5,733	443	5,836	414	5,875	403	5,988	495	5,990
基本語中のJACETレベル1		278	86.07%	372	81.94%	313	81.51%	355	80.14%	333	80.43%	329	81.64%	376	75.96%
基本語中のJACETレベル1,2		307	95.05%	423	93.17%	355	92.45%	406	91.65%	381	92.03%	376	93.30%	449	90.71%
新出語／基本語中の割合		23	7.12%	41	9.03%	21	5.47%	32	7.22%	27	6.52%	13	3.23%	44	8.89%

No.		22		23		24		25		26		27		28	
Title		Maria's Summer in London		Shirley Homes and the Lithuanuan Case		Love or Money?		White Death		The Phantom of the Opera		The Piano		Little Lord Fauntleroy	
Author		Wakefield, Rowena		Bassett, Jennifer		Akinyemi, Rowena		Vicary, Tim		Jennifer Bassett		Vicary, Tim		Bassett, Jennifer	
基本語数（WL1-8合計）	総語数	386	6,105	475	6,116	381	6,169	345	6,648	408	6,344	474	6,656	455	7,465
基本語中のJACETレベル1		308	79.79%	381	80.21%	316	82.94%	293	84.93%	337	82.60%	382	80.59%	368	80.88%
基本語中のJACETレベル1,2		352	91.19%	436	91.79%	358	93.96%	322	93.33%	385	94.36%	436	91.98%	415	91.21%
新出語／基本語中の割合		31	8.03%	34	7.16%	3	0.79%	11	3.19%	17	4.17%	34	7.17%	27	5.93%

Nate the Great Series　コーパス分析結果

No.		1		2		3		4		5		6		7	
Title		Nate the Great		Nate the Great Goes Undercover		Nate the Great and the Lost List		Nate the Great and the Phony Clue		Nate the Great and the Sticky Case		Nate the Great and the Missing Key		Nate The Great and The Snowy Trail	
基本語数（WL1-8合計）	総語数	275	1,633	306	1,527	260	1,606	235	1,555	278	1,776	287	1,574	294	1,904
基本語中のJACETレベル1		217	78.91%	223	72.88%	208	80.00%	191	81.28%	223	80.22%	219	76.31%	233	79.25%
基本語中のJACETレベル1,2		249	90.55%	261	85.29%	239	91.92%	218	92.77%	251	90.29%	260	90.59%	264	89.80%
新出語／基本語中の割合		275		121	39.54%	78	30.00%	49	20.85%	57	20.50%	70	24.39%	53	18.03%

No.		8		9		10		11		12		13		14	
Title		Nate the Great and the Fishy Prize		Nate the Great Stalks Stupidweed		Nate the Great and the Boring Beach		Nate the Great Goes Down in the Dumps		Nate the Great and the Halloween Hunt		Nate the Great and the Musical Note		Nate the Great and the Stolen Base	
基本語数（WL1-8合計）	総語数	359	2,648	322	2,216	289	2,031	334	2,273	321	2,026	317	2,394	311	2,179
基本語中のJACETレベル1		267	74.37%	242	75.16%	229	79.24%	249	74.55%	248	77.26%	250	78.86%	242	77.81%
基本語中のJACETレベル1,2		321	89.42%	285	88.51%	266	92.04%	293	87.72%	285	88.79%	290	91.48%	278	89.39%
新出語／基本語中の割合		78	21.73%	54	16.77%	33	11.42%	51	15.27%	39	12.15%	39	12.30%	29	9.32%

No.		15		16		17		18		19		20		21	
Title		Nate the Great and the Pillowcase		Nate the Great and the Mushy Valentine		Nate The Great and The Tardy Tortoise		Nate the Great and the Crunchy Christmas		Nate the Great Saves the King of Sweden		Nate The Great and me The Case of the Fleeing Fang		Nate the Great and the Monster Mess	
基本語数（WL1-8合計）	総語数	328	2,309	269	2,138	337	2,084	347	2,253	324	2,309	414	2,821	322	2,155
基本語中のJACETレベル1		246	75.00%	228	84.76%	252	74.78%	265	76.37%	269	83.02%	310	74.88%	244	75.78%
基本語中のJACETレベル1,2		286	87.20%	251	93.31%	291	86.35%	305	87.90%	299	92.28%	366	88.41%	281	87.27%
新出語／基本語中の割合		31	9.45%	10	3.72%	35	10.39%	39	11.24%	26	8.02%	47	11.35%	19	5.90%

No.		22		23		24		25		26		27		28	
Title		Nate the Great, San Francisco Detective		Nate the Great and the Big Sniff		Nate the Great On the Owl		Nate the Great Talks Turkey		Nate the Great and the Hungry Book Club		Nate the Great, Where Are You?		Nate the Great and the Missing Birthday Snake	
基本語数（WL1-8合計）	総語数	371	2,389	324	1,949	390	2,540	592	4,641	391	2,860	334	2,198	460	3,234
基本語中のJACETレベル1		282	76.01%	253	78.09%	295	75.64%	401	67.74%	290	74.17%	261	78.14%	330	71.74%
基本語中のJACETレベル1,2		328	88.41%	291	89.81%	340	87.18%	493	83.28%	339	86.70%	302	90.42%	395	85.87%
新出語／基本語中の割合		42	11.32%	11	3.40%	41	10.51%	99	16.72%	30	7.67%	14	4.19%	45	9.78%

Magic Tree House Series　コーパス分析結果

No.		1		2		3		4		5		6		7	
Title		Dinosaurs Before Dark		The Knight at Dawn		Mummies in the Morning		Pirates Past Noon		Night of the Ninjas		Afternoon on the Amazon		Sunset of the Sabertooth	
基本語数（WL1-8合計）	総語数	589	4,900	688	5,400	645	5,256	688	5,539	646	5,615	622	4,955	663	5,093
基本語中のJACETレベル1		382	64.86%	408	59.30%	400	62.02%	404	58.72%	409	63.31%	404	64.95%	415	62.59%
基本語中のJACETレベル1,2		478	81.15%	523	76.02%	500	77.52%	529	76.89%	512	79.26%	491	78.94%	517	77.98%
新出語／基本語中の割合		589		201	29.22%	183	28.37%	158	22.97%	91	14.09%	68	10.93%	77	11.61%

No.		8		9		10		11		12		13		14	
Title		Midnight on the Moon		Dolphins at Daybreak		Ghost Town at Sundown		Lions at Lunchtime		Polar Bears Past Bedtime		Vacation Under the Volcano		Day of the Dragon King	
基本語数（WL1-8合計）	総語数	706	6,086	677	4,964	768	6,561	701	5,481	718	5,889	775	5,987	781	5,751
基本語中のJACETレベル1		447	63.31%	428	63.22%	460	59.90%	422	60.20%	446	62.12%	473	61.03%	479	61.33%
基本語中のJACETレベル1,2		568	80.45%	537	79.32%	586	76.30%	543	77.46%	577	80.36%	612	78.97%	605	77.46%
新出語／基本語中の割合		92	13.03%	91	13.44%	128	16.67%	56	7.99%	65	9.05%	105	13.55%	73	9.35%

No.		15		16		17		18		19		20		21	
Title		Viking Ships at Sunrise		Hour of the Olympics		Tonight on the Titanic		Buffalo Before Breakfast		Tigers at Twilight		Dingoes at Dinnertime		Civil War on Sunday	
基本語数（WL1-8合計）	総語数	767	5,626	711	5,418	718	5,521	726	5,784	727	5,598	695	5,609	886	6,162
基本語中のJACETレベル1		463	60.37%	442	62.17%	440	61.28%	457	62.95%	428	58.87%	430	61.87%	480	54.18%
基本語中のJACETレベル1,2		595	77.57%	565	79.47%	565	78.69%	590	81.27%	553	76.07%	556	80.00%	609	68.74%
新出語／基本語中の割合		64	8.34%	59	8.30%	45	6.27%	36	4.96%	37	5.09%	26	3.74%	69	7.79%

No.		22		23		24		25		26		27		28	
Title		Revolutionary War on Wednesday		Twister on Tuesday		Earthquake in the Early Morning		Stage Fright on a Summer Night		Good Morning, Gorillas!		Thanksgiving on Thursday		High Tide in Hawaii	
基本語数（WL1-8合計）	総語数	813	5,137	848	5,486	865	5,973	964	6,601	862	6,388	969	6,402	906	6,359
基本語中のJACETレベル1		443	54.49%	472	55.66%	456	52.72%	483	50.10%	445	51.62%	473	48.81%	473	52.21%
基本語中のJACETレベル1,2		562	69.13%	605	71.34%	590	68.21%	628	65.15%	566	65.66%	614	63.36%	604	66.67%
新出語／基本語中の割合		46	5.66%	21	2.48%	48	5.55%	57	5.91%	31	3.60%	41	4.23%	26	2.87%

付録２　第４章　主要 GR と LR のコーパス分析結果

Foundations Reading Library 各 Level　コーパス分析結果

Level 1

No.		1		2		3		4		5		6	
Title		Get the Ball		Rain! Rain! Rain!		Bad Dog? Good Dog!		Goodbye, Hello!		Sarah's Surprise		The Tickets	
総異なり語数	総語数	94	525	103	511	125	707	126	594	123	560	128	676
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	81	86.17	94	91.26	109	87.20	102	80.95	107	86.99	111	86.72
基本語中のJACETレベル1		71	87.65	87	92.55	98	89.91	89	87.25	95	88.79	93	83.78
基本語中のJACETレベル1,2		75	92.59	91	96.81	107	98.17	96	94.12	101	94.39	102	91.89

Level 2

No.		1		2		3		4		5		6	
Title		Singer Wanted		The Cave		The New Guitar		Old Boat, New Boat		Trouble at the Zoo		Sk8 for Jake	
総異なり語数	総語数	122	685	129	708	132	743	142	739	144	782	149	753
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	104	85.25	116	89.92	120	90.91	124	87.32	122	84.72	127	85.23
基本語中のJACETレベル1		89	85.58	105	90.52	107	89.17	113	91.13	109	89.34	109	85.83
基本語中のJACETレベル1,2		96	92.31	110	94.83	113	94.17	119	95.97	116	95.08	116	91.34

Level 3

No.		1		2		3		4		5		6	
Title		I Always Win!		Kung Fu Kid		Quick Thinking		Slam Dunk for Mark		A Good Friend		Quiz Night	
総異なり語数	総語数	138	696	149	789	151	729	179	803	180	965	207	987
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	119	86.23	127	85.23	134	88.74	160	89.39	161	89.44	151	72.95
基本語中のJACETレベル1		110	92.44	120	94.49	119	88.81	139	86.88	146	90.68	133	88.08
基本語中のJACETレベル1,2		113	94.96	125	98.43	130	97.01	152	95.00	154	95.65	144	95.36

Level 4

No.		1		2		3		4		5		6	
Title		I Spy		Go Jimmy Go!		Do I Tell?		Mystery on the Island		The Shipwreck		Lost at Sea	
総異なり語数	総語数	207	1,347	220	1,367	221	1,404	225	1,488	240	1,342	254	1,475
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	185	89.37	194	88.18	198	89.59	199	88.44	213	88.75	225	88.58
基本語中のJACETレベル1		165	89.19	172	88.66	177	89.39	177	88.94	186	87.32	197	87.56
基本語中のJACETレベル1,2		176	95.14	185	95.36	192	96.97	192	96.48	198	92.96	212	94.22

Level 5

No.		1		2		3		4		5		6	
Title		The Big Test		Think Daniela!		Where's Lorena?		Who's Best？		The Bear's Mouth		Boys vs. Girls	
総異なり語数	総語数	183	1,165	250	1,533	262	1,668	265	1,679	272	1,756	295	1,752
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	162	88.52	231	92.40	231	88.17	224	84.53	248	91.18	263	89.15
基本語中のJACETレベル1		145	89.51	196	84.85	202	87.45	198	88.39	220	88.71	224	85.17
基本語中のJACETレベル1,2		156	96.30	220	95.24	220	95.24	211	94.20	236	95.16	249	94.68

Level 6

No.		1		2		3		4		5		6	
Title		Trouble at the Sea		The Old Promise		A Helping Hand		No, You Can't!		Does He Love Me?		The Lost Wallet	
総異なり語数	総語数	307	2,365	309	2,717	311	2,566	313	2,424	315	2,737	331	2,671
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	275	89.58	277	89.64	282	90.68	280	89.46	276	99.68	295	89.12
基本語中のJACETレベル1		243	88.36	244	88.09	244	86.52	246	87.86	236	75.16	255	86.44
基本語中のJACETレベル1,2		265	96.36	262	94.58	270	95.74	264	94.29	262	83.44	274	92.88

Level 7

No.		1		2		3		4		5		6	
Title		Do It!		My Mom, the Movie Star		Love Online		The Secret Tunnel		The Golden Monkey		Let's Party!	
総異なり語数	総語数	307	2,476	311	2,968	321	3,202	333	2,382	352	2,968	367	2,815
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	280	91.21	272	87.46	290	90.34	302	90.69	318	90.34	318	86.65
基本語中のJACETレベル1		248	88.57	236	86.76	246	84.83	258	85.43	266	83.65	274	86.16
基本語中のJACETレベル1,2		264	94.29	260	95.59	274	94.48	285	94.37	299	94.03	303	95.28

Cambridge English Readers 各 Level　コーパス分析結果

Starter

No.		1		2		3		4		5	
Title		Let Me Out!		The Girl at the Window		What a Lottery!		A Death in Oxford		Dirty Money	
Author		Moses, Antoinette		Moses, Antoinette		Campbell, Colin		MacAndrew, Richard		Leather, Sue	
総異なり語数	総語数	227	2,135	242	2,371	318	2,228	322	2,664	327	2,097
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	199	87.67	207	85.54	268	84.28	250	77.64	276	84.40
基本語中のJACETレベル1		174	87.44	187	90.34	223	83.21	222	88.80	226	81.88
基本語中のJACETレベル1,2		191	95.98	198	95.65	252	94.03	240	96.00	250	90.58

No.		6		7		8		9		10	
Title		The Penang File		Why?		Book Boy		Arman's Journey		Big Hair Day	
Author		MacAndrew, Richard		Prowse, Philip		Moses, Antoinette		Prowse, Philip		Johnson, Margaret	
総異なり語数	総語数	331	2,015	305	2,255	303	2,741	341	2,200	256	2,186
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	258	77.95	268	87.87	256	84.49	292	85.63	216	84.38
基本語中のJACETレベル1		224	86.82	232	86.57	224	87.50	250	85.62	190	87.96
基本語中のJACETレベル1,2		248	96.12	256	95.52	247	96.48	283	96.92	207	95.83

Level 1

No.		1		2		3		4		5	
Title		Next Door to Love		Parallel		John Doe		Don't Stop Now		Inspector Logan	
Author		Johnson, Margaret		Campbell, Colin		Moses, Antoinette		Prowse, Philip		MacAndrew, Richard	
総異なり語数	総語数	370	4,661	381	4,231	406	4,472	408	4,526	422	4,279
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	310	83.78	326	85.56	354	87.19	342	83.82	352	83.41
基本語中のJACETレベル1		263	84.84	291	89.26	300	84.75	289	84.50	289	82.10
基本語中のJACETレベル1,2		296	95.48	316	96.93	338	95.48	325	95.03	327	92.90

No.		6		7		8		9		10	
Title		Hotel Cassanova		Help!		Three Tomorrows		Blood Diamonds		Bad Love	
Author		Leather, Sue		Prowse, Phillip		Brennan, Frank		MacAndrew, Richard		Leather, Sue	
総異なり語数	総語数	425	3,762	429	4,559	439	3,996	441	5,003	445	4,137
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	351	82.59	359	83.68	384	87.47	349	79.14	354	79.55
基本語中のJACETレベル1		292	83.19	291	81.06	321	83.59	286	81.95	300	84.75
基本語中のJACETレベル1,2		325	92.59	331	92.20	367	95.57	326	93.41	329	92.94

Macmillan Readers 各 Level　コーパス分析結果

Starter

No.		1		2		3		4		5	
Title		The Lost Ship		In The Frame		Lucky Number		Blue Fins		Ski Race	
Author		Colbourn, Stephen		Sweetnam, Polly		Milne, John		Axten, Sarah		Jupp, Eleanor	
総異なり語数	総語数	155	740	159	574	162	552	171	682	175	671
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	133	85.81	135	84.91	144	88.89	150	87.72	148	84.57
基本語中のJACETレベル1		112	84.21	115	85.19	117	81.25	120	80.00	121	81.76
基本語中のJACETレベル1,2		126	94.74	125	92.59	133	92.36	137	91.33	134	90.54

No.		6		7		8		9		10	
Title		The Umbrella		Sara Says No!		L.A. Detective		Gulliver's Travels in Lilliput		Photo Finish	
Author		Harris, Clare		Whitney, Norman F		Prowse, Philip		Lobo, Maria Jose		Sweetnam, Polly	
総異なり語数	総語数	178	674	179	784	192	723	200	602	212	913
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	160	89.89	155	86.59	164	85.42	176	88.00	190	89.62
基本語中のJACETレベル1		136	85.00	128	82.58	149	90.85	151	85.80	149	78.42
基本語中のJACETレベル1,2		152	95.00	145	93.55	159	96.95	171	97.16	171	90.00

Beginner

No.		1		2		3		4		5	
Title		Dangerous Journey		Rich Man, Poor Man		Money for a Motorbike		Newspaper boy		Picture Puzzle	
Author		Cox, Alwyn		Jupp, T.C.		Milne, John		Escott, John		Escott, John	
総異なり語数	総語数	354	2,371	357	2,815	387	2,108	402	2,236	407	2,858
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	324	91.53	316	88.52	339	87.60	354	88.06	346	85.01
基本語中のJACETレベル1		250	77.16	262	82.91	271	79.94	275	77.68	278	80.35
基本語中のJACETレベル1,2		295	91.05	287	90.82	308	90.86	327	92.37	318	91.91

No.		6		7		8		9		10	
Title		Marco		The House on the Hill		The Long Tunnel		Anna and the Fighter		This is London	
Author		Esplen, Mike		Laird, Elizabeth		Milne, John		Laird, Elizabeth		Prowse, Philip	
総異なり語数	総語数	408	2,226	410	2,974	434	2,638	436	2,444	533	2,287
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	373	91.42	384	93.66	386	88.94	397	91.06	390	73.17
基本語中のJACETレベル1		296	79.36	315	82.03	290	75.13	311	78.34	273	70.00
基本語中のJACETレベル1,2		351	94.10	354	92.19	350	90.67	363	91.44	333	85.38

Beginner +

No.		1		2		3		4		5	
Title		Northanger Abbey		Hawk-eye, the Pathfinder		The Phantom of the Opera		Jane Eyre		Good Wives	
Author		Bell, Florence		Yatt, T.P.		Colbourn, Stephen		Gilpin, Sam		Collins, Anne	
総異なり語数	総語数	564	7,315	594	9,427	595	8,288	610	8,248	675	8,520
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	469	83.16	509	85.69	514	86.39	515	84.43	584	86.52
基本語中のJACETレベル1		372	79.32	379	74.46	378	73.54	388	75.34	436	74.66
基本語中のJACETレベル1,2		424	90.41	457	89.78	456	88.72	472	91.65	524	89.73

No.		6		7		8		9		10	
Title		The Trumpet-Major		The Man in the Iron Mask		The three musketeers		The Adventures of Tom Sawyer		The Last Leaf and Other Stories	
Author		Escott, John		Escott, John		Murgatroyd, Nicolas		Cornish, F. H.		Mattock, Katherine	
総異なり語数	総語数	682	9,790	694	9,850	710	11,288	712	8,835	797	7,641
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	564	82.70	596	85.88	606	85.35	607	85.25	662	83.06
基本語中のJACETレベル1		421	74.65	442	74.16	451	74.42	417	68.70	458	69.18
基本語中のJACETレベル1,2		509	90.25	537	90.10	540	89.11	522	86.00	570	86.10

Oxford Reading Tree　各 Stage　コーパス分析結果

Stage 2

No.		1		2		3		4		5		6	
Title		The Toys' Party		New Trainers		A New Dog		The Dream		The Go-kart		What a Bad Dog!	
総異なり語数	総語数	26	48	21	34	24	53	24	55	23	51	31	52
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	24	92.31	21	100.00	24	100.00	24	100.00	23	100.00	30	96.77
基本語中のJACETレベル1		14	58.33	16	76.19	20	100.00	16	80.00	18	90.00	22	84.62
基本語中のJACETレベル1,2		17	70.83	18	85.71	20	100.00	16	80.00	19	95.00	22	84.62

Stage 3

No.		1		2		3		4		5		6	
Title		Nobody Wanted to Play		The Rope Swing		On the Sand		A Cat in the Tree		The Egg Hunt		By the Stream	
総異なり語数	総語数	31	80	31	77	35	78	34	86	44	87	36	75
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	24	77.42	27	87.10	31	88.57	28	82.35	38	86.36	30	83.33
基本語中のJACETレベル1		20	83.33	19	70.37	25	80.65	25	89.29	34	89.47	25	83.33
基本語中のJACETレベル1,2		20	83.33	22	81.48	29	93.55	25	89.29	37	97.37	27	90.00

Stage 4

No.		1		2		3		4		5		6	
Title		House for Sale		The New house		Come In!		The Secret Room		The Play		The Storm	
総異なり語数	総語数	43	110	41	121	46	109	62	194	71	206	69	188
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	40	93.02	37	90.24	38	82.61	57	91.94	60	84.51	62	89.86
基本語中のJACETレベル1		36	90.00	33	89.19	35	92.11	52	91.23	50	83.33	53	85.48
基本語中のJACETレベル1,2		37	92.50	33	89.19	35	92.11	54	94.74	54	90.00	57	91.94

Stage 5

No.		1		2		3		4		5		6	
Title		The Magic Key		Pirate Adventure		The Dragon Tree		Gran		Castle Adventure		Village in the Snow	
総異なり語数	総語数	61	282	82	337	86	305	85	319	86	310	87	332
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	57	93.44	75	91.46	79	91.86	76	89.41	77	89.53	77	88.51
基本語中のJACETレベル1		48	84.21	60	80.00	64	81.01	64	84.21	64	83.12	65	84.42
基本語中のJACETレベル1,2		52	91.23	67	89.33	70	88.61	70	92.11	69	89.61	73	94.81

Stage 6

No.		1		2		3		4		5		6	
Title		In the Garden		Kipper and the Giant		The Outing		Land of the Dinosaurs		Robin Hood		The Treasure Chest	
総異なり語数	総語数	136	455	142	504	138	528	138	507	166	628	172	753
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	122	89.71	125	88.03	123	89.13	123	89.13	149	89.76	153	88.95
基本語中のJACETレベル1		96	78.69	105	84.00	100	81.30	95	77.24	124	83.22	126	82.35
基本語中のJACETレベル1,2		109	88.07	115	91.30	115	86.96	111	85.59	136	91.18	139	90.65

Stage 7

No.		1		2		3		4	
Title		The Red Planet		Lost in the Jungle		The Broken Roof		The Lost Key	
総異なり語数	総語数	178	927	220	1,006	209	1,012	203	1,074
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	159	89.33	204	92.73	186	89.00	184	90.64
基本語中のJACETレベル1		131	82.39	173	84.80	155	83.33	158	85.87
基本語中のJACETレベル1,2		148	93.08	189	92.65	172	92.47	172	93.48

Stage 8

No.		1		2		3		4		5		6	
Title		The Kidnappers		Viking Adventure		The Rainbow Machine		The Flying Carpet		A Day in London		Victorian Adventure	
総異なり語数	総語数	238	899	235	936	247	1,016	265	1,065	282	921	253	956
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	216	90.76	211	89.79	219	88.66	247	93.21	248	87.94	219	86.56
基本語中のJACETレベル1		177	81.94	172	81.52	183	83.56	206	83.40	201	81.05	180	82.19
基本語中のJACETレベル1,2		200	92.59	195	92.42	200	91.32	224	90.69	224	90.32	200	91.32

Stage 9

No.		1		2		3		4		5		6	
Title		Green Island		Storm Castle		Superdog		The Litter Queen		The Quest		Survival Adventure	
総異なり語数	総語数	338	1,501	271	1,457	344	1,544	362	1,508	360	1,559	313	1,543
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	296	87.57	240	88.56	310	90.12	328	90.61	330	91.67	280	89.46
基本語中のJACETレベル1		245	82.77	193	80.42	245	79.03	249	75.91	251	76.06	218	77.86
基本語中のJACETレベル1,2		270	91.22	222	92.50	280	90.32	290	88.41	289	87.58	249	88.93

Step Into Reading　各 Step　コーパス分析結果

Step 1

No.		1		2		3		4		5	
Title		Stuck in the Mud		Thomas Comes to Breakfast		Thomas Goes Fishing		Just Like Me		Cinderella's Countdown to the Ball	
Author		Corey, Shana		Awdry, Rev. W.		Awdry, Rev. W.		Disney, RH		Kilgras, Heidi	
総異なり語数	総語数	66	128	59	103	59	148	55	141	62	73
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	54	81.82	55	93.22	53	89.83	47	85.45	44	70.97
基本語中のJACETレベル1		43	79.63	45	81.82	47	88.68	39	82.98	31	70.45
基本語中のJACETレベル1,2		47	87.04	52	94.55	50	94.34	41	87.23	40	90.91

No.		6		7		8		9		10	
Title		Thomas and Friends : The Close Shave		Elmo Says Achoo!		Best Dad in the Sea		Race Team		Sunshine, Moonshine	
Author		Awdry, Rev. W.		Albee, Sarah		Disney, RH		Shealy, Dennis R.		Armstrong, Jennifer	
総異なり語数	総語数	63	136	73	135	82	189	87	161	46	129
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	54	85.71	58	79.45	75	91.46	72	82.76	43	93.48
基本語中のJACETレベル1		39	72.22	43	74.14	67	89.33	60	83.33	28	65.12
基本語中のJACETレベル1,2		49	90.74	47	81.03	71	94.67	65	90.28	34	79.07

Step 2

No.		1		2		3		4		5	
Title		The Worst Helper Ever		Ballerina Princess		Happy Birthday Thomas		Sealed with a Kiss		Across the Sea	
Author		Scarry, Richard		Disney, RH		Awdry, Rev. W.		Langonegro, Melissa		Homberg, Ruth	
総異なり語数	総語数	74	202	85	156	97	214	104	236	110	252
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	67	90.54	75	88.24	85	87.63	92	88.46	102	92.73
基本語中のJACETレベル1		54	80.60	52	69.33	73	85.88	79	85.87	80	78.43
基本語中のJACETレベル1,2		62	92.54	62	82.67	79	92.94	87	94.57	91	89.22

No.		6		7		8		9		10	
Title		Driving Buddies		Surprise for a Princess		Go, Stitch, Go!		The Sweetest Spring		Winter Wishes	
Author		Jordan, Apple		Weinberg, Jennifer Liberts		Disney, RH		Jordan, Apple		Kristen L. Depken	
総異なり語数	総語数	113	270	121	259	127	300	129	281	144	256
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	107	94.69	109	90.08	113	88.98	114	88.37	118	81.94
基本語中のJACETレベル1		81	75.70	81	74.31	84	74.34	85	74.56	79	66.95
基本語中のJACETレベル1,2		92	85.98	96	88.07	95	84.07	100	87.72	97	82.20

Step 3

No.		1		2		3		4		5	
Title		The Dragon's Scales		The Great Fairy Race		The Stinky Giant		Dogerella		Pirate Mom	
Author		Albee, Sarah		Redbank, Tennant		Weiss, Ellen		Mitton, Joyce		O'Connor, Jane	
総異なり語数	総語数	203	769	247	705	262	924	273	781	277	917
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	181	89.16	218	88.26	231	88.17	232	84.98	232	83.75
基本語中のJACETレベル1		151	83.43	161	73.85	179	77.49	163	70.26	172	74.14
基本語中のJACETレベル1,2		164	90.61	186	85.32	196	84.85	197	84.91	199	85.78

No.		6		7		8		9		10	
Title		Dinosaur Days		Hungry, Hungry Sharks		Molly the Brave and Me		Samantha the Snob		Little Witch Goes to School	
Author		Cristaldi, Kathryn		Hautzig, Deborah		Cole, Joanna		Underwood, Deborah		Boelts, Maribeth	
総異なり語数	総語数	289	903	314	1,112	327	1,125	342	1,148	367	1,265
基本語数（WL1-8合計）	基本語／総異なり語	238	82.35	287	91.40	290	88.69	300	87.72	300	81.74
基本語中のJACETレベル1		183	76.89	204	71.08	225	77.59	229	76.33	227	75.67
基本語中のJACETレベル1,2		213	89.50	245	85.37	253	87.24	261	87.00	262	87.33

I Can Read! Books 各 Level コーパス分析結果

Level 1

No.		1		2		3		4		5	
Title		The Fat Cat Sat on The Mat		Dixie and the Big Bully		Pete the Cat and the Cool Caterpillar		Clark the Shark and the Big Book Report		BERENSTAIN BEARS Down On The Farm	
Author		Karlin, Nurit		Gilman, Grace		Dean, Kimberly & James		Hale, Bruce		Berenstein, Jan & Mike	
総異なり語数	総語数	121	567	148	392	153	437	172	349	185	414
基本語数（WL1-8合	基本語／総異なり語	111	91.74	132	89.19	135	88.24	141	81.98	158	85.41
基本語中のJACETレベル1		92	82.88	108	81.82	108	80.00	110	78.01	116	73.42
基本語中のJACETレベル1.2		100	90.09	123	93.18	116	85.93	123	87.23	132	83.54

No.		6		7		8		9		10	
Title		Father Bear Comes Home		Chester		FANCY NANCY Show Must Go On		Morris Goes to School		No More Monsters for Me	
Author		Minarik, E.H. & Sendak, Maurice		Hoff, Syd		O'Conner, Jane		Wiseman, B.		Parish, Peggy	
総異なり語数	総語数	188	1,495	193	684	208	548	238	1,117	256	1,482
基本語数（WL1-8合	基本語／総異なり語	170	90.43	174	90.16	178	85.58	203	85.29	232	90.63
基本語中のJACETレベル1		147	86.47	147	84.48	135	75.84	170	83.74	196	84.48
基本語中のJACETレベル1.2		156	91.76	165	94.83	153	85.96	186	91.63	217	93.53

Level 2

No.		1		2		3		4		5	
Title		Small Pig		Detective Dinosaur		Amelia Bedelia		A Bargain for Frances		Mouse Soup	
Author		Lobel, Arnold		Skofield, James		Parish, Peggy		Hoban, Russel		Lobel, Arnold	
総異なり語数	総語数	121	567	169	573	219	807	221	844	250	1,051
基本語数（WL1-8合	基本語／総異なり語	111	91.74	151	89.35	199	90.87	197	89.14	226	90.40
基本語中のJACETレベル1		92	82.88	120	79.47	160	80.40	156	79.19	178	78.76
基本語中のJACETレベル1.2		100	90.09	137	90.73	183	91.96	175	88.83	200	88.50

No.		6		7		8		9		10	
Title		Arthur's Birthday Party		Zack's Alligator Goes to School		The Best Seat in Second Grade		Frog and Toad Are Friends		Harry Gets an Uncle	
Author		Hoban, Lillian		Mozelle, Shirley		Kenah, Katharine		Lobel, Arnold		Porte, Barbara Ann	
総異なり語数	総語数	268	1,749	274	1,345	316	1,064	318	1,490	336	1,143
基本語数（WL1-8合	基本語／総異なり語	231	86.19	257	93.80	267	84.49	295	92.77	297	88.39
基本語中のJACETレベル1		184	79.65	204	79.38	190	71.16	231	78.31	214	72.05
基本語中のJACETレベル1.2		205	88.74	234	91.05	220	82.40	264	89.49	249	83.84

Level 3

No.		1		2		3		4		5	
Title		Golly Sisters Go West		Daniel's Duck		Smallest Cow in the World		Elvis theRooster Almost Goes to Heaven		Juan Bobo	
Author		Byars, Betsy		Bulla, Clyde Robert		Paterson, Katherine		Cazet, Denys		Bernier-Grand, Carmen T	
総異なり語数	総語数	222	1,365	254	1,251	258	1,203	288	1,107	319	1,497
基本語数（WL1-8合	基本語／総異なり語	202	90.99	224	88.19	234	90.70	253	87.85	294	92.16
基本語中のJACETレベル1		176	87.13	189	84.38	193	82.48	190	75.10	214	72.79
基本語中のJACETレベル1.2		193	95.54	207	92.41	215	91.88	221	87.35	254	86.39

No.		6		7		8		9		10	
Title		Small Wolf		Wagon Wheels		Drinking Gourd, The		The Boston Coffee Party		Emma's Yucky Brother	
Author		Benchley, Nathaniel		Brenner, Barbara		Monjo, F N		Rappaport, Doreen		Little, Jean	
総異なり語数	総語数	365	1,465	390	1,634	496	2,092	303	1,261	282	1,540
基本語数（WL1-8合	基本語／総異なり語	318	87.12	334	85.64	404	81.45	277	91.42	251	89.01
基本語中のJACETレベル1		239	75.16	260	77.84	288	71.29	208	75.09	208	82.87
基本語中のJACETレベル1.2		277	87.11	295	88.32	334	82.67	243	87.73	229	91.24